海外果樹農業情報 No.168
２０２４－３

海外の果樹産業ニュース
2024 年度中期版

2024 年 11 月

公益財団法人 中央果実協会
[JAPAN FRUIT ASSOCIATION]

本書の内容について、ご質問やお気づきの点がありましたら、
下記あてにご連絡下さるようお願いいたします。

公益財団法人　中央果実協会　情報部

〒100-0011 千代田区内幸町 1-2-1 日土地内幸町ビル２階
【電 話】03-6910-2922（代）
【F A X】03-6910-2923

序　　文

果樹農業を取り巻く国際化の進展に伴い、我が国の果樹産業は外国産果実及びその加工品等との競争が激化しており、一方で果実の輸出促進の努力が行われています。

このような我が国の果樹産業を取り巻く環境の変化に対応した関係機関・団体等からの海外果樹関係の情報ニーズの高まりを踏まえ、当協会では農林水産省補助事業「果樹農業生産力増強総合対策」における調査研究等事業の一環として、海外における果実及びその加工品等の生産・流通事情等に関する情報の収集・提供を行うことにより、我が国果樹産業の振興・活性化並びに果実の需給と価格の安定及び輸出の振興に資することとしています。

具体的には、特定のテーマを対象とした調査報告書及び果樹全般についてのＦＡＯ（国連食糧農業機関）の生産貿易統計データ等を元とした報告書を取りまとめて刊行するほか、海外の果樹産業を扱う雑誌、新聞、ウェブサイトから我が国果樹産業に密接に関係する記事や公表資料を翻訳し関係者に提供しています。

この度は2024年7月から10月に翻訳・提供したニュースを取りまとめ刊行することといたしました。また、本書は当協会ウェブサイトにもカラー版を掲載しています。

本書が最近の世界の果樹産業事情を理解する上で少しでもお役に立てば幸いです。

なお、本書の翻訳責任は当協会にあることを申し添えます。

2024年11月

公益財団法人 中央果実協会

理事長　村 上　秀 徳

目　次

122. 米国カリフォルニア州　労働集約的な核果類を他の作物に転換 1
123. 米国カリフォルニア州　高温が生食用ブドウの出荷開始に影響か 2
124. 米国北西部のサクランボ　収穫量は平年並みだが品質は良い 3
125. イスラエル　柑橘類シーズンの前半は良好、後半はやや厳しかった 3
126. ペルー　悪天候にもかかわらずブドウ栽培面積が微増 4
127. ヨーロッパ　オレンジ果汁価格が最高値を更新 5
128. 海上コンテナ運賃　総合指数が続騰 5
129. 中国の核果類事情（モモ、ネクタリン） 6
130. フィリピン　褐変しないバナナが非GMOステータスを取得 8
131. 米国カリフォルニア州　生食用ブドウの収穫は7月中旬から 8
132. 南アフリカ　果汁用オレンジの需要は今後5年間は有望 9
133. 米国カリフォルニア州　長引く熱波への懸念 10
134. 米国フロリダ州　柑橘類出荷量予測は上方修正するも依然少ない 11
135. 南アフリカ　初のアボカドが日本へ 12
136. 中国　雲南省でブドウの出荷シーズン始まる 12
137. エジプト　東南アジアへのオレンジ輸出が減少するも依然主要供給国 13
138. オーストラリア　日本向け生食用ブドウ輸出の品種制限が撤廃 15
139. オーストラリア　西オーストラリア州でユズ栽培を模索 15
140. ブラジル　サンパウロ州の柑橘類地帯で降雨に安堵 16
141. チリ　2023/24年度のブドウ輸出は好成績 16
142. ペルー　大手育種会社が違法栽培のブドウを撤去 17
143. スペイン　若年者は生鮮果実の消費が少なく高齢者は多い 17
144. 南アフリカ　リンポポ州南部の柑橘類産地で寒波の被害 18
145. 米国　フロリダ州の柑橘類産業を救う技術革新 19
146. 米国　2023年の有機農産物の販売は好調に推移 22
147. 南アフリカ　オレンジ輸出量がさらに減少 26
148. 米国　夏果実の生産見通し（モモ、甘果オウトウ、アンズ、ブドウ） 27
149. 世界の柑橘類事情と市場動向（マンダリン、オレンジ、オレンジ果汁　他） 33
150. 米国カリフォルニア州　生食用ブドウの近年の課題とその影響 39
151. 米国　収穫に留まらないリンゴ用ロボットの開発 40
152. オーストラリア　新しい生食用ブドウ輸出支援プログラム 42
153. 米国　ブランドリンゴに高い消費者需要 43
154. 台湾の核果類事情（モモ、サクランボ） 44
155. 米国カリフォルニア州　今年の猛暑が生食用ブドウの収穫に影響 49
（関連記事）米国カリフォルニア州　ブドウ生産業者の見通し 49
156. EU　2024/25年度のリンゴ生産量は減少の予想 50
（関連記事）EU　ナシ生産量は緩やかに回復の予想 50
157. トルコ　旺盛なサクランボ輸出 51
（関連記事）トルコ　輸出業者は今年のサクランボ出荷量の増加を見込む 51
158. エジプト　生食用ブドウ部門は健闘しているが薄氷の上 52
159. ニュージーランド　夏果実との競争に備えるキウイフルーツ 53
160. 米国農務省生産見通し（果実関係抜粋） 54
161. ベトナム　米国産モモ・ネクタリンの輸入を解禁 57
162. エジプト　ブドウ品種の権利者が無許可の生産者に勝訴 57
163. 韓国　台湾へのブドウ輸出に事前登録制度 58
164. 世界のアボカド市場（抜粋） 58
165. 東南アジアのマンダリン市場は力強い成長の可能性 59

166. 米国カリフォルニア州　ブドウは中生品種に移行 60
（関連記事）米国カリフォルニア州　7月の猛暑がブドウの収穫に影響 60
167. 米国リンゴ協会　今シーズンの出荷見通し 61
（関連記事）米国　2024/25年度のリンゴ生産量予想 62
168. ブラジル　供給不足がオレンジ果汁の価格を押し上げる 63
（関連記事）ブラジル　7月のオレンジ果汁輸出が減少 63
169. トルコ　リンゴの生産量が減少　レッドデリシャスは入手しにくく 64
170. 南アフリカ　EUの柑橘類規制をめぐるWTO紛争に突入 64
171. 中国　判決によりゼスプリが知的財産保護を前進 65
172. 世界の主要熱帯果実の輸出は2023年に約8%増加 65
173. 米国の果実輸出　リンゴが大幅に増加 66
（関連記事）米国　有機青果物輸出のトップはリンゴ 66
174. オーストラリア　タスマニア産のリンゴが台湾市場へ 67
175. 韓国　果実・野菜の価格上昇で摂取量が減少 68
176. 米国　RNAベースのカンキツグリーニング病対策 68
177. 米国フロリダ大学　カンキツグリーニング病対策でメッシュバッグが有効 69
178. トルコの核果類事情（サクランボ） 70
179. チリ　今シーズンの日本向けレモン輸出は増加 74
180. ブラジル　サンパウロ州で野火が柑橘類農場に 75
（関連記事）サンパウロ州の野火　柑橘類への影響は最小限の見込み 75
181. 米国カリフォルニア州　出荷の最盛期に向かうブドウ産業 76
（関連記事）米国カリフォルニア州　秋の果実をリードするブドウ 76
182. 南アフリカ　大臣の訪日と日本向けアボカドの到着 78
183. 中国　海外市場で人気を集めるナシの新品種 78
184. EUの核果類事情（モモ、サクランボ） 79
185. 中国　繁栄する浙江省のモモ栽培 82
186. ペルー　2024-25年度のブドウ出荷は回復の見込み 82
187. 生食用ブドウ主要輸出国の2023年の動向 83
188. ペルー　晩生マンダリンの輸出が力強い成長 84
189. 米国フロリダ州　柑橘類の栽培面積は減少、出荷量は増加 85
190. アルゼンチン北西部でカンキツグリーニング病の媒介昆虫を確認 86
191. 中国　台湾産ザボンの移入再開へ 86
192. 米国カリフォルニア州　核果類は好調、ブドウは下方修正 87
193. 南アフリカ　リンゴとナシの輸出先として重要性を増すアジア 88
194. スペイン　バレンシア州でカキ等に降雹被害 89
195. 台湾の果実需要を牽引する文化的習慣 90
196. ブラジル　オレンジ生産に打撃を与える暑さとカンキツグリーニング病 92
197. ブラジル産ハスアボカドに日本が市場を開放 94
198. 米国カリフォルニア州　カンキツグリーニング病検疫規制地域を拡大 94
199. ニュージーランド　オレンジ果汁供給が世界的要因によって圧迫 95
200. ペルー　課題はあるも農産物輸出が増加 95
201. EU裁判所がマンダリン品種の権利に対する異議を棄却 96
（関連記事）EUの一般裁判所はナドルコットマンダリンの保護を支持 96
（関連記事）EU　ナドルコットマンダリンの登録取り消し要求を棄却 97
202. フィリピン　アジアのバナナ市場で強力な足場を維持 97
203. ブラジル　年次調査でカンキツグリーニング病の拡大が判明 98
204. 海上コンテナ運賃　総合指数が下落 99
205. ペルー　チャンカイ港の開港によりアジア向け地域物流のハブに 101

206. ニュージーランド　キウイフルーツ産業の3つの記念日 102
207. 南アフリカ　柑橘類の輸出予測は安定 103
208. 米国北西部　サクランボの収穫は予想を上回る 104
209. ブラジル　オレンジ主産地は収穫量減少の予測 104
210. ペルー　今年上半期の果実輸出の分析 105
211. トルコ　ザクロ栽培に最適な天候 107
212. スペイン　バレンシア州でカキの収穫が始まる 108
213. 米国ワシントン州　リンゴの作柄は中程度 109
214. 世界の核果類事情と市場動向（モモ、サクランボ） 111
215. 米国カリフォルニア州　ネーブルとマンダリンの2024-25年度当初予測 115
（関連記事）米国カリフォルニア州　柑橘類の収穫量は増える見込み 115
216. 世界の2024/25年度の生食用ブドウ貿易は回復の予想 116
217. 台湾　中国の関税免除終了に伴い交渉を促す 116
218. ニュージーランド　キウイフルーツの輸出が順調 117
219. 米国カリフォルニア州　カンキツグリーニング病検疫規制地域を拡大 117
220. ペルー　ブルーベリー出荷量は緩やかなピークで昨年を上回る予想 118
221. スペイン　今年のカキは病害虫が大きな脅威 119
222. 中南米　バナナの病害との世界的な闘いを世界銀行が支援 119
223. 米国　果実とナッツ類の生産見通し（主要果実抜粋） 120
224. オーストラリア　後悔しないスナックとしてリンゴの消費を促進 133
225. 米国フロリダ州　果汁用オレンジが高値 133
226. ペルー　ブルーベリー輸出は前年に比べ減少 134
227. 世界のオレンジ市場（抜粋） 134
228. 米国カリフォルニア州　2024年のブドウ出荷量は増加 135
229. フィリピン　病害と土地の制約によりバナナの生産量が減少 136
230. 中国北部　未曾有の降雨でリンゴの収穫に課題 136
231. チリ　2024-25年度のブルーベリーシーズンが始まる 137
232. 米国　チリ産ブドウの輸入条件緩和で生産者団体が農務省を提訴 138
233. エクアドル　バナナ輸出業者団体が病害に対処 139
234. 南アフリカ　生食用ブドウ業界は2024-25年度の輸出量を微増と推定 139
235. ブラジル　オレンジの搾汁は晩生品種に移行 140
（関連記事）ブラジル　暑く乾燥した天候でオレンジ収穫量がさらに減少 140
236. フィリピン　バナナの病害と闘う新たなアプローチ 141
237. オランダ　スペイン産のカキの入荷が早い 141
238. 南アフリカ　業界団体はカンキツグリーニング病の「新たな脅威」を否定 142
（関連記事）南アフリカ　柑橘類の病害に対する監視プログラム 142
239. オーストラリアの落葉果実事情（生食用ブドウ） 143
240. 中国湖北省・湖南省　タンジェリンの生産量は少ないが輸出需要は安定 149
241. 南アフリカ　柑橘類生産者は輸出に課題がある中で果汁市場に軸足 149
242. 世界のブルーベリー業界は2024年シーズンの立ち直りを目指す 150
（関連記事）ペルー　ブルーベリー輸出額が2024年の最初の8カ月で急増 150
243. 米国カリフォルニア州　ウンシュウミカンの出荷は好調なスタート 151
244. エジプト　柑橘類の輸出が初めて200万トンを突破 151
245. 米国フロリダ州　農務省の柑橘類暫定見通しは厳しい 153
246. 米国　フロリダ州のハリケーン被害でオレンジ果汁先物価格が上昇 153
247. トルコ　ザクロの収穫が始まる 154
248. ニュージーランド　キウイ生産者はゼスプリの世界拡大計画を支持 154
249. ブラジル　サンパウロ州の柑橘類生産者は熱波の影響を懸念 155

250. 南アフリカの柑橘類主要病害虫に対する欧州の見方 155
251. 米国ワシントン州 リンゴ委員会が2024年の作柄と販売計画を協議 157
252. 中国浙江省 天候の影響でマンダリン収穫量が大幅に減少 158
253. 中米グアテマラとベリーズで台湾の衛星技術がバナナの病害と戦う 158
254. スペイン オレンジ果汁価格高騰による青果の価格上昇を期待 159
255. スペイン トマトカキは他とは一線を画すユニークなカキ 160
256. 米国 過剰生産と他の果実との競争に影響されるリンゴ産業 161
257. ニュージーランド リンゴ・ナシ産業は年間20億NZドルの貢献 162
258. チリ 生食用ブドウ輸出は新品種への変更で増加の予測 163
259. トルコ 果実輸出が2024年の最初の9カ月で10億ドルを突破 163
260. ニュージーランド 今年最後のキウイ輸出チャーター便が日本へ出発 164
261. 英国 ナドルコットオレンジ品種の訴訟で小売業者と和解 165
262. タイ 輸入シャインマスカットから法定の制限を超える農薬 165
263. エジプト EU向けブドウ輸出が新記録へ 166
264. 世界の果汁市場を圧迫するオレンジとリンゴの原料不足 167
(関連記事)エジプト 柑橘類濃縮特区を承認し輸出を促進 167
265. 台湾の落葉果実事情(リンゴ) 168
266. イスラエル グレープフルーツの収穫量が引き続き減少 172
267. トルコ 柑橘類は課題が多く生産量が全体的に減少 172
268. トルコ リンゴの出荷量が約25%減少 173
269. スペイン 集中豪雨で柑橘類、カキ等に被害 174
270. イスラエル アジア向け柑橘類のアフリカ廻りの出荷が課題 175
271. ペルー 今年のマンダリン輸出量が史上最高に 175
272. チリの落葉果実事情(ブドウ、リンゴ) 176
273. シンガポールとインドネシア シャインマスカットの安全性を確認 180

(ご利用上の留意事項)

- 記事の出典はすべて各媒体の電子版です。
- 文中の「フォントの小さいカッコ書き」及び「フォントの小さいですます体」は訳者による注記です。
- 文中の固有名詞(人名、会社名、団体名、品種名等)の日本語表記は、一般的に確定しているものを除き仮訳です。
- 翻訳記事は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品等を推奨するものではありません。

122. 米国カリフォルニア州　労働集約的な核果類を他の作物に転換

FreshPlaza　2024年7月3日

労働集約的な作物を機械収穫可能な作物に転換

これまでのところ、今シーズンのカリフォルニア州の核果類の生育条件は最適であった。春には適量の雨が降り、山岳部の積雪量も多かったため、灌漑用水として十分な水が確保できた。また、気温は比較的穏やかである。様々な核果類を有機栽培するオルソン家族農場のマグナス・オルソン氏は、「しかし、その状況は急速に変化している。予報では、今後10日間、毎日華氏110度（43℃）以上になる」と言う。こうした温度は、通常、果実の成長を止め、成熟を過度に早めて果実に影響を与える。（以下「 」は同氏の発言）

労働力には余裕

このような猛暑の日には、危険な労働環境を回避するため、労働者らは早朝から果実の収穫を開始し、午後の早い時間までに完了する。「今年は、果実を収穫する十分な数の労働者を見つけることがそれほど問題でなかった。実際、例年に比べてはるかに簡単であった。」 その理由は、労働集約的な作物の多くが撤退し、機械収穫できる作物に転換されたことである。例えば、核果類はアーモンドやピスタチオに取って代わられつつあり、手摘みが必要なブルーベリーの品種は、機械収穫ができる品種への転換の余地がある。「人件費は最大の投入コストの1つであり、労働者を見つける難しさもあって、多くの生産者は長年にわたって労働集約度の低い作物に転換する決定を下してきた。」

地表水

灌漑は、生産者にとってもう一つの大きな出費である。「過去2シーズンは、地下水を汲み上げる代わりに地表水を利用できたことが非常に幸運であった。本当に乾燥した年には、シーズン中ずっと地下水に頼っていたこともあった。」 しかし、それらの地下水はタイムリーには補充されない。「これらの地下水源が再び満杯になるには、何年にもわたり十分な降雨が必要である。」 何年もの間、水を得るために井戸をどんどん深く掘らなければならなかった。「深さ30～40フィートの井戸から水を汲み上げた場合、1年か2年十分な雨が降れば水位が戻ってくる可能性がある。しかし、深さ300フィートや400フィートの井戸の水位は、一生かかっても元に戻らないかも知れない」

供給が需要を上回っている

多くの核果類の樹が引き抜かれているということは、供給が少なく、価格が高いということだろうか? 「イエスでもあり、ノーでもある。昨年は供給量が比較的少なかったため、引き合いが強く価格が上昇した。」 一方、今年は着果が良く、生産量も増加している。「供給が需要を上回る状況にあり、小売業者らはより選択的になるという贅沢を享受している。彼らは大きなサイズの果実を好むが、今シーズンは小玉の果実よりもはるかに値段が高い。」 全体的に、今シーズンは昨年に比べてはるかに競争が激しくなっている。

夏の盛りであるが、モモ、ネクタリン、スモモの需要は7月4日（独立記念日の祝日）以降になると減少すると予想される。「私にとっては、ジューシーなモモに勝るものはない。それは本当に夏の味覚だ。しかし、消費者の購買行動は徐々に変わり始める」。

執筆者: マリーケ・ヘムズ

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

123. 米国カリフォルニア州　高温が生食用ブドウの出荷開始に影響か

FreshPlaza　2024年7月3日

極端な高温がサンホアキン地域の生食用ブドウ出荷シーズンの開始に影響を与える可能性

生食用ブドウ業界は、メキシコのソノラ州産から、多くの生産者が来週収穫を開始するサンホアキンバレー中部地域(カリフォルニア州)の産物への移行を準備している。しかし、極端な気温を伴う熱波は、シーズンの序盤に影響を与える可能性がある。ダイレクトソースマーケティング社のアイラ・グリーンスタイン氏は、「葉が少ない新しい園地では損傷を受けるリスクが高く、生産者はまた水の制約にも対処する必要がある。洪水灌漑ができる生産者はほとんどいない」と言う。

気温は華氏110度(43℃)を超え、ほぼ2週間の間、日々の最高気温に近い高温が続くと予想されている。あたかも、カリフォルニア州の生産者らは、この極端な天候に慣れる必要があるかのようである。ライセンス制の新しいブドウ品種がこの熱波にどのように反応するかを見るのは興味深いことである。同氏は、「生産者らは、まだ新しい品種の管理方法を学んでいる最中であり、長引く熱波への対応はそれぞれ異なるだろう」と話す。

メキシコからは引き続き安定した供給が見込まれるが、品質や状態は品種によって異なる。グリーンスタイン氏は、「もし、残りのメキシコ産よりも品質が良ければ、多くの小売業者は7月15日までにカリフォルニア州産に切り替えようとするだろう」と述べた。

種無し赤ブドウ

メキシコ産の「通常」品種のフレームと、同国産のライセンス品種の間では引き続き市場が分かれており、これら2つの間にはほぼ6.00ドル/箱の価格の開きがある。メキシコ産フレーム・シードレスは14.95～16.95ドルで取引されているが、量と状態は急速に下降しており、品質の良い果実の入手は難しくなっている。かなりの量のスイートセレブレーション品種を扱っている業者らは、20.95～22.95ドルの範囲のより良い価格を維持しており、パッションファイア品種は大部分が18.95ドルで販売されている。カリフォルニア州アービン地域の生産者らは、7月の第2週までに収穫作業を開始することを望んでいるが、極端な高温により、畑での作業時間が制限され、糖度の上昇も遅れている。その結果、スポット市場は今後3週間ですべての種無し赤ブドウ品種で価格が上昇し始めると予想され、アービン地域では出始めのフレーム品種で24.95～26.95ドルの出荷価格が予想されている。

種無し白(緑)ブドウ

今後3週間で、メキシコ産白ブドウ品種の取扱は減少すると予想される。しかし、カリフォルニア州への移行を容易にするのに十分なだけの供給量はまだある。一部の小売業者はスグラオーネ品種から離れ、ティムソン、アイボリー、スイートグローブといった品種の需要が高まっている。これにより、スグラオーネは16.95～18.95ドル、ライセンス制の品種は22.95～24.95ドルで取引される分割された市場が形成された。グリーンスタイン氏は、「スグラオーネは品質が非常に良いので、特定の品種にこだわらない者には依然として価値がある」との考えを述べている。カリフォルニア州の生産者は猛暑のため出荷の開始が遅くなるが、7月15日までにはかなりの量のアイボリーとバレーパールが収穫されると見られる。それまでは、流通段階で品切れを起こさないように、十分な量のメキシコ産種なし白ブドウを確保する必要がある。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

124. 米国北西部のサクランボ　収穫量は平年並みだが品質は良い

FreshPlaza　2024年7月3日

米国の太平洋岸北西部では約1カ月前にサクランボの収穫が始まったが、これはほぼ平年並みであった。収穫までの気温は平年より低く、種々の生育条件のために着果量は全体的に少なくなった。レーニアフルーツ社のテイラー・ジョンソン氏は、「しかし、それぞれの果粒が成長する余地が増えたことで、成熟は順調に進んだ。着果量が少ないことは、品質とサイズが素晴らしいことにもつながった」と言う。(以下「 」は同氏の発言)

天候の影響に備える　低い気温は収穫まで続いた。「これまでのところ、収穫期の天候は少し厄介だ。収穫の最初の1カ月は気温が低く風があったが、天候は良くなってきている。」このような年は、果樹園への投資に価値がある理由を思い出させてくれる点で重要である。防護ネット、園内の水冷装置、及びトレリスでの栽培は、母なる自然の気まぐれへの対抗措置として重要な役割を果たすことができる。

スキーナやレーニアといった高級品種については、同社では大玉に偏っている。「これらの品種は店頭の棚で本当に際立っており、素晴らしい食体験を提供する。今シーズンは確かに全体的に豊作ではないが、販促活動を行う余地はある。」

執筆者: マリーケ・ヘムズ　(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

125. イスラエル　柑橘類シーズンの前半は良好、後半はやや厳しかった

FreshPlaza　2024年7月3日

イスラエルの生産者協同組合グラノット・フレッシュの輸出マネージャーであるヨナタン・メロン氏は、前回の柑橘類シーズンを振り返り、「市場は我々に開かれており、需要は十分にある。もっと多くの柑橘類があれば、ヨーロッパやアメリカに更に多く供給できたはずだ」と言う(以下「 」は同氏の発言)。しかし、課題がなかったわけではない。2023年10月7日の出来事(戦争の始まり)を受けて、新しい現実に適応しなければならなかった。最大の課題は労働力であり、すでに問題となっていたが、状況の変化によってさらに悪化した。

「丁度戦争が始まった頃に、スイーティー(スウィーティー)の収穫が始まった。その結果労働力に大きな問題が発生し、一年を通して我々を悩ませた。多くの労働者が、ヨルダン川西岸地区から来ることができなくなった。他の人が手伝いに来たが、オッリやスイーティーの収穫にはスキルが必要なため、簡単ではなかった。最終的には、良好な協力を得てやり遂げたが、生産者にとっては高いコストがかかった。」

オッリ・クレメンタインの輸出が減少　上記の課題は、オッリ・クレメンタインの収穫量の一部喪失を意味した。「昨シーズンの収穫予測は、イスラエルの柑橘類部門全体で既に例年を下回っていた。多くの生産者が作物を全部収穫するのに十分な労働者を確保できなかったため、輸出量は最終的に約35%減少した。」

その結果、出荷シーズンの初めには、オッリ・クレメンタインの市況は良かった。例年と異なり、1月上旬の市場は好調であった。しかし、2月には例年よりも低い水準に落ち込んだ。例年3月中旬から価格が上昇するが、今年はそうではなかった。ヨナタン氏は、スペイン産のオッリ・クレメンタインの量が増えていることが原因だと指摘する。それでも、ヨーロッパと米国を中心に継続的な需要があるため、同氏はイスラエル産オッリ・クレメンタインの堅実な未来を予見している。

需要の少ないグレープフルーツ　同協同組合は、9月下旬に赤肉系グレープフルーツのヨーロッパ向け輸出を開始し、12月まで堅調な需要があった。出荷シーズン後半は米国市場に注力し、こちらも良い結果を残した。一方、イスラエル特有の緑色の甘いグレープフルーツであるスイーティーの輸出は、一層の困難に直面した。「昨シーズン、イスラエルは約7千トンのスイーティーを輸出した。その前のシーズンは約1万トンであった。これは約30%の減少であるが、主に品質の問題と需要の減少によるものである。」特に、かつてスイーティーの人気が高かった日本では、現在は需要が約30%減少している。

気候変動への備えは十分　同協同組合の柑橘類担当マネージャーであるヤコブ・アーモン氏によると、もう一つの課題は気候変動である。同組合は、灌漑に再生水を使用し、果樹園に防護ネットを設置することで準備を整えている。同氏は、このような状況に備えているので、影響はいくらか少ないかも知れないと話す。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の団体や製品を推奨するものではありません。)

126. ペルー　悪天候にもかかわらずブドウ栽培面積が微増

agraria.pe　2024年7月3日

(Agraria.pe)ペルーは2023/24年度の出荷シーズンに、6,274万5,726箱(8.2kg/箱)の生食用ブドウを輸出し、前年度(2022/23年度)に報告された7,140万4,349箱と比較して12%の減少、2021/22年度の6,494万8,093箱に比べて3.5%の減少となった。

これは、ペルー生食用ブドウ生産者協会(Provid)によって報告されたもので、この残念な結果は主に悪天候 – 平均を最大4%上回る高温と植物に大きなストレスを与えた激しい雨 – による北部地域での生産量の減少によるものであると同協会は指摘している。

北部地域(ピウラ、ランバイエケ、ラリベルタ、アンカシュの各県)では、2023/24年度の出荷シーズンに2,526万2,464箱の生食用ブドウが出荷され、2022/23年度に出荷された3,600万箱と比較して30%の減少を記録した。ピウラ県は2,014万2,621箱、ランバイエケ県は268万927箱、ラリベルタ県は226万5,787箱、アンカシュ県は17万3,129箱を輸出した。

南部地域(リマ、イカ、アレキパ、モケグアの各県)については、2023/24年度の出荷シーズンに3,748万3,363箱が出荷され、2022/23年度に出荷された3,530万箱と比較して6%増加した。この結果、ペルーのブドウ輸出量の落ち込みは幾分か緩和された。このうち、イカ県は最も増加し、3,505万2,549箱を輸出した。これにアレキパ県(198万6,048箱)、リマ県(44万2,486箱)、モケグア県(2,280箱)の出荷量が加わった。

同協会は、パラカス港(イカ県)の運用開始が、同国南部における生食用ブドウの出荷量増加の重要な要因であることを強調し、「この港湾インフラは、生食用ブドウの出荷シーズンのために改善され、南部地域から特にヨーロッパに向けての大量輸出のための特別な運用が設定された」としている。

市場　市場に関しては、2023/24年度の出荷シーズンには、ペルーの生食用ブドウの輸出量の46%に当たる2,903万5,876箱が輸出された米国が、引き続き最大の輸出先であった。次いで、746万8,238箱で全体の12%を占めたオランダが2位を維持した。

驚きだったのは、中国を第4位に押しやって、メキシコがペルー産ブドウの輸出先第3位につけたことであった。メキシコには538万8,812箱(全体の9%)、中国には481万7,096箱(8%)が輸出された。同協会は、ペルーの生食用ブドウ輸出の歴史の中で、メキシコが中国よりも多くのペルー産ブドウを輸入するのは初めてであると指摘しつつ、これは「メキシコがペルー産ブドウの消費量を増やしたからではなく、中国や他の国への出荷が減ったためである。メキシコには前のシーズンにも同じく530万箱が輸出された」と説明している。

ペルーの輸出量の74%が上記の4カ国に送られ、残りの26%(1,603万5,803箱)は他の輸出先に送られた。ペルーが55の国際市場にブドウを輸出していることは言及するに値する。2023/24年度の大陸別では、北米が3,671万5,769箱、ヨーロッパが1,315万5,865箱、アジアが816万7,003箱、中米が332万5,379箱、南米が123万9,794箱、オセアニアが13万4,816箱、アフリカが7,200箱であった。

品種群に関しては、輸出されたブドウの55%が種無し白(緑)ブドウ品種(2%減の3,446万8,725箱)、24%が種無し赤ブドウ品種(22%減の1,482万7,380箱)、17%がレッドグローブ品種(25%減の1,059万6,805箱)、4%が種無し黒ブドウ品種(8%減の280万5,831箱)であった。

ブドウの栽培面積は2023/24年度にわずかに増加した　農業検疫局(Senasa)からの情報によると、天候の問題にもかかわらず、2023/24年度出荷シーズンの生食用ブドウの栽培面積は2万2,343ヘクタールで、2022/23年度に報告された2万2,164ヘクタールに比べて0.8%の微増となった。2021/22年度の生食用ブドウの栽培面積は2万1,100ヘクタールであった。

品種群別では、種無し白(緑)ブドウ品種が全栽培面積の54%を占める1万2,065ヘクタール(9%増)で最大であった。これに続くのが種無し赤ブドウ品種で、全体の25%を占めた(面積は6%減)。レッドグローブは16%(同13%減)、種無し黒ブドウ品種は5%(同2%増)であった。

上位5品種は、スイートグローブ22%(同2%増)、レッドグローブ(上記のとおり)、オータムクリスプ14%(同47%増)、シージーン20(アリソン)7%(同4%増)、スイートセレブレーション5%(同2%減)であった。

執筆者: ホセ・カルロス・レオン・カラスコ

127. ヨーロッパ　オレンジ果汁価格が最高値を更新

FreshPlaza　2024年7月5日

ブラジルのオレンジ生産量が少なく、それに伴ってオレンジ果汁の入手が世界的に困難になるとの見通しにより、EUにおける濃縮オレンジ果汁のエクスパナ（Expana）社指標価格（EBP）は、6月28日に前年比112%増の6,550ドル/トンに達した。ブラジル・サンパウロ州の柑橘類生産者と果汁業界が支援する団体であるFundecitrusは2024年5月10日に、2024-25年度のサンパウロ州とミナスジェライス州西南西部の柑橘類ベルトの収穫予測を発表した。予測生産量は2億3,238万箱（40.8kg/箱）で、前年度の3億722万箱から24.36%の減少となる。この予測生産量は、この地域で1988-89年度以降2番目に少ない収穫量となる。カンキツグリーニング病と、2023年9月の厳しい熱波などの悪天候が水ストレス、落果の増加、果実の小玉化に繋がり、作柄に大きな影響を与えた。

世界のオレンジ果汁の75%以上を供給するブラジルでは、オレンジ果汁の在庫がほぼ皆無である。買い手は価格が不安定なため短期契約にしか応じないが、生産者らは自らの生産能力に不安を抱いている。

ヨーロッパのメーカーは、オレンジ果汁の入手が限られているため、ブレンド中の使用量を減らすことでオレンジ果汁の影響を最小限に抑えようとしており、中には販売を中止したメーカーもある。業界内では、オレンジ果汁をマンダリン果汁に置き換えようとしているメーカーがあるという話さえ聞かれる。今年の残りの期間、供給状況がますます悪化するように見え、価格の安い古い契約が終了するにつれて小売価格が上昇するため、オレンジ果汁の世界的な消費量は引き続き減少すると予想される。市場関係者によると、価格が安定するためには需要がさらに減少する必要があるが、正確にどの水準で均衡するかは、依然として不明確である。

出典：mintecglobal.com

128. 海上コンテナ運賃　総合指数が続騰

FreshPlaza　2024年7月5日

ドリューリー社世界コンテナ指数の総合指数は今週、10%上昇して40フィートコンテナ当たり（以下同じ）5,868ドルとなり、前年同週と比較して298%上昇した。これは、前回のパンデミック時のピークである2021年9月の10,377ドルを43%下回っているが、2019年（パンデミック前）の平均である1,420ドルより313%高くなっている。

年初来の平均総合指数は3,664ドルで、10年平均の2,756ドル（2020年から22年までのコロナ禍で膨らんだ）を909ドル上回っている。

上海からニューヨークまでの運賃は、17%（1,331ドル）上昇し、9,158ドルとなった。同様に、上海からロサンゼルスまでの料金は12%（799ドル）上昇し、7,472ドルとなった。上海からロッテルダムまでの運賃は10%（734ドル）上昇し、8,056ドルとなった。さらに、上海からジェノバへの運賃は、7%（471ドル）上昇し、7,573ドルとなった。

また、ニューヨークからロッテルダムまでの運賃は2%（16ドル）上昇して656ドルとなった。逆に、ロッテルダムから上海までの料金は、5%（33ドル）下落して643ドルとなり、ロッテルダムからニューヨークまでの運賃は3%（67ドル）下がって1,977ドルとなった。ロサンゼルスから上海への運賃は横ばいであった。ドリューリー社は、アジアの港湾が混雑の問題を抱えているため、中国発の運賃がわずかに上昇すると予想している。

出典：drewry.co.uk

129. 中国の核果類事情（モモ、ネクタリン）

米国農務省GAINレポート　2024年7月5日

これは米国農務省海外農業局の北京事務所（中国）が作成した「核果類年次報告書」の要旨及びモモ・ネクタリンの項（一部省略）を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

要旨

このレポートは、モモ/ネクタリンとサクランボを対象としている。中国北部では干ばつが続いているにもかかわらず、2024/25年度のモモ/ネクタリンの生産量は微増の1,760万トンと予想される。2024/25年度のサクランボの生産量は、面積の拡大と着果量の増加により、9%増の85万トンと推定される。経済状況が低迷する中、果実の消費量の伸びは全般的に弱いものの、サクランボの輸入は、主に輸出国による販促活動の強化により、増加する可能性が高いと見られる。

生産

当事務所は、中国の2024/25販売年度（1月～12月。以下「年度」）のモモ/ネクタリンの生産量を前年比微増の1,760万トンと推定する。深刻な暑さと干ばつは5月以降、主要なモモ/ネクタリン産地である山東省、河南省等を含む中国北部の一部に影響を及ぼしている。6月上旬にモモ/ネクタリンの収穫が始まったばかりの山東省の果樹生産者らによると、水不足は果実の肥大に悪影響を与えるため、この天候パターンはモモ/ネクタリンの生産を減少させると見られる。しかし、中国北部の一部の地域で予想される減収は、天候異常が報告されていない他のモモ/ネクタリン産地の豊作によって補完されると見込まれる。モモ/ネクタリンは、北西部の省（陝西省、山西省等）と中国南部（四川省、雲南省、貴州省及び安徽省等）で栽培されている。上海市、江蘇省、浙江省は、量は少ないものの価値の高い水蜜桃を生産している。

モモ/ネクタリンの栽培面積は、主に河北省、山東省等の北部平原地域で、2024/25年度も減少を続けると推定される。市場収益性の悪化により、一部の生産者はモモの生産をサクランボ等の収益性の高い作物に転換した。また、食料安全保障戦略の下での農地利用に関する政府の政策強化により、果樹園のある土地が「基本農地」である場合、果樹生産者はモモの生産をやめて穀物の生産を優先することが義務付けられている（詳細については、GAINレポートCH2023-0103の政策の項参照）。

サクランボ等の価値の高い果実と比較して、モモ/ネクタリンの温室栽培はかなり限られているが、一部の生産者はモモ/ネクタリンを市場価格が高い早い時期に収穫することを意図しており、その面積は徐々に増加している。国内のモモの出荷シーズンは5月中旬に始まり、10月下旬に終わるが、温室栽培のモモ/ネクタリンは4月から出回る。

果樹生産者は、ますます要求が厳しくなる消費者を満足させるために、様々なモモ/ネクタリンから選択できるよう、果汁が多いものや果肉が固いもの、果肉が白、赤、黄色のもの、果実が円形のものと扁平なもの等、栽培するモモ/ネクタリン品種を増やしている。最近では、ボタンドーナツ（扁平）ネクタリンやミニネクタリン等、いくつかの品種が開発され、市場に投入された。業界関係者らは、従来型のモモの市場シェアは今後も低下すると予測している。当事務所は、現地調査中に、消費者がネクタリンの食べやすさを好むため、山東省の多くの生産者がモモをネクタリンに転換したことを知った。

業界の報告書等によると、中国のモモ産業は、平均0.7ヘクタールの農地を持つ多数の小規模生産者で構成されており、彼らが果樹園に複数のモモ/ネクタリン品種を植えることが多いことも示されている。この生産方式では、均一な品質のモモ/ネクタリンを生産することはほとんどできない。この果実は傷みやすいことから、選別等の収穫後の処理は一般的ではない。さらに、供給量が豊富で価値の低い果実と見なされているモモ/ネクタリンには、コールドチェーン輸送は通常適用されない。

中国のモモの生産が直面している最大の課題は、高い人件費と労働力の高齢化である。最近の調査によると、モモ生産者は47～70歳である。さらに、当事務所が6月上旬の現地調査で知ったところによれば、山東省でモモを袋詰めするための人件費は1日あたり200人民元（27.8ドル）に達している。

価格

モモの出荷シーズンは5月下旬に始まった。早生のモモ・ネクタリンは、果実の生育期間が短いためあまり美味しくないが、7月に大量に入荷する中生品種よりも一般的に高値で販売される。山東省最大のモモ/ネク

タリン産地である蒙陰（モンイン）県での現地調査中に当事務所が知ったところによれば、6月上旬の黄肉のネクタリンの農場出荷価格は16人民元（2.2ドル）で、1年前と変わらなかった。しかし、地元の果実生産者らは、今年は全般的に消費が低迷していることから、大量のモモが市場に入荷し始めると、モモ/ネクタリンの価格が前年の水準を下回ると予想している。一般的に、早生のモモはより高い価格を得る可能性があり、黄肉のモモやドーナツピーチ（扁平モモ）の価格は従来型のモモ（特殊な水蜜桃を除く）よりも高い。

消費

モモ/ネクタリンの消費量は、特に7月と8月の出荷の最盛期には十分な供給があるため横ばいである。停滞した経済は、他の果実やメロンの選択肢が多くある場合、消費者のモモ/ネクタリンの購入意欲にさらに影響を与えるであろう。果実業者らは、消費者が支出に慎重であるため、今年は消費の低下がより明白であると指摘している。一方、有機モモや輸入モモ等の高品質のモモは、依然としてアッパーミドル階級の消費者を魅了している。さらに、黄肉のドーナツピーチやミニネクタリン等、一部の特殊な品種の需要は依然として強い。一般的に、中国北部の消費者は果肉の固いモモ/ネクタリンを好み、南部の消費者は果汁の多いモモを好む。また、すべての消費者は、糖度の高いモモ/ネクタリンを好む。ほとんどのモモ/ネクタリンは生果で消費される。モモの約20%が缶詰に加工され、果汁、乾燥/保存（瓶・缶詰等）果実、ワイン飲料が続く。中国は、米国と日本へのモモ缶詰の伝統的な輸出国である。

貿易

輸入

2024/25年度（1月～12月）のモモ/ネクタリンの輸入は、回復すると予測される。中国がチリ産のモモの輸入を許可したため、季節外れのモモ/ネクタリンの需要がさらに増加すると予想される。モモ/ネクタリンの輸入は、主に1月から4月の間にチリ、オーストラリアを主体とする南半球の生産国から供給される。供給シーズンが中国と重なる米国産ネクタリンの輸入は依然として限られている。

輸出

果実輸出業者らは、ベトナム、キルギス、ロシア等の近隣市場での需要が弱いため、中国の2024/25年度のモモ/ネクタリンの輸出はさらに減少する可能性が高いと予測している。中国は主に5月から9月の間にモモ/ネクタリンを輸出する。

表2　中国のモモ/ネクタリンの生産需給統計

モモ/ネクタリン（生鮮）	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
販売年度の始まり	2022 年 1 月		2023 年 1 月		2024 年 1 月	
中国	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積（ヘクタール）	848,000	848,000	840,000	840,000	0	830,000
収穫面積（ヘクタール）	0	0	0	0	0	0
結果樹本数（千本）	0	0	0	0	0	0
未結果樹本数（千本）	0	0	0	0	0	0
合計果樹本数（千本）	0	0	0	0	0	0
商業的生産量（トン）	17,000,000	17,000,000	17,500,000	17,500,000	0	17,600,000
非商業的生産量（トン）	0	0	0	0	0	0
生産量合計（トン）	17,000,000	17,000,000	17,500,000	17,500,000	0	17,600,000
輸入量（トン）	44,500	44,500	40,000	42,500	0	54,000
総供給量（トン）	17,044,500	17,044,500	17,540,000	17,542,500	0	17,654,000
生鮮国内消費量（トン）	16,981,200	16,981,500	17,480,000	17,482,500	0	17,599,000
輸出量（トン）	63,300	63,000	60,000	60,000	0	55,000
市場からの隔離（トン）	0	0	0	0	0	0
総仕向量（トン）	17,044,500	17,044,500	17,540,000	17,542,500	0	17,654,000

130. フィリピン　褐変しないバナナが非GMOステータスを取得

PRODUCE BUSINESS UK　2024年7月5日

英国を拠点とするトロピックバイオサイエンス社（Tropic Biosciences、以下「トロピック社」）は、同社の褐変しないバナナが、フィリピン農業省植物産業局から非遺伝子組み換え生物のステータスを得たと発表した。

これでこの遺伝子組み換え（GMO）バナナは、フィリピンに輸入し、同国内で生産できるようになった。同国は、東南アジア最大の、またエクアドルに次ぐ世界第2位のバナナ輸出国であるが、ここ数年、病気によってその生産量は大幅に減少している。

ノーリッチ・リサーチパーク（英国）で事業を展開するトロピック社の最高技術責任者であるオフィル・メイア博士は「フィリピン政府は、科学的根拠に基づいた透明性のある効率的な手順により、遺伝子編集された植物の安全性評価を実施した。これはまさに、トロピック社のような企業に対し、フィリピンの生産者のためになる持続可能な解決方法を開発するために革新的な技術に投資するよう奨励する制度である」と述べた。

トロピック社は、CRISPR-Cas9遺伝子編集システムを使用して、食品廃棄物を削減するだけでなく、世界中で壊滅的な打撃を与えているパナマ病熱帯株4（TR4）に対する耐性を持つバナナを作り出している。同社によると、毎年60％以上のバナナが廃棄されており、褐変しないバナナは、この数字を25％以上削減できる。

トロピック社の褐変しないバナナにステータスを与えるという決定は、同社が将来新しい製品を発表する扉を開く可能性がある。同社は、「弊社はより健康的で、より丈夫で、高性能な熱帯作物の品種開発に専念している」としている。現在の対象作物は、バナナ、コーヒー、イネである。

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

131. 米国カリフォルニア州　生食用ブドウの収穫は7月中旬から

FreshPlaza　2024年7月8日

カリフォルニア州産生食用ブドウは、米国及び世界中の市場で大いに期待されている

マウンテンビュー果実販売会社は、同社のブドウの収穫シーズンが現時点で今月半ばから予定されていると発表した。同社のエステートヴィニャーズ®商標の生食用ブドウは、黒、赤、緑の品種が販売される。同社の生産と販売の担当者であるジョージ・マトイアン氏は、「今年の収穫が並外れた品質のブドウを提供することは間違いない。最初に収穫する品種は果粒のサイズが最大である」と話す。

同氏はまた、「エステートヴィニャーズ®の商標は卓越した品質の代名詞となっており、今年の収穫も例外ではない。細心の注意を払って献身的に栽培された弊社のブドウは完璧に育てられ、それぞれの房が味、食感、外観の高い基準を確実に満たしている」と述べた。

猛暑に備える　同社のチームは、今年のブドウの収穫に大変期待している。生育期の天候は良好だが、カリフォルニア州は現在熱波に見舞われており、今後数週間は高温が予想されている。マトイアン氏は、「これに対抗して果実への影響を抑えるため、熱波が予想される期間中にブドウをバランスの取れた状態に保てるよう、ブドウの木の栄養管理プログラムを強化するとともに、再度摘果を行って着果量を減らした。これらの細心の注意を払った栽培方法を実行することで、ここ数年で最高の部類のブドウを生産する計画だ」と語った。

同社は、エステートヴィニャーズ®商標のブドウが品質へのこだわりを真に反映していると考えており、顧客に喜んでもらえることを期待している。収穫期が近づいているため、同社のチームはこれらのプレミアムな生食用ブドウを国内外の消費者に楽しんでもらえるよう、様々な小売市場に流通させる準備に力を入れている。同社のブドウの約70％は国内市場にとどまり、残りの30％は世界中に輸出される。米国以外では、カナダ、メキシコ、台湾、香港、韓国、ベトナム、マレーシア、日本、中米諸国及びシンガポールで同社の生食用ブドウが賞味されている。

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

132. 南アフリカ　果汁用オレンジの需要は今後5年間は有望

FreshPlaza　2024年7月8日

ミッドナイト・バレンシアの出荷が始まると、南アフリカのオレンジ出荷シーズンは最高潮に達する。このオレンジは種が無い（または少ない）ため、極東やヨーロッパで人気が高まっている。このため、2023年の数字によると、ミッドナイト品種は南アフリカのバレンシア果樹園のほぼ40%を占めている。

ホドスプルート町（リンポポ州）に本拠を置くサンフェッド/ソレイユシトラス社のマネージングディレクターであるジャコブス・ヴァン・ステーデン氏は、「果汁用オレンジの価格が大変良い。買い手は我々のオレンジにプレミアム（割増金）を支払わなければならない。さもなければ、生産者はそのオレンジを果汁用に出荷することに何のリスクもないので、そちらに売ってしまう。私見では、また同僚とも話し合ってきたが、今後5年間は果汁用オレンジの需要が減少するとは考えていない」と述べている。

主な理由は、何千ヘクタールものブラジルのオレンジが恐ろしいカンキツグリーニング病の影響を受けており、その不足分がすぐには埋められないことである。そのため、国内北東部のホドスプルート、オーリグスタッド及びレツィテレに点在する農園の柑橘類を販売するヴァン・ステーデン氏は、「南アフリカの柑橘類、特に南アフリカ産のオレンジは、現在、非常に有利な立ち位置にある」と話す。（以下「 」は同氏の発言）

オレンジ：あらゆるものに市場がある

果実のサイズ分布は2024年の柑橘類シーズンのテーマであり、ヴァン・ステーデン氏はバレンシアは小さい方だと認めつつ、今シーズンのグレープフルーツのサイズに比べれば大した問題ではないと指摘する。

「オレンジの良いところは、あらゆるものに市場があることだ。大玉は極東に、中玉はヨーロッパに、小玉はインドやバングラデシュに送ることができる。」

ただ、今のところヨーロッパに送られるものはあまりなく、今シーズンこれまでは南アフリカ産のオレンジはほとんどヨーロッパに送られていない。ヨーロッパのバイヤーが提示する価格は、生産者が国内の果汁業者から得られる価格よりも低い。「南アフリカ産オレンジは、8月、9月、10月にかけてよく売れるだろうが、今のところヨーロッパには、紅海を通れなかったエジプト産の果実がある。信じられないほどの量のオレンジがヨーロッパに押し込まれた。」

韓国が選択肢としてさらに魅力的に

ヴァン・ステーデン氏は、グレープフルーツの出荷シーズンは順調にスタートし、カナダと中国で好評だったと言う。

しかし、4、5週間前に加工グレードのグレープフルーツが登場し、グレープフルーツの価格が急激に下落した。グレープフルーツ業界は、加工グレードのグレープフルーツの輸出量を10%に制限するように自主規制しており、同氏は、価格が急激に下がるまでは、この点ではうまくいっていたと感じている。

韓国は、南アフリカ産グレープフルーツにかかる30%の輸入関税を、最初は6カ月間、その後通年で免除した。「今シーズンは信じられないほどの量のグレープフルーツを韓国に送った。関税の軽減は我々を大いに助けてくれた。」

今シーズンは小玉の果実が多かったため、輸出業者らはすぐに台湾とマレーシアにその果実を割り当てた。しかし、そのアプローチは後に問題になった。「これらの国は小さな果実市場なので、グレープフルーツが大量に入荷したことで、その後そこに送るのが大変難しくなった。」

執筆者：キャロライズ・ヤンセン

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

133. 米国カリフォルニア州　長引く熱波への懸念

FreshPlaza　2024年7月11日

カリフォルニア州の長引く熱波に対する当面および長期的な懸念

カリフォルニア州の長引く熱波は、引き続き州内の一部の作物に影響を与えている。熱波は7月4日（独立記念日）の祝日の直前に始まり、華氏100度（摂氏37.8度）を超える（場合によっては華氏122度（摂氏50度）にも達した）記録的な気温がまだ続いている。

ウェストサイド青果会社のギャレット・パトリシオ氏は、「暑さは人々や作物に打撃を与えている」と言い、長引く暑さが収穫時期を早めているとしつつ、「毎日の収穫スケジュールに間に合うように最善を尽くしているが、暑さのために作業できる時間が短く、労働者の生産性が低下しているため、通常どおりの量を畑から出すのが難しくなっている」と指摘する。

収量に影響

カーンリッヂ農場のロブ・ジラゴシアン氏も同意見で、「暑さはニンジンの出荷にとって依然として懸念事項であり、収穫にその影響が出始めている。熱波が始まって以来、収穫量の減少が続いている。華氏110度前後の日がさら続いた場合、収量低下の傾向が続くのかどうか注視したい」と述べた。

ヴァリワイド有機農場のメイソン・パーキンソン氏によると、熱波の到来当初は、有機核果類の出来にプラスの影響を与え、6月上旬に集中していた収穫を遅らせ、全般的に糖度を大幅に増加させた。同氏はしかし、「現在の熱波のレベルは、現場に一種の『停滞』を生み出している。通常、ある品種の収穫を始めると、2回目の収穫を行うまでに3～4日の間隔があるが、現在は収穫までの期間は7日近くになり、出荷にわずかな空白が生じている。これは、弊社の果肉の白い核果類や、よりニッチなプルオット（スモモとアンズの交配種）のような特産品では栽培面積が小さいため最も顕著である」と言う。

今後は収穫が少ない

園地の暑さにより、労働者の安全のために収穫作業時間が限られるため、今後7～10日間は有機核果類の出荷量が通常よりも少なくなる。パーキンソン氏は、「白肉のモモとネクタリンは、今後数週間は供給が逼迫した状態が続くと予想している。これらの品目はこのレベルの高温によるダメージを受けやすく、通常よりも出荷量が少なくなる可能性がある。幸いなことに、7月は黄肉のモモとネクタリンのほかスモモの収穫量が多いので、これらの品目の需要に見合うだけの十分な果実が出荷できると予想している」と言う。

これらはより直接的な暑さの影響であるが、パトリシオ氏は、この熱波の影響は今後数週間から数カ月でさらに大きくなると感じており、「猛暑の時期にはミツバチは通常働かないので、受粉不良で落花したり、着果量が減少したりする傾向がある。その影響が見られるのは30～60日後だろう。同様に問題なのは、灌漑用水、特に点滴灌漑で何が起こるかである。奇妙に思えるかもしれないが、植物が水を吸収する速度は同じではなく、地表に水が押し出されることもあれば、成長にほとんど影響を与えないこともある」と述べた。

執筆者: アストリッド・ヴァン・デン・ブローク

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

134. 米国フロリダ州　柑橘類出荷量予測は上方修正するも依然少ない

FreshPlaza　2024年7月15日

米国農務省（USDA）は、フロリダ州の柑橘類の出荷量予測を再び修正し、2カ月連続で増加した。最新の数字では、2023-24年度シーズンのオレンジ出荷量は1,797万箱と推定されており、6月上旬の前回予測からわずかに増加した。この上方修正にもかかわらず、出荷量は1990年代後半の業界の絶頂期と比べると依然として控えめである。

フロリダ州柑橘類組合のマシュー・ジョイナー執行副会長兼CEOは、カンキツグリーニング病対策の進捗と、フロリダ州の柑橘類生産者のイノベーションへの取り組みに言及し、このセクターの先行きについて楽観的な見方を示した。USDAはまた、他の柑橘類についても安定した生産量を予想しており、グレープフルーツとタンジェロ/タンジェリンは、6月と同じそれぞれ179万箱及び45万箱を出荷すると予測されている。

業界の課題と成果を振り返り、ジョイナー氏は、1948年に設立された組織の一員であり、約2千を数えるフロリダの柑橘類生産者の回復力と適応力を強調した。前向きな見通しにもかかわらず、現在の出荷量は、1997-98年度シーズンに達成された最高記録の2億4,400万箱を大幅に下回っている。

（関連記事）柑橘類出荷量予測　7月（最終）

米国農務省農業統計局　2024年7月12日

フロリダ州農業消費者サービス局との共同発表

柑橘類の種類別出荷量及び予測出荷量 － 州別及び米国計

種類及び州	出荷量 [1]		2023-2024 予測出荷量 [1]	
	2021-2022	2022-2023	6月予測	7月予測
	(1,000 箱)	(1,000 箱)	(1,000 箱)	(1,000 箱)
バレンシア種以外のオレンジ [2]				
フロリダ州	**18,250**	**6,150**	**6,760**	**6,760**
カリフォルニア州	31,500	36,100	38,000	39,000
テキサス州	170	570	700	690
米国計	49,920	42,820	45,460	46,450
バレンシア種のオレンジ				
フロリダ州	**22,950**	**9,670**	**11,100**	**11,200**
カリフォルニア州	7,600	8,600	8,000	8,500
テキサス州	30	560	400	490
米国計	30,580	18,830	19,500	20,190
オレンジ合計				
フロリダ州	**41,200**	**15,820**	**17,860**	**17,960**
カリフォルニア州	39,100	44,700	46,000	47,500
テキサス州	200	1,130	1,100	1,180
米国計	80,500	61,650	64,960	66,640
グレープフルーツ				
フロリダ州合計	**3,330**	**1,810**	**1,790**	**1,790**
赤肉系	**2,830**	**1,560**	**1,550**	**1,550**
白肉系	**500**	**250**	**240**	**240**
カリフォルニア州	4,100	4,300	4,100	4,200
テキサス州	1,700	2,250	2,600	2,400
米国計	9,130	8,360	8,490	8,390
レモン				
アリゾナ州	1,250	1,400	1,050	950
カリフォルニア州	25,200	26,000	22,000	26,000
米国計	26,450	27,400	23,050	26,950
タンジェリン及びマンダリン [3]				
フロリダ州	**750**	**480**	**450**	**450**
カリフォルニア州	17,500	23,550	22,000	24,000
米国計	18,250	24,030	22,450	24,450

[1] 1箱当たりの正味重量（ポンド）　オレンジ：カリフォルニア州 80、フロリダ州 90、テキサス州 85。グレープフルーツ：カリフォルニア州及びテキサス州 80、フロリダ州 85。レモン：80。タンジェリン及びマンダリン：カリフォルニア州 80、フロリダ州 95。

[2] フロリダ州では早生の非バレンシア品種（ネーブル種を含む）及び中生の非バレンシア品種。カリフォルニア州ではネーブル種及びその他の品種。テキサス州では早生品種及び中生品種。

[3] タンジェロ及びタンゴールを含む。

135. 南アフリカ　初のアボカドが日本へ

ASIAFRUIT　2024年7月15日

今週の日本への最初のコンテナの出荷により、南アフリカ産アボカドの東方での新たな章が始まる

南アフリカのアボカド生産者は今週、日本に輸出される最初のコンテナがダーバン港から出荷されることを祝う。この出荷は、南アフリカと日本が今年これまでに市場アクセスに合意した*のを受けたものである。

亜熱帯果実生産者協会（Subtrop）のデレック・ドンキン氏は「輸出用の果実が手続きをクリアした。我々はこのコンテナを使って、両国間で合意された新しい輸出条件のあらゆる側面を最終的にテストする。これがうまくいけば、さらなる出荷が期待できる」と述べた。

ドンキン氏は以前、日本への出荷条件では、2℃で19日間の低温処理が必要であると述べていた。同氏は、「南アフリカの研究ではハスアボカドがこの処理に耐えられることが示されており、この条件下での英国への試験出荷は成功している」としつつ、「それでもなお、輸出条件の面で適切に提供できるよう確認し、日本での販売の新しい未来を順調にスタートさせなければならないと感じている」と述べた。

同国のアボカドにとって、2024年は中国、日本、そしてインドなど、東方で新しい市場を開拓する重要な年となった。ドンキン氏によると、南アフリカ初の航空輸送のアボカドは既にインドに到着しており、今後海上輸送のものが続くと見られる。最近、中国の代表団も南アフリカを訪問し、残されていた問題がすべて解決した。

今年はこれらの国への出荷は限定的だが、2025年は南アフリカにとってこれらの市場への最初の本格出荷の年になると予想されている。

一方、今年の南アフリカのアボカドシーズンは豊作で、従来からの輸出市場も堅調である。同氏は、「我々はさらに約2千万箱の出荷を見込んでおり、競合するペルー産の出荷が少ないため、我々の生産者にとって素晴らしい出荷シーズンとなっている」と付け加えた。

執筆者：フレッド・メインチェス　　（＊：実際には令和5年11月30日の告示によります。）

136. 中国　雲南省でブドウの出荷シーズン始まる

FreshPlaza　2024年7月16日

中国雲南省賓川（ビンチュアン）県ではブドウの出荷シーズンが始まり、現在大量に市場に出回っている。地元の特産品を専門に扱う賓川緑之源農業発展有限公司の張雲新（ジャンユンシン）総経理は、「シーズン序盤には出荷量が少なかったため、特にシャインマスカットは昨年よりも価格が良かったが、すぐに下落した。現在、国内外とも市場の需要は比較的低調で、売上も期待したほど良くない」と話す。（以下「 」は同氏の発言）

賓川は主要なブドウ産地である。今年は天候に恵まれ、適度な降雨もあり、収量、品質、食味が安定している。「賓川産プレミアム赤ブドウの仕入れ価格は、現在、例年と同様の7～7.2元/kgであるが、仕入れる業者が少なく、販売が伸び悩んでいる。赤ブドウやクリムゾンなどの大量生産品種については、価格は急激に下がってはいないが、上昇の勢いはなく、取扱業者らは非常に慎重である。」（1元＝約22円）

「一方、シャインマスカットの市場はいくらかよい。シーズン序盤は20元/kg以上であったが、現在は品質にもよるが13～18元/kg程度で、例年よりやや安くなっている。品質の良い緑色ブドウは今でも良い値が付いており、輸出需要もあるが、糖度や熟度の面で必要な要件を満たすブドウは少ない。」

「ニッチな品種の中には、味の良さと収穫量の少なさで市場価格の良いものもある。例えば、クイーンニーナ品種のブドウは高い価格を維持している。この品種は栽培が難しいため、他の品種に切り替えた生産者もおり、その結果収穫量が減り、販売が容易になった。別の品種であるスイートサファイアは、クイーンニーナよりも収量が高く、価格も優れているが、脱粒しやすく、保管や輸送に適していない。賓川県では、新しいブドウ品種も試作している。」

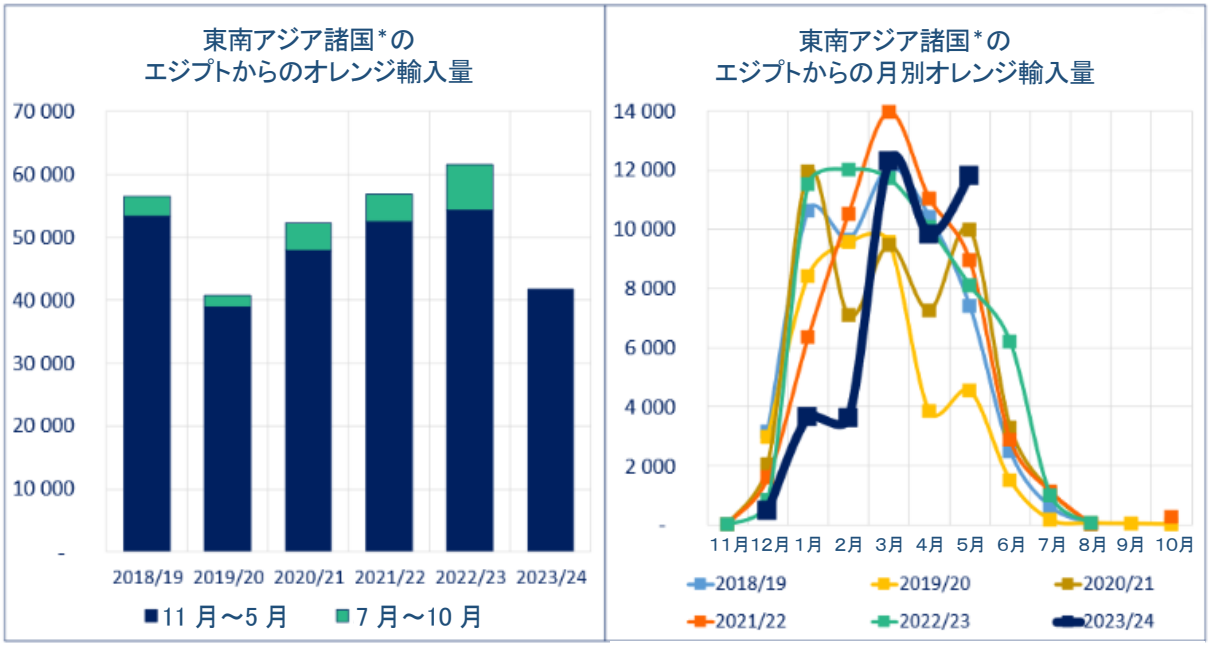
「輸出市場については、海外市場の引き合いは例年ほど強くなく、今年は輸出量が減少すると予想している。賓川のブドウの出荷シーズンは9月下旬ないしは10月上旬まで続く。」（以下省略）

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

137. エジプト　東南アジアへのオレンジ輸出が減少するも依然主要供給国

EastFruit　2024年7月17日

EastFruit（情報サイト）によると、エジプトは2023/24年度シーズンの東南アジア諸国向けオレンジ輸出量が近年で最も少ない水準になると見られるが、この地域の市場では引き続き重要なプレーヤーである。



＊インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、台湾、タイ

データは Global Trade Tracker　分析は EastFruit

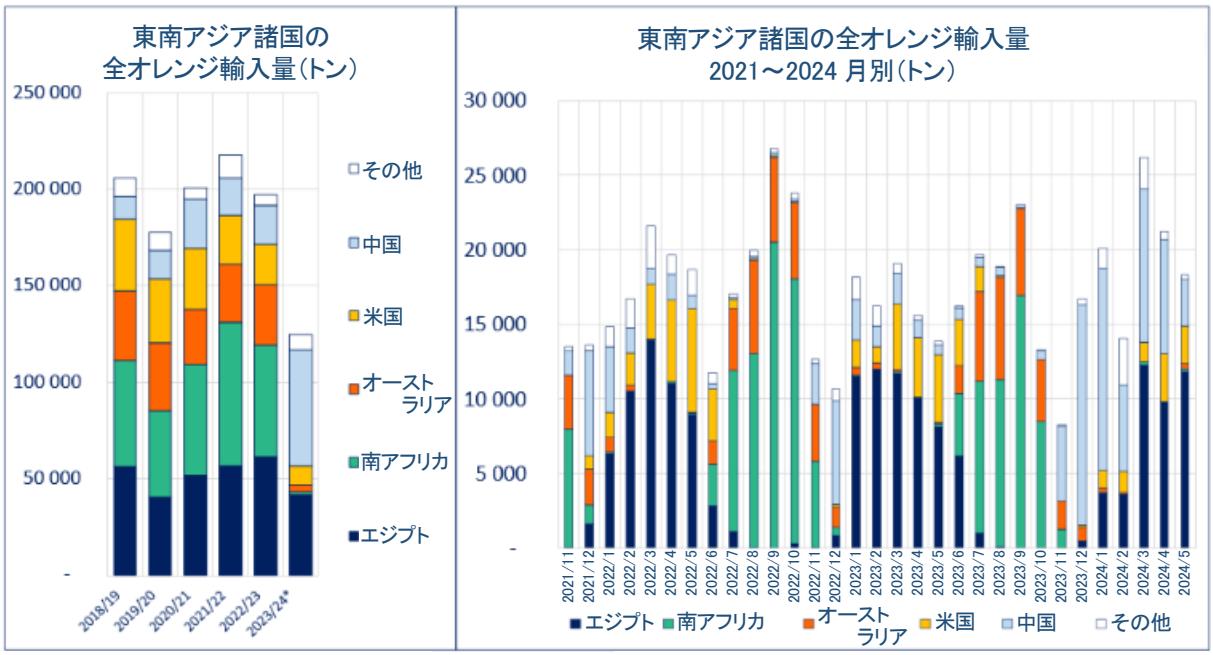
2023年11月から2024年5月にかけてのエジプトから東南アジア主要国（香港とベトナムを除く）へのオレンジ輸出量は4万2千トンに留まり、ここ数シーズンで最も低い数字の1つとなった。この地域におけるエジプトの存在感が最も顕著に低下したのは、オレンジ輸出シーズンが始まった1月から2月にかけてであった。

EastFruitの果実・野菜市場アナリストであるイェヴヘン・クジン氏は、「残念なことに、イエメンのフーシ派による紅海の封鎖は、出荷シーズンの初めにエジプトからアジアへのオレンジ供給に深刻な打撃を与えた。エジプトの輸出は3月から4月にかけてやや回復し、5月には（同月として）史上最高を記録したが、時間がかかり過ぎた。その結果、2019/20年度シーズン以降初めて、エジプトは東南アジア諸国へのオレンジ供給の大幅な減少に直面するリスクがある」とコメントしている。

今シーズンは、エジプトがこの地域での地位を強化するチャンスであった。米国農務省海外農業局（FAS USDA）のアナリストは、今シーズンのエジプトのオレンジの収穫量が記録的となり、それに応じて、同国からのオレンジ輸出も記録的になると予想していた。一方、東南アジア諸国のオレンジ需要は、この地域の急速な経済成長、発展する消費市場、及び繁栄する観光セクターによって促進されるはずであった。

実際には、紅海封鎖により、エジプトの輸出業者に対してアジア市場は一時的に閉鎖され、エジプトポンドの切り下げにより既に比較的低くなっていた価格はさらに下落した。例えば、4月には、アフリカを迂回するルートでアジアへの供給が回復したにもかかわらず、エジプトの国内市場では、オレンジ1kg当たり約15米セントという信じられないほどの低価格が提示された。

クジン氏は、「香港を除く東南アジア諸国は今シーズンの最初の7カ月間でオレンジの輸入量が過去最高を記録したが、エジプトはこれらの出来事にほとんど影響を与えなかった。代わりに、この供給量の増加は中国からの輸出の増加によるものであった。中国は、以前はオレンジ供給国の中で5位にとどまっていたが、既にエジプトよりも多くのオレンジを東南アジアに輸出している」と続ける。



＊2023/24 は 11 月～5 月のデータ

データは Global Trade Tracker　分析は EastFruit

2つの最大の供給国（南アフリカとオーストラリア）が東南アジア市場に供給するのは6月から11月までであるため、（季節的に）中国と米国がこの地域におけるエジプトの主要な競争相手である。オーストラリアからの輸入は年間2万9千～3万6千トンの間で変動する一方、南アフリカはこの地域（ベトナムと香港を除く）に4万5千～7万4千トンのオレンジを供給しており、エジプトとトップの座を争っている。前回の2022/23年度シーズン終了時点で、エジプトが首位（6万2千トン）、南アフリカが5万8千トンで2位であった。

同氏は、「中国は、今シーズンの最初の7カ月間で、前シーズン全体の3倍のオレンジをこの地域に輸出し、エジプト産が残した隙間を埋めた。同時に、米国の輸出量は2万トンと過去5シーズンでほぼ半減しており、これはエジプトの輸出業者が注目すべき事実である。エジプトの輸出業者が産品の価格を際限なく引き下げることはいずれできなくなり、安価なセグメントで中国のオレンジと競争することはますます困難になる。一方、米国が東南アジア市場から徐々に撤退していることは、プレミアムオレンジの輸出業者にとって絶好の機会であり、このセグメントでは、物流コストの増加という要因はもはや重要ではない」と結論付けた。

138. オーストラリア　日本向け生食用ブドウ輸出の品種制限が撤廃

ASIAFRUIT　2024年7月17日

日本の消費者は、輸入に対する品種制限が撤廃された(告示)ことで、来シーズンからすべての種類のオーストラリア産生食用ブドウを購入することができる。オーストラリア政府は、長い取組みの末に水曜日に発表された市場アクセスの拡大は、オーストラリアの生食用ブドウ産業にとっての勝利であるとした。

過去10年間、オーストラリアが日本に輸出できたのは、クリムゾンシードレス、レッドグローブ、トンプソンシードレスの3品種のみであった。オーストラリアの生食用ブドウ生産者は、次の12月から5月までの生食用ブドウ輸出シーズンには、国内で栽培されている130品種以上の生食用ブドウを日本に出荷することができる。

オーストラリア生食用ブドウ協会のジェフ・スコットCEOは、この業界の取組みは長い時間をかけて行われてきたものであり、この成果は日本への生食用ブドウの輸出を一変させるだろうと述べた。同氏は、「2014年に技術的な市場アクセスが認められて以来、日本におけるオーストラリア産生食用ブドウへの関心は過去10年間で着実に高まっている。しかし、我々の輸出市場の価値は、品種の制約によって制限されてきた」と言う。

同氏は、「オーストラリアの生産者と輸出業者は、日本の輸入業者やバイヤーと強力な貿易関係を築いている。日本の消費者は、オーストラリア産生食用ブドウの品種をすべて味わいたいと熱望していることを我々は知っている。長い間待った末に、それができるようになった」と語った。

生食用ブドウ品種のアクセス改善により、今後数年間で輸出市場の価値は3千万豪ドル増加し、5千万豪ドルになると予想されている。これは、オーストラリア産生食用ブドウの日本向け輸出の初年度に最初の16コンテナが出荷された時とは隔世の感がある。(1豪ドル＝約105円)

マレー・ワット農水林業大臣は、オーストラリアの生食用ブドウ産業と農業部門全体の両方にとっての本件の重要性を強調し、「日本はオーストラリアにとって2番目に大きな農林水産物市場であり、オーストラリアの高級生鮮果実の貴重な市場である。これらの規制の解除は、業界にとって重要な進歩である。日本は洗練されて安定した市場であり、長期的な成長機会を提供している」と述べた。

この成果は、オーストラリア産マンゴーの品種制限を撤廃した(告示)昨年の成功に続くものである。

139. オーストラリア　西オーストラリア州でユズ栽培を模索

FreshPlaza　2024年7月18日

西オーストラリア州南西部の生産者であるスティーブン・ライファー氏は、60ヘクタールの所有地で、独特の風味で知られる日本の柑橘類ユズの栽培に着手した。当初は100本強の樹を植えたが、果樹園を5千本以上に拡大することを目指す。現在、2,500本以上の木が既に植えられているか、植える準備が整っている。引退後も活動的でいようと、労働集約的なプロジェクトとしてユズ栽培を選んだ。同氏は、長生きするためには精神的及び肉体的な活動が重要であると強調している。

ライファー氏の事業は、この地域の肥沃な土壌と豊富な水供給の恩恵を受けており、除草剤や殺虫剤を避けることができる。同氏の農業への実践的なアプローチは、果実のサイズを大きくし、生産物を完売することにつながってきた。西オーストラリア州のレストランからの需要があり、同氏は生産量を大幅に増やすことを計画している。ユズの価格は1kg当たり約39豪ドルと高いが、そのユニークな品質は価格を正当化するだけの価値がある。果実全体を利用でき、様々な利点がある。(1豪ドル＝約105円)

ブルーマナビストロのコビー・コックバーン氏ら地元のシェフ達は、特にシーフードとの相性の良さから、ユズの人気が高まっていることに着目している。コックバーン氏の施設は、ライファー氏の会社であるユズ・ウェスト社からユズを調達しており、新鮮な地元産の食材に対する需要の高まりを浮き彫りにしている。

出典: abc.net.au

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

140. ブラジル　サンパウロ州の柑橘類地帯で降雨に安堵

Cepea　2024年7月18日

セペア、2024年7月18日 - サンパウロ州の多くの柑橘類産地では、乾燥した天候が数週間続いた後、7月中旬に雨が降った。降雨量は地域によって均一ではなかった（降雨は特に同州の南部と南西部で記録された）が、乾燥した天候の果樹への影響を既に懸念していた柑橘類生産者達には一定の安心感をもたらした。

降雨量が多かった同州の南西部では、開花が始まる可能性が有る。降雨がそれよりも少なかった（記録されなかった）地域では、開花にはより高い湿度が必要である。（タヒチライムに関しては、現時点では最近の降雨によって供給が増加する可能性は低いが、今後数週間の収量と品質に有利に働く可能性がある。）

2023/24年度シーズンの果汁輸出量の減少 - ブラジルのオレンジ果汁の出荷量は、前作で増加した後、2023/24年度シーズン（2023年7月～2024年6月）は減少した。ブラジルの輸出量は100万トンで、前シーズン比8.1%減となった（Comex Stat（ブラジル政府の対外貿易統計）のデータ）。輸出額は27億米ドルで、同25%増となった。輸出量の減少は、主にブラジルの果汁在庫量の少なさに関係している。

加工の状況 - サンパウロ州では、オレンジの加工が引き続き速いペースで進んでいる。セペアが調査した複数の業者は、今シーズンは搾汁が例年より進んでおり、今月には早生品種の加工量が減少する可能性が高いと述べている。昨年は搾汁が終了したのは9月の後半であったが、2024/25年度の搾汁は7月または8月に終了すると見込まれる。

セペア/Cepea（サンパウロ大学応用経済高等研究センター）

141. チリ　2023/24年度のブドウ輸出は好成績

EUROFRUIT　2024年7月19日

輸出量と輸出額の増加は、一層の品質重視、新品種、物流の改善を反映

チリは2023/24年度に輸出額（FOB）で10億米ドル以上に相当する6,400万箱の生食用ブドウを輸出し、前年同期と比較して数量で7%、金額で13%増加した。悪天候による生産量の減少にもかかわらず、結果は改善された。フルタス・デ・チリ（チリ果実輸出業者協会）のイバン・マランビオ会長は、この結果への満足感を表明し、これはこのセクターにおける継続的な品質の改善を反映しているとして、「今シーズンは、新品種の生産と輸出も増加し、3,900万箱と総出荷量の62%を占めた」と述べた。

マランビオ氏は、最近設立された生食用ブドウ委員会の、特に主要輸出市場である米国での競争力を向上させるという戦略が功を奏したと指摘し、「これらはすべて、米国カリフォルニア州及びペルーからの供給の減少によっても促進された。両国は、悪天候により我が国よりも大きな打撃を受けた」と述べた。マランビオ氏によると、チリの業績を押し上げた要因は他に2つある。第1に物流の改善であり、第2に第14週（4月上旬）以降にチリからの供給が増加したにもかかわらず、米国市場での価格が安定していたことである。

アイコンサルティング社のエグゼクティブディレクターであるイサベル・キロス氏は、チリの品種更新はペルーや南アフリカと比べて遅かったが、今やその成果が出始めていると説明し、「凡庸な果実が入り込む余地がない一方、強豪達の中で競争する意思がある限り、生食用ブドウ産業は魅力的であり続けることが理解された」と語った。チリの主な新品種は、スイートグローブ（種無し白ブドウ）が12%、アリソン（種無し赤ブドウ）が11%、スイートセレブレーション（同）が10%である。直近のシーズンに急激な成長を見せた品種は、スイートグローブ、オータムクリスプ、スイートフレーバーであった。ティムコとコットンキャンディは減少した。

生食用ブドウの出荷シーズンが改善したことで、2024年上半期の生鮮果実の輸出量は過去最高を記録した。政府の貿易促進機関（ProChile）が分析した税関データによると、1月から7月までの出荷額は70億米ドルを超え、前年同期比で9%増加した。同機関の責任者であるロレーナ・セプルベダ氏は、「チリ産の果実は、その品質、安全性、風味で世界における地位を確立し、農業部門全体を後押ししている」と述べた。

執筆者：マウラ・マクスウェル

142. ペルー　大手育種会社が違法栽培のブドウを撤去

The Packer　2024年7月19日

生食用ブドウやサクランボの世界最大の育種会社の1つであるブルームフレッシュインターナショナル社は、何カ月にもわたる調査と法的措置の後、ペルーの生産者により違法に植えられ、栽培されていたスイートグローブ、ジャックスサルート、スイートセレブレーション、アリソンの各品種合計110ヘクタールの撤去を実施した。これは、ペルーにおける生食用ブドウの権利侵害事件の歴史の中で最大の違法ブドウの撤去であり、また、侵害した生産者に対する多額の罰金を伴うものであると、同社はニュースリリースで伝えた。

この措置は、次のシーズンに同社の品種を違法に栽培することを計画している可能性のある生産者への警告である。同社は、権利関係の有る品種や商標を違法に使用する種苗業者や生産者に対して、引き続き最も強力な法的手段で対処するとしている。ペルー南部で発見されたブドウの違法栽培者は、110ヘクタールに植えられたブドウをすべて自費で伐根・撤去することを余儀なくされ、将来の収入源に甚大な影響を受けた。また、この生産者は権利侵害に対して高額な罰金を支払わなければならない。

ブルームフレッシュ社は、侵害者を探し出して権利を確実に行使するため、市場を監視している。同社は、潜在的な侵害を察知した場合、国内外の法務チームが行動する準備ができているとしている。同社のジョセップ・エスティアルテCEOは、「本日、我々は、弊社の品種を違法に植えることを検討している業者と生産者に明確なメッセージを送っている」として、「弊社の知的財産の侵害は容認されず、これを逃れることができると考えている者に対して、弊社は総力を挙げて対処する。今回のケースは、違法な生産者が直面する重大な経済的影響を示している」と述べた。

同氏はさらに、「世界中の合法的な生産者は、弊社が長期的なビジネスの構築を支援するものと信頼している。弊社は、そうした人々の利益を守るため、弊社の品種を違法に植えようとする者の責任を問わなければならない。また、弊社は世界品種育成者連盟(The Global Breeders Alliance)の創設メンバーでもある。この連盟は、侵害に対して市場を継続的にスクリーニングする調査員の世界的ネットワークを持っている。弊社は、違法と思われる果実や植物のDNA検査を定期的に実施するとともに、世界中の主要な小売業者や流通業者と緊密に連携して、我々の知的財産の侵害を特定している」と述べた。

執筆者：ジル・ダットン　　(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

143. スペイン　若年者は生鮮果実の消費が少なく高齢者は多い

FreshPlaza　2024年7月19日

独立した若者と子どものいない若い夫婦の世帯は、その人口に占める割合と比較して、2023年の新鮮果実の消費量が最も少なかった(それぞれ全体の2%及び3.8%)。対照的に、退職者と、同居の子のいない中高年夫婦が最も多くの果実を食べ、昨年スペインで消費された総量の33.5%及び16%を占めた。

農水産食品省の2023年食料消費レポートによると、同年の生鮮果実の消費量は、前年比2.7%減の78.5 kg/人であった。人口の5.6%を占める独立した若者の世帯は、全世帯が購入した367万2千トンの果実の2.08%しか消費していない。果実を最も食べない2番目のグループは、子供のいない若い夫婦で、人口の7.4%を占めているが、2023年の総消費量の3.8%しか消費していない。

退職者、同居の子のいない中高年夫婦及び年長の子がいる夫婦の世帯は、同年に最も多くの生鮮果実を消費した。これら3類型のすべてで、消費シェアは人口統計学的な割合を超えている。退職者世帯は果実消費量の33.5%、同居の子のいない中高年夫婦世帯は16%、年長の子がいる夫婦世帯は12%を占めた。

世帯内の主たる購入者が50歳以上の世帯では生鮮果実の購入量が最も多く、全購入量の39.4%を占め、人口統計上の比率(29%)を上回った。主たる購入者が50歳以上の世帯、特に65歳以上の世帯では、一人当たりの生鮮果実消費量が最も多く、年間平均146.86kgであった。一方、主たる購入者が35歳未満の世帯では、1人当たり年間34.53kgの果実しか消費しておらず、全体平均の78.51kgを大きく下回った。

FEPEX(青果物生産輸出団体連合会)が分析したスペインの2023年食料消費レポートの複数のデータは、生鮮果実の家庭消費はまだ大人や高齢者のものなのかとの疑問を抱かせる人口統計学的消費行動を示した。

出典：www.fepex.es

144. 南アフリカ　リンポポ州南部の柑橘類産地で寒波の被害

FreshPlaza　2024年7月19日

グロブラースダール(リンポポ州)に本拠を置くスフーンビーランドフート社の営業販売担当シニアマネージャーであるヘルト・アプトン氏は、先週の氷点下の寒波の影響は甚大なものになるだろうと言う。柑橘類生産者らは今も果樹園に出ては果実を切って被害の程度を計測しているが、レモンやオレンジの園地全体が枯れるほどの低温被害を受けたことによる精神的な影響は、彼らにとって大きな打撃となっている。

アプトン氏は、「場所によってはマイナス8℃が5時間近く続き、果樹が枯れてしまった。果実を全部失った生産者もいる。それらの果樹はまだ樹齢6、7年だったものもあるようだが、もはや掘り起こすしかなく、過去5、6年間にその果樹園に費やしたすべての投資に加えて、将来の見通しと収入を失ってしまった」と話す。

同社では、今後2週間は何も出荷せず、霜で傷んだオレンジの落果を待つことにした。ソフト柑橘類は果実の内部の水分が減って浮き皮を生じても、外からは完璧な果実に見えるため、冷害の兆候を見分けるのが一層難しい。

同氏は、当該地域及びより広くリンポポ州全体の被害の程度はまだ明らかではないと強調している。誰もが果樹園に出て、何を失い、何が残ったかを目の当たりにしている。

柑橘類生産者協会は本日(19日)、センウェス地域(マーブルホールとグロブラースダール)の寒波により、この地域のネーブルオレンジの収穫見込みは60万箱、バレンシアオレンジは100万箱減少したと発表した。

さらなる輸出量の削減は避けられない

アプトン氏は、「今後、北半球からの柑橘類果実の供給量が少なくなってくる。南半球からの供給があるものの、南アフリカは今年これまでに既に予想輸出量を1,200万箱(15kg/箱)削減しており、先週の低温を受けて間違いなく再び削減されるだろう。柑橘類の被害と収入の損失が査定されるとともに、予定されていた梱包、肥料・農薬、労働力の費用もあり、今後数週間で柑橘類に関して大きな経済的損失が見えてくる」と言う。

販売計画はすべて混乱に陥り、同氏は南アフリカが残りの出荷シーズン中に市場にどれだけ供給できるか(またはできないか)について多くの問題を予想している。

ダーバン港は、ゲベハ(英名ポートエリザベス)港やケープタウン港とは異なり順調に運営されており、これは柑橘類の出荷量が既に減少していることと、マプト港(モザンビーク)経由の輸出がダーバン港の負担を軽減した結果であると同氏は指摘する。

オレンジ果汁の価格が高騰していることは救いであり、スフーンビーランドフート社の自社の搾汁施設は、量的な損失の多くを価格の上昇で吸収することができるだろう。

食料問題が起こる

寒波の被害は農場の地形や場所によって異なり、北はデンドロンやビボなどの主要なジャガイモ産地にまで及び、そこでは収穫期に達していないジャガイモ畑全体が回復できないほど凍りつき、何千トンもの損失が生じている。当初は、生産者が残された作物の中からできる限りのものを回収するため価格が下がるが、その後、多くの南アフリカの人々にとって手の届かないレベルに高騰すると見られる。

アプトン氏は、「多くの作物が枯れてしまい、食料問題が発生するだろう。ここで起こったことは経済的な影響を及ぼし、生産者や、(寒波のために)早く家に帰され、1カ月分少ない給料しか払ってもらえない人々に、社会的及び心理的な影響を与えるだろう。この寒波によって、あらゆる形での社会経済的問題がもたらされる」と話す。

同氏は、恐らく売りに出される柑橘類農園が増え、南アフリカの食料安全保障が徐々に損なわれるだろうと言う。

執筆者: キャロライズ・ヤンセン

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

145. 米国　フロリダ州の柑橘類産業を救う技術革新

米国農務省国立食品・農業研究所（NIFA）　2024年7月22日

NIFAが資金提供した研究の成果

米国の柑橘類産業は33億ドル以上の価値があると評価されており、主要な産地はフロリダ州、カリフォルニア州、テキサス州に集中している。しかし、米国の柑橘類生産は、小さな昆虫であるミカンキジラミ（ACP：Asian citrus psyllid）が侵略的な細菌性病原体を媒介する黄龍病（HLB：Huanglongbing）に脅かされている。

カンキツグリーニング病とも呼ばれるHLBは、米国で最も壊滅的な柑橘類の病気である。2005年にフロリダ州でHLBが検出されて以来、同州の柑橘類の生産量は75%減少し、そのうちグレープフルーツの生産量は90%減少した。米国の生産者は、20年近くにわたってHLBの解決策を模索してきた。

ダンディー柑橘類生産者協会のCUPSシステムの外観
写真提供：スティーブン・カラハム/ダンディー柑橘類生産者協会

米国農務省国立食品・農業研究所（NIFA）は、HLBに対処する米国の柑橘類生産者のための解決策を見つけようと、これまでに2億5千万ドル以上を投資してきた。

NIFAの全米プログラムリーダーで、緊急柑橘類病害研究・普及（ECDRE）プログラムを管理するエリカ・キスナー・トーマス博士は、「HLB-ACP病理系の複雑さを考えると、カンキツグリーニング病の問題を解決することは、がんを治すことに似ている」と述べ、「ここには銀の弾丸（魔法の解決策）はない。NIFAは、農場レベルでHLBと闘い予防するための科学的に健全な解決策を見つけるため、学際的な科学者と柑橘類業界の代表者からなるチームに資金を提供している。NIFAが資金提供する研究プロジェクトは、従来からの育種、遺伝子編集、新しいバイオテクノロジー、抗菌治療薬、保護スクリーンなど、さまざまな角度からカンキツグリーニング病に取り組んでいる」と語った。

その1つが、保護スクリーン下の柑橘類栽培（CUPS：Citrus Under Protective Screen）である。

フロリダ大学食品農業科学研究所（UF/IFAS）の科学者であるアーノルド・シューマン博士とその同僚達は2014年に、フロリダ州の柑橘類業界にHLBを阻止する技術を提供するため、CUPSの概念実証を開始した。研究者達は、UF/IFASの柑橘類研究教育センターに5万5千平方フィート（約5,100平米）のCUPSシステムを構築した。CUPSシステムでは、カリフォルニア州の生産者が開発した遮光ハウスによる保護農業のアイデアが採用された。

ダンディー柑橘類生産者協会のCUPSシステムの内部
写真提供：アーノルド・シューマン/UF/IFAS

UF/IFASの科学者たちは、ミカンキジラミの侵入を防ぎ、HLBから果樹を保護するためにそのシステムを応用した。そうすることで彼らは、HLBの蔓延地域内でHLBに感染していない果実を生産するためのミカンキジラミ防護スクリーンを備えた遮光ハウスの初めて使用者となった。その後の2回の農務省特産作物州別助成金により、科学者達は初期の概念実証を共有し、最初に関心を持ったフロリダ州の生産者達にシステムがどのように機能するかを実証して見せることができた。

シューマン氏は、「CUPS研究プロジェクトは、特別な保護スクリーンを張った施設でグレープフルーツ、オレンジ、マンダリンなどの柑橘類を栽培し、生鮮市場に提供することに焦点を当てている。このような遮光ハウ

スは、ミカンキジラミや、それが広める壊滅的なカンキツグリーニング病などの有害な病害虫から果樹を保護する。CUPSはまた、柑橘類の果樹を荒天から守り、果樹が生育するためのより健康的な環境を作り出す。これにより、成長速度が上がり、果実の品質が向上し、収量が増え、化学農薬、肥料、灌漑用水の必要性が減少する」と述べた。

NIFAは2018年に、ECDREプログラム(前出)からUF/IFASに350万ドルの助成金を授与し、研究者が研究と普及の範囲を広げることを可能にした。その結果はどうなったか? CUPSは現在、生産者が収益の上がる方法でHLBに感染していない柑橘類を生産できる唯一の成功した技術となっている。

「この研究プロジェクトの投資収益率は高い」とシューマン氏は言い、「6年間で350万ドルの研究助成金に基づいて、フロリダ州の柑橘類生産者達はCUPSの遮光ハウスに約7,500万ドルを投資し、200人以上の生産者が1,200エーカー以上でHLBに感染していない柑橘類を生産でき、年間100万箱の赤肉系グレープフルーツを収穫して、約2千万ドルの純利益を生み出していると推定される」と述べた。(1エーカー=約0.4ヘクタール)

食料品店でエコ栽培とフロリダルビーのラベルが表示されているCUPSで栽培されたフロリダ州産グレープフルーツ
写真提供: アーノルド・シューマン/UF/IFAS

ダンディー柑橘類生産者協会のスティーブン・カラハムCEOは、この技術を早期に採用した1人である。同協会は、フロリダ州の柑橘類業界で最大の生鮮果実協同組合の1つであり、フロリダ州全体の1万エーカー以上の園地で複数の品目の柑橘類を収穫している。

カラハム氏は、「4年前に設置したCUPSの園地は今シーズン、従来型の成園化した果樹園よりもエーカー当たり800%多くの果実を生産した」と言い、「CUPSの直接的な成果として、12人のフルタイム従業員を新規に採用した。CUPSのおかげで、より少ない労力でより多くの生産が可能になった。我々は、従来の栽培方法と比較して、果実1玉を生産するための土地、水、肥料を90%削減している。我々は、CUPSを使った将来について非常に楽観的である」と話す。

これは、CUPSを使用している他の生産者が経験したことと一致しているとシューマン氏は言う。科学者の推奨事項を採用した商業的CUPS生産者は、栽植から2年半後に収穫を開始し、年間に従来のHLBの影響を受けたグレープフルーツ果樹園の4〜5倍の収量を上げていると報告している。これは研究者の期待を上回った。CUPSのグレープフルーツの収量は、HLB蔓延以前のフロリダ州の果樹園の収量をも上回っている。

科学者達はまた、カンキツかいよう病がCUPSによって抑制され、このシステムが激しい嵐から果樹を保護することを発見した。従来のシステムよりも少ない面積とより少ない時間で所定の収量を達成するため、果実生産量当たりの肥料、農薬、灌漑用水、燃料、人件費などの投入コストが、HLB蔓延前や蔓延後の従来の栽培方法の柑橘類と比較して大幅に節約される。

カラハム氏は、「究極の救世主は、病気に強い植物材料である」と言いつつ、「しかし、その材料が開発され商業的な意味を持つまでに何年も、場合によっては数十年もかかる。我々の業界と組織は、それほど長く待つことはできない。CUPSは、ダンディー柑橘類生産者協会にとって、すぐに着手できる解決策であった。生き残るためだけの解決策ではなく、繁栄するための解決策でもある。NIFAの資金提供がなければ、CUPSのアイデアも概念実証も不可能だったかもしれないし、実用化できても遅くなるか、まったく実用化できなかったかもしれない」と語った。

カリフォルニア州、テキサス州、ルイジアナ州でも柑橘類産業がHLBによって次第に脅かされているため、科学者と生産者はフロリダ州チームの指導を受けて同様の研究施設を設置した。さらに、CUPSの技術は、効果的な防風林のように機能することにより細菌性疾患を広める横殴りの雨の影響を軽減し、もう1つの深刻な病害であるカンキツかいよう病を制御するのにも役立つ。

フロリダ州ウィンターヘブンにあるKLM農場と6M農場のオーナーであるジェリー・ミクソン氏は、CUPSでの生鮮柑橘類栽培が会社を支えていると述べた。

同氏は、「課題を上回るこの成功がなければ、柑橘類生産に留まるという我々の決定は愚かだっただろう。CUPSで柑橘類を栽培すれば、地域の苗木業者や管理会社、梱包施設、収穫会社、農業資材会社と協力して、柑橘類の面積を維持することができる」と言う。

さらに同氏は、「重要なのは、我々の生産物が素晴らしいということだ。生産者として、生産する産物に誇りを持ちたい。CUPSで栽培された我々の柑橘類は、見た目が良いだけでなく、味も素晴らしい。市場での影響が広く感じられ始めており、小売業者達はCUPSで生産された産物を求めている」と語った。

KLM農場のCUPSシステムで生産された高品質な種無しマンダリン（アーリーブライド品種）
写真提供: ジェリー・ミクソン/KLM農場

CUPSの主要な研究成果

- HLBのベクターであるミカンキジラミは、研究対象のCUPS遮光ハウスから十分に排除され、HLBの発生率を10年間で2%未満に抑制した。
- メッシュサイズ40～50の高密度ポリエチレン製スクリーンは、ミカンキジラミやその他の同サイズの昆虫がCUPSに侵入するのを防ぐ一方、適度な空気の流入、可視光の80%の透過及び降雨の浸透は可能である。
- CUPS遮光ハウス内の日中の気温は、外気温よりも最大10度高くなる。CUPSでは、風速が75%以上減少し、湿度が高く、光の拡散が外部よりも優れている。拡散光は、過度な相互遮蔽を防ぐことにより、非常に高い植栽密度を可能にする。研究者達は、CUPSシステムを使用して1,361本/エーカーの赤肉系グレープフルーツを10年間栽培することに成功し、1エーカー当たり8,313箱の累積収量を達成した。
- ミカンキジラミより小さい節足動物であるハダニ、サビダニ、アザミウマ等の柑橘類の害虫は、40～50メッシュのスクリーンを通過するので、従来の農薬で防除する必要がある。
- CUPS内には花粉媒介昆虫がいないため、多くの柑橘類の品種は、種無し果実を生産し、市場価値を高める。
- グレープフルーツは、一貫した高収量とCUPS微気候への適応の良さから、現在CUPSで最も多く栽培されている柑橘類である。
- CUPSの柑橘類の成長率は、従来のHLBに感染していない果樹園の約2倍である。これにより、商業生産が早期に始まり（例: 赤肉系グレープフルーツは2.5年）、年間の生産コスト（水、燃料、人件費、肥料、農薬、保険、その他）の節約につながる。
- 保護されたCUPS環境での収量は、赤肉系グレープフルーツなどの一部の品種で、HLBに感染していない従来の果樹園よりも高くなる。
- 風による果皮の傷が少なく、果実の品質が非常に優れているため、出荷可能率が高い（通常80～90%）。
- CUPSの果樹や果実はハリケーンから十分に保護されており、被害や果実の損失はごくわずかである。

執筆者: ロリ・タイラー・グラ（NIFA上級広報専門官）

146. 米国　2023年の有機農産物の販売は好調に推移

Produce Market Guide（pmg）　2024年7月23日

編集者注: 以下のレポートは有機農産物マーケットガイド2024からの引用である。
（訳注: Produce Market Guide（pmg）はThe Packer誌の青果物販売部門の姉妹誌です。）

熱心な消費者が合成肥料や農薬を使用せずに栽培された生鮮果実・野菜を選択したため、有機農産物は2023年に好調に推移した。販売は金額、数量ともに前年比で増加した。

シカゴを拠点とする市場調査会社サーケイナ・オムニマーケット・インテグレーテッド・フレッシュ社が全米の複数の販売経路から収集した2023暦年のデータによると、有機農産物の販売額は前年比1.4%増の83億ドル、販売量は0.7%増の28億ポンド（約127万トン）であった。

慣行栽培の農産物については、販売額の増加率は2.1%とより大きく、販売量は0.4%増加した。

同社の生鮮食品顧客見通しグループのジョナ・パーカー主幹は、販売量の1%未満の増加は小さいように見えるかも知れないが、2023年においては大きな成果であると述べた。

同氏は、「インフレ環境下での0.3ポイント以上の販売量の増加は大きな意味がある」と言い、このような増加は有機農産物のようなプレミアム部門では特に珍しいことであると付け加えるとともに、「最も重要なことは、有機農産物は一定の消費者の間で活力ある熱烈な支持を得ているということである。2023年はあらゆる逆風が吹いていたにもかかわらず、それらの消費者は依然として強い需要を示した」と語った。

その一方でパーカー氏は、有機農産物は市場ではまだ小さな部門に過ぎないとして、「農産物全体に占める有機農産物の割合は、金額、数量ともに過去5年間、全く横ばいであった」と述べた。2023年のシェアは、販売額で約12%、販売量で約8%であった。

同年の増加の背後にはいくつかの理由があるとパーカー氏は言う。消費者は2023年に、買い溜めや食料品店への外出制限などのパンデミック関連の購買行動から遂に離脱した。さらに、ウォルマートやターゲットなどの店舗が有機農産物の品揃えを拡大し、有機食品がより多くの場所で入手できるようになった。

パーカー氏は、このような追い風を考えると、2023年に有機農産物の売上がなぜもっと上向きにならなかったのかと疑問に思う人もいるかも知れないとして、「成長が抑制されたのは、人々が必要なときに必要なものだけを買っていたためである」と述べた。

また、数量当たりの価格は全般的に横ばいで上がっていないものの、あらゆる種類の消費財のコストが上昇したため、消費者は合理的な支出を行うようになった。

消費者が有機を選んだ理由

ザ・パッカー誌の2024年有機青果物動向調査では、2023年10月中旬に1,100人以上の米国の消費者を対象に、有機農産物の購買習慣について調べた。認証された有機農産物を購入する理由を尋ねたところ、回答者は健康上の理由、環境への責任、及び化学物質を避けたい気持ちを主な要因として挙げた。

2023年に有機農産物を購入したと答えた回答者の5%が、年間購入額の75%以上を有機農産物が占めると回答した。前年に同様に回答したのは10%であった。年間の農産物購入額の26～50%を有機が占めると回答した層が最も多く、有機農産物を購入した回答者の30%を占めた。

有機農産物の購入は、若い消費者にとって特に重要である。通常購入する農産物の種類について尋ねたところ、30～39歳の年齢層の約半数が有機を挙げたのに対し、60歳以上の回答者では僅か22%であった。

ワシントンD.C.の有機販売協会（Organic Trade Association）の共同CEOであるトム・チャップマン氏は、「有機農産物は、清浄で健康的な食品を求める消費者の欲求の高まりに応えている。有毒な合成農薬を使用せずに生産されたという有機農産物の最も良く知られた利点は、木から摘み取ったベリー類や地面から収穫した野菜を食べることを考えた時に、消費者にとって理解しやすいものである」と述べている。

強力なベリー類

サーケイナ社によると、有機果実部門は2023年に手堅い業績を上げ、販売額は3.3%増の34億ドルで、

販売量は2.6%増加した。販売単価は0.7%と僅かに上昇した。

慣行栽培の果実の販売の伸びは、相対的に緩やかであった。2023年の販売額は2.3%増の368億ドルで、販売量は0.9%増加した。慣行栽培の果実の単価は、前年には10%急騰したのに対し、2023年の上昇率は1.4%であった。

サーケイナ社のデータによると、有機ベリー類は2023年の販売額が前年比12%増の14億ドルで最も多く、品目別シェアでも3ポイント拡大した。リンゴが6億7,300万ドル（4.3%減）で2位、次いでバナナが4億7千万ドル（7%増）であった。

パーカー氏は、「ベリー類は引き続き大人気である」と言い、朝食が購入増加の大きな要因であるとして、「弊社の消費データと家庭内行動データから、多くの消費者が朝食にオートミールやシリアルと合わせて果物を食べていることが分かった。ベリー類は、その一部として消費者の心にしっかりと定着している」と述べた。

ベリー類の中でイチゴが数量と金額の両方で最も売れており、ブルーベリーとラズベリーがそれに続いた。

ノースイーストシェアードサービス社（ニューヨーク州スケネクタディに拠点を置くノースイースト青果会社の子会社で、トップスフレンドリーマーケッツ社とプライスチョッパー/マーケット32の親会社）の青果・花き担当副社長であるジェフ・ケイディ氏も有機ベリー類の人気を認め、「毎年売り上げを伸ばしている」と述べた。

サーケイナ社によると、有機バナナも販売額で7%、数量で5%増加し、素晴らしい年となった。

パーカー氏は、「バナナは子供向けの手軽なおやつであり、有機バナナの購入者は慣行栽培品に簡単に戻らないことが従来からわかっている。有機バナナはどこにでもあることが助けになっていると思う」と述べた。

もう1つの子供向け果実であるマンダリンも昨年好調で、販売額で52%、数量で65%増加した。これは、家に小さな子供がいることが多い若い有機農産物消費者のプロファイルに関係するとパーカー氏は指摘した。

メロン類は、販売額で約17%、数量で16%増加し、種なし小玉スイカが販売額のトップで、マスクメロンがそれに続いた。

チャップマン氏は、2023年にはマンゴーなどの熱帯果実が消費者の関心を一層引くようになったと指摘した。サーケイナ社のデータによると、有機マンゴーの販売額は、慣行栽培品の1.5%増に対して5.7%増加し、販売量は慣行栽培のマンゴーの3%未満の増加に対して有機は8%以上の増加が見られた。

慣行栽培のブドウは好調であったが、有機栽培のブドウは数量で約12%、販売額で7%減少した。パーカー氏は、慣行栽培品が店舗の売り場の大部分を占めていることも一因だと述べた。

サツマイモの台頭

有機野菜の2023年の伸びは小幅であった。販売額は0.1%増の49億ドル弱で、販売量は1.3%増加した。販売単価は1.4%上昇した（原文のまま）。

慣行栽培の野菜の販売額は約2%増の348億ドルで、数量は0.1%減少し、単価は1.9%増加した（同）。

サーケイナ社によると、サラダ用ミックス野菜が2023年最大の売れ筋で、販売額は5億5千万ドルと前年比6%減であった。次いで、ホウレンソウが5億ドル（5.5%減）、ニンジンが4億500万ドル（2.4%増）であった。

販売額が最も伸びたのは、調理用の葉物野菜（36%）、ルバーブ（28%）、トウモロコシ（29%）、ニンニク（15%）、アスパラガス（約12%）であった。

数量的には、ニンジン、ジャガイモ、タマネギが最も売れた。販売数量の目覚ましい増加は、トウモロコシ（37%）、ミックスハーブ（34%）、ニンニク（21%）で見られた。

パーカー氏は、「食品価格のインフレにより、2023年は基本的な食材と家庭内調理の需要に回帰した。有機栽培でも慣行栽培でも、青果物で優れた販売成績を収めた品目には、タマネギ、ジャガイモ、ニンジン、ニンニク、生鮮ハーブなど、家庭で調理する必要があるものが含まれている」と述べている。

パーカー氏はまた、「サツマイモは、さまざまな料理に使える人気のある食材として、フードサービス業界で

大きく成長した」と述べた。特に「食体験（フーディー）文化」に触発された若くて裕福な消費者の間で人気がある。この品目は、販売額で8%、販売量で12%増加した。

同氏は、サツマイモの台頭を、倫理的、社会的、環境的配慮に基づいて購入を決定する意識の高い消費者が野菜に群がった10年前のケールブームになぞらえた。（有機野菜について以下省略）

インフレと価格への影響

2023年の米国の対前年インフレ率は低下したが、それでも価格は依然として農産物の購入行動を決める要因であった。ザ・パッカー誌の2024年有機青果物動向調査では、回答者の33%が、コストの上昇により2022年よりも有機農産物の購入量が減ったと報告した。

イリノイ州ダウナーズグローブに拠点を置くフレッシュタイムマーケット社の青果・花き担当シニアマネージャーであるジェームズ・ブラスウェル氏は、「経済の変化とインフレにより、一部の消費者が慣行栽培の果実や野菜を選択肢として模索し始めたことがわかった」と述べている。それでも、有機栽培のサラダ用ミックス野菜、ベリー類、リンゴ、ブドウに対する消費者の需要は依然として高いと同氏は付け加えた。

マサチューセッツ州クインシーに本社を置くストップ＆ショップ社の品目管理担当副社長であるジャック・キーン氏は、2023年の有機農産物の販売は横ばいまたは微増であったとして、「インフレは有機農産物の購入に影響を与えた。それは2023年にこの品目がさらなる成長をしなかった理由の1つである」と述べた。

同氏は、果実が引き続き有機農産物購入の主要品目であり、特にベリー類、ブドウ、リンゴ、バナナがそうであると言う。パッケージ入りのサラダは、有機野菜と便利グッズの2部門で最も人気があった。

キーン氏は、昨年、一部の取引先が制御された環境で栽培された農産物に関心を示したと述べた。これは必ずしも有機栽培ではないが、水、肥料、農薬の使用量を減らし、地場市場の近くで栽培するなど、環境上の利点を提供する。

前出の有機産品販売協会のチャップマン氏は、インフレの影響は2023年初頭に最も大きかったが、その後インフレ率が2～3%という比較的正常な範囲に下がったため、その影響は減少したとしつつ、「有機農産物の前年比の伸びがこれと同じ傾向をたどり、2023年の最初の3カ月間は店内全品目平均より低く、最後の3カ月間は高かったことに注目した」と述べた。

パーカー氏は、「有機農産物を助けたのは、店舗内の他の売り場、品目、消費財と比較して価格の上昇がそれほど大きくなかったことである。また、有機農産物の中核的な消費者は、市場の中の価格に敏感になりにくい部分にいる。この過剰に特化した有機農産物の消費者は、自分達のウェルネスと倫理的な目標に基づいて購入している」と述べた。

意識の高い消費者

パーカー氏によると、有機農産物の購入に意識の高い消費者は、ミレニアル世代やジェネレーションX世代、あるいはその傾向は弱いものの裕福なベビーブーマーである可能性が高い。

同氏は、意識の高い消費者は、家に18歳未満の子がいることが多いと指摘した。これらの世帯ではパンデミック中に家庭内で調理を始め、2023年においてもレストランの価格上昇のためそれを続けている。

パーカー氏は、「興味深いことに、2023年には比較的低所得の消費者の間で有機農産物の購入が見られ始めた」と述べ、一部の消費者がレジで「補助的栄養支援プログラム（SNAP）」や「女性、乳幼児、子供のための特別補助的栄養プログラム」の給付を利用したとして、「年収7万ドル以上の裕福な世帯は有機運動に参加する可能性が高いことは間違いないが、政府の支援を受けている低所得消費者にも一部その傾向が見られる」と付け加えた。

前出のノースイーストシェアードサービス社のケイディ氏は、若い世代の間での有機農産物への関心を認め、「SNAP給付金が撤廃されるという多くの人にとっての困難があったにもかかわらず、需要は全体的に増加した。彼らは、自分達が望む食品には進んで多くのお金を使う」と述べた。

パーカー氏によると、健康とウェルネスは2023年も引き続き有機農産物の売上の原動力であり、特に医師の指示や特別な食事のために生鮮果実・野菜をより多く食べたいと考えている年配者にとってはそうである。

同氏は、この概念はミレニアル世代とZ世代にとってはより複雑であるとして、「彼らは、一方ではもっと果物や野菜を食べるべきだと知っているが、他方で贅沢も楽しみたい。私はいつも『この果物や野菜を買ったときに自分で自分がそうだと思っていたような自分だったらよかったのに』という面白いミームを引用する。こうした20代、30代は、実際に食べているよりももっと多くの果物や野菜を食べたいと思っている」と述べた。

パーカー氏によると、健康とウェルネス運動について覚えておくべき重要なことは、特に裕福で若い意識の高い消費者に関して、その分野では軽食、副菜、メインディッシュをめぐって多くの販売競争が行われているということである。

同氏は、「ウェルネス運動があるからといって、我々は現状に甘んじることはできず、積極的に取り組む必要がある」と言う。

有機農産物の販売促進

有機農産物動向調査では、少なくとも時々は有機栽培の果実や野菜を購入していると回答した参加者に、有機農産物を店舗でどのように陳列すべきかについての考えを示してもらった。53%が慣行栽培品とは区別した売り場で有機農産物が売られることを好むと答え、34%が有機農産物が慣行栽培品と混ざり合って、ただし有機かどうかを明示して売られることを好むと答えた。

有機農産物の購入を決定する際の店内の要因について尋ねたところ、41%が外観を挙げ、21%がその産品がどこでどのように栽培されたかを説明する表示を挙げ、25%が有機農産物の利点を書き並べた表示を挙げた。

ケイディ氏は、「プライスチョッパー(前出)では、売り場の区分はまだあるが、ベリー類などの一部の主要品目で『二重配置』を始めた。有機栽培品を単に慣行栽培品と区別した場所に置くだけでなく、慣行栽培品と並べて陳列することで、視認性を高めている」と言う。

また、トップス(前出)の一部の店舗では、有機農産物と慣行栽培の農産物を一緒に陳列していると同氏は付け加えた。同氏は、消費者が商品を比較し、20セントか30セント余分に支払って有機栽培品を試す価値があるかどうかを判断できるため、平均的な顧客に好まれるものだと考えている。

同氏は、「『店内の店』について私がいつも言っているのは、どうせなら売り場の上に『ここがより高価な農産物の売り場です』と書いた看板を掛けて、どれだけの人が来るか見てみるということだ」と話す。

2023年もその後も、店舗の毎週の広告で、ケイディ氏は慣行栽培の農産物と有機農産物を並べて宣伝している。同氏は、「例えば、ヴィダリア(ジョージア州)産のタマネギを1.49ドルで一面に載せたら、そのすぐ隣に目立つように1.79ドルの有機タマネギを一緒に載せる。そうすれば、人々は比較することができる」と言う。

フレッシュタイム(前出)では、印刷された広告やデジタルメディアでも有機農産物を目立たせている。

同社のブラスウェル氏は、「これらのテーマに沿った商品提供の陳列は、青果物売り場全体の中の目立つ場所で行い、他の商品と組み合わせて露出を最大化する」と述べている。

2023年は有機農産物が好調に推移した一方で、パーカー氏は、小売業者はデジタルマーケティングやソーシャルメディアマーケティングをもっと行うべきだと述べた。同氏は、「2つ目の要素は、誰に売り込むかである。ソーシャルメディアやデジタルプラットフォームを通じて販売実績に基づく顧客管理を行うことがいかに簡単で費用対効果が高いかに、いつも驚かされる」と言う。

つまり、健康全般に関心のある人々をターゲットにするのではなく、特定の品目の有機農産物を以前に購入したユーザーに広告を配信するためにもう少し費用をかけるということである。同氏は、「我々は、これが4倍から10倍もインパクトがあることを何度も証明してきた。なぜ、購入する可能性が最も高いとわかっている人々を的確に対象にしないのか」と述べた。

執筆者: ティナ・カプート

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

147. 南アフリカ　オレンジ輸出量がさらに減少

EUROFRUIT　2024年7月24日

悪天候と果汁原料価格の高騰により輸出量は2017年以来の低水準

南アフリカの柑橘類生産者協会（CGA）は、2024年出荷シーズンのネーブルオレンジとバレンシアオレンジの輸出量が悪天候によりさらに減少すると報告している。

ネーブルの出荷量は現在、2,100万箱（15kg/箱）と予測されており、これは当初の見通しの2,570万箱を19%下回っており、修正予測の2,200万箱よりも少ない。現在、ネーブルの出荷シーズンが終わりに近づいており、晩生のネーブルが梱包・出荷されている。

バレンシアオレンジの最新の予想出荷量は5,160万箱（15kg/箱）で、シーズン開幕当初の見通しである5,800万箱及び5月時点の見通しである5,600万箱を下回っている。

一方、最近の嵐でインフラが壊滅的な打撃を受け、収穫と梱包が中断されていた西ケープ州のオリファンツ川流域では、輸出を再開しつつある。

同協会オレンジ部会のスティアン・エンゲルブレヒト部会長は、「過去2週間の悪天候で予想出荷量がさらに減少した」として、「センウェス地域*の凍えるような寒さにより、その地域の予想出荷量がネーブルで60万箱、バレンシアで100万箱減少した。西ケープ州（シトラスダール地域）は最近の洪水と暴風雨の影響を受けており、東ケープ州は強風の影響を受けている」と述べた。嵐や強風で落果し、霜害も出荷に影響を与えた。
（＊農業企業センウェス社の事業展開地域。この記事ではリンポポ州のマーブルホール、グロブラースダール両地区を指す。）

リンポポ州の柑橘類生産者でもあるCGAのジャンルイス・プレトリウス副会長は、「今シーズンはオレンジが供給過剰にならないことは明白である。市場の需給バランスは取れている」と述べた。

バレンシアオレンジについては、主要産地であるリンポポ州とムプマランガ州の出荷が進んでいるが、一方、東ケープ州と西ケープ州の生産者が本格的に出荷を開始するのは数週間後になる。

プレトリウス氏は、「これらの修正された数字は、今シーズンの特徴を物語っている。まず、雨が少なく暖かい天候条件により、果実のサイズがやや小さくなった。第2に、国内の搾汁用オレンジの価格が非常に良く、これが生産者を引きつけ、加工用の出荷量が多くなった。第3に、過去2週間半の悪天候が問題を引き起こした。オレンジの輸出量について業界が同様の低い数字を目にするのは、西ケープ干ばつとして記憶されている2017年の出荷シーズン以来である」と説明した。

CGAは、シトラスダールの洪水によるインフラの被害額はまだ計算されていないとしつつ、渓谷の交通が遮断されていたが、ある柑橘類農場の私設の橋を通じて過去数日間に輸出用のオレンジが町から運び出され始めたと発表した。2週間前に激しい雨が降った後、州は災害を宣言している。

CGAはまた、ケープタウン港が効率的な運用に戻ったと付け加えた。自身もシトラスダール地区の生産者である同協会のゲリット・ファンデルメルヴェ会長は、地元コミュニティの一致団結と回復力を称賛し、「出荷の停止は最小限で、今は柑橘類が出荷されている。人々は懸命に働いており、約8～9日で遅れを取り返すことができる」と述べた。

執筆者：フレッド・メインチェス

148. 米国　夏果実の生産見通し（モモ、甘果オウトウ、アンズ、ブドウ）

米国農務省経済調査局　2024年7月25日

これは、米国農務省経済調査局の「果実及びナッツ類の見通し　2024年7月」の非柑橘類果実の項（一部省略）を訳したものです。文中の「トン」はショートトン（米トン）であり、1ショートトン＝約907.2kg、1ポンド＝約0.4536kg、1エーカー＝0.4046ヘクタールです。

非柑橘類果実の見通し

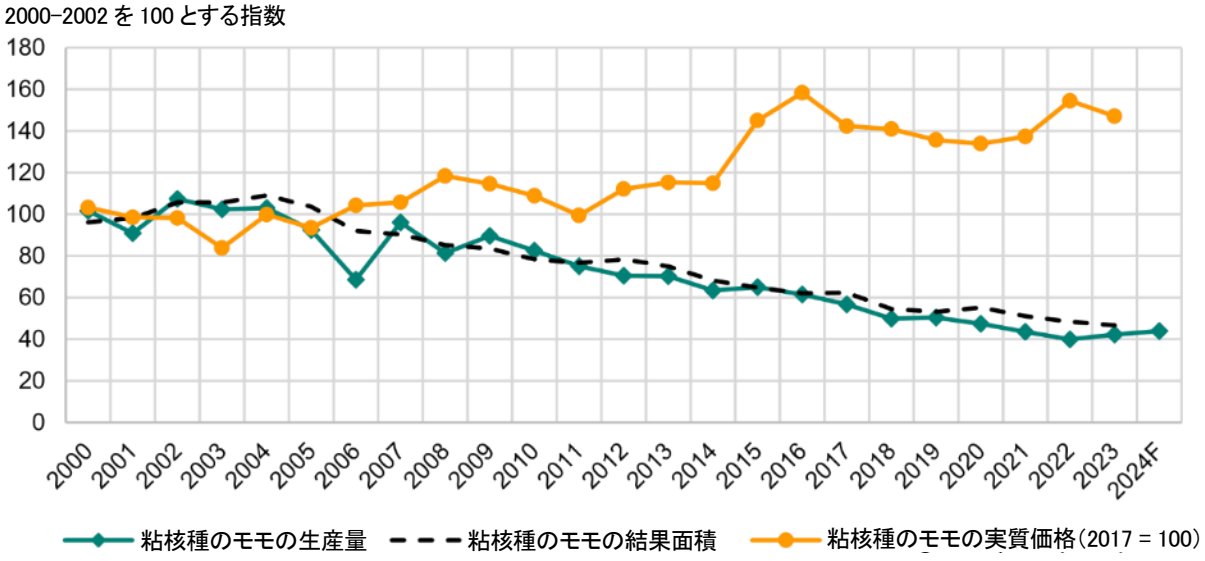
＜モモ＞　カリフォルニア州の2024年の生産予測は上向き

米国農務省農業統計局（NASS）の5月の作物生産見通しでは、2024年のカリフォルニア州のモモの予想生産量は51万トンで、2023年より6%多い。カリフォルニア州はモモの生産量が最も多い州で、モモの品種は離核種または粘核種に分類される。現時点での2024年の予測は、2023年と比較して粘核種（4%）、離核種（8%）ともに上向きである。平均して、離核種のモモの約70%が生鮮市場に出荷されるが、粘核種のモモはほぼ全量が加工用（主に缶詰と冷凍）に栽培されている。

2024年には、暖冬のため低温積算時間が過去50年間で2番目に少なかったにもかかわらず、カリフォルニア州のモモは増収が予想されている。生産者らは、着果量の多さと春の天候条件が全般的に良好なことを報告している。ただし、セントラルバレー地域では夏の高い気温が続いているため、果実の品質やサイズに悪影響を及ぼし、落果が増える可能性がある。NASSは、8月の作物生産レポートで、カリフォルニア州とその他7州について次のモモ生産予測を発表する。

カリフォルニア州の粘核種：農業統計局（NASS）の5月の作物生産見通しでは、カリフォルニア州の粘核種のモモの予想生産量は23万トンである。これは2023年に比べれば4%（9千トン）多いが、2000～02年の平均生産量を56%下回っている（図1）。結果面積と生産量は過去20年間で減少した。同じ期間に、実質生産者価格（インフレ調整後）は約50%上昇したが、過去9年間（2015～23年）は概ね横ばいであった。2024年出荷シーズンの粘各種のモモの平均生産者価格は、この傾向が続くと予想される。業界の協同交渉団体であるカリフォルニア州缶詰用モモ協会は2024年3月に、加工業者と締結した2024年の基本価格契約は前年と同じ1トン当たり635ドルであると発表した。同協会によると、缶詰とプラスチック包装入りのモモ（フルーツカクテル等のミックスフルーツ製品を含む）は、主にカリフォルニア州の2つの加工会社によって製造されている。

図1　カリフォルニア州の粘核種のモモの生産量、栽培面積及び生産者価格（2000年以降）

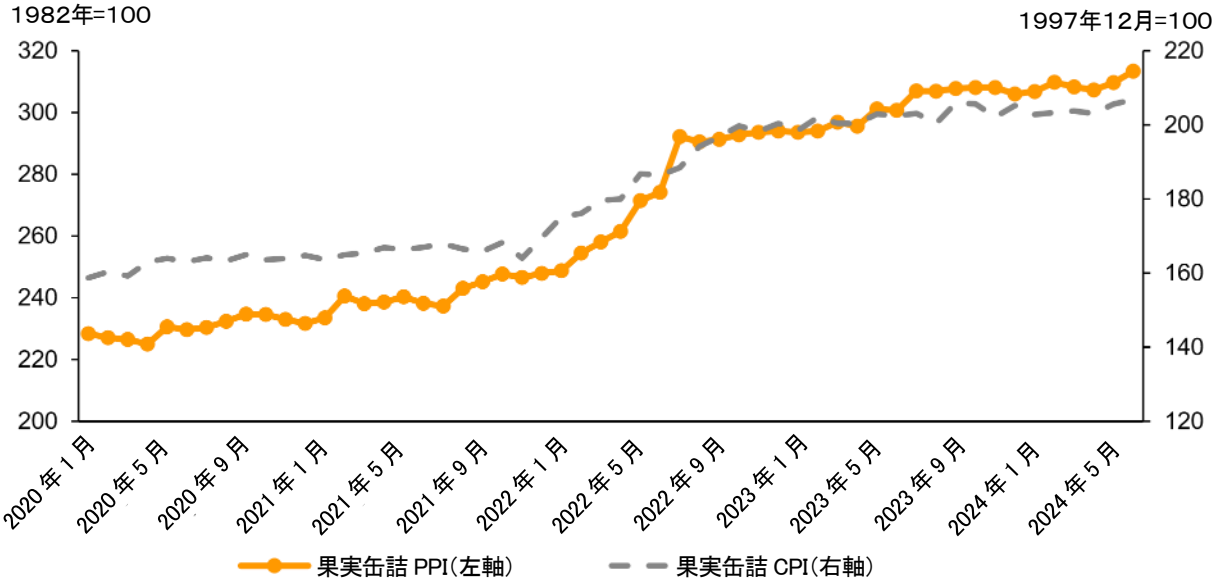


出典：農務省農業統計局のデータ及び労働省労働統計局の国民総生産データ（2017年を100とする季節調整されていない年次別の暗黙の物価デフレーター）を用いて農務省経済調査局が作成

カリフォルニア州食品製造業者連盟が発行したレポートによると、カリフォルニア州の粘核種のモモの2024年の年初から7月第1週までの出荷量は4,958トンで、前年同期のほぼ2倍であった。これは、カリフォルニア州缶詰モモ協会の2024年の推計（地域別推計値の積み上げ）による今シーズンの全加工業者への供給予定数量全体（24万2,074トン）の2%に相当する。カリフォルニア州の粘核種のモモの出荷は、通常8月上旬までに中間点に達し、9月上旬まで続く。

果実缶詰の価格: 農務省経済調査局（ERS）は、米国のモモ加工品の年間生産量の約75%は缶詰であると推定している。果実缶詰の生産者物価指数（PPI）と消費者物価指数（CPI）は、2022年に急上昇した後、過去12カ月間は横ばいで推移している（図2）。より広範な食品価格全般と同様に、経済全体のインフレ圧力、サプライチェーンの問題、及び食品の卸売価格が前年に比べて緩和したことにより、2023年は果実缶詰の月次PPI及びCPIの上昇が鈍化した。2024年6月の果実缶詰（離乳食を除く）のPPIは、2年前の同月を14%上回ったが、前年同月比では4%増であった。同様に、果実缶詰の消費者価格は2年前の同月を11%上回ったが、前年同月比では平均して2%増であった。

図2　果実缶詰の生産者物価指数（PPI）と消費者物価指数（CPI）　2020-24



注: 果実缶詰PPI（シリーズ ID WPU024101）は離乳食を含まない。
出典: 米国労働統計局のデータを使用して農務省経済調査局が作成

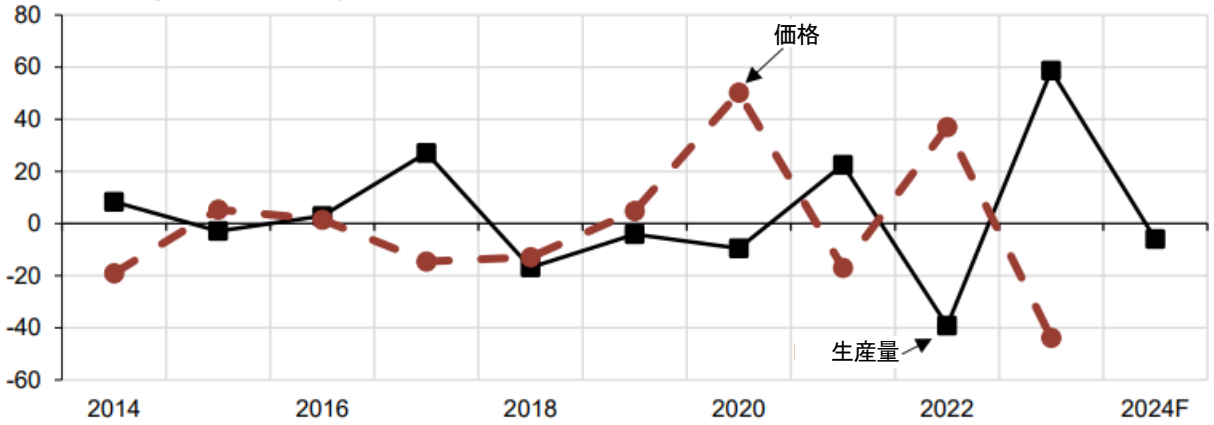
生鮮市場向けモモの国内出荷量が昨年を上回る: 農務省農業流通局（AMS）のマーケットニュースのデータによると、5月から7月中旬までの生鮮モモの出荷量は昨年より42%多い。南東部の出荷量が前年比で増加し、出荷価格（FOB）が下落していることは、2024年の同地域のモモの出荷量が、寒波の影響を受けた昨年よりも多いことを示している。農務省農業統計局は2024年6月末に、サウスカロライナ州のモモの収穫量の88%以上、ジョージア州の収穫量の99%が、良好ないしは優れた状態であると報告した。2024年7月21日までに、サウスカロライナ州とジョージア州のモモの収穫はほぼ（それぞれ80%及び84%）完了しており、これは昨年の収穫より早く、5年平均と同程度である。

＜甘果オウトウ＞　西海岸の予想生産量が微減

農務省農業統計局（NASS）の6月の作物生産見通しでは、2024年の甘果オウトウの生産州上位3州（オレゴン州、ワシントン州、カリフォルニア州）の予想生産量は、前年比6%減となる33万3千トン（6億6,600万ポンド）であった（図3）。オレゴン州での生産量の増加（11%増）は、ワシントン州（11%減）とカリフォルニア州（2%減）での減少を補うには不十分であった。最大の産地で2024年の全米の予想生産量の52%を占めるワシントン州では、前年比2万3千トンの減少が予測される。農業統計局の2024年甘果オウトウ生産予測にはミシガン州も含まれており、調査対象4州の合計生産量の6%（2万2千トン）を占めている。

図3　米国の甘果オウトウ：上位3州[1]の合計生産量と生産者価格（生鮮、シーズン平均）　2014-24F

前年度からの変化率（%）



F =　予測値

[1]　合計生産量に含まれる州は、カリフォルニア州、オレゴン州、ワシントン州である。

出典：農業統計局「非柑橘類果実及びナッツ類要覧（各年）」及び「作物生産見通し（2024年1月）」により経済調査局が作成。

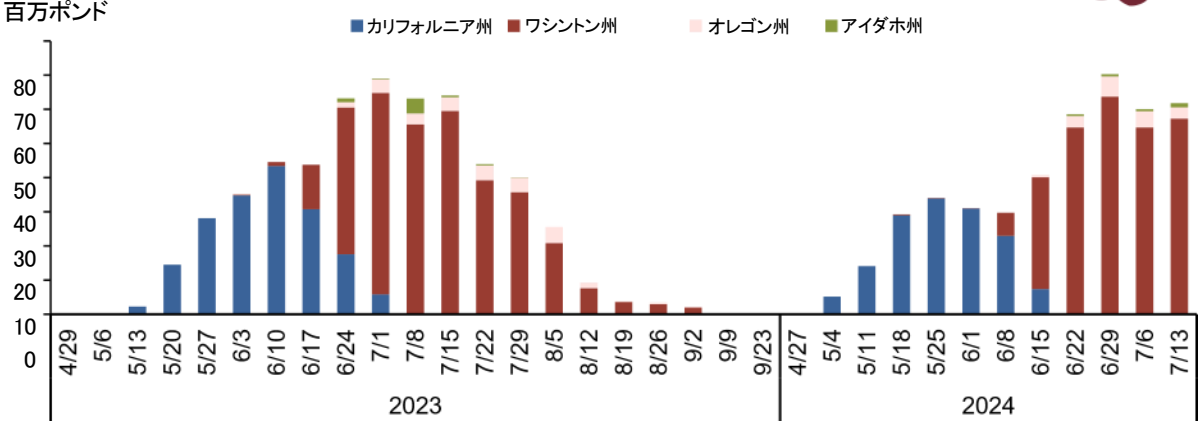
天候がワシントン州の甘果オウトウに影響：ワシントン州では2024年1月に厳しい寒波を経験し、一部のサクランボ園で果樹が損傷したと報告されている。この寒波でより深刻な影響を受けた北部の郡では出荷シーズン終盤の出荷量が減少する可能性がある。

ワシントン州の2023年の甘果オウトウの出荷シーズンは、農務省の災害指定を受けた。2023年には、ワシントン州の甘果オウトウ生産者らは、収穫期間を短縮し、その結果として収穫できないサクランボが増える程の異常気象を経験した。ワシントン州の甘果オウトウの出荷シーズンの短縮と、カリフォルニア州産の終盤の収穫との重複により、非常に傷みやすいこの果実の生産者価格に下押し圧力がかかった。その結果、2023年のワシントン州産甘果オウトウの1トン当たりの平均生産者価格は、2022年に比べて50%低くなり、前年比で2009年以来最大の下落となった。

2024年夏季の出荷状況：商業的な甘果オウトウ生産の大部分は西海岸に集中している。この地域の生鮮甘果オウトウの出荷は季節的で、通常、4月下旬のカリフォルニア州の出荷から始まり、北に移動し、9月にワシントン州で終わる。2024年には春の天候が良好であったため、カリフォルニア州中部からの生鮮甘果オウトウの出荷は昨年より2週間早く始まった（図4）。農務省農業流通局の出荷データによると、ワシントン州からの少量の早生品種の出荷が6月の第1週に始まった。4月下旬から7月中旬までの国内総出荷量は昨年より2%早く進んでおり、週平均の出荷価格（FOB）は昨シーズンよりは高いものの、2022年より低い傾向にある。

図4　ワシントン州は主に7月の甘果オウトウ産地

百万ポンド



注：国内出荷量のみ。

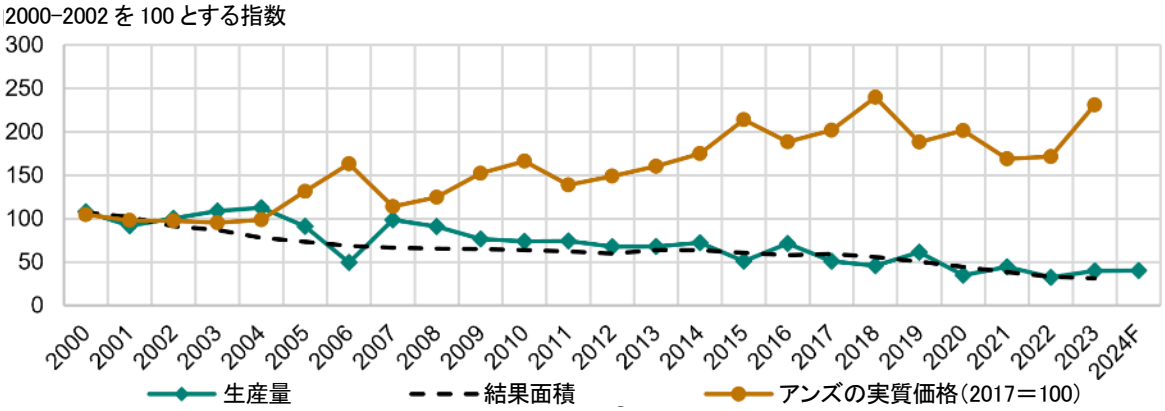
出典：農務省農業流通局（AMS）マーケットニュースのデータにより経済調査局が作成

生鮮甘果オウトウの前年の輸出入の総括: 2023年シーズンの増産に後押しされ、米国の生鮮甘果オウトウの輸出量は合計1億7,750万ポンドとなり、2019年以来の最大となった。輸出量の大部分（数量ベースで85%）は6月と7月に出荷された。有機栽培の甘果オウトウの輸出量は過去最高の1,150万ポンドに達し、これは生鮮甘果オウトウの総輸出額の6%を占めた。

生鮮甘果オウトウの輸入は、通常、国内供給量の10%未満である。国内の夏の最盛期以外に米国に供給される生鮮甘果オウトウは主にチリ産とアルゼンチン産である。2023年10月から2024年3月の間に、米国はチリから3,110万ポンド、アルゼンチンから510万ポンドの生鮮甘果オウトウを輸入し、その期間の総輸入量の85%を占めた。2023年のカナダからの輸入量は合計1,020万ポンドで、総量の79%が8月に輸入された。
（以下、酸果オウトウについて省略）

＜アンズ＞　2024年の予想生産量は微増

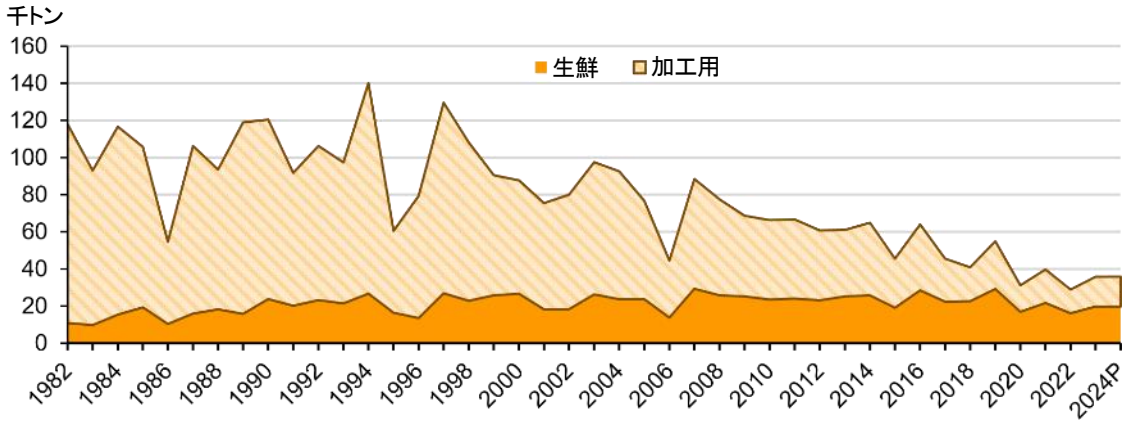
図7　米国のアンズの栽培面積及び生産者価格（2000年以降）



出典: 農務省農業統計局のデータ及び労働省労働統計局の国民総生産データ（2017年を100とする季節調整されていない年次別の暗黙の物価デフレーター）を用いて農務省経済調査局が作成

農務省農業統計局（NASS）の7月の作物生産見通しでは、2024年の米国のアンズ生産量を3万6千トンと予測しており、これは昨年より1%多いが、2000～02年の平均生産量の半分に満たない（図7）。カリフォルニア州のアンズ生産量は、米国の総収穫量の94%を占める3万4千トンと予測される。2024年のワシントン州のアンズ生産量は、昨年に比べて43%減の2千トンと予測され、この4年間で最低である。

図8　加工利用の割合が減少するにつれて米国のアンズ生産は減少傾向　1982-2024P



P = 暫定値
出典: 米国農務省農業統計局のデータを使用して経済調査局が作成

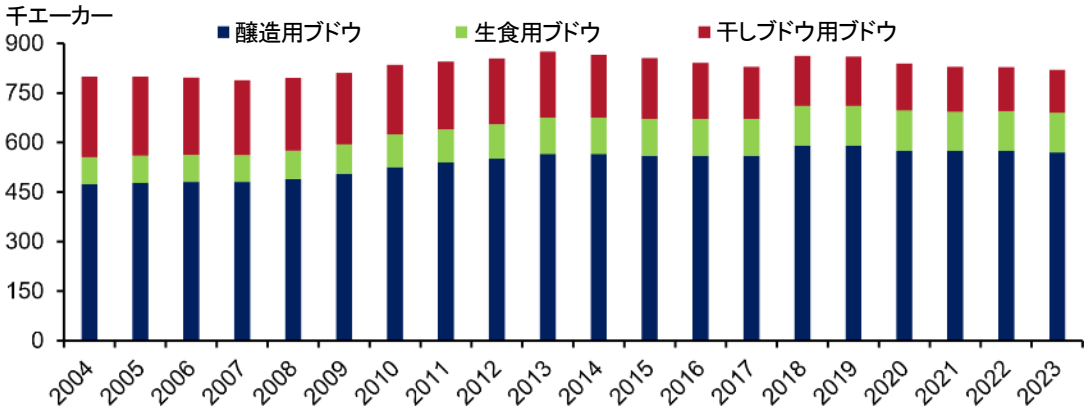
米国のアンズの結果面積と生産量は、国内のアンズ加工品の需要が減少したため、過去20年間で減少した。同じ期間に、価格の高い生鮮市場向けアンズの総出荷量に占める割合が大きくなったため、シーズン平均の生産者価格は上昇した（図8）。1980年代には、米国産アンズの約90%が缶詰、ドライフルーツ、または

冷凍果実に加工されていた。過去3シーズン(2021～23年)では、アンズの年間平均収穫量の45%のみが加工利用された。これは、他の生鮮果実が年間を通じて入手しやすくなったこと、輸入されたアンズ加工品との競争の激化、代替作物の収益の増加、及びアンズ缶詰の消費量の減少傾向を反映している。一人当たりのアンズ缶詰の出荷量は、1980/81年度の1人当たり約1ポンド(製品重量換算)から、2023/24年度には0.1ポンド未満に減少した。

<ブドウ> 2023年のカリフォルニア州の結果面積は減少

カリフォルニア州は主要なブドウ生産州であり、農業統計局の調査によれば米国の生産量の約94%を占めている。2023年のブドウの全栽培面積は1%減少し、醸造用ブドウ(1%減)と干しブドウ用のブドウ(2%減)は前年比で減少した。同州のブドウ栽培面積は、2023年までの直近5年では連続で減少したが、2004～06年の平均と比べると、醸造用と生食用の増加が干しブドウ用の減少を上回ったため、3%増加した(図9)。干しブドウ用がカリフォルニア州のブドウの栽培面積に占める割合は、2004～06年の30%から2023年には16%に減少した。2004～06年の平均と比較すると、2023年の醸造用ブドウの栽培面積は20%多く(約9万3千エーカー増)、生食用ブドウの栽培面積は45%多い(約3万7千エーカー増)。

図9 カリフォルニア州のブドウの結果面積 用途別 2004-2023



出典: 米国農務省農業統計局のデータを使用して経済調査局が作成

品種別の醸造用ブドウ栽培面積: 近年、醸造用ブドウの栽培面積は、カリフォルニア州のブドウ栽培面積の約70%を占めている。カリフォルニア州ブドウ栽培面積レポート2023年要約版によると、カリフォルニア州の2023年の醸造用ブドウの総栽培面積は61万エーカーと推定され、2022年に比べて5千エーカー減少した。栽培面積の大部分(93%に当たる57万エーカー)は結果する樹齢、すなわち通常は商業的にかなりの量のブドウの生産が期待できる樹齢(約3年以上)であった。

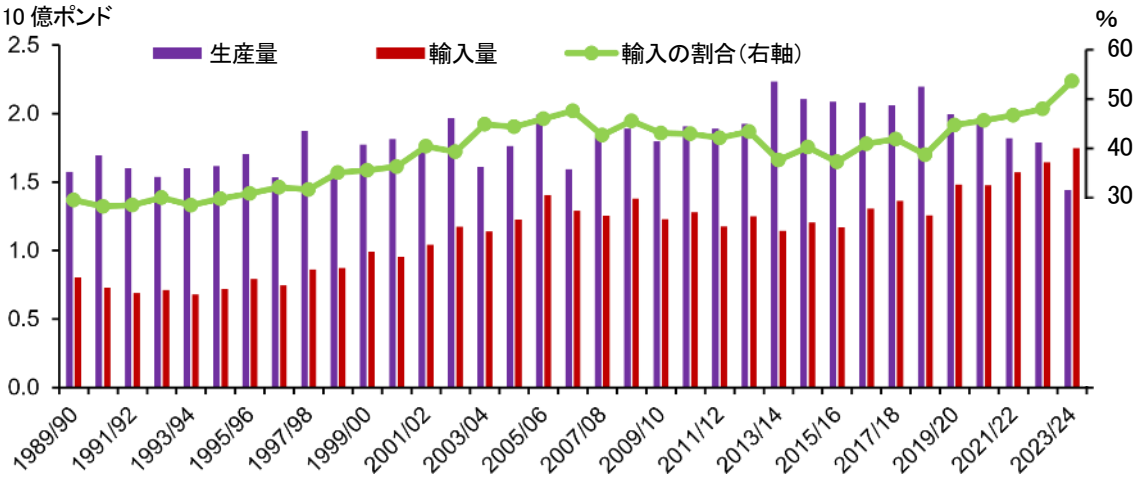
カリフォルニア州のシャルドネ品種の2023年の結果面積は8万5,879エーカーで、引き続き醸造用白ブドウの中で最多であり、これはその次に普及している3つの品種(ソーヴィニヨンブラン、フレンチコロンバール、ピノグリ)の合計を上回っている。醸造用赤ブドウでは、カベルネソーヴィニヨンが9万2,364エーカーで、引き続きカリフォルニア州のブドウ品種の中で最多であり、ピノノワール(4万6,134エーカー)及びジンファンデル(3万7,601エーカー)がそれに続いた。醸造用ブドウの未結果面積のうち、上位2品種(シャルドネ 19%、カベルネソーヴィニヨン 29%)がほぼ半分を占めている。

2023年の生食用ブドウ栽培面積は減少: 近年、カリフォルニア州の生食用ブドウの栽培面積はブドウ栽培面積のほぼ15%を占めている。生食用ブドウの2023年の栽培面積は12万5千エーカーと推定され、2022年から2千エーカー減少した。結果面積は12万エーカーで、総栽培面積の96%であった。カリフォルニア州で最も多い生食用品種はフレームシードレスで、1万2,139エーカーを占めた。この品種は、1970年代にカリフォルニア州フレズノ郡で開発された早生の種無し赤ブドウ品種である。それ以来、広く植えられ、よく知られたブドウ品種となった。フレームシードレスの栽培面積は、州の南半分の早生種に適した4つの郡(カーン、リバーサイド、テュレア及びフレズノの各郡)に集中している。2020～23年に州南部から出荷されたブドウの

平均4分の1はフレームシードレスであった。その他の人気のある生食用ブドウ品種は、中生の種無し赤ブドウ品種であるスカーレットロイヤル（6,417エーカー）と、秋に出回る晩生の種無し白ブドウ品種であるオータムキング（6,413エーカー）等である。

2023/24年度の生鮮ブドウの輸入量は史上最高を記録し、初めて国内生産量を上回った: 2023/24年度の生鮮ブドウの輸入量は17億5千万ポンドで、2022/23年度に記録した16億4千万ポンドを上回った。輸入量は、生鮮ブドウの総入荷量に占める割合がますます大きくなってきており、2020/21年度から2022/23年度にかけて、生食用ブドウの供給量の平均~~56~~46*%を占めた。輸入ブドウの割合は5年連続で上昇傾向にあり、2023/24年度には輸入量が初めて国内生産量を上回り、これまでで最高の~~63~~55*%に達した（図10）。
（＊訳注：米国農務省のデータ（No110 参照）に基づき、上の文の＊の2カ所及び下図の右軸を修正しました（右軸は概算）。）

図10　生食用ブドウの生産量及び輸入量　1989/90–2023/24



出典: 農務省農業統計局及び商務省センサス局のデータに基づき経済調査局が作成

チリは2023/24年度に米国への生鮮ブドウの輸入でトップの座を取り戻した。チリは1989/90年度以降、毎年米国への生鮮ブドウ供給国としてトップであったが、2022/23年度にはペルーに抜かれた。チリの生鮮ブドウ輸出量は米国向けが最も多く、次いで中国向け、オランダ向けとなっている。2023/24年度のチリの生鮮ブドウ輸出量の62%が米国向けで、3年平均（2020/21～2022/23）の50%を上回った。

米国農務省海外農業局（FAS）の「チリの生鮮落葉果実半期報告書」によると、チリの生食用ブドウ栽培面積は10年以上にわたって減少している。古い品種の価格低迷と他の輸出国との競争により、小規模な生食用ブドウ輸出業者は市場から撤退するか、クルミ、サクランボ、柑橘類などのより収益性の高い品物に軸足を移すよう圧力をかけられている。ペルーでは、生食用ブドウの栽培面積と商業生産が増加し、米国向けに出荷される生鮮用ブドウの割合が増加している（2016～18年の平均32%から2021～23年の44%）。

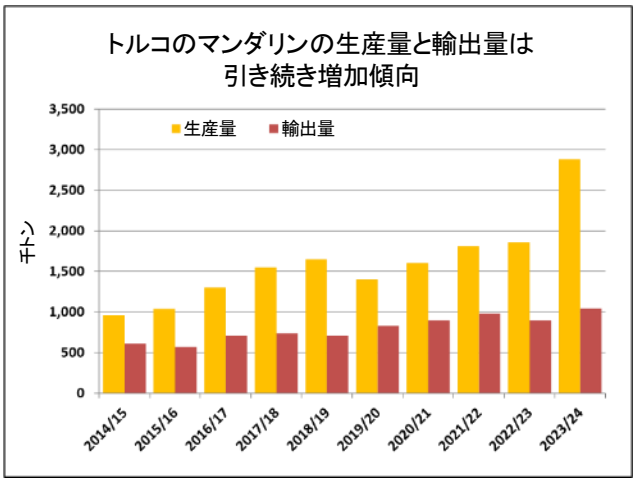
2024/25年度シーズンを見据えて: カリフォルニア州では2024年の生食用ブドウの出荷シーズンが始まった。5月にカリフォルニア州南部のコーチェラバレー地区から始まり、真夏にはカリフォルニア州中部に移行する。農務省農業統計局の今シーズンの生産予測は、2024年8月に発表される。同省農業流通局の流通量データによると、カリフォルニア州南部地域のシーズン初期の出荷量は、7月中旬までに前年比で19%増加した。カリフォルニア州生食用ブドウ委員会の当初の推計では、カリフォルニア州の2024年の生産量は2020～22年の平均からはわずかに減少するが、ハリケーン・ヒラリーの影響を受けた2023年を上回るとされている。2023/24年度のカリフォルニア州の生鮮市場向けブドウの生産量は、主に生食用ブドウの収穫の最盛期にハリケーンが上陸したため、1987/88年度シーズン以来の低水準であった。雨が多すぎると、ブドウは裂果したり、落果したり、カビが発生したりする可能性がある。

149. 世界の柑橘類事情と市場動向（マンダリン、オレンジ、オレンジ果汁　他）

米国農務省海外農業局　2024年7月25日

トルコのマンダリン生産と輸出量は回復へ

トルコの2023/24年度のマンダリン/タンジェリンの生産量は、栽培面積の増加と開花期の好天により、55%増で過去最高の290万トンと推定される。生産量の増加に伴い、輸出量は17%増の100万トンと見込まれる。トルコの輸出は通常10月から5月にかけて行われ、12月に最盛期を迎える。最大の輸出市場はロシアで、輸出量の約50%を占める。



マンダリンはトルコで最も多く生産される柑橘類であり、80%以上が地中海地方から出荷される。その中で、ウンシュウミカンが最も広く生産・消費されており、80%以上が輸出されている。トルコの消費量は過去4年間増加傾向にあり、180万トンと推定される。一方、伝統的に農地であった土地への建設投資や観光投資の増加、及び人件費高騰の可能性により、この地域での生産の将来は不確実である。

＜タンジェリン/マンダリン＞

世界の2023/24年度のタンジェリン/マンダリンの生産量は、中国、トルコ両国での好天による収量の増加とトルコでの収穫面積の拡大により、120万トン増の3,820万トンと推定される。供給量の増加に伴い、消費量は増加すると予想される。輸出量も生産の伸びに伴って増加すると予想される。

米国の生産量は、カリフォルニア州の好天と収量増により、2%増の89万トンと推定される。供給量の増加に伴って消費量は増加すると推定される。消費や加工の需要の増加に対応するために輸入量も増加する。

中国の生産量は、湖南省、湖北省、広西チワン族自治区及び江西省の好天と増収により、40万トン増の2,690万トンと予測される。生産量の増加に伴い、消費量と輸出量は増加する。インドネシア、フィリピン、タイ、ベトナムが引き続き最大の輸出市場であると予想される。

欧州連合（EU）の生産量は、悪天候により品質が低下し、果実が小玉化するため、29万7千トン減の270万トンと推定される。生産量の減少に伴い、消費量は減少すると予想される。輸入量は需要の減少に伴い減少すると予測され、輸出量は横ばいと見込まれる。モロッコと南アフリカが引き続きEUへの主要な供給国であると予想される。

チリの生産量は、長引く干ばつと灌漑用水の不足により、10%減の24万2千トンと推定される。供給量の減少により、消費量と輸出量はどちらも減少する。

モロッコの生産量は、主に灌漑の増加により熱波の影響が軽減されるため、2%増の95万トンと予測される。生産量の増加に伴い消費量が増加する一方、輸出量は減少すると予測される。

南アフリカの生産量は、栽培面積の拡大と、新植された園地の成園化により、8%増加して5年前の2倍以上となる78万トンに達すると推定される。増産に伴い、消費量と輸出量は増加すると見込まれる。

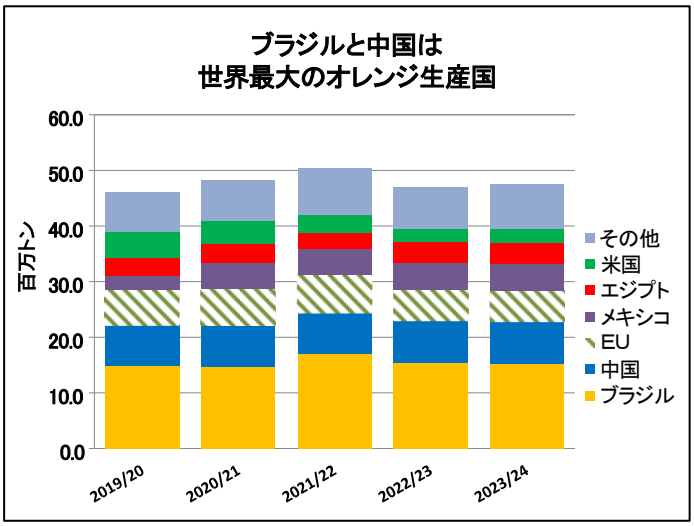
ペルーの生産量は、最近の涼しい天候と潜在的に良好な乾燥した気象条件により、1万トン増の56万トンと推定される。供給量の増加に伴い、消費量と輸出量は増加する。輸出量の半分は米国に出荷され、EUとカナダがこれに次ぐものと見込まれる。

＜オレンジ＞

世界の2023/24年度のオレンジ生産量は、ブラジルとEUでの生産量の減少を、エジプト、米国、トルコでの増加が上回るため、1%増の4,740万トンと推定される。生産量の増加に伴い生食用及び加工用の果実の消費量はどちらも増加し、輸出量は横ばいと見込まれる(末尾の表の数値と一致しないが原文のまま)。

米国の生産量は、好天による収量増のため8%増の250万トンと見込まれる。供給量の増加に伴って加工仕向量が増加し、消費量、輸入量及び輸出量は横ばいである。

ブラジルの生産量は微減の1,530万トンと見込まれる。干ばつの一因となった天候不良を主要因として、カンキツグリーニング病による一定程度の影響もあり、収量の減少が予想される。供給量の減少により、生鮮消費量と加工仕向量は減少するものと推定される。



中国の生産量は、江西省での好天と結果樹の増加により、微増で新記録の760万トンと予測される。輸出量と加工仕向量の増加により、生鮮消費量は減少すると予測される。生産量の増加に伴い、輸入量が減少する一方、輸出量は3倍近くに増加するものと推定される。主な輸出市場はベトナム、マレーシア等である。

EUの生産量は、収量の低下により2%減の550万トンと予想される。着果期の過度の降雨とそれに続く干ばつや気温の上昇等の不安定な天候に加えて灌漑の制約等により、収量と果実のサイズに悪影響を受けた。供給量の減少により、消費量と輸出量はともに減少すると予測され、生産量の減少を一部補うため、輸入量が増加すると予想される。主要輸入先国は、引き続きエジプトと南アフリカであると予想される。

メキシコの生産量は、北東部のタマウリパス州とヌエボレオン州の遅い降雨により増収が予想されるため、微増の490万トンと予測される。需要の高まりにより国内の生鮮消費量は増加し、加工仕向量が減少する一方で、輸出量は横ばいである。

エジプトの生産量は、最適な気象条件により着果量が増加したため、10万トン増で史上最高の370万トンと推定される。供給量の増加と世界的な需要により、輸出量は記録的に増加すると予測され、消費量は減少すると推定される。上位の輸出市場は、EU、ロシア、サウジアラビア等と予想される。

南アフリカの生産量は、好天と収穫面積の微増により、3%増で史上最高の170万トンと推定される。旺盛な加工需要のため、消費量と輸出量は減少すると推定される。引き続きEUが最大の輸出市場と予想される。

トルコの生産量は、収穫面積の拡大と良好な開花をもたらした好天により、寒波に襲われた前年から30%以上の回復となる170万トンと推定される。出荷量の増加に伴い、消費量は急増すると予測され、輸出量も記録的な水準に増加するものと推定される。

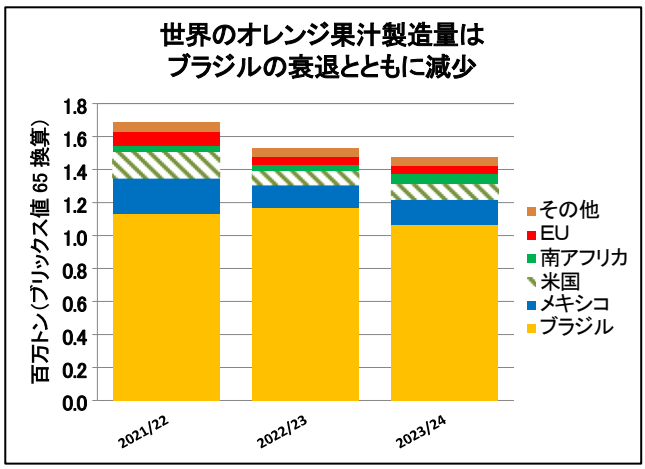
モロッコの生産量は、生育期の好天と点滴灌漑技術の採用の増加により、3万7千トン増の82万トンと予測される。生産量は、干ばつの影響を受けた前年よりは良好であるが、それでも平年より約4分の1少ない。生産量の増加に伴い、消費量と加工仕向量はそれぞれ増加すると予測され、一方、輸出量は横ばいと見込まれる。EUは、引き続き最大の輸出市場であると予想される。

チリの生産量は、収穫面積の減少により2%減の17万7千トンと推定される。人口の増加により消費量が増加する一方、輸出量は収穫量の減少に伴って減少すると予測される。米国は引き続き最大の市場で、輸出量の約90%を占めると予想される。

＜オレンジ果汁＞

世界の2023/24年度のオレンジ果汁製造量は、3%減の150万トン（ブリックス値65換算）と推定される。世界の製造量の70%以上を占めるブラジルで原料果実の加工仕向可能量が減るため、製造量は減少する。供給量の減少に伴い、消費量と輸出量は減少すると推定される。

ブラジルの製造量は、干ばつ、極端な高温、及び一部でのカンキツグリーニング病の発生により、原料果実の加工仕向可能量が減少したため、9%減の110万トンと推定される。製造量の減少により、消費量は減少すると見込まれる。供給量の減少に伴い、輸出量は減少し、在庫は半減する。ブラジルは群を抜いて最大の製造国であり、世界のオレンジ果汁輸出量の約75%を占めると予測される。



メキシコの製造量は、原料果実のサイズの増大と果汁含有量の増加により、11%増の15万5千トンと予測される。需要の増加により、消費量は増加する。輸出量は、輸出可能な供給量の増加と、最大の輸出市場である米国からの継続的な需要により増加する。

米国の製造量は、特にフロリダ州での原料果実の加工仕向量の増加により、9万3千トンと9%の回復が予測される。最大の供給国であるブラジルの製造量減少により輸入の減少が予想されるため、消費量は減少する。

EUの製造量は、生鮮消費用のサイズ基準を満たさないオレンジが入手可能であるため、4%増の5万トンと推定される。輸出量の増加は輸入量の増加を上回ると推定される。

南アフリカの製造量は、旺盛な需要のためにより多くのオレンジが加工用に仕向けられるため、50%以上の増加となる5万8,800トンと推定される。製造量の増加に伴い輸出量は増加し、消費量は横ばいである。

＜グレープフルーツ＞

世界の2023/24年度のグレープフルーツ生産量は、中国とトルコでの好天と増産により、微増の690万トンと推定される。出荷量の増加に伴い輸出量は増加するが、消費量と加工仕向量は横ばいである。

＜レモン/ライム＞

世界の2023/24年度のレモン/ライムの生産量は、EUとトルコでの増加が、アルゼンチンとメキシコでの減少を上回り、2%増の1,010万トンと推定される。出荷量の増加に伴い、世界の消費量と輸出量は増加する。

オレンジ（生鮮）主要国の生産需給統計（千トン）

	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 1月推計	2023/24 7月推計
生産量						
ブラジル	14,870	14,676	16,932	15,482	16,500	15,300
中国	7,400	7,500	7,550	7,600	7,630	7,630
EU	6,268	6,531	6,728	5,580	5,475	5,475
メキシコ	2,530	4,649	4,595	4,854	4,870	4,870
エジプト	3,200	3,570	3,000	3,600	3,700	3,700
米国	4,766	3,980	3,108	2,312	2,536	2,502
トルコ	1,700	1,300	1,750	1,320	1,731	1,731
南アフリカ	1,457	1,558	1,680	1,630	1,620	1,687
ベトナム	1,017	1,161	1,583	1,583	1,583	1,583
モロッコ	806	1,039	1,150	783	820	820
アルゼンチン	700	750	726	623	900	650
オーストラリア	485	505	535	505	530	530
コスタリカ	285	290	300	305	250	250
チリ	135	200	164	180	175	177
グアテマラ	170	167	168	168	168	168
その他	289	297	350	355	331	331
合 計	46,078	48,173	50,319	46,880	48,819	47,404
生鮮国内消費量						
中国	7,240	7,291	7,460	7,544	7,560	7,455
EU	5,963	5,955	5,949	5,660	5,525	5,625
ブラジル	4,967	4,582	4,669	4,500	4,530	4,400
メキシコ	1,596	2,416	2,391	2,440	2,528	2,534
ベトナム	1,062	1,236	1,639	1,618	1,618	1,628
エジプト	1,372	1,519	1,400	1,700	1,400	1,600
トルコ	1,348	1,018	1,283	1,083	1,394	1,340
米国	1,409	1,233	1,170	1,310	1,191	1,301
モロッコ	654	897	965	704	715	730
ロシア	426	446	489	460	483	484
アルゼンチン	428	478	549	478	608	450
イラク	393	364	449	404	438	438
サウジアラビア	369	428	410	417	426	414
UAE	233	187	218	273	226	273
英国	219	238	250	215	220	210
その他	1,754	1,855	1,840	1,658	1,741	1,666
合 計	29,433	30,143	31,131	30,464	30,603	30,548
加工仕向量						
ブラジル	9,915	10,118	12,291	11,009	12,000	10,932
メキシコ	900	2,200	2,150	2,385	2,300	2,304
米国	3,050	2,498	1,839	872	1,200	1,077
EU	848	1,026	1,111	624	610	640
南アフリカ	180	240	355	369	160	588
エジプト	335	350	300	300	300	350
中国	400	350	249	220	230	225
オーストラリア	195	226	215	210	200	200
アルゼンチン	190	186	116	116	220	168
コスタリカ	213	215	212	218	180	168
その他	182	196	231	182	222	219
合 計	16,408	17,605	19,069	16,505	17,622	16,871

	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 1月推計	2023/24 7月推計
輸出量						
エジプト	1,493	1,701	1,300	1,600	2,000	1,750
南アフリカ	1,260	1,296	1,298	1,232	1,370	1,080
米国	507	467	335	344	350	342
EU	417	410	403	343	340	300
トルコ	293	223	390	177	246	275
オーストラリア	181	160	144	160	180	180
中国	52	100	64	49	50	140
チリ	90	105	81	95	90	92
香港	117	87	68	71	65	71
メキシコ	65	69	76	64	70	64
モロッコ	117	92	130	39	55	40
アルゼンチン	83	88	63	32	75	35
サウジアラビア	12	11	12	14	14	16
マレーシア	3	5	6	9	10	6
シンガポール	4	3	5	6	6	5
その他	55	18	16	7	7	6
合 計	4,749	4,835	4,391	4,242	4,928	4,402
輸入量						
EU	960	860	735	1,047	1,000	1,090
ロシア	432	453	494	461	485	485
サウジアラビア	381	439	422	431	440	430
イラク	259	221	291	246	280	280
UAE	234	190	223	275	230	275
米国	200	218	236	214	205	218
英国	256	242	250	215	220	210
中国	292	241	223	213	210	190
バングラデシュ	218	294	254	187	160	185
カナダ	198	186	187	178	185	185
香港	270	208	191	167	190	170
マレーシア	87	104	120	100	110	100
韓国	116	110	78	87	92	97
日本	91	86	72	68	66	74
ウクライナ	89	88	75	60	60	72
スイス	73	74	71	70	70	67
コスタリカ	71	68	52	60	70	50
シンガポール	42	41	42	43	43	49
ベトナム	45	75	56	35	35	45
ノルウェー	30	32	33	33	33	33
ブラジル	21	24	28	27	30	32
メキシコ	31	36	22	35	28	32
グアテマラ	38	49	45	22	35	20
オーストラリア	16	11	10	10	10	10
モザンビーク	4	6	8	8	8	8
その他	58	54	54	39	39	10
合 計	4,512	4,410	4,272	4,331	4,334	4,417

分割年表示は収穫販売年度を表し、北半球では概ね第1年次の11月から第2年次の10月の期間に該当する。
南半球では、収穫はほぼ第2年次を通じて行われ、収穫販売年度は第2年次に始まる次の期間である。
アルゼンチン 1月から12月、南アフリカ 2月から翌年1月、オーストラリア 4月から翌年3月、ブラジル 7月から翌年6月
輸入量の合計と輸出量の合計は、上記の販売年度の相違等により一致しないことがある。

訳注：EUは欧州連合、UAEはアラブ首長国連邦（以下の表で同じ）

オレンジ果汁 主要国の生産需給統計
（ブリックス値 65 換算、千トン）

	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 1 月推計	2023/24 7 月推計
製造量						
ブラジル	938	944	1,135	1,169	1,106	1,066
メキシコ	90	220	215	140	155	155
米国	297	230	159	85	105	93
南アフリカ	18	24	36	37	31	59
EU	66	80	86	48	47	50
中国	31	27	19	17	18	18
オーストラリア	14	17	17	16	15	15
その他	16	17	22	17	22	22
合 計	1,470	1,559	1,688	1,530	1,498	1,477
国内消費量						
米国	556	542	527	493	475	480
EU	589	585	541	463	460	462
中国	89	108	129	133	133	133
英国	193	165	138	114	118	118
カナダ	84	80	77	89	95	95
ブラジル	63	70	73	75	75	70
日本	60	68	65	56	56	56
その他	73	70	75	70	75	73
合 計	1,707	1,688	1,625	1,493	1,487	1,487
期末在庫量						
米国	293	240	156	136	102	117
南アフリカ	11	11	13	7	9	16
EU	15	15	15	15	15	15
日本	40	22	15	16	12	12
韓国	5	6	6	8	7	7
その他	154	18	12	11	7	7
合 計	518	312	217	193	151	174
輸出量						
ブラジル	1,036	1,010	1,068	1,095	1,035	1,000
メキシコ	105	217	210	139	150	150
EU	162	132	112	111	95	116
南アフリカ	30	22	31	41	28	47
米国	34	31	30	23	19	22
その他	40	32	29	27	30	29
合 計	1,407	1,444	1,480	1,436	1,356	1,364
輸入量						
EU	685	637	567	525	508	528
米国	210	290	314	411	350	390
英国	210	172	141	116	120	120
中国	60	83	112	119	119	119
カナダ	84	80	77	89	95	95
日本	76	50	58	57	52	52
韓国	19	19	18	20	18	18
その他	41	36	35	38	34	34
合 計	1,385	1,366	1,321	1,375	1,296	1,356

ブリックス値65の1トン（メートル法）はブリックス値42の344.8ガロン及び天然果汁の1,392.6ガロンに相当する。
分割年表示は収穫販売年度を表し、北半球では概ね第1年次の10月から第2年次の9月の期間に該当する。
南半球では、収穫はほぼ第2年次を通じて行われ、収穫販売年度は第2年次に始まる次の期間である。
南アフリカ 2月～翌年1月、オーストラリア 4月～同3月、ブラジル 7月～同6月
輸入量の合計と輸出量の合計は、上記の販売年度の相違等により一致しないことがある。

タンジェリン/マンダリン（生鮮） 主要国の生産需給統計
（千トン）

	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 1 月推計	2023/24 7 月推計
生産量						
中国	23,000	25,000	27,000	26,500	26,900	26,900
トルコ	1,400	1,600	1,810	1,860	2,642	2,883
EU	2,889	3,245	3,190	2,947	2,675	2,650
モロッコ	926	1,205	1,360	927	950	950
日本	962	976	954	882	930	930
米国	856	1,083	668	875	822	890
南アフリカ	461	591	639	723	740	780
韓国	631	655	613	582	570	570
ペルー	526	540	570	550	545	560
アルゼンチン	330	380	380	275	400	280
その他	730	751	668	829	803	758
合 計	32,711	36,026	37,852	36,950	37,977	38,151
生鮮国内消費量						
中国	21,768	23,577	25,889	25,235	25,600	25,315
EU	2,694	3,041	3,051	2,913	2,720	2,575
トルコ	614	740	879	1,021	1,591	1,846
米国	1,004	1,046	929	1,006	969	1,020
日本	902	930	895	832	876	874
ロシア	816	943	879	828	898	829
モロッコ	515	739	735	474	500	550
その他	2,680	3,077	2,853	2,759	2,852	2,867
合 計	30,993	34,093	36,110	35,068	36,006	35,876
加工仕向量						
中国	620	630	600	580	590	600
米国	198	357	193	275	255	285
EU	272	277	247	220	210	250
日本	80	68	71	66	70	70
南アフリカ	47	44	76	69	64	70
アルゼンチン	76	60	70	50	80	60
韓国	77	78	66	66	55	55
その他	70	61	61	75	58	59
合 計	1,440	1,575	1,384	1,401	1,382	1,449
輸出量						
中国	657	857	566	752	780	1,050
トルコ	827	898	983	894	1,100	1,045
南アフリカ	389	507	521	622	630	670
モロッコ	411	466	625	453	450	400
EU	330	350	322	296	225	295
チリ	182	194	131	236	250	211
ペルー	214	215	224	206	200	210
その他	255	300	236	288	279	259
合 計	3,265	3,787	3,608	3,747	3,914	4,140
輸入量						
ロシア	824	955	884	829	900	830
米国	391	375	484	458	450	475
EU	407	423	430	482	480	470
ベトナム	204	321	218	317	320	360
英国	289	296	287	290	290	298
カナダ	159	162	166	158	160	170
ウクライナ	184	201	173	134	130	155
インドネシア	69	98	112	118	115	115
フィリピン	112	174	114	102	115	115
タイ	73	135	90	62	90	90
その他	275	289	292	316	275	236
合 計	2,987	3,429	3,250	3,266	3,325	3,314

分割年表示は収穫販売年度を表し、北半球では概ね第1年次の10月から第2年次の9月の期間、南半球では概ね第1年次の4月から第2年次の3月の期間に該当する。
南半球では、収穫はほぼ第2年次を通じて行われる。
輸入量の合計と輸出量の合計は、上記の販売年度の相違等により一致しないことがある。

グレープフルーツ（生鮮）主要国の生産需給統計（千トン）

	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 1月推計	2023/24 7月推計
生産量						
中国	4,930	4,950	5,200	5,150	5,200	5,200
メキシコ	491	491	453	489	500	500
南アフリカ	345	351	416	415	400	420
米国	517	397	339	308	316	308
トルコ	249	238	249	198	217	217
イスラエル	143	121	175	155	150	150
EU	95	106	106	98	104	108
その他	27	27	27	27	27	27
合 計	6,797	6,681	6,965	6,840	6,914	6,930
生鮮国内消費量						
中国	4,797	4,867	5,134	5,029	5,065	5,044
メキシコ	376	472	440	485	493	493
EU	374	362	300	276	267	284
米国	250	231	152	191	195	205
トルコ	65	77	103	102	117	95
ロシア	119	75	66	106	88	84
日本	86	79	70	58	55	60
カナダ	37	37	31	28	28	31
ウクライナ	39	37	23	17	16	24
英国	28	27	23	22	22	23
その他	28	25	35	34	34	34
合 計	6,199	6,289	6,377	6,348	6,380	6,377
加工仕向量						
南アフリカ	94	59	179	201	170	202
米国	226	138	177	118	118	114
イスラエル	78	60	97	96	95	95
中国	0	50	60	45	50	46
EU	14	13	13	11	12	14
その他	98	3	3	3	3	3
合 計	510	323	529	474	448	474
輸出量						
南アフリカ	244	290	238	217	230	218
中国	209	158	117	152	160	195
トルコ	184	161	149	96	100	122
イスラエル	59	54	62	44	40	40
米国	56	48	34	22	30	23
EU	27	26	17	20	25	20
メキシコ	21	21	15	9	9	10
その他	29	28	18	10	11	10
合 計	829	786	650	570	605	638
輸入量						
EU	320	295	224	209	200	210
中国	76	125	111	76	75	85
ロシア	121	76	69	107	90	85
日本	61	54	45	33	30	35
米国	15	20	24	23	27	34
カナダ	37	37	31	28	28	31
ウクライナ	39	37	23	17	16	24
英国	31	28	23	22	22	23
香港	31	34	24	17	17	17
スイス	7	7	6	6	6	6
その他	3	4	11	14	8	9
合 計	741	717	591	552	519	559

分割年表示は収穫販売年度を表し、北半球では概ね第1年次の10月から第2年次の9月の期間、南半球では概ね第1年次の4月から第2年次の3月の期間に該当する。
南半球では、収穫はほぼ第2年次を通じて行われる。
輸入量の合計と輸出量の合計は、上記の販売年度の相違等により一致しないことがある。

レモン/ライム（生鮮）主要国の生産需給統計（千トン）

	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 1月推計	2023/24 7月推計
生産量						
メキシコ	2,851	2,870	2,954	3,101	2,950	2,950
アルゼンチン	1,491	1,800	1,930	1,850	1,907	1,700
EU	1,481	1,733	1,635	1,453	1,685	1,673
トルコ	950	1,100	1,500	1,320	1,584	1,584
米国	983	804	960	994	758	978
南アフリカ	620	627	748	760	720	780
チリ	204	200	136	164	175	175
その他	226	228	228	217	221	221
合 計	8,806	9,362	10,091	9,859	10,000	10,061
生鮮国内消費量						
メキシコ	1,549	1,757	1,885	2,011	1,866	1,866
EU	1,514	1,837	1,830	1,650	1,790	1,780
米国	1,407	1,426	1,383	1,451	1,283	1,464
トルコ	520	434	807	680	900	837
ロシア	221	262	240	249	234	253
サウジアラビア	188	183	190	211	202	207
英国	154	146	148	137	139	144
アルゼンチン	160	150	273	130	240	140
カナダ	109	108	112	106	110	115
UAE	101	102	107	106	107	107
その他	378	381	358	359	366	371
合 計	6,301	6,786	7,333	7,090	7,237	7,284
加工仕向量						
アルゼンチン	1,078	1,388	1,401	1,463	1,418	1,340
メキシコ	507	350	398	350	400	400
EU	314	292	293	262	265	353
米国	301	158	337	335	295	340
南アフリカ	138	103	159	158	42	157
トルコ	51	50	50	50	50	50
日本	28	28	30	30	31	31
その他	18	16	12	12	13	13
合 計	2,435	2,385	2,680	2,660	2,514	2,684
輸出量						
トルコ	382	620	648	595	637	700
メキシコ	798	769	680	746	690	690
南アフリカ	458	499	557	565	640	585
アルゼンチン	256	264	258	258	250	221
EU	174	155	142	122	180	140
米国	93	81	87	80	70	78
チリ	97	102	56	68	74	74
その他	43	32	21	26	19	24
合 計	2,301	2,522	2,449	2,460	2,560	2,512
輸入量						
米国	818	861	847	872	890	904
EU	521	551	630	581	550	600
ロシア	225	266	245	254	235	255
サウジアラビア	144	130	134	162	150	162
英国	161	148	149	138	140	145
カナダ	109	108	112	106	110	115
UAE	93	94	98	97	98	98
ウクライナ	59	65	50	45	45	48
日本	48	44	46	45	46	45
香港	31	37	29	24	25	25
その他	22	27	31	27	22	22
合 計	2,231	2,331	2,371	2,351	2,311	2,419

分割年表示は収穫販売年度を表し、北半球では概ね第1年次の10月から第2年次の9月の期間である。
南半球では、収穫は第2年の1月から12月を通じて行われる。
輸入量の合計と輸出量の合計は、上記の販売年度の相違等により一致しないことがある

150. 米国カリフォルニア州　生食用ブドウの近年の課題とその影響

FRUITNET　2024年7月26日

カリフォルニア州の生食用ブドウ業界は、近年大きく変化している。コーチェラ地域(南部)からフレズノ郡(中部)まで、生産者らはほぼ毎シーズン、生産コストの上昇、労働力の不足、輸出の減少、ますます不安定な気候等、自分達の手に負えない、ビジネスを脅かす可能性のある不安定な状況に直面している。変わらないのは、残念ながら米国の生食用ブドウの消費量で、何十年にもわたって基本的に横ばいである。

輸出市場は長い間、カリフォルニア州の毎年の生食用ブドウ生産量の一定割合を吸収し、国内の収益を支える上で有用だと頼りにされてきた。しかし、パンデミックの到来と世界のサプライチェーンへのその長引く影響により、出荷業者らが大幅に長期化した海上輸送を嫌って輸出に消極的になったため、過去数シーズンは海外市場への販路を確保できる果実が少なくなっている。米国農務省のデータによると2019年から2022年の間に米国の生鮮ブドウの輸出は24%減少し、環太平洋地域への出荷は49%減少した。

昨年の輸出量は1989年以来の最低水準であった。これは、珍しく8月下旬にサンホアキンバレーを襲った熱帯暴風雨により、収穫前の推定2,500万箱相当の果実が被害を受けたためである。2024年の夏は7月2日から同月半ばまで毎日38℃を超え、しばしば43℃を超えるという、すでに観測史上最も暑い夏の1つであるため、今シーズンも輸出に影響を与える可能性がある。このような長引く暑さは、ブドウの木の代謝を停止させ、糖の蓄積や赤色品種の着色に影響を与えており、今年のこの地域の収穫を遅らせる可能性がある。

ジャスミンブドウ園のブライアン・クレトル氏は7月の第2週に、「これまでのところ、信じられないほどの暑さで、果実の出荷が抑えられている。メキシコとコーチェラ地域の出荷はどちらも終了し、取引をサンホアキン産に切り替えたいが、そこからの供給はまだない」と述べている。サンホアキンの生産者は、毎年7月の大部分を通じて国内の流通経路に残っているメキシコ産果実と競うのが常であるが、今シーズンはそうではない。メキシコは自国の暑さの問題により出荷シーズンを早期に終了し、出荷量は当初の見通しを下回った。

コーチェラバレーでは、昨シーズンよりは果実の出荷が多いが、栽培面積の縮小により過去数十年で生産量は大幅に減少している。その結果、ここ数週間、北米全体で生食用ブドウの供給がいつになく不足しており、出荷価格(FOB)が異常に高止まっている。クレトル氏は「フレームとスグラオーネシードレスはどちらも現在26～28ドルで売られている。あと1週間ほどで最初のプレミアム品種が登場するが、これらはさらに価格が高くなる。この暑さが収まる8月の一定の時期まで、販促が可能な量のブドウは期待できない」と話す。

一方、出荷業者にとって供給不足はサンホアキン産の取引を開始する上で問題ではなかったと伝えられている。アンソニーブドウ園の営業担当副社長であるジョン・ハーレー氏によると、この地域で最も早く収穫できる園地を所有するこの業者は、6月下旬からかなりの量の果実を出荷しているという。

ハーレー氏は、「我々のビジネスは、ここ数週間繁忙を極めた」と言う。同氏は、同農場のサンホアキンの在庫は、コーチェラ地域から転送された果実 － 小売業者が好むライセンス品種の在庫 － で補完されていると述べ、「アービン地区(サンホアキンバレー南端のベーカーズフィールド近郊)のフレーム品種はサイズと色が良く、コーチェラから移送した果実と合わせて、シーズンの良いスタートを切ることができた。また、今年はメキシコとの重複がほとんどなかったことも助けになっている」と語った。

しかし、ハーレー氏は、気温が穏やかにならない限り、サンホアキンの総出荷量はシーズン中に減少する可能性があると述べている。同氏は、「糖度がまだかなり低いため、晩生の品種の一部ですぐに日焼けが発生すると思うが、(供給過剰回避の観点から)それは悪いことではないかも知れない」と言い、シーズン後半のカリフォルニア州産のブドウは南米、特にペルーからの輸入によってますます影響を受けていることに言及した。

クレトル氏は、「以前は毎シーズン12月まで果実を売っていたが、今は違う」と述べた。カリフォルニア州が年間1億1千万箱以上の果実を毎年出荷していたのは何シーズンも前のことではない。しかし、サンホアキンの出荷シーズンの最初と最後に発生する外国産との競合は、国際需要の低迷と相まって、需供バランス改善のためにサンホアキンの栽培面積をもっと削減する必要があるかも知れないという憶測につながっている。

パンドル・ブラザーズ社のジョン・パンドル氏は、「カリフォルニア州の業界は、過去数シーズンのような9千万箱台の低水準の出荷でもまだ利益を上げることができる。今年は出荷量が回復してハリケーン・ヒラリー以前の水準に近づいており、品質が適切であればうまく行くはずだ」と述べた。

執筆者: ジェフ・ロング　　(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

151. 米国　収穫に留まらないリンゴ用ロボットの開発

Good Fruit Grower　2024年7月29日

ワシントン州とオレゴン州の大学の研究者達は多くの作業が行なえる果樹用ロボットで協力している。

ワシントン州プロッサ近郊で6月に行われたワシントン州立大学の農業工学専攻の学生達によるデモンストレーションで、リンゴ摘果ロボットに装着されたエンドエフェクタ（3Dプリンターで作製）が枝から緑色の幼果を引き抜く様子。同大学の精密自動化農業システムセンター（CPAAS）は、ロボットアームの先端に装着するツールを切り替えることで、リンゴ関連の多くの作業を行うロボットの設計を目指している。（写真：ロス・コートニー/本誌）

毎年、リンゴの摘果とサクランボの収穫が重なり、労務管理の厳しい判断が迫られる。そのため、北西部の工学研究者達は、それに対応するロボットの開発に取り組んでいる。

オレゴン州立大学及びワシントン州立大学の学生と研究者達は、コンピューター画像解析で幼果を識別し、かぎ爪のようなエンドエフェクタで摘果して地面に落とすロボットアームを備えた摘果機を開発中である。

実際のところ、複数のエンジニアリングチームは、剪定、授粉（花叢ごと）、摘花、摘果等、リンゴ栽培のいくつかの作業に対応するロボットの開発に取り組んでいる。すべての作業が、コンピューター画像解析と機械学習によって誘導される6つの関節を備えた同様のアームを使用している。

これらのプロジェクトは、資金源が異なる個別のプロジェクトとして始まったが、近年では多目的果樹園ロボットシステムの開発に統合されていると、ワシントン州プロッサ市にあるワシントン州立大学の精密自動化農業システムセンター（CPAAS）の所長であるマノジ・カーキー氏は説明する。

これらの管理ツールは、エンドエフェクタを交換することで収穫ロボットに組み込むこともできる。カーキー氏は、多目的ロボットとすることにより、最終的に高価な機械のコストが生産者の理解を得やすいものになると述べている。

授粉ロボットには、花を識別して花粉を散布するエンドエフェクタを使用する。摘花ロボットも花を識別するが、逆に小さなブラシで花を落とす。剪定ロボットは果樹の枝を感知し、剪定を行う。

まだ初期段階にあるが、研究者達は最終的にはこの技術を商用の農機に組み込むことができる民間企業と提携したいと考えている。カーキー氏のチームは、商業的に開発中の収穫機の1つにエンドエフェクタを搭載する実験を行った。

カーキー氏は、ワシントン州果樹研究委員会と米国農務省国立食品・農業研究所（NIFA）からの助成金により、同氏の研究室が過去10年間で約300万ドルを支出したと推定している。

摘果機

ロボット摘果機は、関節式のアームが回転したり曲がったりして、識別された幼果に近づき、3Dプリンターで作成したプラスチック製の2本の爪でそれを果樹から引き離す。ビデオカメラセンサーは機械学習により高い確率でリンゴを識別し、腕の方向を誘導する。この機械は、商業化できるまでにあと数年かかる。

6月初旬に行われた本誌（Good Fruit Grower）向けのデモ（動画）では、摘果の度に大学院生が細心の注意を払って位置を合わせ、ソフトウェアを修正した。爪は時々目標のリンゴを逃し、一度は短果枝ごと落とした。

カーキー氏は、ロボット摘果機の技術の成熟度を1～10で言えば概ね3だとしている。ロボット授粉機、摘花機、剪定機はもう少し進んでいて、3～4である。

摘果のデモ用にロボットの位置決めを行う、右からワシントン州立大学博士課程の大学院生ランジャン・サプコタ、マーティン・シュラバジャの両氏と客員研究員のジチャオ・メン氏（写真：ロス・コートニー/本誌）

ロボットアームのカメラは、確率を用いてリンゴを識別する。画面の数値は、「1」がコンピューターがリンゴを識別したと100%確信していることを意味する。ここではリンゴにソフトウェアの標準設定である「person（人物）」のラベルが付けられているが、研究者達はこのデモの後、ラベルを「apple（リンゴ）」と付けるようにプログラムを修正した。（ロス・コートニー/本誌）

しかし、完璧さは実際のゴールではない。最終的な機械は、投資に対して妥当な利益を得るのに十分な性能を備えていればよい。ロボットが作業の例えば90%をうまく処理すれば、それでよいとする生産者もいるかも知れない。機械に機能が追加されるにつれて、この判断基準は低くなる。

オレゴン州立大学の関り

オレゴン州立大学（OSU）の研究者達は、デジタル及び物理的な「プロキシ（代理）」環境の開発に関する専門知識を活かして、年間を通じてロボットを訓練している。

ロボット工学の助教授でコーバリス市にある知能機械・材料研究室の責任者であるジョー・デビッドソン氏は、実際の実験だけに頼ると、データの収集とロボットの訓練は年に数週間から数カ月しかできないと話す。

デビッドソン氏とロボット工学のシンディ・グリム教授は、バネと磁石で作った偽の果樹を使って、本物のリンゴを人間の手で摘む動きをロボットのエンドエフェクタが模倣するように教えている。また、同氏らのチームは、仮想果樹園を構築し、ロボットがセンサー画像から果樹の構造を認識し理解するための「認識パイプライン」（認識するための一連の手順）に関するコンピューターアルゴリズムの訓練を行っている。

デビッドソン氏は、今年中に果樹園でこれらのアルゴリズムの試験を行う予定だと述べている。

同氏は、関連する取り組みに対し、研究委員会とNIFAから（カーキー氏の研究室とは）別の資金を得て、過去6年間に約150万ドル支出したと言う。

動画：ワシントン州立大学で進行中の研究の一環として、ロボットアームがリンゴの摘果の練習をしている様子（本文中のリンク先と同じ）

執筆者：ロス・コートニー

152. オーストラリア　新しい生食用ブドウ輸出支援プログラム

PRODUCE PLUS　2024年7月30日

生食用ブドウ協会は、変化する国際貿易要件に輸出業者が適応するための5年間のプログラムを主導

オーストラリアの生食用ブドウ産業は、生産者の強力で長年にわたる輸出ポジションを保護するための取り組みの強化に対し、新たな280万豪ドルの支援プログラムを獲得した。（1豪ドル＝約100円）

ホートイノベーション（園芸産業のための非営利研究開発法人）を通じて提供され、オーストラリア生食用ブドウ協会（ATGA）が主導するこの5年間のプログラムは、同国の生食用ブドウ業界が変化する国際貿易要件に適応し、対応するのを支援する。

生食用ブドウ生産者の研究開発負担金を通じて資金提供を受け、オーストラリア政府からも資金支援を受けるこのプログラムは、過去20年間に業界の輸出の成長を促進してきた旧市場アクセスプログラムの強みの上に立脚している。

ホートイノベーションのブレット・ファイフィールドCEOは、この市場アクセスプログラムは生食用ブドウ業界にとって基幹的な投資であるとして、「この新たな投資は、従来からの確立した市場及び新たな市場における生食用ブドウ業界の地位を強化し、輸出量を維持し、段階的に増加させるという課題に対処するものである」と述べた。

同氏はまた、「オーストラリアの生食用ブドウの生産量と貿易量が増大を続ける中、このプログラムは、業界の輸出アプローチを保護する上で重要な役割を果たし、生産者が輸出機会を活用することを支援し、最終的には業界の継続的な成功を確保するものである」と語った。

ATGAのジェフ・スコットCEOは、過去の市場アクセスプログラムの成功を振り返り、この新しいプログラムの適時性と業界にもたらすチャンスを認識し、「この5年間のプログラムは、現在の輸出課題に対処し、生産者と輸出業者の将来のリスクを軽減することにより、業界の長年にわたる強力な輸出ポジションを維持し、強化することを目的としている」と述べた。

同氏はさらに、「生食用ブドウの生産と輸出には、常にリスクが伴ってきた。一方、国際市場の要件が変化する中で、教育、コミュニケーション、関係構築、戦略的計画、及び法令順守の活動を通じて、輸出における業界の地位を維持し、強化することが重要である」と語った。

生食用ブドウは過去10年間で目覚ましい輸出実績を築いており、輸出は2000年代初頭の3万トン（8千万豪ドル相当）から2019/2020年シーズンには15万2,500トン（6億2,300万豪ドル相当）に急増した。

輸出の増加にもかかわらず、業界は過去数年間、市場の不安定性、生産コストの上昇、厳しい気象条件などの課題に直面してきた。

ATGAはこのプログラムを通じ、輸出の準備を整え適応力を構築し、輸出基準順守の向上、市場アクセス条件の改善の提唱、市場情報の伝達、市場内関係の強化を通じて、市場への対応力を向上させるための取り組みを継続する。

執筆者：ブリー・カッジャーティ

153. 米国　ブランドリンゴに高い消費者需要

The Packer　2024年7月30日

ニュースリリースによると、ワシントン州ウェナチー市に本拠を置くCMIオーチャーズ社がカテゴリーパートナーズ社（本社アイダホ州）と共同で行った包括的な調査で、消費者は現在主流となっているリンゴ品種と比較して、風味の良いブランドリンゴを好むことがわかった。

リリースは、アンブロシアゴールド（Ambrosia Gold）、エバークリスプ（EverCrisp）、ジューシー（Juici）及びカンジ（Kanzi）は、目隠し食味試験で類似の主流品種を上回ったとしている。

CMIオーチャーズ社の販売担当副社長であるロッシェル・ボーム氏は、この調査は風味の良いリンゴが小売業者の売上を増せることを示しているとして、「これらの強力なリンゴは、優れた味と品質を提供する勝者であることが証明された。すべての目隠しテストで、ブランドリンゴが上位に立った」とリリースで述べた。

この調査には人口統計学的に多様なパネリストが含まれ、リンゴの購入、品種の知識、購入の動機、外観と風味の好みに焦点が当てられた。参加者は、アンブロシアゴールド対ガラ、エバークリスプ対ふじ、ジューシー対ハニークリスプ、カンジ対ピンクレディーという組み合わせで、風味の良いブランドリンゴを風味の特性が似ている主流のリンゴ品種と比較した。

「我々のデータは、消費者がプレミアムリンゴ品種に乗り換える意思があるだけでなく、それに熱心であることを示している」とボーム氏はレポートで述べている。

同氏は、アンブロシアゴールド、エバークリスプ、ジューシー、カンジは、風味、食感、外観で一貫して高い評価を受けたとして、「品種別の評価グループは、ガラよりもアンブロシアゴールドを、ふじよりもエバークリスプを、ハニークリスプよりもジューシーを、ピンクレディーよりもカンジを好んだ。これらの結果は、消費者が風味と品質を強く求めていることを明確に示しており、小売業者がトレードアップ（消費者がより高品質で高価格な商品を購入する傾向）に対応した販売を行うための道筋を提供している」と述べた。

ボーム氏によると、アンブロシアゴールドは、参加者の85%がお気に入り品種のトップ3に位置づけ、75%が従来品種よりも好ましいと評価し、風味（85%の評点）、外観（87%）、食感（87%）でトップを獲得し、すべてガラを上回った。

リリースは、エバークリスプが食感（87%）と風味（71%）で高い評価を獲得し、パネリストの90%がふじよりもエバークリスプを支持したとしている。また、パネリストの60%が、ハニークリスプよりも風味の評価が高かったジューシーを好んだ。

参加者は、風味（81%）、外観（87%）、食感（78%）で優れた評価を得たカンジに感銘を受け、70%がピンクレディーよりも好ましいとした。

調査結果は消費者がリンゴの外観について誤解していることを示していると、ボーム氏は付け加えた。多くの人は、真っ赤なリンゴは粉っぽいとか、黄色や緑のリンゴは甘くないと考えている。試食はこれらの偏見を覆し、パネリストは新しい風味と食感に驚嘆した。

同氏は、「風味の説明と推奨は、それに圧倒された消費者を新しい品種の試食に導くための鍵であることが証明された。対象を絞った看板とパッケージ上のメッセージにより、消費者は情報に基づいた選択へと導かれ、風味の良いブランドリンゴに誘導される。それは農産物部門での売上増加を促進する。弊社の食味教育ツール（www.flavogram.com）は、特定の商品の試食を促進するためにカスタマイズできる。例えば、『ガラが好き？　それならアンブロシアゴールドが気に入るでしょう』というように」と語った。

リリースは、CMIオーチャーズ社の調査は、小売における風味の良いブランドリンゴの重要性を強調しているとしている。

ボーム氏は、「アンブロシアゴールド、エバークリスプ、ジューシー、カンジの在庫を持つことで、消費者の需要を満たし、売上を伸ばし、青果物売り場を強化することができる」と述べ、「ユニークな食味の特性を紹介する明確で説明的な提示 － CMIのFlavogramプログラム等 － と試食の提供によってこれらの高級リンゴにスポットライトを当てることで、小売のパフォーマンスを向上させ、試食を促進し、リピート販売につながる」と話す。

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

154. 台湾の核果類事情（モモ、サクランボ）

米国農務省GAINレポート　2024年8月1日

これは米国農務省海外農業局台北事務所（台湾）が作成した「核果類年次報告書」を訳したものであり（一部省略）、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

要旨

台湾は、米国産果実の成熟した市場である。核果類の中で、台湾はモモを生産しているが、ネクタリンやサクランボは生産していない。台湾の果実消費量は一貫しており、サクランボの需要は安定している。一方、モモ/ネクタリンの需要は長期的な減少傾向が続いている。台湾の昨年のモモ生産量はわずかに増加したが、輸入量の減少はより顕著であった。チリがネクタリンの主要な供給国（市場シェア87%）となり、米国の市場シェアはわずか10%にまで減少している。2023販売年度（年度）に、台湾は合計1万776トンのモモとネクタリン及び1万2,268トンのサクランボを輸入した。アメリカからの供給量の減少、ドル高、輸送コストの上昇などの要因により、モモ、ネクタリン、サクランボの価格は今年、いずれも10%以上上昇した。2024年度について当事務所は、モモとネクタリンの消費量は2万7,500トンに減少し、サクランボの消費量は1万1,800トンに減少すると推定する。

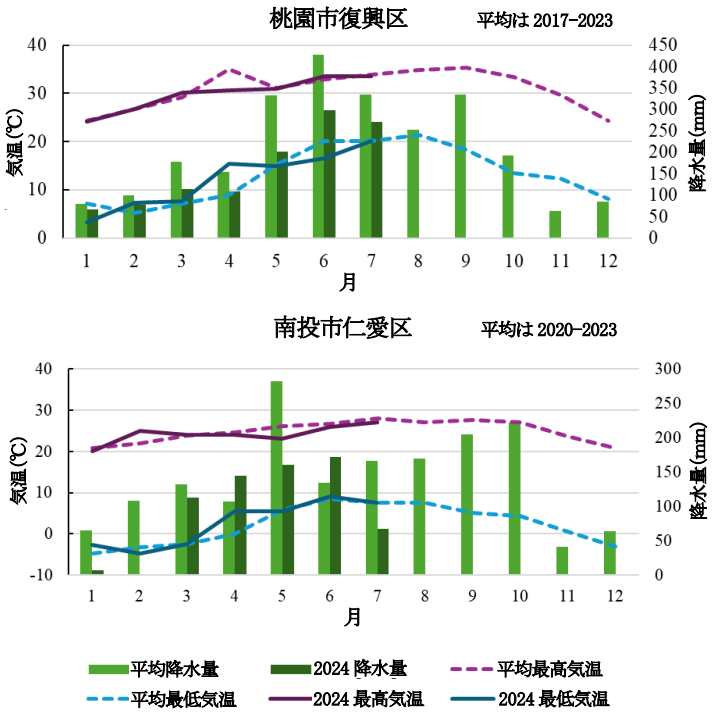
＜モモ＞

生産

台湾はモモのみを生産し、ネクタリンは生産していない。近年、低温要求量の少ないモモの新品種が導入されるものの、全体としては栽培面積は減少を続けるものと予想される。2024年の台湾のモモ生産量は約1万6,800トンと推定される。

主な産地は台中市（和平区等の高地、新社区、東市区等の丘陵地帯）、桃園市（復興区の高地）、新竹県（建市郷の高地）にある。しかし、異常気象、政策及び環境問題により、丘陵地帯の面積は徐々に増加し、高地での栽培は減少することが予想される。全般的に、2023年の栽培面積は2022年と大きく変わらない。農業部（MOA）のデータによると、一部のモモの果樹は更新され、特定の地域では平均収量がわずかに増加した。したがって、2023年の総生産量は、当初予想された1万7,302トンをわずかに上回る。

図1　主要モモ産地の気候



データ出典：中央気象局気候観測データ問合せサービス（CODiS）
注：山岳地帯の観測所の制限により、仁愛と和平の主要なモモ産地には、これより長い気候データがない。

近年、暑さが増すに連れて低温要求量の多い品種の開花が不規則になったり、極端な高温によって果実の成熟が早まったり、水不足によって果実が小玉果したりと、10年前に比べて平均的な品質が低下している。

データ（図1）によると、南投市の仁愛区[1]や桃園市復興区などの主要産地では、2024年の降雨量が例年に比べて少なかった。灌漑システムが整備しにくい山岳地帯では、水の供給は主に降雨に依存している。これらの地域の生産者の多くは今年、収量が減少したと報告している。

[1] 南投市仁愛区は台中市和平区に隣接し、両区は一般に同一の産地と認識されている。行政区としては、仁愛区は台湾で5番目に大きいモモ産地である。

図2　台中市和平区のモモ園（硬核期） 写真提供: 当事務所

さらに、異常気象の影響で、台湾の降雨パターンが既に変化していることも考えられる。果実の平均サイズが減少し続けていることから、将来のモモ生産はより大きな課題に直面すると見られる。現在、市場に出回っている一般的な果実のサイズは、1果実当たり概ね150～250グラムの範囲である。

モモの品種の更新は、主に政府の農業研究所に依存している。ネクタリン、ドーナツピーチ（蟠桃）、モモの低温要求量の少ないいくつかの品種候補が評価の過程にある。しかし、台湾のモモ市場が縮小しつつあり、利用可能な選択肢も多いため、将来の主流品種を予測することはますます困難になっている。

消費と貿易

台湾のモモ生産量の増加が米国から輸入量の減少を補うことはできないため、モモとネクタリンの総消費量は減少を続けている。2023年の消費量は2万8,078トンで、台湾の年間果実消費量の約1%を占めた。当事務所は、2024年度の米国のモモの供給量が約4千トンに減少し、ネクタリンの供給量が1千トンに減少すると予想する。

価格の上昇と予測不可能な品質のため、消費者の購入意欲が低下している。輸送中の果実の外観を保持するため、生産者は長距離輸送中のリスクを軽減しようと早期の収穫を好む。しかし、購入後の熟成段階では、食感に一貫性がなくなり、消費者を失望させることがよくある。

台湾の年間果実生産量と輸入量（及び輸入価格）は比較的安定している。しかし、特にパパイヤ、パイナップル、グアバ、ドラゴンフルーツ、マンゴー、アボカド等、他の果実が台湾で広く入手可能な夏の期間を中心に、モモは必須の日常の果実とは見なされていない。

台湾のモモの卸売販売量は、台湾産か輸入かを問わず減少を続けており、これに伴って卸売価格は上昇している。輸入されたモモの平均卸売価格は約10米ドル/kgで、台湾の市場では比較的高いと考えられている。今年、チェーンスーパーマーケットでは米国産モモのサイズが縮小し、価格は約20%上昇した。台湾産のモモも約10%の価格上昇が見られ、平均卸売価格は約4米ドル/kgである。モモの種類が多岐にわたるため、伝統的なモモ、低温要求量の少ないモモ、特定の地域産の低温要求量の多いモモの間で出荷時期が重なり、消費者の期待と入手できる選択肢との間に不一致が生じている。特に高品質のモモは価格が高く、品質が期待外れであると、消費者の再購入率が低下する可能性がある。

近年、忙しくて実店舗を訪れる頻度が少ない若い世代に牽引されて、果実のオンラインショッピングが急増している。しかし、モモの出荷シーズンや産地に詳しくないことから、オンラインショップではチリ産ネクタリンを「シュガースポットハニーピーチ」（糖斑水蜜桃）と命名するなど、一貫性のない命名や市場に出回る品種が混ざり合う一因となっており、モモ市場の規模縮小にさらに影響を与えている。

米国は依然としてモモの主たる供給国であり、2023年には87%の市場シェアを占めている。しかし、2016年と比較すると、2023年の米国産モモの供給量は45%減少した。今年は、暑い天候のため、モモの出荷シーズンが早く始まったことで、米国産モモの輸入は前年同期に比べてわずかに増加した。しかし、米国では昨年、リステリア菌によるモモの汚染があったとの記録[2]があるため、台湾当局は今年台湾に到着したモモの最初の2つの荷に対してリステリア菌の検査を実施し、通関に要する日数が5日間長くなった。荷からはリステリア菌による汚染は発見されなかったが、この一件があったことから、多くの供給業者がさらなる通関の遅延を恐れて出荷を躊躇したり、遅延させたりした。

[2] モモ、ネクタリン、プラムにかかるリステリア菌の発生について（英文） 及び 台湾食品薬物管理署アラート（英文）

同様に、ネクタリン市場も縮小しており、米国はもはや最大の供給国ではない。2023年には、ネクタリンの総輸入量は5,689トンに減少し、チリ産のネクタリンは全体の87%である4,971トンを占めた。対照的に、米国からのネクタリン輸入量は初めて1千トンを下回るわずか583トンで、市場シェアは10%であった。今年上半期の輸入量はすでに2023年に近づいており、総輸入量は6,200トンに達すると推定される。チリ産ネクタリンの供給量は今後も増加すると予想されるが、米国産の供給量は1千トン未満にとどまると見られる。

図3　右：米国産水蜜桃（80台湾ドル/個）、左上：台湾産水蜜桃（130台湾ドル/600g）、同日に同じ果実店で撮影
左下：ショッピングサイトではチリ産ネクタリンを「熱帯水蜜桃」と命名

モモの輸入先国別輸入量（トン）と市場シェア（%）

輸入先国＼年	2016	2018	2020	2022	2023
米国	7,854 (97%)	7,589 (97%)	7,281 (96%)	6,080 (93%)	4,441 (87%)
日本	272 (3%)	245 (3%)	285 (3%)	396 (6%)	362 (7%)
チリ	2	6	14	26	284
ニュージーランド	1	12	11	–	–
オーストラリア	–	–	6	15	–
合計	8,129	7,851	7,597	6,517	5,087

ネクタリンの輸入先国別輸入量（トン）と市場シェア（%）

輸入先国＼年	2016	2018	2020	2022	2023
米国	7,523 (65%)	3,267 (47%)	3,131 (45%)	1,048 (17%)	583 (10%)
チリ	4,048 (35%)	3,644 (52%)	2,665 (39%)	4,857 (79%)	4,971 (87%)
オーストラリア	91	81	91	271	135
ニュージーランド	–	6	0	–	–
合計	11,632	6,998	6,888	6,176	5,689

データ出典：台湾農業部（MOA）

台湾のモモ・ネクタリンの生産需給統計

モモ・ネクタリン(生鮮)	2022/2023		2023/2024		2024/20254	
販売年度の始まり	2022 年 1 月		2023 年 1 月		2024 年 1 月	
台湾	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	1,934	1,934	1,900	1,939	0	1,930
収穫面積(ヘクタール)	1,926	1,926	1,895	1,914	0	1,925
結果樹本数(千本)	681	681	672	677	0	675
未結果樹本数(千本)	3	3	3	10	0	8
果樹総本数(千本)	684	684	675	687	0	683
商業的生産量(トン)	17,068	17,068	16,500	17,302	0	16,800
非商業的生産量(トン)	0	0	0	0	0	0
生産量合計(トン)	17,068	17,068	16,500	17,302	0	16,800
輸入量(トン)	12,700	12,693	12,000	10,776	0	10,700
総供給量(トン)	29,768	29,761	28,500	28,078	0	27,500
国内消費量(トン)	29,768	29,761	28,500	28,078	0	27,500
輸出量(トン)	0	0	0	0	0	0
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	29,768	29,761	28,500	28,078	0	27,500

公式データには、PSD Online Advanced Query からアクセスできる。

＜サクランボ＞

生産

台湾はその亜熱帯性気候がサクランボの生産に適していないため、サクランボを生産していない。需要は完全に輸入に依存している。

消費と貿易

2024年初頭の国境検査の強化によりチリ産サクランボの輸入がわずかに減少したことから、2023年度は再び米国のサクランボの供給量がチリを上回ることができた。しかし、米国産サクランボの水際検査の強化と、価格設定に関わるその他の要因により、2024年の両国からの供給量はほぼ同じ5千トン程度と予想される。当事務所は、2024年度の消費量を約1万1,800トンと推定する。

今年は猛暑の影響で、米国のサクランボの出荷シーズンが早く始まり、終了も例年より1～2週間早くなると予想される。台湾は主にワシントン州からサクランボを輸入しているが、今年はワシントン州のサクランボの生産量がわずかに減少した。さらに、米ドル高と輸送コストの上昇により、米国産サクランボの小売価格は約15～20%上昇した。夏には多様な地元産の果実が手に入るのに比べて、冬は地元産果実の選択肢が少なく、サクランボの需要は年末年始の休暇シーズンに強いため、冬はサクランボの価格にそれほど敏感ではない。

昨年の国境での多数の残留農薬違反事件を受けて、サクランボの主要な輸入先であるチリと米国はともに今年、国境検査措置の強化に直面している(GAINレポート TW2024-0004)。これらの措置は、通関手続きと保管コストの不確実性を高める。しかし、今年はチリ産サクランボの国境での違反が検出されず、これは来年は通常の検査率(2～10%)に戻る可能性があることを示唆している。反対に、昨年の残留農薬違反により米国のサクランボには課題が残っており、最大残留基準(MRL)の承認手続きは2025年末より前には完了しないと予想される。

チリと比べると、アメリカから台湾へは直行便が多く、移動時間も短い。アメリカン産サクランボは収穫から消費者までの時間が最短で、その結果鮮度がより高い。トルコは2021年に台湾市場への生鮮サクランボの輸出アクセスを獲得したが、現在までに台湾へのサクランボの輸出はない。トルコ産のサクランボは、アメリカ産サクランボの主要な競争相手になると予想されるが、米国と台湾の間の長年にわたる安定して信頼感の強い貿易関係は、台湾市場におけるアメリカ産サクランボは他国産に代えがたいことを確実にする上での利点である。

図4　台湾のサクランボ輸入量（2016～2023年度）

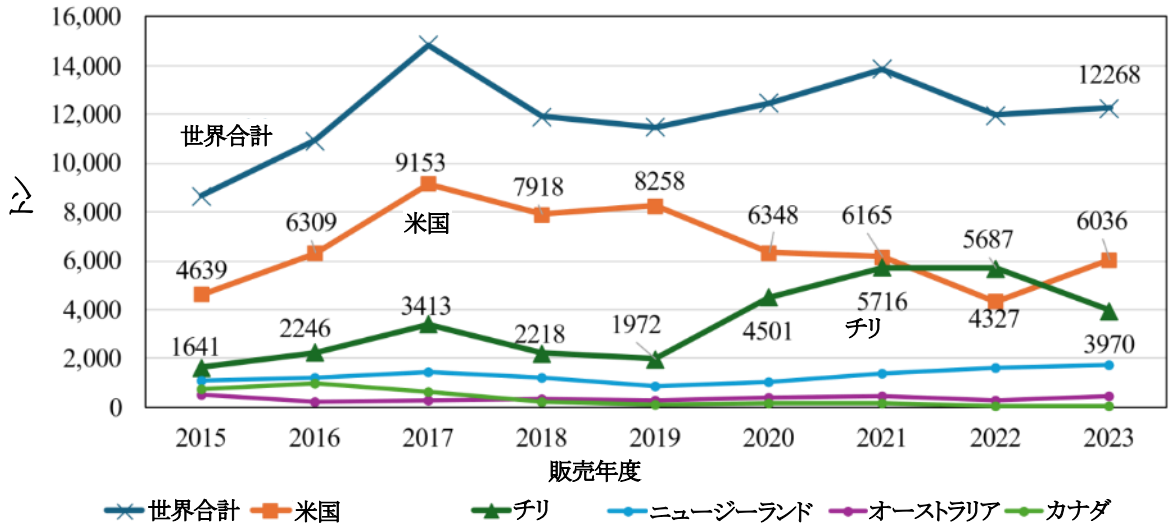


図5　空輸された生鮮サクランボ

（写真提供：果実輸入業者）

台湾のサクランボの生産需給統計

甘果オウトウ・酸果オウトウ（生鮮） 販売年度の始まり 台湾	2022/2023 2022 年 4 月		2023/2024 2023 年 4 月		2024/20254 2024 年 4 月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積（ヘクタール）	0	0	0	0	0	0
収穫面積（ヘクタール）	0	0	0	0	0	0
結果樹本数（千本）	0	0	0	0	0	0
未結果樹本数（千本）	0	0	0	0	0	0
果樹総本数（千本）	0	0	0	0	0	0
商業的生産量（トン）	0	0	0	0	0	0
非商業的生産量（トン）	0	0	0	0	0	0
生産量合計（トン）	0	0	0	0	0	0
輸入量（トン）	12,000	12,005	15,000	12,268	0	11,800
総供給量（トン）	12,000	12,005	15,000	12,268	0	11,800
国内消費量（トン）	12,000	12,005	15,000	12,268	0	11,800
輸出量（トン）	0	0	0	0	0	0
市場からの隔離（トン）	0	0	0	0	0	0
総仕向量（トン）	12,000	12,005	15,000	12,268	0	11,800

公式データには、PSD Online Advanced Query からアクセスできる。

155. 米国カリフォルニア州　今年の猛暑が生食用ブドウの収穫に影響

FreshPlaza　2024年8月6日

カリフォルニア州の生食用ブドウ生産者達は今シーズン、赤と緑の種無しブドウの新しいライセンス品種に取組む準備ができている。生食用ブドウの荷動きは安定しており、価格は出荷量で決まると見られる。競争力のある価格設定に加えて、今月中に強力な販促活動を行うことは、在庫の調整に役立つはずである。ダイレクトソースマーケティング社のアイラ・グリーンスタイン氏は、「全般的に暑い天候のため、暑さの盛りも少し早まった」と言う。サンホアキンバレー中央部では7月に猛暑に見舞われ、気温は合計18日もの間、華氏107度(約41.7℃)を超えた。実際、これらの日のうち多くは、最高気温が華氏115度(約46.1℃)に達した。暑さがカリフォルニア州の出始めのブドウの品質に影響を与えており、冷蔵倉庫での長期間の保存に適さないため、鮮度の維持と迅速な出荷が重要である。同氏は、「小売業者はより品質の高い果実を熱心に求めており、生産者は品質の向上により、小売業者の関心を繋ぎ止めることを大いに期待している」と話す。

種無し赤ブドウの価格は堅調　種無し赤ブドウのフレーム品種の品質は、長引く熱ストレスにより低下の兆しを見せ始めている。スカーレット、マゼンタ、ティムコ等の生食用品種がある程度の助けになることが期待されるが、今週はまだ入荷量が限られると見られる。種無し赤ブドウの価格は堅調で、市場価格(FOB)は22.95～26.95ドルの範囲にあり、多くが24.95ドルで取引されている。グリーンスタイン氏は、「この堅調な価格は、スカーレットロイヤル品種の出荷がピークに達するまで、今後2週間続くと予想している」と言う。ほ場では依然として多くの収穫後作業が必要なため、出荷量は予想よりも少ない状況が続くと見込まれる。

種無し緑色ブドウは幅広い価格帯が予想される　グリーンスタイン氏は、「スグラオーネとアイボリーの品質と状態は変動しているが、ほとんどのロットは小売の規格を満たしている」とコメントしている。一方、生産者達は、プリンセス、ティンプソン、グレートグリーン等のより良い品種への移行に期待している。同氏は「これらの品種は店頭での盛り上がりを見せるはずだ」と言う。アイボリー品種の在庫は十分あるが、新しい品種が出回るペースが遅いため、価格は安定している。一部の生産者が古いロットを売りさばこうとしている一方で、新しい果実でより高い価格を得ようとしている取引業者もいるため、価格の幅が広がることが予想される。現在の出荷価格(FOB)は18.95～24.95ドルの範囲で、市場では主に20.95ドルで取引されている。小売業者には8月中、さらに9月に入るまで、緑色種無しブドウの販促のチャンスが多くあると見込まれる。

執筆者: マリーケ・ヘムズ　　(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

(関連記事)米国カリフォルニア州　ブドウ生産業者の見通し

The Packer　2024年8月5日

カリフォルニア州のブドウの収穫が進む中、フレッシュファームズ社(本部はアリゾナ州リオリコ)は、今シーズンは課題とチャンスの両方があるとしている。サンホアキンバレーでは気温が華氏110～115度(43.3～46.1℃)にまで上昇し、ブドウの木は大きなストレスに耐えており、適応が難しかったため成熟が遅れていると同社は最近のリリースで記している。同社営業担当のショーン・リックス氏は、熱波が収穫に影響を与えたと言う。

リックス氏はニュースリリースで「猛暑は、特にフレームやサマーロイヤルのような色の濃いブドウに顕著な影響を及ぼしている。これらのブドウは着色が非常に遅れており、先週から色づき始めたばかりである。緑色ブドウはわずかに遅れたが、暑さが和らいだ時に成熟を再開し、今では昨年より約2週間進んでいる。色の濃いブドウは昨年とほぼ同じペースで成熟している」と述べている。

同社は、今シーズンはスイートグローブ、グレートグリーン、アリソン、クリッシー、キャンディハーツ等の厳選された品種に集中するとしており、合計出荷量は9,400万箱と推定している。リリースによると、最終的な数値は12月に確定することとなっている。

同社は、ブドウの風味、外観、魅力的なパッケージ等のすべての側面をカバーするように戦略を調整したことで、消費者の好みが変化する中で現在の課題を克服し、将来の成功に向けて自らを位置づけることができたとしている。冷蔵トラックを使用した迅速な輸送等物流も重要であり、また、小売店舗においてはブドウの販売には単に冷蔵ケースに保管する以上のものが含まれることを強調している。(一部要約及び省略)

執筆者: ウェイン・ハーディ　(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

156. EU　2024/25年度のリンゴ生産量は減少の予想

EUROFRUIT　2024年8月8日

来シーズンの生産量は主に東欧での減収により約1,020万トンに減少する見込み

ますます不安定な気候は、東欧を中心に引き続きヨーロッパのリンゴの減収をもたらすことが分かった。EUの今シーズンのリンゴ生産量は、この7年間で最少、10年間で2番目に少ない1,020万トン強と見込まれる。

この予測は、8月8日木曜日にハンガリーの首都ブダペストで開催された毎年恒例の果樹産業イベント「プログノスフルーツ」(Prognosfruit)で、世界リンゴ・ナシ協会が明らかにしたもので、EUの主要なリンゴ生産国20カ国が報告した数字を集計したものである。

環境や経済の圧力に直面しているこのセクターの存続可能性に関する長期的な懸念にもかかわらず、この発表は、市場の需要と消費者の購買力が回復を続ける中、今シーズンは良い価格になる可能性があると見ている生産者や出荷業者の間で慎重な楽観論を引き起こした。

AMI社(市場分析会社)のアナリストであるヘルヴィヒ・シュヴァルタウ氏は、「例えば賃金が回復し、インフレ率が下がっているドイツでは、市場の状況はわずかな改善が見られる。小売価格は上昇しているが、売上への影響はほとんどない。このため、リンゴ業界は小売価格の維持を求めて戦うべきだと考えている」と言う。

シュヴァルタウ氏は、EUの生鮮市場向けのリンゴの総出荷量は、東ヨーロッパから170万トン、西ヨーロッパから460万トンの合計約630万トンと、大幅な減少が予想されると述べた。ただし、出荷の後半では、ドイツ等の北部諸国の生産量が22%減少し、イタリア等の南部諸国で1%増加すると予測している。同氏は、「これは西ヨーロッパにとって非常に興味深いものになると思う。100kg当たりの平均価格は、約75～90ユーロと高くなる可能性がある」と述べた。

同氏はさらに、「現在の在庫を見る限り、ドイツ、オランダ、ベルギー、オーストリア、ポーランドでは来シーズンの期初在庫の水準が良好なようだが、イタリア、フランス、スペインでは課題がある」と付け加えた。

執筆者：マイク・ノウルズ

(関連記事)EU　ナシ生産量は緩やかに回復の予想

EUROFRUIT　2024年8月8日

イタリアとフランスでは天候の影響を受けた昨シーズンの出荷量から回復するが、ベルギー、オランダ、スペインの生産者は出荷量の大幅な減少を予想

世界リンゴ・ナシ協会は、イタリアの生産量の顕著な増加が、2024/25年度のEUのナシ生産量全体の控えめな回復に寄与するとしている。しかし、ベルギー、オランダ、スペインで予想生産量が大幅に減少したため、EUの新シーズンの収穫量はわずか179万トンと見込まれ、これは記録的に少なかった昨年の生産量を4.9%上回るものの、従来の200万トンを超える水準を大きく下回っている。

ヨーロッパ最大のナシ生産国であるイタリアは、来シーズン40万5千トンを供給すると予想されており、降霜、洪水、降雹の被害により2022年よりも約60%少なかった昨年の18万4千トンから劇的に回復する。フランスも2023年の悪天候による不作から回復し、11万9千トンを出荷する。この数字は3年平均を15.7%上回るが、同国の潜在的な生産力をはるかに下回っている。ヨーロッパの他の地域では、ポルトガル(10.1%増の12万4千トン)とギリシャ(38.1%増の8万4千トン)で増加が予想される。しかし、ベルギー(26.6%減の28万トン)とオランダ(8.7%減の32万7千トン)では生産量の減少が予測される。スペインのナシの出荷量は、14.8%減の24万4千トンと予測される。

AMI社のアナリスト、ウルスラ・ショッケモーレ氏は、「クラブ品種がますます増えている」とコメントし、ドイツ市場におけるブランドナシの種類が2年間で2倍以上に増加したと明かした。同氏は、「スーパーマーケットでは高品質のナシに対する需要があり、これは絶好のチャンスである。アボカドやフラットピーチ(蟠桃)で見られたように、消費者はより良いものにかなり高い対価を支払うことを厭わない」と述べた。

執筆者：マイク・ノウルズ

157. トルコ　旺盛なサクランボ輸出

RAYHABER　2024年8月8日

エーゲ海地方青果物輸出協会会長でエーゲ海地方輸出協会副コーディネーターでもあるハイレッティン・ウチャク氏は、「共和国の建国100周年に当たる2023年に、我が国は2億1,500万ドルに相当し前年比60%増となる8万3千トンのサクランボの輸出を達成した。トルコはサクランボの生産と輸出の両方で明確なリーダーシップを今年も維持している。成功裏に迎えた共和国の第2世紀である2024年の1月から7月の期間には、前年同期比4%増となる2億900万ドルのサクランボ輸出を達成した。サクランボの生産量は72万5千トンで世界一であり、我が国を米国、チリ、ウズベキスタンが追っている。我が国は世界の55カ国にサクランボを輸出している」と述べた。

ウチャク氏は、サクランボの最大の購入者はヨーロッパ地域であることに言及し、「2024年の最初の7カ月のサクランボ輸出量は、ドイツ向けが25%増の1億1,400万ドルで1位に位置している。ロシア向けが2%増の4,100万ドルで2位、ポーランド向けが112%増で3位である。オランダとノルウェーへの輸出額は600万ドルである。トルコのサクランボ収穫量は年間73万6千トンである。エーゲ海地方では、イズミル、マニサ、アフィヨン、デニズリ、アイドゥンの各県で年間26万トンのサクランボが生産されている。トルコのサクランボ輸出額は世界第4位である。2024年の1月から7月の期間のサクランボの輸出量は6万6千トンに達した。今年はサクランボの収穫量と品質向上を踏まえ、輸出目標を2億5千万ドルから3億ドルに引き上げた」と語った。

同氏はまた、「生鮮果実・野菜の輸出において、トルコの主要市場はロシア、ポーランド、バルカン諸国、ヨーロッパ、中東諸国であるが、それ以外のアジア・極東市場にサクランボを輸出するための接触を続けている。現在、シンガポール、香港、マレーシア、インドに輸出している。『使用農薬を知る』プロジェクトと『チチュウカイミバエのいないサクランボ生産』プロジェクトを通じて、トルコは残留農薬のない高品質のサクランボを生産し輸出するために努力している。輸出額で世界のトップ3に入ることを目指している。貿易省の展示会や貿易促進事業（Turquality及びUR-Ge）による支援を得て、輸出を増加させている。ご臨席のオメル・ボラト貿易大臣及び貿易省に感謝する。同省の支援により、輸出をさらに前進させることを決意している」と述べた。

（関連記事）トルコ　輸出業者は今年のサクランボ出荷量の増加を見込む

FreshPlaza　2024年8月8日

「今シーズンのサクランボの出荷量は10～15%多い」

トルコの青果物輸出業者ダリヤネイチャー社のゼネラルマネージャー補佐であるスバタイ・ティルマン氏は、好調なリンゴのシーズンの後、サクランボのシーズンも期待を裏切らなかったとして、「前回のリンゴのシーズンを振り返ると本当に良いシーズンであった。現在はまだサクランボの出荷シーズン中であるが、今のところ順調に進んでいる。サクランボについては、他の農場では概して何がしかの問題があった。しかし、我々の農場は標高1,700メートルにあるため、今年のサクランボの品質は非常に高い。実は、トルコで最も遅く収穫している果樹園が弊社にある」と述べた。（以下「 」は同氏の発言）

「サクランボの需要はすでに旺盛であるが、弊社の収穫物の品質が高いことから、この数週間は非常に忙しい。今シーズンの出荷量が10～15%多いという事実も、大きな助けになっている。弊社のサクランボは主にスーパーマーケットや卸売業者に直接送られており、受注に対して十分な量の出荷が可能であった。」

ティルマン氏は、過去の投資の効果が出るため、来シーズンは生産量がさらに増加すると予想している。「弊社では3、4年前に投資を行った。果樹園が成園化してくるので、次のシーズンではその投資の恩恵を受けることができる。計画では、来シーズンにはサクランボの量が25～30%増える。」

同社は、ある特定の製品を扱うバイヤーを見つけることを期待して、香港のアジアフルーツロジスティカに出展する（以下省略）。

執筆者: ニック・ピーターズ

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

158. エジプト　生食用ブドウ部門は健闘しているが薄氷の上

FreshPlaza　2024年8月9日

エジプトの生食用ブドウの出荷シーズンは、生産と販売の込み入った状況の中で続いており、成功の度合いは様々である。出荷量は減少しているが、出荷期間は長くなっている。需要は増加しているが、価格はそれに追いついていない。地政学的な状況は、物流上の大きな障害を引き起こしているが、競合するインドにとっては一層深刻である。総じて言えば、エジプトの生食用ブドウ部門はよく健闘しているが、薄氷の上を滑っているようなものだ。

生食用ブドウ等の作物を栽培するエジプト生産機構の共同創設者であるルアイ・エルクート氏が、今年の出荷シーズンについて語った。生産者である同氏は、今シーズンは生産者か輸出業者かによって異なる経験をしているとして、「今年は需要が増加し、事業が安定しているため、輸出業者にとっては昨年と同様に良い年であると考えられている。一方、生産者にとっては、ほとんどすべての品種で昨年よりも生産量が少ない。非常に暖かい冬が、果房の数と重さに影響を与えた。出荷量は昨年に比べて最大25%少ない」と説明した。（以下「 」は同氏の発言）

「生産者としては、今年は収穫の開始が早まった（5月の種無し白ブドウと無種し赤ブドウ）ことにより、もし収穫量が少ないとしても出荷シーズンを延ばすことができた。したがって、生産者の収入は昨年よりも多い。一方、コストも昨年に比べて30～40%多い。不運なことに、包装資材を高値で購入した直後にエジプトポンドの切り下げが起こり、収益が減少した。全体として、今年は取引先から寄せられた苦情が非常に少なかったことからも明らかなように、大きな品質問題は発生しなかった。中でも、早生の白ブドウの収量と品質は赤ブドウよりも優れていた。シーズンの中盤から終盤にかけて、ほとんどの地域で出荷量が増加し、需要は昨年よりも堅調であった。」

輸出業者は、有利な状況の組み合わせによって利益を得たため、収支は良好である。「出荷シーズンが早く始まったことが、一貫した品物の流れと安定した価格を維持するのに役立った。エジプト産のブドウは、市場が品薄の時期に入荷した。価格は昨年とほぼ同じだが、輸出業者は通貨切り下げの恩恵を受けた。また、紅海危機によりインド産のブドウがヨーロッパに届かなくなったため、競争が穏やかであったことにも助けられた。」

市場に関しては、「今シーズンは、白ブドウとミックス（色違いのブドウのセット）に対するヨーロッパの需要がより顕著なことが特徴である。エジプトの出荷シーズンの前の品不足のため、昨シーズンよりも輸出期間が拡大し、出荷シーズンの2週目である第22週（5月末）から需要が高くなっている。ヨーロッパ、英国、アフリカは非常にダイナミックだが、極東市場はガザの戦争と紅海の危機により昨年よりも減速している。新しい品種ほどすべての市場で需要が多く、生産者と輸出業者はこれらの品種でより高い収益を上げている。」

脆弱なバランスの上で、生食用ブドウ部門は健闘しているが、困難が無いわけではない。この地域の緊張は近隣諸国に影を落とし、物流の混乱は深刻である。「これはすべての生鮮果実・野菜に当てはまる。エジプトは輸出を増やしたいと考えているが、不安定な物流ルートとコストの上昇に直面している。例えば、生食用ブドウの出荷シーズンの開始時には、港へのトラック輸送に大きな問題があることが発覚した。何百台ものトラックが援助物資を積んでガザに送られ、長い間国境で立ち往生した。」

「我々は、新旧の市場の特性やニーズをより正確に把握する必要がある。ヨーロッパでのダンピングを避けるために、より早く市場に到着できる高速船など、より多くの物流の選択肢が必要である（コンテナがエジプトからロッテルダム（オランダ）に到着するまでに通常12～15日かかる）。」

執筆者：ユーネス・ベンサイド

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

159. ニュージーランド　夏果実との競争に備えるキウイフルーツ

PRODUCEPLUS　2024年8月9日

ジェイソン・テ・ブレーキCEOは、今シーズンの夏果実の市場出荷が早期に終了すると予想しており、ゼスプリはシーズンをうまく締めくくる軌道に乗っていると言う

キウイフルーツ出荷業者ゼスプリのメディアリリースによると、同社は2024年の出荷シーズンをこれまでになく力強く開始し、現在は従来から競争が激しい夏果実シーズンの真っ只中にいる。

今シーズンの記録的な収穫量である1億9千万箱以上のニュージーランド産キウイフルーツのうち、約75%が世界中のゼスプリの取引先にすでに出荷された。

最高経営責任者のジェイソン・テ・ブレーキ氏は、シーズンの順調なスタートを切ったゼスプリの市場内チームは、競争の激しい夏果実シーズンを通じて販売を促進し、生産者にとっての価値を維持することに注力していると述べた。(以下「 」は同氏の発言)

「業界関係者は、高品質ですばらしい果実を提供するために多大な努力を払っており、それによって出荷シーズン序盤の販売機会を生かすことができた。」

「我々は今、毎年恒例ではあるが、(北半球産)夏果実の入荷を背景に従来どおり困難が高まる時期にある。」

同氏によると、この時期にはいつも、モモ、ベリー類、メロン、ブドウなどとの激しい競争が起こる。

「(これらの夏果実が)予想よりも大量に、より低価格で出回っている。競争が激しいため、ほとんどの主要市場でのキウイの売れ行きが、シーズン序盤の史上最高の水準から後退している。ただし、取引先からのフィードバックでは、今シーズンのキウイの品質は大きな信頼を得ており、取引先がもっと多くのキウイを求めていることは明らかである。」

ゼスプリは、夏果実との競争に加え、米国市場でのチリ産グリーンキウイフルーツの増加など、キウイフルーツ同士の競争の激化に直面している。

テ・ブレーキ氏は、ゼスプリのチームは、夏果実シーズン前のキウイ出荷シーズンの力強いスタートに主眼を置いた計画に沿って、十分な準備をしてきたと述べた。同氏はまた、今シーズンの夏果実は生育条件が厳しかったので、通常より早く店舗の棚から無くなり、来月中には競争が緩和される可能性が高いと付け加えた。

「今シーズンのキウイは品質が高いので、夏果実が無くなってすっきりした市場のスペースを活用して生産者の利益を確保し、残りの数カ月でシーズンを力強く締めくくるのに適している。」

「ゼスプリとその連携事業者は、記録的な量の収穫物を市場に提供することに引き続き注力している。市場内チームは、販売を推進し、このシーズンを成功裏に終えるために、いくつかの際だった販売促進キャンペーンを実施している。」

執筆者: ブリー・カッジャーティ

160. 米国農務省生産見通し(果実関係抜粋)

米国農務省農業統計局(2024年8月12日)

このページの計量単位はすべて米国単位(ポンド、バレル、ショートトン)です。次ページ以降の表に国際単位(メートルトン)への換算値(一部試算値)を示します。

リンゴ(販売用): 米国の2024年度産リンゴの総生産量は、前年比2%減の111億ポンドと予測される。最も生産量が多いワシントン州では、前年と同様に天候に恵まれた。良好な生育条件により、過去最高に近かった前年度とほぼ同じ、1%減の生産量が予想される。ニューヨーク州では、一部の地域で収穫の開始が遅れた。しかし、著しく温暖な天候が成長を加速させたため状況が変わり、多くの生産者が熟期の前進を経験し、中には成熟不良となる場合もあった。ミシガン州のリンゴの作柄は、軽微な霜害があっただけで生育は平年よりわずかに進んでおり、豊作になる可能性がある。早生品種のリンゴの収穫が始まっている。

クランベリー:(省略)

ブドウ: 米国の2024年度産ブドウの生産量は合計637万トンと予測され、前年と同じ州で比べると3%の増加となる。最も生産量が多いカリフォルニア州では、醸造用ブドウの生産量は前年比2%減の360万トンで、カリフォルニア州のブドウ総生産量の62%を占めると予測される。カリフォルニア州の生食用ブドウの生産量は、前年比22%増の115万トンと予測され、同州のブドウ総生産量の20%を占める。カリフォルニア州の干しブドウ用のブドウ生産量は、前年比12%増の105万トンと予測され、同州のブドウ総生産量の残りの18%を占める。冬が寒く雨が多かったため、ブドウは十分な水分を得た状態で開花した。2023年度の後半と比較して、2024年度の生育は通常に近かった。7月の華氏100度(37.8℃)以上の気温は、サンホアキンバレーと海岸地帯のブドウ栽培に影響を与えた。なお、2024年から、ニューヨーク州とオレゴン州のブドウの推定値が見通しに追加された。

モモ: 米国の2024年度産モモの総生産量は、前年比22%増の71万9千トンと予測される。最も生産量が多いカリフォルニア州の生産量は53万トンと予測され、これは前回の予測から4%増加し、2023年度より10%多い。カリフォルニア州の離核種の生産量は30万トンと予測され、これは前回の予測から7%増加し、前年度より16%多い。カリフォルニア州の粘核種の生産量は、前回予測と変わらず、2023年度より4%多い23万トンと予測される。満開は昨年より2日早い3月12日であった。記録された低温積算時間は、過去50年で2番目に少なかった。冬の間は雨が少なかったため、2024年2月初めの時点で総降水量は平均を下回った。いくつかの嵐が2月と3月の間に発生し、シエラネバダ山脈の積雪量を積み上げ、貯水量を大幅に増やし、カリフォルニア州は通常の状態に戻った。カリフォルニア州では春の間に大雨や降雹があったが、核果類の被害は最小限にとどまった。シーズン序盤の生育条件は概ね良好であったが、7月は非常に暑かったため、生産者達は果実の大きさを懸念している。モモの収穫は進行中である。サウスカロライナ州の生産量は、前年比171%増の10万5千トンと予測される。モモは、十分な低温時間、穏やかな春、凍害の不発生、及び暑く乾燥した夏に恵まれ、シーズンを通して順調に生育した。生産者達は収量増による豊作を報告している。収穫は8月下旬ないしは9月上旬に完了する見込みである。ジョージア州の生産量は、前年比651%増の3万7千トンと予測される。十分な低温時間、穏やかで雨の多い春、凍害の不発生、及び暑く乾燥した夏に恵まれ、今シーズンはモモが平均以上の豊作となった。モモの収穫は8月中旬までに完了する見込みである。

ナシ: 米国の2024年度産ナシの総生産量は前年比22%減の52万トンと予測される。最も生産量が多いワシントン州では、1月中旬の寒さによりナシは大きな打撃を受けた。一部の地域では-11℃まで下がったため、樹体や芽が損傷を受けた。被害は地域によって異なるが、ワラワラバレーとシュラン湖地域が最も大きな被害を受けたと報告されている。さらに、春の開花期に再び凍結したという報告もあった。その結果、ナシの生産量は2007年以降で最も少ないと予測される。オレゴン州でも、寒くて雨の多い天候が作柄に影響を与えた。生産量は2010年以降で最低と見込まれる。カリフォルニア州では、7月中旬に収穫が始まった。開花期の遅い雨によって悪影響を受けたが、果実のサイズ、品質、風味は総じて良好である。生産量は2007年以来2番目に少ないと予想される。

州別及び米国の果実生産量：2023年産及び2024年産見通し（8月1日予測分）

リンゴ（販売用）

州	総生産量（米国単位）		総生産量（国際単位）*	
	2023	2024	2023	2024
	（百万ポンド）	（百万ポンド）	（メートルトン）	（メートルトン）
カリフォルニア	240.0	230.0	108,860	104,330
ミシガン	1,340.0	1,200.0	607,810	544,310
ニューヨーク	1,245.0	1,300.0	564,720	589,670
オレゴン	158.5	150.0	71,890	68,040
ペンシルベニア	553.0	510.0	250,840	231,330
バージニア	211.0	220.0	95,710	99,790
ワシントン	7,610.0	7,500.0	3,451,840	3,401,940
米国計	11,357.5	11,110.0	5,151,680	5,039,410

＊国際単位の州別の数値は中央果実協会による試算値（1 ポンド＝約 0.453592kg）

クランベリー

州	総生産量（米国単位）		総生産量（国際単位）*	
	2023	2024	2023	2024
	（バレル）	（バレル）	（メートルトン）	（メートルトン）
マサチューセッツ	1,970,000	2,200,000	89,360	99,790
ニュージャージー	580,000	580,000	26,310	26,310
オレゴン	550,000	560,000	24,950	25,400
ウィスコンシン	5,010,000	4,900,000	227,250	222,260
米国計	8,110,000	8,240,000	367,860	373,760

[1バレルの重量は 100 ポンド]　＊国際単位の州別の数値は中央果実協会による試算値（1 ポンド＝約 0.453592kg）

ブドウ

州	総生産量（米国単位）		総生産量（国際単位）*3	
	2023	2024	2023	2024
	（ショートトン）	（ショートトン）	（メートルトン）	（メートルトン）
カリフォルニア	5,570,000	5,800,000	5,053,010	5,261,670
干しブドウ用*1	940,000	1,050,000	852,750	952,540
生食用	940,000	1,150,000	852,750	1,043,260
醸造用*1	3,690,000	3,600,000	3,347,510	3,265,860
ニューヨーク*2	（データなし）	165,000	（データなし）	149,690
オレゴン*2	（データなし）	95,000	（データなし）	86,180
ワシントン	339,500	305,000	307,990	276,690
果汁用	180,000	150,000	163,290	136,080
醸造用	159,500	155,000	144,700	140,610
米国計	5,909,500	6,365,000	5,361,010	5,774,230

＊1 生鮮換算　＊2 予測は 2024 年から　＊3 国際単位の州別の数値は中央果実協会による試算値（1ショートトン＝約 907.184kg）

モモ

州	総生産量（米国単位）		総生産量（国際単位）*2	
	2022	2023	2022	2023
	（ショートトン）	（ショートトン）	（メートルトン）	（メートルトン）
カリフォルニア	480,000	530,000	435,450	480,810
離核種	259,000	300,000	234,960	272,160
粘核種	221,000	230,000	200,490	208,650
コロラド	15,600	12,000	14,150	10,890
ジョージア	4,930	37,000	4,470	33,570
ミシガン	11,250	7,500	10,210	6,800
ニュージャージー	14,200	11,500	12,880	10,430
ペンシルベニア	17,500	16,000	15,880	14,510
サウスカロライナ	38,800	105,000	35,200	95,250
ワシントン*1	6,260	（データなし）	5,680	（データなし）
米国計	588,540	719,000	533,910	652,270

＊1　予測は 2023 年まで　＊2 国際単位の州別の数値は中央果実協会による試算値（1ショートトン＝約 907.184kg）

ナシ

州	総生産量(米国単位)		総生産量(国際単位)*	
	2022	2023	2022	2023
	(ショートトン)	(ショートトン)	(メートルトン)	(メートルトン)
カリフォルニア	162,500	135,000	147,420	122,470
オレゴン	236,000	200,000	214,100	181,440
ワシントン	267,000	185,000	242,220	167,830
米国計	665,500	520,000	603,730	471,740

＊国際単位の州別の数値は中央果実協会による試算値(1ショートトン＝約 907.184kg)

米国の果実生産量 2023年実績及び2024年見通し(国際単位)

[データは、今回の報告書または以前の報告書から利用可能な最新の推計値である。2024年の推計値は、2024作物年度(柑橘類は2023/24作物年度)。2024年の空白は、推計を行う時期に至っていないことを示す。]

作物名	総生産量	
	2023	2024
	(メートルトン)	(メートルトン)
柑橘類		
グレープフルーツ	307,540	308,440
レモン	994,270	977,950
オレンジ	2,311,510	2,502,020
タンジェリン及びマンダリン	875,430	889,950
非柑橘類		
リンゴ(販売用)	5,151,680	5,039,410
アンズ	32,500	32,660
アボカド	116,890	
ブルーベリー(栽培種)	293,930	
ブルーベリー(野生種)(メイン州)	39,730	
サクランボ(甘果オウトウ)	321,420	322,050
サクランボ(酸果オウトウ)	90,810	100,700
コーヒー(ハワイ州)	10,570	
クランベリー	367,860	373,760
ナツメヤシの実	44,500	
ブドウ	5,361,010	5,774,230
キウイフルーツ(カリフォルニア州)	24,860	
ネクタリン(カリフォルニア州)	132,000	
オリーブ(カリフォルニア州)	110,220	
パパイヤ(ハワイ州)	4,650	
モモ	533,910	652,270
ナシ	603,730	471,740
スモモ(カリフォルニア州)	81,280	
プルーン(カリフォルニア州)	260,720	
ラズベリー	62,640	
イチゴ	1,250,100	

161. ベトナム　米国産モモ・ネクタリンの輸入を解禁

在ベトナム米国大使館　2024年8月13日

ハノイ、2024年8月13日 － 在ベトナム米国代表部、米国農務省（USDA）及びカリフォルニア州生鮮果実協会は、米国産のモモとネクタリンのベトナムへの輸入について関係当局から市場アクセスの承認を受けたことを発表する。同協会は今月、米国とベトナムの二国間貿易関係におけるこの重要な節目を祝う行事を、ハノイ市とホーチミン市で開催する。

農務省のジェニー・レスター・モフィット農務次官（マーケティング・規制プログラム担当）は、「この市場アクセスは、両国にとって大きな勝利である。ベトナム国民は高品質でおいしいカリフォルニア州産のモモやネクタリンを入手できるようになり、米国の生産者は農産物を販売する新たな市場を得ることになる。米国とベトナムはこれまでも強力な貿易パートナーであり、これは安全で強靭な貿易を促進するという我々の取り組みの新たな一例である。この市場の開放を促進するために熱心に取り組んできた農務省動植物検疫局とベトナム農業農村開発省の関係者に感謝する」と述べた。

2023年9月の米越関係の強化に関する共同首脳声明で両国は、貿易・経済政策とその目標を達成するための規制措置を支持し、有利な条件を創出して互いの物品とサービスに対する市場開放を促進することを約束した。米国は昨年、ベトナム産ココナッツの市場参入を認めた。米国産のモモとネクタリンは、今後数週間のうちにハノイ市とホーチミン市で入手できるようになる。

在ベトナム米国代表部

162. エジプト　ブドウ品種の権利者が無許可の生産者に勝訴

EUROFRUIT　2024年8月14日

サンワールド社は、独自の調査及び裁判所の命令による調査を通じ、無許可の生産者が所有する農場でライセンス品種のブドウの木を特定し、権利侵害に対する訴訟を提起した

エジプトの2つの裁判所は、サンワールドインターナショナル社が権利を有するブドウの違法な生産と販売に対し同社が無許可の生産者を相手取って起こした権利侵害訴訟で、同社に有利な判決を下した。

カイロ市とタンタ市にある2つの経済裁判所は、2人の生産者に対して、サンワールドの品種を無許可で増殖することを禁止し、同社の果実を無許可で販売しまたは販売の申し出を行い、輸入または輸出することを禁止するとともに、金銭的損害を賠償し、侵害者の農場に違法に植えられたすべてのブドウの木を侵害者の費用負担で伐根し破壊することを強制するという、実体を伴う差し止め命令を出した。

サンワールドインターナショナル社の知的財産担当副社長兼法務顧問であるマイケル・スティムソン氏は、「弊社は、違法な生産を阻止し、権利を侵害している植物を撤去し、過去の侵害に対する損害賠償を徴収することについて、これらの侵害者に対して全面的に権利を行使する」と述べた。（以下「 」は同氏の発言）

同社は、世界中で200以上の生食用ブドウの特許と植物品種育成者権（PVR）を保有しており、核果類、サクランボ、マンゴーのライセンス品種も提供している。カリフォルニア州を拠点とする同社は、独自の植物品種を開発し、エジプトを含む世界中の生産者にライセンスを供与するビジネスを長年行っている。

「弊社は、世界中の生食用ブドウ産地と消費者市場に出回る生食用ブドウを継続的に見張り、潜在的な侵害事例がないか監視している。その結果、独自の調査及び裁判所の命令による調査を通じて、無許可の生産者が所有する農場でサンワールドのライセンス品種のブドウの木を特定し、徹底的に精査した上で、彼らに対するこの訴訟を提起した。」

スティムソン氏は、違法な侵害者は、ライセンスを有し、合法的にサンワールドの品種を栽培している生産者の果実の価格を引き下げると述べた。

「弊社のビジネスは、ライセンス取得者に可能な限り最高の品種を提供することである。そのため弊社は、発見したすべての侵害者に対して知的財産権を行使するための不断の努力を世界中で行っている。」

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

163. 韓国　台湾へのブドウ輸出に事前登録制度

韓国農林畜産食品部　2024年8月14日

セジョン（世宗）、2024年8月14日 － 農林畜産食品部（MAFRA）は5月23日、ブドウ生産者と輸出業者に一定の安全基準の遵守を求める台湾向けブドウ輸出にかかる事前登録制度（以下「事前登録制度」という。）を導入した。この制度の目的は、台湾政府による輸入生鮮果実の通関手続きにおける安全検査の強化に前もって対応するとともに、韓国のブドウ輸出を上昇軌道に維持することである。

韓国のブドウ輸出：台湾1千70万ドル（23.9%）、香港900万ドル（20.2%）、ベトナム770万ドル（17.1%）
台湾向けブドウ輸出：2021年50万ドル、2022年220万ドル、2023年1千70万ドル（前年比393%増）

事前登録制度の下ではブドウの生産者と輸出業者に識別番号（ID）が付与され、ブドウの安全性が生産から輸出までの全工程を通じて体系的に管理される。

具体的には、台湾にブドウを輸出しようとする生産者及び輸出業者は、農村開発局による農薬の安全使用に関する義務的講習（段階1）、韓国農水産食品流通公社へのIDの申請と取得（段階2）、農林畜産検疫本部へのブドウの残留農薬分析結果の提出（段階3）、植物検疫証明書の取得（段階4）を完了する必要がある。

MAFRAのヤン・ジュピル食品産業政策局長は、「台湾へのブドウ輸出の事前登録制度は、韓国産ブドウの輸出競争力を高めるものと期待されている。韓国産ブドウの安全性と品質について広報活動を行い、今後もブドウの輸出を拡大していく」と述べた。

164. 世界のアボカド市場（抜粋）

FreshPlaza　2024年8月16日

ペルーのアボカド輸出量は今シーズンも少なく、ヨーロッパ等の主要市場での在庫不足を招いている。ペルーでアボカドの木の剪定が遅れたことで、輸出可能量がさらに大幅に減少した。10月と11月にはペルーの輸出量の増加が予想される。

南アフリカにとっては、ペルー産の不足が好ましい結果につながった。ヨーロッパ市場の在庫が無いため、南アフリカはシーズン半ばの売上がこれまでで最も多かったと言われている。南アフリカの輸出シーズンは、終盤まで力強い結果が予想されている。

モロッコの輸出は9月中旬頃に始まる予定で、最大50%の増加と果実サイズの改善が予想される。

ルワンダからの輸出も9月中旬以降に始まり、中東市場からヨーロッパ市場にシフトするものと見られる。

スペインではバレンシア州のアボカドの収穫量が50%増加し、出荷と輸出が順調に進んだ。対照的に、アンダルシア州の主要なアボカド産地は、干ばつにより生産量が減少したが、それでも輸出は良好であった。

イタリアではアボカドの価格が高止まりしており、様々な産地から供給されている。

フランス市場では6月には高値であったが、供給量が増えるにつれて価格は横ばいになっている。

ドイツでは、ケニア、ペルー、南アフリカからの供給が著しく減少しているため、不足が予想される。

チリは現在、メキシコでの収穫量の減少により米国市場からの引き合いが強く、価格が高騰している。

イスラエルでは、今月中に来シーズンの早期の開始が見込まれる。イスラエルでは、最大25万トンの豊作が見込まれており、その約半分が輸出される。

オランダでは休暇シーズンのため、アボカド市場は軟調であった。

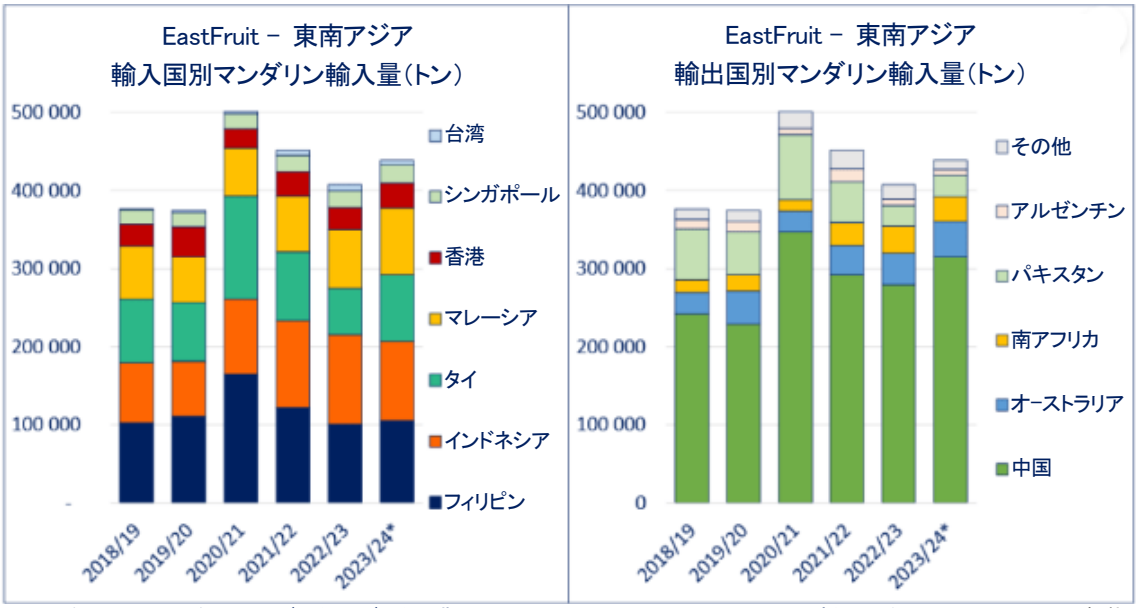
メキシコの出荷シーズンの終盤は、異常であった。最大の遅延は過去4週間の雨による供給への影響で、メキシコの出荷量が20%減少した。出荷量の減少にもかかわらず、米国では需要が鈍いと言われているが、6月にミチョアカン州での米国農務省の輸出検査が一時停止された後、価格が上昇している。

（以下、国別の詳細省略）

165. 東南アジアのマンダリン市場は力強い成長の可能性

PRODUCE REPORT　2024年8月15日

果実業界メディアEastFruitのニュース記事によると、東南アジア地域*へのマンダリンの輸入は2年間減少していたが、2023/24年度に反発した。同年度の最終月を除く11カ月（2023年7月から2024年5月）にこの地域の主要な輸入市場（ベトナムを除く）は約44万トンのマンダリンを輸入し、前年度の年間輸入量を8%上回った。この傾向から判断すると、2023/24年度の最終的な輸入量は、2020/21年度に記録された過去最高の50万トンに迫る可能性がある。（*原文注: この記事の「東南アジア地域」は、EastFruitの集計に従い香港、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、台湾、タイを指し、ベトナムは別計上となっている。）



＊2023 年 7 月～2024 年 5 月のデータ　データ出典：Global Trade Tracker（EastFruit による分析）　訳注：図はEastFruitから転載

EastFruitの果実と野菜の市場アナリストであり、国連食糧農業機関（FAO）の国際コンサルタントでもあるイェヴヘン・クージン氏は、東南アジア地域（ベトナムを除く）は潜在的に毎シーズン50万トンのマンダリンを輸入する可能性があり、さらに20～30万トンがベトナム市場に流入する可能性があると述べたとされている。これは、地域全体で1シーズン当たり最大80万トンのマンダリンを輸入できることを意味するが、それはロシアの年間輸入量（82～96万トン）に近く、欧州連合と英国の合計（72～77万トン）及び米国とカナダの合計（54～65万トン）を上回る。ヨーロッパや北米の市場とは異なり、東南アジア地域の市場の大部分は近い将来に急速に成長し、マンダリン供給国にとって大きなチャンスを生み出すと予想されている。

ベトナム以外のこの地域の主要なマンダリン輸入国・地域は、フィリピン、インドネシア、タイ、マレーシア、香港、シンガポール等であり、これらはすべて2018/19年度以降、柑橘類の輸入量を増やしている。フィリピンとタイの輸入の成長率は平均3%であるが、他の市場では18～34%の成長が見られる。台湾は比較的少ないながらマンダリンを輸出しており、シーズンによってはこの地域で唯一の純輸出国である。

FAOの青果物国際貿易コンサルタントであるハジェル・マグディ氏は、中国が東南アジア地域（ベトナムを除く）へのマンダリンの主要な供給国であり、総輸入量の61～68%を占めていると指摘した。中国はマンダリンをほぼ周年供給することができ、供給のピークは12月から1月である。中国の主な競合国は北半球ではパキスタン、エジプト、モロッコ等であり、他方、南半球の国々は主に7月から10月にかけて供給している。

今のところ、エジプトとモロッコは東南アジア地域での市場シェアが小さく、主に香港、マレーシア、シンガポールに供給しており、エジプトはインドネシアとベトナムにも輸出している。2022/23年度にはモロッコとエジプトはそれぞれ850トン及び4千トンを東南アジア市場に出荷した。しかし、2023/24年度には、紅海危機の影響でこれらの数字はそれぞれ630トン及び1,600トンに減少した。マグディ氏は、それでもエジプト産及びモロッコ産のマンダリンは、東南アジア地域において大変有望であると考えている。

執筆者：ジン・ザン

166. 米国カリフォルニア州　ブドウは中生品種に移行

FreshPlaza　2024年8月16日

現在、カリフォルニア州のブドウの出荷は順調である。バーリ青果会社のジャスティン・ベドウェル氏は、「数週間前の暑さは、一部の品種の出荷を早めただけでなく、若干の損傷も与えた。出荷量の増加を妨げているのは、収穫時に果房から損傷した果実を除去するための時間が増えたことだ」と話す。（以下「 」は同氏の発言）

カリフォルニア州のブドウ出荷シーズンの主要部分は昨年よりは早く始まったが、昨年もシーズンの始まりが遅かった。今年は7月10日頃に出荷が始まった。

現在、同社は赤、緑、黒のブドウを順調に出荷している。「弊社では早生品種から中生品種に移行している。梱包中の品種は緑ではグレートグリーン、赤はティムコとクリッシーで、おそらく来週にはスカーレットロイヤルの早いものと黒ブドウの梱包が始まると見られる。」

収穫量については、昨年はシーズンの初めにかなりの雨が降り、カリフォルニア州のブドウ産業は供給量を大幅に減らした。今年は通常の供給量に戻ったようである。「しかし、早い段階で見られた暑さを考えると、業界が必ずしも目標の数字を達成するとは思えない。ただし、天候が順調であれば、11月まで十分な出荷量があるだろう。」

需要は9月に持ち直す

一方、需要については、多くの商品と同様に、今月は消費者がまだ休暇を過ごしており通常の購入パターンに戻っていないため、安定してはいるがペースが落ち込んでいる。とはいえ、7月には好調な需要が見られており、来月は再び需要が高まると予想され、需要が供給を上回る状況になる可能性がある。

昨年は供給不足が強気の価格設定につながったため、現在の価格はもちろん昨年ほど高くはない。むしろ、2年前と同等か、わずかに高い水準にある。「これは、投入コストがすべて高くなっている生産者にとっては良いことだ。ブドウを出荷するまでのコストはすべて高くなっている。しかし、小売業者への販売価格は、彼らが消費者をどうにか引き付けることができる水準に維持している。これは、生産者のニーズと消費者のニーズのバランスを取るものである。」

執筆者: アウトリッド・ヴァン・デン・ブローク

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

（関連記事）米国カリフォルニア州　7月の猛暑がブドウの収穫に影響

FreshPlaza　2024年8月15日

フレズノ郡の7月は前例のない気温を経験し、気象学者のクリスティン・グレゴリー氏は、国立気象局の平均気温の計算に基づいて、記録上最も暑い7月であったと断言している。全米の生食用ブドウのかなりの部分を生産していることで知られるこの地域では、26日間にわたって気温が華氏100度（約37.8℃）を超え、最高気温は114度（約45.6℃）に達した。地元の生産者のジョージ・マトイアン氏が言うように、この猛暑は、潅水量を増やしたにもかかわらず、ブドウの日焼けやサイズなど、ブドウ栽培関係者に顕著な課題をもたらした。

猛暑は、果粒の着色や大きさ、糖度などブドウの品質に悪影響を与えただけでなく、現場作業員の熱中症等の予防のための労働時間短縮にもつながった。気温が高いため、作業時間を早朝から正午前までに短縮する必要があった。さらに、暑さは現場の梱包作業に影響を与え、地表オゾン（太陽光、熱、汚染物質の相互作用によって生成される有害な化学物質）のリスクを高めた。

このような困難にもかかわらず、マトイアン氏は、暑さがブドウの木に長期的なダメージを与えていないという希望を捨てておらず、今後数週間で回復することを期待している。グレゴリー氏は、このような極端な気象条件が常態化する可能性があると警告し、将来の同様の出来事に備えるよう促している。

出典: abc30.com

167. 米国リンゴ協会　今シーズンの出荷見通し

The Packer　2024年8月19日

米国リンゴ協会は、今シーズン2億6千万ブッシェルの出荷を見込む

シカゴ － 米国リンゴ協会（USApple）が第129回年次見通し会議で発表した新しいレポートによると、昨年の記録的な収穫に続き、リンゴ生産者達は今年も堅調な年を期待している。

報告書は、2億5,951万7,252ブッシェル（約494万トン）の出荷量を予測しており、同協会によると、これは昨年の最終出荷量に比べて10.1％少ない。（米国リンゴ協会では1ブッシェル＝42ポンド（約19.05kg））

同協会の見通し及び分析担当副会長であるクリス・ガーラック氏は、「さまざまな課題にもかかわらず、生産者達の忍耐力と献身的な取組みによって、再びリンゴ生産について有望な年となった。我々が収集したデータは、業界の強さを際立たせるだけでなく、豊かな収穫を確保するためのイノベーションと適応力の重要性も強調している」と述べている。（以下「 」は同氏の発言）

米国リンゴ協会によると、ガーラック氏が執筆したこの報告書は、米国農務省の推定値と同協会会員の生産予測に基づいている。すなわち、ガーラック氏が生産者のインプットに基づいて農務省の数値を調整した。

	米国リンゴ協会 2024/25（予測値） ブッシェル
米国計	**259,517,252**
カリフォルニア州	5,476,190
ミシガン州	30,500,000
ニューヨーク州	31,000,000
オレゴン州	3,571,429
ペンシルベニア州	11,500,000
バージニア州	4,750,000
ワシントン州	155,000,000
その他の州	*17,719,632*

提供: 米国リンゴ協会

「全米の生産者は、リンゴの品質が優れていると報告している。当協会の数字は、リンゴ生産州のうち上位7州のみを調べている農務省のデータよりも包括的である。当協会は、上位7州以外の州からの生産量も分析し、それを農務省の数値に追加している。また、生産者が毎日果樹園で見ているものに基づいたフィードバックも取り入れている。」

注目される州別の推定値は、カリフォルニア州547万6,190ブッシェル、ミシガン州3,050万ブッシェル、ニューヨーク州3,100万ブッシェル、オレゴン州357万1,429ブッシェル、ペンシルベニア州1,150万ブッシェル、バージニア州475万ブッシェル、ワシントン州1億5,500万ブッシェル、その他の州1,771万9,632ブッシェルである。

品種　米国リンゴ協会のデータによると、ガラが依然として最も多く栽培された品種であり、米国のリンゴ市場の約17％にあたる4,800万ブッシェル以上と予想されている。トップ5品種にはこのほか、レッドデリシャス（12.3％）、グラニースミス（10％）、ハニークリスプ（9.8％）及びふじ（9.4％）がランクインしている。

同協会の数字は、ピンクレディー/クリップスピンクとコズミッククリスプの生産の増加を示している。ふじ、ローマ、その他の品種は、2019-20年度から生産量が横ばいである。ガラとレッドデリシャスは減少した。ハニークリスプは、最近5年間では増加傾向にあるが、前年比では減少した。

「ハニークリスプの生産はまだ堅調だが、今年は不調であった。出荷量がガラやレッドデリシャスに近いため、将来的には生産量が劇的に増加するのではなく、安定するのかも知れない。」

貿易の見通し　農務省の貿易データによると、2023-24年度（7月～6月）の生鮮リンゴの輸出量は4,640万ブッシェルで、2022-23年度の輸出量よりも約1,400万ブッシェル多い。ガーラック氏によると、これは前年比で44％の増加である。

2023-24年度（7月～6月）のリンゴの輸入量は15％、すなわち概ね100万ブッシェル減少した。ガーラック氏は、この輸出の増加と輸入の減少が、4,200万ブッシェル以上の輸出超過をもたらしたと述べた。

ガーラック氏は、この輸出の増加は、堅調な国内供給、国際市場で競争力のある価格設定、及び追い風となる貿易政策によるものだと考えている。

「インドへの輸出は、それまでリンゴに課されていた（追加）関税が撤廃されたおかげで、前年比で約4千％増加した。この重要な市場は、輸出量と輸出額において成長が続くと楽観視している。」

世界の生産量　世界の生産量についてガーラック氏は、国連機関のデータは世界のリンゴ生産量が2022年に初めて50億ブッシェル（約9,500万トン）を超えたことを示しており、これが最新のデータであると述べた。

2022年に中国は25億ブッシェルを生産し、これは世界の総供給量の半分に相当する。トルコは2021年に米国を抜いて世界第2位のリンゴ生産国となり、翌年には差を広げて2億5,300万ブッシェル、つまり世界の生産量の約5%を占めた。

国連機関の統計によると、米国は2億3,200万ブッシュを生産しており、これは世界の生産量の約4.6%に相当する。このほかのリンゴ生産国の上位5カ国では、ポーランドが4.4%、インドが2.7%を占めている。

執筆者：クリスティーナ・ヘリック

（関連記事）米国　2024/25年度のリンゴ生産量予想

Good Fruit Grower　2024年8月15日（最終更新 8月20日）

編集者注：この記事は見通し会議の最終日に発表された最終予測を反映するため8月16日に更新され、その後ワシントン州の詳細について追記するため8月20日に更新された。

米国リンゴ協会の2024年見通し会議の1日目は、2024-25年度の米国のリンゴ生産量見通しの当初案を、昨年に比べて約2%少なく、5年平均を5%上回る約2億8,200万ブッシェルと発表して終了した。同協会の見通し及び分析担当副会長であるクリス・ガーラック氏は、「まだ豊作年だと言える」と述べた。

ガーラック氏は8月15～16日にシカゴで開催されたこの会議で、2024-25年度の収穫物の出荷額は33億ドル以上であり、大部分が生鮮市場向けから得られると述べた。

最初の見通し

最初の推定値は、米国農務省と米国リンゴ協会のデータに基づいている。同協会のメンバーは、地域ごとの会議でさらに数値を精査し、最終的な見通しは会議の最後に発表される。

州ごとに見ると、ワシントン州の出荷量は2023-24年度に比べて1%減となる約1億7,900万ブッシェルで、引き続き米国最大の生産州であると推定される。ちなみに、米国リンゴ協会は青果用と加工用の合計出荷量を1ブッシェル＝42ポンドのブッシェル単位で推定するが、ワシントン州果樹協会は今月これまでに、ワシントン州の生鮮市場向け出荷量を1億2,400万箱（40ポンド/箱）と推定している。

米国リンゴ協会によると、ニューヨーク州は前年比4%増の約3,100万ブッシェルで、2位の座を取り戻すと予測される。直近2年連続で記録的な年を迎えたミシガン州は、10%減の約2,900万ブッシェルと予想される。ペンシルベニア州は7.8%減の1,210万ブッシェル、カリフォルニア州は4.2%減の約550万ブッシェル、バージニア州は4.3%増の520万ブッシェルを生産すると見込まれる。リンゴ産地上位7州の最後に、オレゴン州は5.4%減の360万ブッシェルと見込まれる。（品種別及び他国の推計値は省略しました。）

最終見通し

米国リンゴ協会は、2024-25年度の米国のリンゴ出荷量について、昨年と比較して10.1%減の2億6千万ブッシェルを最終見通しとした。

これは、見通し会議の初日に示された最初の見通しと比べてかなり少ない。主に米国農務省の推定値に基づく最初の予測が示された後、米国リンゴ協会のメンバー達は集まり、現在の生育条件について話し合い、より最新の推定値を策定した。同協会のガーラック氏によると、同協会としての最終的な予測は、これらの話し合いに基づいて農務省の数値を調整したものである。

全国的な推定値が小さい主な原因はワシントン州である。同協会は、ワシントン州の見通しを1億5,500万ブッシェルに引き下げた。残りの上位生産州については、ニューヨーク州の最終的な推定値は3,100万ブッシェル、ミシガン州3,050万ブッシェル、ペンシルベニア州1,150万ブッシェル、カリフォルニア州550万ブッシェル、バージニア州480万ブッシェル、オレゴン州360万ブッシェルとなった。

執筆者：マット・ミルコビッチ

168. ブラジル　供給不足がオレンジ果汁の価格を押し上げる

FreshPlaza　2024年8月19日

ブラジルでは2024/25年度産のオレンジが収穫される中、主要な加工業者は皆、積極的に果実を処理している。しかし、来年度（2025/26年度）産の果実が入手できるようになる前に需要が供給を上回る可能性があると見られるため、市場筋は今後シーズン中に課題が発生すると予想している。エクスパナ（Expana）社のブラジル産オレンジ果汁指標価格（EBP）は、7月31日に前年より74%高い6,780ドル/トンFCA EU（EU内指定場所渡し価格）を記録したが、それ以来、多くの加工業者が濃縮オレンジ果汁を約7千ドル/トンで提供していると報告されている。

主産地で進行中の乾燥した天候とカンキツグリーニング病は、果実の成熟に悪影響を及ぼし、全体的な収量に対する懸念が高まっている。市場関係者らは、オレンジの総収穫量が、Fundecitrus（柑橘類生産防衛基金）による歴史的に低い予測である2億3,238万箱（これは1988/89年度以来の最低生産量となる）をさらに下回る可能性があると警告している。

市場筋によると、小売価格がある程度まで上昇すると、需要が減少してそれ以上の価格上昇が妨げられるとの予想もある。市場関係者らは、需要が既に前年比で20%も減少したと報告している。一方、未だ（値上がり前の）低い価格の契約を履行中のスーパーマーケットは、今のところ何とか小売価格を抑え込んでいる。市場関係者らは、購入コストの高い2024/25年度産果実がスーパーマーケットの棚に届き始めていることから、小売価格の上昇につながる可能性があり、状況が変化すると予想している。

出典: mintecglobal.com

（関連記事）ブラジル　7月のオレンジ果汁輸出が減少

Cepea　2024年8月16日

セペア*、2024年8月16日 - オレンジ果汁の2024/25輸出年度（2024年7月～2025年6月）が7月に始まり、2023/24年度に減速していた出荷は引き続きゆっくりとしたペースが続いている。ブラジルでは、サンパウロ州とトリアングロミネイロ地区（ミナイス州の三角地帯）でのオレンジ生産量が少ないことが確定しており、供給が限られることから、この状況はすでに予想されていた。同時に、ブラジルの7月の生鮮オレンジ及びタンジェリンの輸入は増加した。（*セペア（Cepea）は、サンパウロ大学応用経済高等研究センター）

オレンジ果汁の輸出 - Comex Stat（ブラジルの貿易統計）によると、ブラジルは7月に、2023年の同月と比較して38%減となる5万3,400トン（濃縮果汁換算）のオレンジ果汁を出荷した。供給が限られているため、価格が押し上げられた。その結果、7月の輸出額は合計1億9,890万米ドルで、前年7月と比較して9%増加した。

そのうち、非濃縮（NFC）オレンジ果汁の輸出量は16万4,200トン、輸出額は9,645万米ドルで、前年同月比でそれぞれ3%及び55%増加した。冷凍濃縮オレンジ果汁（FCOJ）の輸出量は2万3,600トン（59%減）で、輸出額は前年比15%減の1億240万米ドルであった。

生鮮柑橘類の輸入 - 生鮮オレンジの輸入量は、国内産果実の供給量の不足と価格の高騰に後押しされ、記録的な水準に達した。Comex Statのデータによると、1月から7月までの輸入量は前年比87%増の3万4,800トンで、輸入額は前年比72%増の2,470万米ドルに達した。タンジェリンについては、1月から7月までの輸入量は前年比96%増の1万4,500トンで、輸入額は89%増の1,565万米ドルであった。

国内市場 - Cepeaが調査対象とする柑橘類の価格は、すべての品種で供給が限られるという予想に支えられて、8月も上昇を続ける可能性がある。この状況は、オレンジ出荷シーズンの最盛期においても確認できる可能性がある。

柑橘類地帯ではオレンジの収穫が順調に進んでいるが、収穫物の大部分は果汁業者に割り当てられている。工場は引き続き高い価格で原材料を購入しており、通常は生鮮市場に出荷している多くの生産者が加工業者にオレンジを割り当てるようになっている。このため、暖冬による需要低迷にもかかわらず、生鮮果実の価格は下がらなかった。

169. トルコ　リンゴの生産量が減少　レッドデリシャスは入手しにくく

FreshPlaza　2024年8月19日

トルコのリンゴの収穫が始まり気象条件は良好に見えるが、トルコの果実輸出業者デミルフレッシュフルーツ社のオーナーであるアルパー・ケリム氏は、間違いなく入手しにくくなる品種が1つあると言う(以下「 」は同氏の発言)。「トルコのリンゴの収穫が始まった。最初の収穫はガラ品種で、これまでの気象条件は良好だ。リンゴの総生産量は、昨年に比べて最大で10%減少し、特にレッドデリシャスは入手しにくくなるだろう。」

同社は主にインドに輸出しているため、昨シーズンの物流事情は悲惨であった。ケリム氏は、スエズ運河経由の物流を維持するオプションを提供する船会社があることを喜んでいる。「弊社の主な市場はアジア諸国であり、最も出荷額の多い輸出先はインドである。紅海危機は続いているが、いくつかの新しい船会社がスエズ運河を通過する新しい選択肢を提供し始めた。運賃は少し高いが、運ぶのは傷みやすい青果物であり、低コストで低品質のリンゴを届ける訳にはいかないので、弊社ではそれらの会社を使用したいと思う。」

前回のリンゴシーズンが同氏にとってどれほど酷かったかを過小に言うことはできない。同氏は、それはこの10年間で最悪の年だったと話す。「昨年はすべての関係者にとって大惨事だった。特に我々のように大量に出荷する輸出業者にとっては、輸送時間が長くなり、輸送に関連するコストも増加したため酷かった。誰もが手に入るものは何でも出荷し始めるほどのパニックに陥り、その結果、市場に多くのリンゴが溢れたため、完全に崩壊した輸出先もあった。正直なところ、過去10年間で最悪のシーズンであった。」

ケリム氏は、同社が今シーズン注目する市場はインドだけではないと言う。「インドには非常に優秀で貴重なパートナーや友人達がおり、弊社は彼らとの長期的なビジネスを望んでいるため、主な市場は引き続きインドである。インド以外では、湾岸諸国や極東アジア諸国に輸出するので、これらの国々にも注目していく。」

インドでは天候に恵まれず収穫の遅れや被害が出ているため、今シーズンはトルコ産のリンゴの需要が増える可能性がある。「インドの悪天候は我々に影響を与えるであろうが、リンゴ産地は主にインドの北部にあり、国内の交通に課題があるため国内産の農産物は非常に少量しか南部に到達しない。我々にとっても紅海の問題により輸送時間が大幅に長くなっており、インドで我々のリンゴの魅力をできる限り高めるため、主に南部の港に焦点を当てていく。」

執筆者: ニック・ピーターズ　（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

170. 南アフリカ　EUの柑橘類規制をめぐるWTO紛争に突入

FreshPlaza　2024年8月19日

南アフリカは、同国の柑橘類輸出を制限する措置をめぐって、世界貿易機関（WTO）で欧州連合（EU）との紛争を開始した。この論争は、カンキツ黒星病とフォールスコドリングモスの被害を緩和するためのEUの措置を、南アフリカが「非科学的で差別的」と見なしていることから生じている。同国は、カンキツ黒星病は果実の外観にのみ影響し品質には影響しないことを示唆することにより、この真菌性病害と害虫に対処することを目的としたこれらの措置は、柑橘類の輸出に不当な罰則を科していると主張している。

南アフリカの懸念に応えて、南アフリカ産柑橘類に対するEUの輸入規制について審査するためのWTOパネルが設置された。欧州委員会のオロフ・ギル報道官は、この展開は紛争解決のための南アフリカによる正式な要請を受けたものであると発表した。7月26日に開催された紛争解決機関（DSB）の会合でこのプロセスが正式に開始され、次の段階ではパネリストの選出等を行う。

南アフリカ政府は、その立場に自信を表明しており、不利な決定に対する上訴を含めすべての結果に備えている。南アフリカ産柑橘類のEUへの大量輸出を背景とするこの紛争は、両者間の広範な貿易摩擦を浮き彫りにしている。EUの措置が認められれば南アフリカの柑橘類業界は年間20億ランド（約160億円）のコストに直面する可能性があり、この紛争の解決は世界第2位の柑橘類輸出国である同国にとって大きな経済的影響をもたらす。

出典: businesstech.co.za

171. 中国　判決によりゼスプリが知的財産保護を前進

FreshPlaza　2024年8月19日

上海の裁判所が知的財産権侵害で3人に判決

世界最大のキウイフルーツ販売会社であるゼスプリ・インターナショナルは最近、中国における知的財産権の保護において進展を遂げた。上海の裁判所は、ゼスプリの知的財産権を侵害したとして、3人に3年9カ月の刑期を言い渡した。さらに、各被告には55万人民元（7万6,830米ドル）の罰金が科された。

有罪判決を受けた当事者達は、四川省浦江（プージャン）県で栽培されたキウイフルーツの購入に関与し、さらにゼスプリの登録商標のラベルとパッケージを偽造した。偽造品はその後オンラインストアを通じて販売された。販売された果実の数は65万～85万個で、売上げは約320万人民元（44万7千米ドル）であった。

ゼスプリチャイナ社のマイケル・ジャン社長は、裁判所の判決は、偽造によるゼスプリの商標と知的財産の不正使用に対する明確な姿勢を示しているとして、中国の消費者の利益を保護する上での重要性を強調した。同社の広報担当副社長であるアイバン・キンセラ氏は、上海の裁判所の判決に満足の意を表し、同様の侵害に対する抑止力となる可能性を指摘した。

偽造行為に対応して、マウントマウンガヌイ地区（ニュージーランドのタウランガ市内）に拠点を置くゼスプリは、偽造ラベルの製造と配布に責任を有する事業者に対する法的措置を開始した。また、同社は中国でのキウイフルーツ品種の無許可栽培と販売についても対処しており、中国国内にはゼスプリのキウイフルーツ品種の栽培を正式に許可された生産者はいないと指摘した。それにもかかわらず、ゼスプリ・サンゴールドキウイフルーツの中国での無許可栽培面積は約8,387ヘクタールに及ぶと推定されており、その生産量はゼスプリの中国への総輸出量に匹敵する。

出典：yicaiglobal.com

172. 世界の主要熱帯果実の輸出は2023年に約8%増加

FreshPlaza　2024年8月20日

国連食糧農業機関（FAO）は新しいレポート「主要熱帯果実市場レビュー」を発行した。これは、ローマに拠点を置くFAOの「責任あるグローバルバリューチェーン、市場及び貿易部門チーム」によって作成された。

主要熱帯果実の世界の輸出額は、2023年に約8%増加し、物価調整後の2014～2016年ドルベースでほぼ108億米ドルに達し、これまでの最高水準を記録した。貿易の主な推進力は、アボカドの世界的な供給量の急増をはじめとして、主要な熱帯果実の大部分について主な生産地域で出荷量が増加したことと、主要な輸入市場の需要が堅調なことであった。

品目別の動向:

- 世界のマンゴー、マンゴスチン、グアバの輸出量は5.2%増加し、240万トンとなった。
- 世界のパイナップルの輸出量は3.9%増加し、320万トンとなった。
- 世界のアボカドの輸出量は10.6%増加し、280万トンとなった。
- 世界のパパイヤの輸出量は2.6パーセント減少し、37万トンとなった。

世界レベルの供給状況が全体的に好調であるにもかかわらず、悪天候や植物病害虫の蔓延をめぐる懸念事項が、パパイヤ栽培をはじめとして一部の地域や一部のケースで生産者に引き続き悪影響を及ぼした。世界的な輸入需要が相対的に強いため、指標となる世界平均の輸出単価は全体的に上昇する傾向を示したが、アボカドは例外で2023年の供給量の急速な増加により単価が低下した。

レポート全文はこちら

出典: fao.org

173. 米国の果実輸出　リンゴが大幅に増加

The Packer　2024年8月20日

6月30日までの1年間の米国の果実・野菜輸出額は、多くの主要品目で増加した。2023年7月～2024年6月の期間に、リンゴ、ベリー類、オレンジ類の輸出額は増加し、ジャガイモとレタスは減少した。

米国農務省によると、2023年の豊作に支えられ、米国のこの1年間のリンゴ輸出額は34%増加して10億6千万ドルとなった。最も輸出額の多い青果物は、リンゴを筆頭に、ベリー類、オレンジ及びタンジェリン、ブドウ、レタスが続いた。以下は、主要品目の2023年7月～2024年6月の輸出額と対前年伸び率である。

- リンゴ － 10億6千万ドル、34%増　（翻訳では果実的野菜以外の野菜は省略しました。）
- ベリー類 － 8億3,740万ドル、14%増
- オレンジ及びタンジェリン － 6億3,070万ドル、7%増
- ブドウ － 6億120万ドル、5%減
- サクランボ － 5億1,170万ドル、19%増
- メロン － 1億9,120万ドル、6%増
- モモ － 1億6,120万ドル、21%増
- ナシ － 1億5,790万ドル、11%増
- レモン及びライム － 1億4,230万ドル、4%増

以下は、2023年7月～2024年6月の米国産生鮮果実の主要輸出市場別の輸出額と対前年伸び率である。

- カナダ － 17億3千万ドル、2%増
- メキシコ － 9億3,170万ドル、27%増
- 韓国 － 3億9,960万ドル、34%増
- 台湾 － 2億3,720万ドル、28%増
- 日本 － 2億2,510万ドル、11%増
- 香港 － 1億1,380万ドル、5%増
- ベトナム － 1億1,370万ドル、10%増　（以下、野菜の国別輸出額は省略しました。）

執筆者：トム・カースト

（関連記事）米国　有機青果物輸出のトップはリンゴ

The Packer　2024年8月22日

リンゴが米国の有機農産物輸出のトップであることが、米国農務省の貿易データで明らかになった。2023年7月～2024年6月の1年間の米国の有機リンゴ輸出額は1億7,190万ドルで、1億1,610万ドルであった前年同期から48%増加した。米国農務省によると、このほかレタス、ナシ、ブドウ、イチゴが、この期間に輸出された有機青果物の上位5品目を占めている。以下は、2023年7月～2024年6月の主要有機青果物の輸出額及び前年同期からの変化率である。（翻訳では果実的野菜以外の野菜は省略しました。）

- リンゴ － 1億7,190万ドル、48%増
- ナシ － 4,590万ドル、28%増
- ブドウ － 4,210万ドル、15%減
- イチゴ － 3,940万ドル、6%減
- サクランボ － 3,630万ドル、39%増
- ブルーベリー － 2,090万ドル、1%増
- モモ/ネクタリン － 1,830万ドル、24%増
- ナツメヤシの実 － 1,390万ドル、249%増
- オレンジ － 1,120万ドル、56%増
- レモン － 1,100万ドル、2%増
- グレープフルーツ － 310万ドル、15%増
- スイカ － 150万ドル、41%減

執筆者：トム・カースト

174. オーストラリア　タスマニア産のリンゴが台湾市場へ

FreshPlaza　2024年8月22日

先週、タスマニア州産の「タイガーふじリンゴ」の2つ目のコンテナが台北に到着した。リンゴは地元の小売店を通じて販売される。これは、生産者であるスコットブラザーズ社及びピナクルファインフーズ社と、よく知られた果実輸出業者であるハンセンオーチャーズ社の共同事業の一環である。

タスマニア州果実生産者協会（Fruit Growers Tasmania）のピーター・コーニッシュCEOは、「現在、リンゴのビジネスは非常に困難であるが、タスマニア州の果実生産者達はいつものように彼らの創意工夫と根気強さを活かして、新しい販売経路を引き続き見つけ出していく」と述べた。

タイガーふじは、スコットブラザーズ社が所有するブランドで、これまでにタスマニア州で約10年間栽培されている優れた生食用リンゴである。この品種はタスマニア州の涼しい温帯気候でよく育ち、果実が樹上に長く留まるため、風味、サイズ、着色を十分に高めることができる。温帯気候のため、タスマニア州産のリンゴは特に保存性が高く、輸出に最適である。

スコットブラザーズ社とピナクルファインフーズ社は今シーズン、高品質で大玉の果実を十分に確保するため、台湾市場に輸出するリンゴを共同で供給することとした。最初のコンテナは7月にヒューオンバレー地区のスコットブラザーズ社の農場から輸出され、2番目のコンテナはテイマーバレー地区のピナクルファインフーズ社の農場から輸出された。

台湾の中秋節商戦の一環としてタイガーふじリンゴを発売するために、ハンセンオーチャーズ社は店舗内での販売キャンペーンを手配した。販促活動として、リンゴの陳列、店内での試食、地元のインフルエンサーによるソーシャルメディアへの投稿等を行う。

タスマニア州果実生産者協会は、オーストラリア園芸革新機構（Hort Innovation）が運営するリンゴの国際共同プロモーション事業からの助成を受けて、追加の販促支援を提供した。

2つ目のコンテナの到着に合わせて、スコットブラザーズ社のアンドリュー・スコット氏が台北の複数の小売店を訪れ、小売業者や消費者とこのリンゴについて話し合った。

コーニッシュ氏は、「我々のリンゴには大きな関心が寄せられており、他のリンゴと比較して、我々のリンゴがどれほど優れているかに満足している。我々のリンゴは見た目も味も新鮮で、歯ごたえも良い」としつつ、「台湾市場で成功を収めるための唯一の障壁は、オーストラリア産のリンゴに対する20%の輸入関税だと思う。これはニュージーランドなど多くの競合国が直面していない問題であり、コスト面で大変不利である」と述べた。

台湾は毎年約13万5千トンのリンゴを輸入している。これらは主に米国、ニュージーランド、チリ、日本から輸入されている。タスマニア州は、害虫がいない地域とされているため台湾への輸出アクセスがあり、これは植物検疫上の処理を行う必要がないということである。

コーニッシュ氏は最後に、「これは生産者の協力の素晴らしい例であり、常に販路を広げているこれらの生産者に敬意を表する。業界団体として、タスマニア州産の果実とその優れた品質と味を宣伝することにより、彼らの取り組みを支援し続ける」と述べた。

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

175. 韓国　果実・野菜の価格上昇で摂取量が減少

AJU PRESS　2024年8月22日

ソウル、8月22日（AJU PRESS） － 果実と野菜の価格上昇が韓国人の食生活に打撃を与えていることが、調査で明らかになった。2012年から2021年の間に約1万3千人を調べた長期分析に基づくレポートによると、ソウル市民の1日当たりの平均果実消費量は10年間で182.4グラムから121.8グラムに33.2%減少した。このレポートは、市立ソウル研究院が木曜日に発表した。

野菜の消費量も同じ期間に278.1グラムから244.1グラムに減少した。果実と野菜を1日当たり500グラム未満しか食べない人の割合は、61.4%から71.8%に増加した。

記録的な熱波や洪水などの気候関連の混乱よる供給不足が引き起こした果実 － 特にリンゴとナシ － の価格上昇が摂取量の下落の原因とされた。

世界的な投資銀行である野村證券によると、韓国の果実価格は今年の第1四半期に36.9%も急騰し、主要国の中で最も高い上昇率を示した。野菜の価格も10.7%と大幅に上昇した。ちなみにイタリアでは9.3%、英国では7.3%であった。

他方、多くの人が肉に目を向け、1日当たりの平均消費量は110グラムから149.1グラムに増加した。また、忙しいソウル市民の約31.6%が朝食を抜いていることがわかり、10年前の21.1%から増加した。年代別では、20代の過半数が朝食をとらず、次いで30代及び40代（39.3%）、10代（38.3%）となっている。これらの食生活の変化を反映して、慢性疾患を持つ人々の割合は、高血圧で23.6%から26.1%に、糖尿病で7.9%から11.8%にそれぞれ増加した。

ソウル研究院は、「果実や野菜の消費を奨励しながら、健康的な食生活を促進する政策を考え出す必要がある」としている。

執筆者：イム・ユンソ

176. 米国　RNAベースのカンキツグリーニング病対策

FreshPlaza　2024年8月22日

「黄龍病」としても知られるカンキツグリーニング病は、既知の治療法がなく、感染した果樹は数年以内に枯死するため、柑橘類の栽培にとって恐るべき課題である。ミカンキジラミによって蔓延するこの病害に感染した果実は、色が悪く、形が非対称で、苦味があるため、果汁用を除いて販売に適さない。現在、ジョージア州、フロリダ州、プエルトリコ、米領バージン諸島で影響を及ぼしているほか、アラバマ州、カリフォルニア州、ルイジアナ州、サウスカロライナ州、テキサス州の一部で感染が見られる。この病気は世界的に柑橘類の生産量を著しく減少させており、フロリダ州では過去の最盛期から2023年までに80%減少した。

これに対し、メリーランド州のアグリテック企業であるシルベックバイオロジクス社は、カンキツグリーニング病に対抗するためのRNAベースの解決法を開発している。本製品は、ホウレンソウ由来の天然抗菌ペプチドをウイルスベクターを用いて送り込み、果樹や果実の遺伝子構成を変えることなく収量損失を抑える効果が期待されることがほ場試験で示されており、米国環境保護庁（EPA）の農薬規制改善法に基づく登録手続きで科学的審査段階まで進んでいる。この取組みは、サザンガーデンズシトラス社、フロリダ大学、テキサスA&M農業生命研究所との共同事業であり、カンキツグリーニング病との戦いにおける重要な一歩である。

柑橘類研究開発財団からの支援と商業化への期待は、カンキツグリーニング病に取組むという業界の決意を浮き彫りにしている。フロリダ州での使用が米国農務省により承認され、EPAの審査プロセスが進行中であることから、この革新的な技術が柑橘類の生産に対するこの病気の影響を緩和する可能性について期待が高まっている。

出典: agdaily.com

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

177. 米国フロリダ大学　カンキツグリーニング病対策でメッシュバッグが有効

FreshPlaza　2024年8月23日

フロリダ大学の研究　メッシュバッグがカンキツグリーニング病から柑橘類を保護し健康を改善する可能性も

高速道路沿いの丘に白い覆いを掛けられた小さな木を見たことがあるかも知れない。それらの覆いはミカンキジラミ、ひいてはカンキツグリーニング病から柑橘類を保護している。フロリダ大学の新しい研究によると、個別の保護カバー（IPC）の下で育てられた果樹は、カバーを取り除いた後も数年間よく育つ。

生産者は通常2～3年後にIPCを果樹から取り除く。果樹はその後、致命的なカンキツグリーニング病を感染させる可能性があるミカンキジラミに曝される。しかし、この研究は、果樹が引き続き健全であることを示した。

フロリダ大学食品農業科学研究所（UF/IFAS）の園芸学の准教授であるフェルナンド・アルフェレス氏は、「IPCを取り除いてから3年間果樹を追跡したところ、果樹は感染しているにもかかわらず、果実の収量と品質に明らかな改善が見られた。カバーが取り除かれた後、時間が経過すると果樹が感染するため果実の品質が低下するが、それでもカバーの無い果樹の果実よりも品質が優れていることは言及する価値がある」と話す。この場合の高品質は、果実の糖度が高い（糖分量の測定値が大きい）ことを意味する。

アルフェレス氏とその同僚達は、一度IPCによって保護された果樹は、植栽後30カ月間、より高品質な果実を生産することも発見した。果実が非常に高品質であるため、生産者は植えてから2年半後には経済的な利益を得ることができる。同研究所の一部であるフロリダ州南西部研究教育センターの教員であるアルフェレス氏は、「保護なしで果樹を植えた場合は、こうはならない」と述べた。

これには2つの理由がある。まず、IPCによって保護されていない果樹が、植栽から2年半後に果実を実らせる可能性は非常に低いと同氏は言う。さらに、実をつけても2年以上感染しているため、品質が悪くなる。

アルフェレス氏がIPCをテストして、それが機能することを示すしっかりとした科学的データを提供した後、約1千人の柑橘類生産者が7年間、IPCを使用して果樹からミカンキジラミを遠ざけてきた。これらの生産者は、フロリダ州南西部及び中部の柑橘類生産者のかなりの部分を代表していると同氏は言う。

過去20年間にわたり、フロリダ州の柑橘類生産者達は、黄龍病（HLB）としても知られるカンキツグリーニング病の解決策を探し求めてきた。この病害は同州の柑橘類に多くの被害を与えたが、UF/IFASの科学者達は、果樹産業を存続させ、健全に保つために多様な方法を試みている。現在のところ、IPCを使用することがこの病害から若い果樹を守る最善の方法である。

出典: blogs.ifas.ufl.edu

178. トルコの核果類事情（サクランボ）

米国農務省GAINレポート　2024年8月26日

これは米国農務省海外農業局アンカラ事務所（トルコ）が作成した「核果類年次報告書」のサクランボ関係部分（一部省略）を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

要旨

2024/25販売年度（年度）のトルコのサクランボ生産量は、過去最高であった昨年よりは少ないものの、それでも記録上3番目に多い年になるものと予測される。生産量が減少するにもかかわらず、生産者が国内市場よりも収益性が高い海外での販売を優先するため、サクランボの輸出量はこれまでの最高に達すると予測される。モモとネクタリンの生産量及び輸出量は、大規模な生産者が収益性の高い輸出を引き続き推進するため、記録的な水準に達する見込みである。この記録的な年の中で、国内市場にしか販売できない一部の小規模な核果類生産者は、投入コスト（人件費、燃料代、電気代等）が果実の出荷価格よりも速いペースで増大しているため、収支を合わせるのに苦労している。

＜サクランボ（甘果オウトウ及び酸果オウトウ）＞

栽培面積

2024/25年度のサクランボの栽培面積は、甘果オウトウと酸果オウトウを合わせて前年よりわずかに多い9万9,300ヘクタールと予測される。この面積は、8万ヘクタールの甘果オウトウと1万9,300ヘクタールの酸果オウトウで構成される。過去10年間、サクランボの総栽培面積は約10万ヘクタールで推移している。

この10年間、栽培面積はほぼ一定であったが、生産者が事業を近代化するにつれて、甘果オウトウの結果樹本数は増加した（密植化）。トルコの統計によると、甘果オウトウの結果樹本数は2019年の2,100万本から、2024年には約2,700万本に増加したが、酸果オウトウの結果樹本数は概ね横ばいである。

トルコには100品種以上の甘果オウトウがある。最も人気のある品種は、国内では0900ジラート（0900 Ziraat）として知られているナポレオンである。これは果粒が大きく、ジューシーでハート型のサクランボで、他の品種よりも貯蔵性が高いため、国内外の長距離輸送に最適である。過去10年間で、トルコの科学者たちは、より多収性で高品質のナポレオン品種を開発した。生産者達は、古いナポレオン品種を徐々に新しい改良型のナポレオン品種に置き換えてきた。ナポレオンに加えて、生産者は、スイートハート、セレステ、アーリーローリー、コルディア、レジーナ、サム、サンバースト等の他の多収性甘果オウトウ品種の試験も始めている。

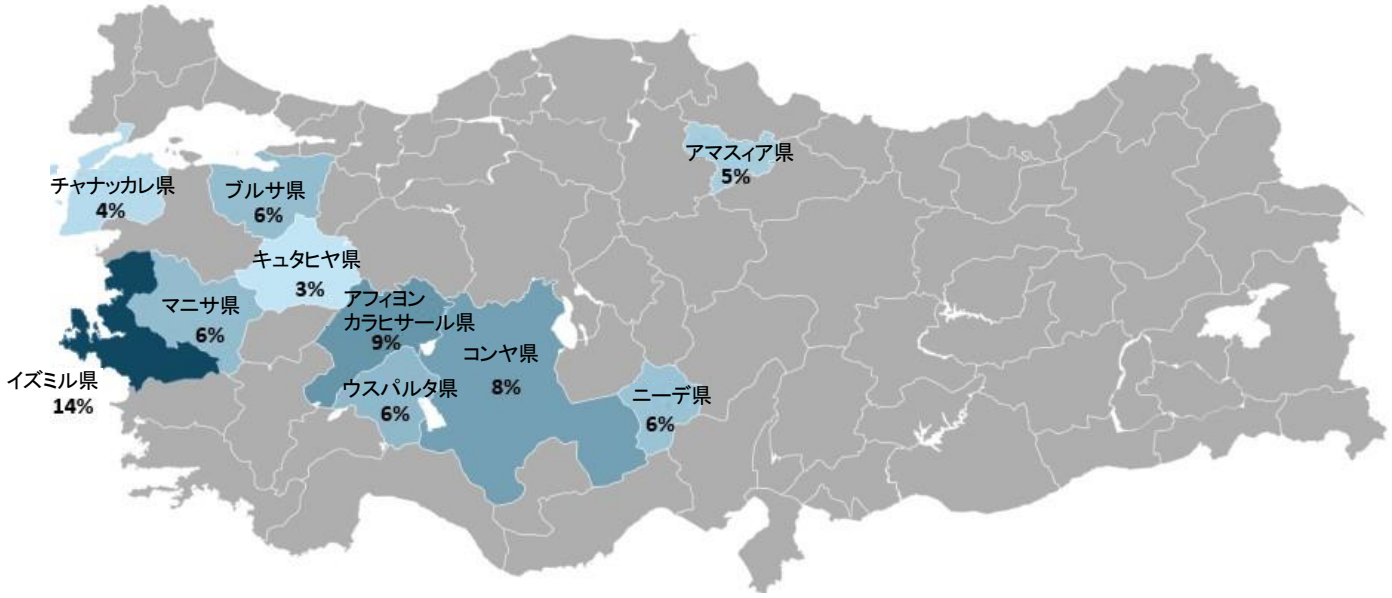
生産

2024/25年度のサクランボの総生産量は、昨年の記録的な生産量から約5%の減少となる90万トンと予測される。これは、今シーズンの生育条件が昨年ほど理想的ではなかったためである。生産量は減少すると予測されるものの、それでも史上3番目に多いと予測される。予想総生産量は、甘果オウトウ70万トンと酸果オウトウ20万トンから成る。当事務所の予測は、現地調査やサクランボ生産者らとの対話に基づいており、降雨のタイミングと量は適切であり、春には霜害がなかったことが明らかになった。

トルコ統計庁（TurkStat）は、2024/25年度のサクランボの総生産量を98万8千トン、そのうち77万1千トンが甘果オウトウで残りの21万7千トンが酸果オウトウであると予測している。トルコ統計庁の予測が当事務所の数値と異なる理由の1つは、前者が収穫が始まったばかりの5月上旬に予測を行ったことである。

サクランボの生産は主にトルコの国土の西側に集中している。沿岸部のイズミル県と内陸のアフィヨンカラヒサール県は、それぞれ甘果オウトウ及び酸果オウトウの主要な生産県である（図1、2（省略））。トルコのサクランボの出荷時期は5月に始まり、8月上旬まで続く。サクランボの正確な出荷時期は地域や天候条件によって異なるが、一般的にサクランボの収穫の最盛期は6月に始まる。サクランボの収穫は、5月下旬にエーゲ海沿岸のイズミル県で始まり、その後6月と7月にはアフィヨンカラヒサール、コンヤ両県等の内陸部に移動する。

図1 トルコの主要甘果オウトウ産地

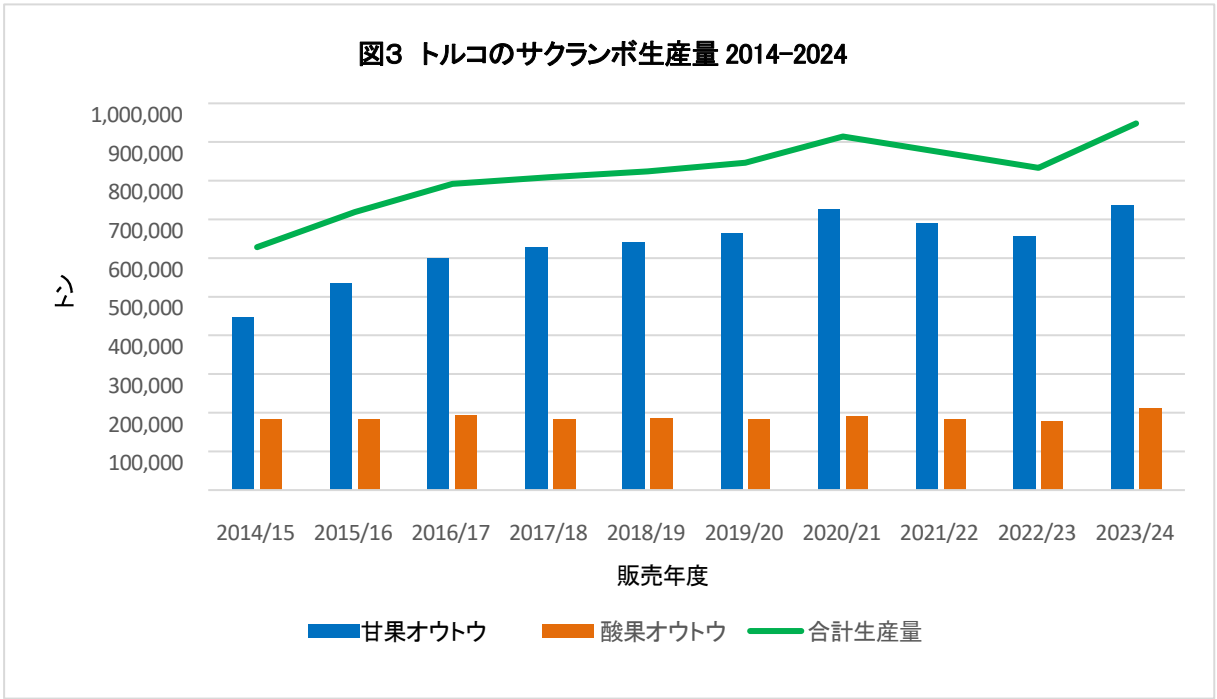


出典: TurkStat, 2024

労働力、エネルギー、肥料等の投入コストは、トルコの継続的なインフレ状態により上昇し続けている。労働力は投入コスト全体の中で最大のシェアを占めており、1日当たりおよそ1千TL(トルコリラ　1TL＝29.71ドル)の費用がかかる。このようなコスト高の中で、一部の生産者、特に小規模な事業者は、収益性を維持するのに苦労している。

1kgの甘果オウトウを生産するのに57TLの費用がかかったが、50TL/kgでしか販売することができず、損失を出したと報告している生産者もいる。これらの損失の結果として、一部の小規模な生産者は、より収益性の高い農産物の栽培に切り替えることを検討している。それとは対照的に、輸出ができる大規模生産者は、生産コストを超える価格でサクランボを販売して利益を得ることができるため、裕福であると報告されている。

図3 トルコのサクランボ生産量 2014-2024



出典: TurkStat, 2024

近年の旺盛な輸出需要がサクランボ生産量の増加の原動力となっており、輸出量は過去10年間で65%増加した(図4)。この増加は主に甘果オウトウの生産拡大によるもので、そのかなりの部分が輸出されている。一方、主にトルコ国内で果汁飲料やジャムの製造に使用される酸果オウトウの生産量は安定している。

トルコは伝統的なサクランボ生産から、最新の多収性品種を用い最新の技術を駆使する近代的な密植果樹園の設置等、現代的なサクランボ生産へとゆっくりと移行している。しかし、このような絶え間ない進歩にもかかわらず、サクランボ生産の大部分は家族経営の農場で伝統的な方法で行われている。

消費

2024/25年度の国内のサクランボ消費量は81万トンと予測され、前年に比べて約5万5千トンの減少となる。この減少は、今シーズン予想される生産量の減少と記録的な輸出量に一部起因している。2023/24年度の推定消費量は、同年の生産量の修正を考慮して約86万5千トンに上方修正する。

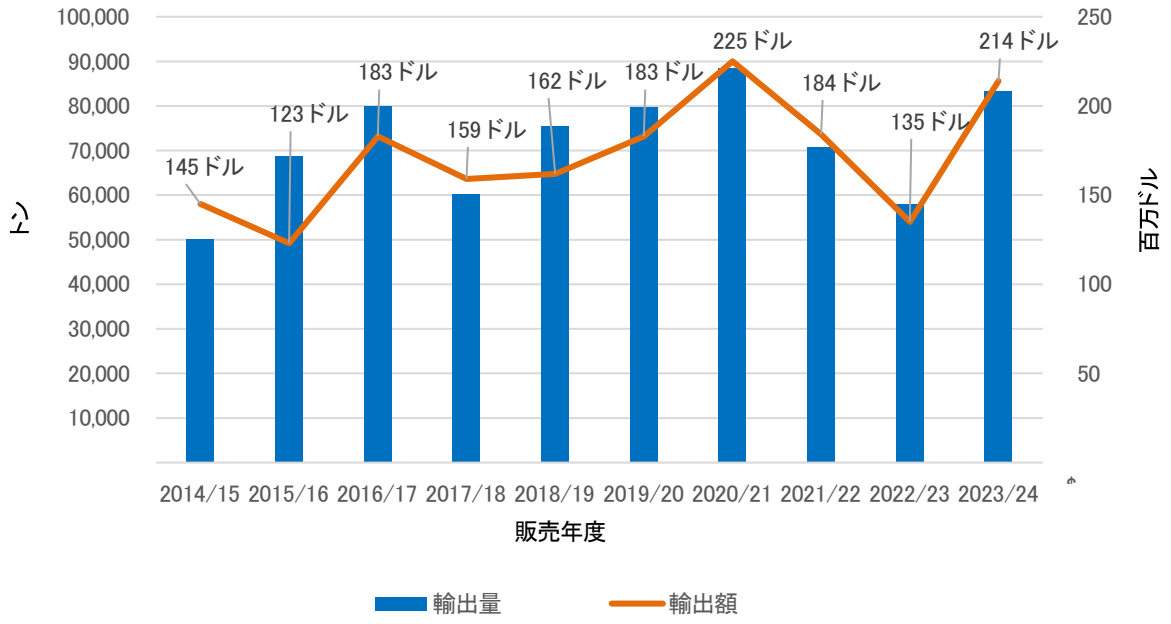
トルコでは100品種以上のサクランボが栽培され、消費されている。甘果オウトウの大部分は生鮮で消費されるが、酸果オウトウの生産量の90%は缶詰、マーマレード、冷凍フルーツ及び果汁飲料の製造に使用される。

2024/25年度の甘果オウトウの農場出荷価格は50TL(1.49ドル)/kg、小売価格は80～150TL(2.38～4.46ドル)/kgの範囲であった。酸果オウトウの小売価格は、90～150TL(2.59～4.46ドル)/kgであった。

貿易

生産量の縮小が予想されるものの、EU市場をはじめとする輸出需要が依然として堅調で、国内での販売よりも収益性が高いため、当事務所は2024/25年度の生鮮サクランボの輸出量は史上最高となる9万トンと予測する。2023/24年度のトルコ産サクランボの輸出先上位3カ国は、ドイツ、ロシア、イラクであった(表1)。

図4 トルコのサクランボの輸出量及び輸出額 2014-2024



出典: Trade Data Monitor, LLC, 2024

表1 トルコの生鮮サクランボ輸出量 2019～2024(トン)					
輸出先国	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24
ドイツ	27,180	25,894	24,558	15,343	26,673
ロシア	25,412	29,788	23,116	25,169	22,638
イラク	10,280	7,243	7,128	7,813	10,131
オーストリア	1,961	3,877	2,194	407	3,583
ブルガリア	0	216	536	246	3,103
イタリア	1,165	2,754	1,154	20	2,443
オランダ	2,546	2,142	2,241	1,117	2,028
ポーランド	59	449	912	220	1,638
ルーマニア	18	127	31	86	1,247
英国	685	1,373	833	122	1,133
その他	11,234	13,649	8,246	7,372	8,835
世界	80,541	87,512	70,949	57,915	83,452

出典: Trade Data Monitor, LLC 2024

マーケティング

エーゲ海地方輸出業者協会によると、トルコの目標は、近い将来に3億ドル相当の甘果オウトウを輸出することである。2023年の輸出総額は約2億1,400万ドルであった。

近年、トルコ産甘果オウトウの国内及び国際的な販売量が大幅に増加している。これらの拡大した販売活動を支えるため、トルコの企業は、より新鮮なサクランボとサクランボ製品を消費者の手に届けるための冷蔵倉庫及び梱包事業に新たな投資を行った。同時に、生産者は輸出市場が求める甘果オウトウの品種を生産しており、多くのトルコ企業がサクランボの輸出に以前よりも精通してきている。

核果類に関する政策

過去10年間で、核果類を生産する大規模な生産者は、安定した需要と政府の継続的な支援により、果樹園を徐々に近代化し、拡大してきた。農林省(MinAF)は、オンラインシステムに登録した農家や生産者に支援金を提供している。支援金は、燃料代と肥料代の一部を賄うのに役立ち、また、国内で栽培される果実の品質を向上させるために生産者が政府認定の苗木を購入することを後押ししている。

農林省は2023年に、人々が自分たちの村に戻り、新しい果樹園に植栽することを奨励するための補助事業を発表した。この事業では、資格要件を満たす生産者は、3万TL(1,667ドル)の補助金に加えて10万TL(5,556ドル)の現金を支給される。詳細については農林省のウェブサイトを参照願いたい。しかし、このような支援にもかかわらず、一部の生産者達は、収支を合わせるにはこれでは不十分だと不満を漏らしている。

トルコのサクランボの生産需給統計

甘果オウトウ・酸果オウトウ(生鮮)	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
販売年度の始まり	2022 年 4 月		2023 年 4 月		2024 年 4 月	
トルコ	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	99,200	99,826	102,000	99,202	0	99,300
収穫面積(ヘクタール)	0	0	0	0	0	0
結果樹本数(千本)	27,800	27,711	28,200	27,431	0	28,000
未結果樹本数(千本)	6,800	6,800	6,700	6,623	0	6,600
果樹総本数(千本)	34,600	34,511	34,900	34,054	0	34,600
商業的生産量(トン)	832,811	832,811	900,000	948,082	0	900,000
非商業的生産量(トン)	0	0	0	0	0	0
生産量合計(トン)	832,811	832,811	900,000	948,082	0	900,000
輸入量(トン)	0	0	20	0	0	0
総供給量(トン)	832,811	832,811	900,020	948,082	0	900,000
国内消費量(トン)	774,911	774,814	825,020	864,804	0	810,000
輸出量(トン)	57,900	57,997	75,000	83,278	0	90,000
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	832,811	832,811	900,020	948,082	0	900,000

公式データには PSD Online Advanced Query からアクセスできる。

179. チリ　今シーズンの日本向けレモン輸出は増加

SimFRUIT　2024年8月26日

フルタスデチリ*柑橘類委員会のモンセラート・バレンスエラ事務局長によると、チリから日本への柑橘類の輸出はレモンが主体である。(＊ チリ果実輸出業者協会(ASOEX)のブランド。対外的に組織名としても使用)

今年の第31週(8月初頭)までに、チリは前年同期比32%増の5万6,324トンのレモンを世界に輸出した。レモン総輸出量の61.9%(3万4,868トン)が米国に輸出され、34.7%(1万9,566トン)がアジア向けで、そのうち1万4,349トンが日本に送られた。一方、ヨーロッパ向けは3.0%(1,678トン)で、中南米諸国には0.4%(212トン)が送られた。

日本はチリ産レモンの2番目の輸出先　バレンスエラ事務局長は、「日本はチリ産生鮮レモンの出荷において、米国に次いで2番目に重要な市場である。2023年の出荷シーズンには、チリの総輸出量の62%を米国が占め、次いで日本が25%、韓国が8%、ヨーロッパが4%であった」と述べた。

シーズン別の比較では、チリから日本へのレモン輸出量は、変動が比較的少ない。2020年と2023年のシーズンを比較すると、2020年の出荷シーズンにチリは9万850トンのレモンを世界に輸出し、このうち米国向けは5万2,942トン、アジア向けは2万8,840トンで、アジアに輸出されたものを市場別に見ると、日本が1万8,306トン、中国が5,509トン、韓国が5,025トンであった。ヨーロッパ向けは8,860トンで、少量が中南米諸国とカナダ向けであった。

一方、2023年の出荷シーズンを見ると、チリは合計6万7,545トンのレモンを世界に出荷し、米国向けが4万1,594トン、アジア向けが2万2,654トン(日本　1万7,028トン、韓国　5,502トン、中国　124トン)であった。ヨーロッパ向けは合計2,978トンで、中南米諸国及びカナダ向けはそれより少なかった。

販売促進キャンペーン　同委員会は、チリ産レモンの主な特徴とその供給状況について知らせることを目的として、日本で毎シーズン販売促進キャンペーンを実施している。この活動は、チリの輸出経験と品質や出荷の一貫性に関する定評に基づいており、またそれに加えて販売促進活動も行っている。

この販売促進キャンペーンは、業界の専門メディア、輸入業者及び小売業界の代表者を対象としたイベントを主体としており、そのイベントを通じて、消費を促進し、輸出の可能性と業界の持続可能性、7月に出荷の最盛期を迎えるチリ産レモンの供給状況、品質及び健康に良い特性を紹介する。イベントではさらに、ストリングスホテル東京インターコンチネンタルのオリビエ・ロドリゲス総料理長が、チリ産レモンを使ったさまざまな料理、飲み物、デザートを紹介し、この柑橘類が使用できる調理法の多様性と汎用性で参加者を驚かせた。

予測：成長は可能だが品質が必須　バレンスエラ事務局長は、「日本は非常に要求の厳しい市場であり、品質と一貫性を維持することが不可欠である。日本のレモン市場は、米国産が41%、チリ産が38%と、主に米国とチリが占めている。オーストラリアと南アフリカはそれぞれ6%及び5%とはるかに少ない。チリは、出荷時に非常に高い品質が維持されている限り、この高いシェアを維持することができる」と述べた。

同氏は、米国は2月から5月末まで日本市場で最大のレモン供給国であり、5月にはその供給は減少し始めると付け加えた。一方チリは、7月から9月までのレモンの強い需要を満たすため、5月中に輸出を開始する。9月にはチリ産の供給が減少し始める

同氏は最後に、「このチリ産レモンの供給期間は、日本市場におけるチリの大きな強みの一つである。また、チリ産レモンは日本の食品の安全性と品質の要件を満たしており、日本市場での確固たる基盤を有しているが、南アフリカ、オーストラリア等南半球の他の輸出国との競争など、いくつかの課題に直面していることを念頭に置く必要がある。それらの国は、今のところ出荷量は少ないが品質は良い」と述べた。

180. ブラジル　サンパウロ州で野火が柑橘類農場に

FreshPlaza　2024年8月26日

ブラジル・サンパウロ州のライムの主産地は、著しい少雨が引き起こした干ばつによる野火に苦しんでいる。一方、同国の他の地域では、ここ数カ月で記録的な雨と洪水が発生している。

ブラジルの輸出業者ジャグラオ社の創業者の一人でCEOのセルジオ・ネグラン氏は、「サンパウロ州は深刻な干ばつに見舞われている。あちこちで火災が発生しており、特にサトウキビ農園で多い。これらはまるで火薬樽だ。火はライムやオレンジなどの他の農園にも広がり、多くの火災を引き起こしている。我々は緊急に雨を必要としている」と話す。

サンパウロ州はライムの主要な産地であり、他の多くの輸出果実も栽培されている。ネグラン氏は、「サンパウロ州では、栽培に必要な雨が降らないためライムがあまりない。同州は最もライムの生産性が高い州であるが、干ばつは生産に影響を及ぼしている。貯水池が干上がり灌漑ができない。北東部では逆に雨が多く、ライムは既に収穫時期を過ぎている」と述べている。

ブラジル国立宇宙研究所（Inpe）のデータによると、2024年1月1日から7月25日までに同州では1,649件の火災が発生し、これは2023年の同時期に報告された数の2倍以上であり、過去14年間で最多である。

長期的な気候変動予測は、同州にとって悪い知らせばかりである － 熱波は将来も続き果樹栽培を脅かす可能性が高い。州の地質研究所と環境保護機関（Cetesb）の研究者達は、同州の一部では気温が2050年までに最大6℃上昇し、熱波が150日以上続く可能性があるとしている。ネグラン氏は、「私の農場は干ばつの影響を受けているが、他の生産者は火事で農場を焼かれた」と述べた。

執筆者: クレイトン・スワート

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

（関連記事）サンパウロ州の野火　柑橘類への影響は最小限の見込み

FreshPlaza　2024年9月3日

Cepeaが報告したとおり、サンパウロ州の最近の野火は中北部地域を中心に様々な柑橘類産地に影響を与えた。しかし、懸念とは逆に、柑橘類の市場入荷量への影響は最小限であると予想される。被害を受けた面積は比較的小さく、土地所有者の迅速な対応は降雨と相まって火災を鎮めるのに役立った。サトウキビ等の他の作物は、より顕著な被害を受けた。

オレンジ市場は今年、限られた供給量と強い加工需要に牽引されて、生食用と加工用の両方で歴史的に高い価格を記録した。8月末までに、オレンジの樹上価格は100レアル（約2,600円）/箱（40.8kg/箱）に達した。一方、8月下旬の寒波により市場での消費者の購買活動は鈍化し、月末までにその傾向はさらに強まった。それにもかかわらず、生鮮市場の相場は、供給不足と加工用の高い契約価格に引き続き支えられた。

出典: Cepea（サンパウロ大学応用経済高等研究センター）

181. 米国カリフォルニア州　出荷の最盛期に向かうブドウ産業

FreshPlaza　2024年8月27日

学校の夏休みが終わり、秋の天候が近づく中、カリフォルニア州の生食用ブドウ産業は、出荷の最盛期に向かって準備している。毎年、収穫量の約65%が9月1日以降に出荷される。

カリフォルニア州生食用ブドウ委員会のキャスリーン・ネイブ会長は、「9月から12月にかけては、80品種近くのブドウが収穫され、販促活動が拡大し、収穫物の大部分がカリフォルニア州産のブドウを愛する世界中の消費者に出荷されるエキサイティングで生産的な時である。秋から初冬にかけてカリフォルニア州のブドウを宣伝する強力な世界的販売促進キャンペーンは、品種の選択と優れた品質、販売促進できるだけの出荷数量と結びついて、強い需要を生み出す」と述べた。

同氏は、米国国内が最大の市場であり、取引先の小売業者からの需要が強い一方で、今年は輸出市場での需要が大幅に増加しており、また米国農務省は今シーズン、(食料バンク事業等による)ブドウの買い入れを増やし、クリスマス近くまで配布することが既に予定されていると指摘した。

作柄に関して同氏は、業界関係者は収穫量を推定するために年に3回集まり、何十年にもわたって高い精度で予測を行っていると言う。同氏は、「秋になると個人的な見解が出回り、カリフォルニア州産のブドウが足りないという話がよく聞かれる。カリフォルニア州の業界の中から出たか外から来たかにかかわらず、こうした個人的なお話はしばしばニュースを装っている」と言い、それらを過度に重視しないことを提唱している。

収穫が12月に入っても続くことから、ネイブ氏は、小売業者は秋から初冬までの間にカリフォルニア州産のブドウをストックする機会があるとして、「カリフォルニア州の食用ブドウ産業は、今後の良好な天候、大きな需要、米国と21の輸出市場で12月中まで予定されている販売促進活動を見据えて動き出している」と述べた。

(関連記事)米国カリフォルニア州　秋の果実をリードするブドウ

The Packer　2024年8月27日

(記事の一部を省略しました。)

カリフォルニア州のブドウ

秋の収穫の中で、カリフォルニア州産のブドウは消費者にとって最高の選択肢であり、州の食品農業局によると、同州の生産額上位10位までの農産物の1つにランクされている。

サンワールドインターナショナル社のジェン・サンチェス販売担当副社長は、米国のブドウの出荷シーズンは、年にもよるが、通常6月にコーチェラバレー地域で始まり、11月頃にサンホアキンバレー地域で終わるとして、「弊社のブドウ品種のうち、ミッドナイトビューティー、オータムクリスプ、スカーロッタシードレス、アドラシードレス、さらに新ブランドのエピッククリスプとアプローズなどが秋に出荷される」と述べた。

サンチェス氏は、カリフォルニア州の暖かく晴れた日中と、コーチェラバレーやサンホアキンバレーのさわやかな涼しい夜は、歯ごたえと甘みのある完璧なブドウを育てるのに最適な条件を提供すると言い、「長い生育期間と夏季の降雨量が少ないことも、理想的な生育条件に貢献している。果粒は自然とサイズが大きくなり、一部の市場で好まれている。ほとんどの果実は米国内で栽培及び販売されるため、最終目的地までの輸送時間が短縮され、鮮度が長持ちする。カリフォルニア州は、サンワールド社が最初に新品種を栽培し、市場に投入する場所の1つでもある」と語った。

フレッシュファームズ社の営業担当者であるショーン・リックス氏は、同社は今シーズン、スイートグローブ、グレートグリーン、アリソン、クリッシー、キャンディハーツなどの厳選された品種に注力しており、出荷量は合計9,400万箱と見込んでいるが、最終的な数値は12月に確定する予定だと言う。同氏は「弊社では、特にスイートグローブ品種に満足している。これは、果粒が特大の緑色ブドウで、自然に大変よく育つ。収穫は7月に開始して8月下旬に終了し、環太平洋地域に大量に輸出されている」と述べた。

秋の品種に関しては、同社は積極的にアリソン品種を植えており、同氏は、これは果粒が自然に特大になる風味豊かな赤ブドウで、全体が赤色によく着色すると述べている。アリソンの収穫は8月下旬で、栽培方法や土壌の質によっては10月まで続くこともある。

サンビューマーケティングインターナショナル社のミッチ・ウェッツェル副社長は、同社は権利を有するブランドや品種、特に種なし赤ブドウのスパークルと種なし緑色ブドウのステラベラで、絶好調の出荷シーズンを迎えているとして、「弊社は、この2つのブドウに対する多くの支持と高い需要を目の当たりにしている。これらはこのクラスのトップに躍り出ているようだ」と述べた。

ブドウの消費

サンチェス氏は、ブドウは、秋に行われるテールゲートイベント(駐車場で車の後部を開けて行うパーティー)、屋外の娯楽行事、またはパーティーを主催した時などに消費者の間でよく使われていると話す。

同氏は、「ブドウは、消費者の活動の中にさわやかで甘く、歯ごたえのある食感を提供しつつ、健康的で、水分補給にもなる。また前菜の盛り合わせの大皿に加えたり、ハロウィーン用にブドウの砂糖漬けを作ったり、子供の弁当箱に詰めたり、あるいは単に健康的なスナックとして楽しんだりするのに最適である」と言う。

フレッシュファームズ社では、特産ブドウのキャンディハート品種が目玉である。リックス氏は、同品種はその非常に甘い風味がユニークであり、特大の果粒が特別で、国内外で人気があると述べている。

サンビューマーケティングインターナショナル社の有機プログラムは、消費者からますます関心を集め、長期化している。ウェッツェル氏は、「弊社として嬉しいことに、引き続き10月と11月の有機販売計画を構築する中で、売上の増加も見られるようである。以前は、ほとんどの人にとって有機ブドウは10月になると減り始めていたが、ここ数年の新しい傾向として10月と11月に非常にうまくいっている」と述べた。

同社のブドウは最初から最後まで有機栽培品であるが、ウェッツェル氏は「小売業者は終盤にはそれほど熱心なように見えなかったが、今では徐々に関心が高まっており、消費者は特に11月の期間、さらには12月に入ってもますます熱心になっている」と語った。

ウェッツェル氏は、「もう一つの傾向は、種無し赤ブドウと種無し緑色ブドウの割合が、バランスがよりよく取れるところにシフトしていることである。弊社では、両方の色の販促が同時に見られることが多くなっている」と付け加えた。

2024年秋の出荷シーズンの見通し

リックス氏は、カリフォルニア州産ブドウの作柄に関するフレッシュファームズ社のニュースリリースで、「今年の熱波は収穫量に影響を与えた。猛暑は、特にフレームやサマーロイヤルのような色の濃いブドウに顕著な影響を及ぼした。これらのブドウは着色が非常に遅く、先週から色づき始めたばかりである。緑色ブドウはわずかに遅れただけで、暑さが和らいだ時に成熟を再開し、現在では昨年より約2週間進んでいる。色の濃いブドウは昨年とほぼ同じペースで成熟している」と述べている。

リックス氏は、同社がブドウの風味、外観、魅力的なパッケージ等のすべての側面をカバーするように戦略を調整したことで、消費者の好みが変化する中で現在の課題を克服し、将来の成功に向けて自らを位置づけることができたと述べ、「これらの好みに合わせることで、可能な限り最高のブドウを市場に届けることができる」としている。

ウェッツェル氏によると、この暑さとそれが秋のブドウシーズンの後半に与える影響について多くの議論がなされてきた。同氏は、「昨年学んだ教訓は、作柄に関係なく、カリフォルニア州のブドウ産業は優れたブドウを出荷することに注力するということである。昨年はハリケーンのために感謝祭(11月下旬)まで出荷が続かないと思われていたが、総出荷量が20%減の7,700万箱でも12月に入るまで出荷できることが証明された。天候の制約が何であれ、どの年でも同じことが言えると思う。カリフォルニア州のブドウ産業は、12月まで出荷できるように全力を尽くすことを約束している」と述べた。

執筆者: ジル・ダットン　　(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

182. 南アフリカ　大臣の訪日と日本向けアボカドの到着

FreshPlaza　2024年8月28日

ロナルド・ラモラ国際関係・協力大臣は、東京アフリカ開発会議（TICAD）閣僚会合に参加するための訪日を終えた。TICADの開会に先立ち、ラモラ大臣は、南アフリカと日本の経済関係強化を目的とした日本貿易振興機構（JETRO）とのビジネス・ラウンドテーブルに参加した。

国際関係・協力省（Dirco）の公共外交部長であるクレイソン・モニエラ氏は、南アフリカ産アボカドの日本への輸出に関するプロトコルの確立（原文のまま）等会議の成果を強調した。このプロトコルは、2℃で19日間の低温処理を義務付けるもので、外交交渉を経て合意された。日本向けアボカドの最初の荷の到着はラモラ大臣の訪日と一致しており、南アフリカからアジアへのアボカド輸出の開始を象徴するものとなった。

モニエラ氏はまた、日本、中国、インドでのアボカドの新市場の開放という南アフリカの経済外交の進展にも言及した。さらに、ジェトロ会議でのラモラ大臣とトヨタの幹部との討論では、トヨタが最近南アフリカの自動車セクターに12億ランド（約百億円）を投資したことに触れ、工業化、雇用創出、変革への潜在的な影響を強調した。

上川陽子外務大臣との会談で、ラモラ大臣は両国の強固な関係を強調し、それは両国の発展に大きな利益をもたらし、国民と国民との強い関係を育むバランスの取れた経済パートナーシップであると述べた。

出典: IOL　　＊訳注：南アフリカ産アボカドの日本への輸入は令和5年11月末に条件付きで解禁されました。

183. 中国　海外市場で人気を集めるナシの新品種

FreshPlaza　2024年8月28日

中国河北省の黄冠梨（ファングアンリー）は、現在収穫が完了し貯蔵されている。今シーズンは収穫直後に産地から直接輸出される生鮮ナシの量が増えており、貯蔵ナシは8月末から輸出される予定であると報告されている。河北天波（ティエンボ）果業のギャビン・ビアン会長は「市場の需要は高まっており、中国の生鮮ナシ輸出市場は概して昨年よりも好調である」と述べている。（以下「 」は同氏の発言）

「今シーズンの生育期間中は雨が降らず乾燥した状況だったため、生産量は25%減少した。さらに、異常気象により、黄冠梨の傷や日焼けが増え、昨年に比べて高品質の販売用の果実の割合が大幅に減少した。その結果、貯蔵される梨の割合は約4分の1だけ低下した。一方、降雨量が減ったことで、ナシの甘みと味が増した。産地から国内外の市場への収穫後の直接販売は、昨年よりも改善された。」

「品種の面では、黄冠梨は依然として最も人気があり、市場シェアが最も大きい。一方、伝統的な鴨梨（ヤーリー）は数量が減っている。現在、鴨梨の主な輸出市場は、インドネシア、マレーシア、米国、カナダ、ロシア等である。玉露香梨（ユールーシャンリー）と紅香酥梨（ホンシャンスーリー）(原文に写真)は国際的に市場シェアを拡大し、急速に発展していることが注目される。」

ナシの輸出市場の現状について同会長は、パンデミック後の生鮮ナシ部門の購買力は、為替レートの変動、バングラデシュ等の国々の政情不安、イスラエル・パレスチナ紛争、ロシア・ウクライナ戦争、一部の輸入国での貿易障壁の増大などの要因によって影響を受けていると指摘した。

「これらの課題にもかかわらず、今シーズンのナシは味が素晴らしく、市場の需要は増加しており、全体的なパフォーマンスは昨年より良くなった。現在の生鮮ナシの輸出価格は昨年より約20%低いが、輸出量は増加した。中央アジア、ベトナム、インドネシアなど、特定の輸出市場は大幅な成長を遂げている。」

同社は、主に黄冠梨、鴨梨、紅香酥梨、玉露香梨を生産している。これらの中で、玉露香梨はその優れた味によって輸出シェアが増大している。同社は昨シーズン、インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、シンガポール、ロシア、米国、カナダ、メキシコ、南アフリカに合計3万トン以上の生鮮ナシを輸出した。（以下省略）

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

184. EUの核果類事情（モモ、サクランボ）

米国農務省GAINレポート　2024年8月29日

これは米国農務省海外農業局のマドリード事務所（スペイン）が作成した「核果類年次報告書」のエグゼクティブサマリーと図表の一部を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

要約

EUでは、核果類の出荷シーズンが有望視されている。春の温暖な天候により果実の生育が早くなり、収穫は最大で約10日早く始まった。生産者らは、早期に収穫した果実を有利な価格で市場に出すことで恩恵を受けた。核果類の栽培面積は長期的に減少しているが、2024/25年販売年度（年度）の出荷量は、前シーズンを上回ると予想される。

生産量の回復にもかかわらず、消費量はわずかしか増加しないと予想される。この傾向の背後にある要因の1つは食品価格のインフレであり、最も価格に敏感な消費者らが生鮮果実の消費から離れている。核果類の消費意欲を削いでいるもう一つの要因は、EUの北西部で初夏の気温が平均よりも低かったことである。興味深いことに、熱帯果実等はその比較的高い価格にもかかわらず関心が拡大し続けており、柑橘類、生鮮落葉果実、核果類等のより伝統的なカテゴリーの果実が犠牲になっている。

EUは、モモの輸出が輸入を大幅に上回る純輸出者である。域内の出荷量が増大することで、輸出量が増加すると予想される。オフシーズンを中心とする輸入は、横ばいと予想される。サクランボに関しては、EUは純輸入者であり、トルコからの供給に大きく依存している。

核果類の生産者らは、EUの他のマイナーな作物の生産者と同様に、欧州連合（EU）の規制（植物防疫、環境、梱包に影響を与える）によって課せられる負担 － 最終的には生産コストに直接影響を与える － を懸念している。核果類はまた、気候変動の影響をますます受けている。生産者は、低温積算時間の少ない地域に適した低温要求量の少ない品種や、収入機会が向上する可能性のある早生の品種を探している。他の果樹生産者と同様に、収穫期の労働力の確保は、核果類生産者にとって依然として大きな問題である。

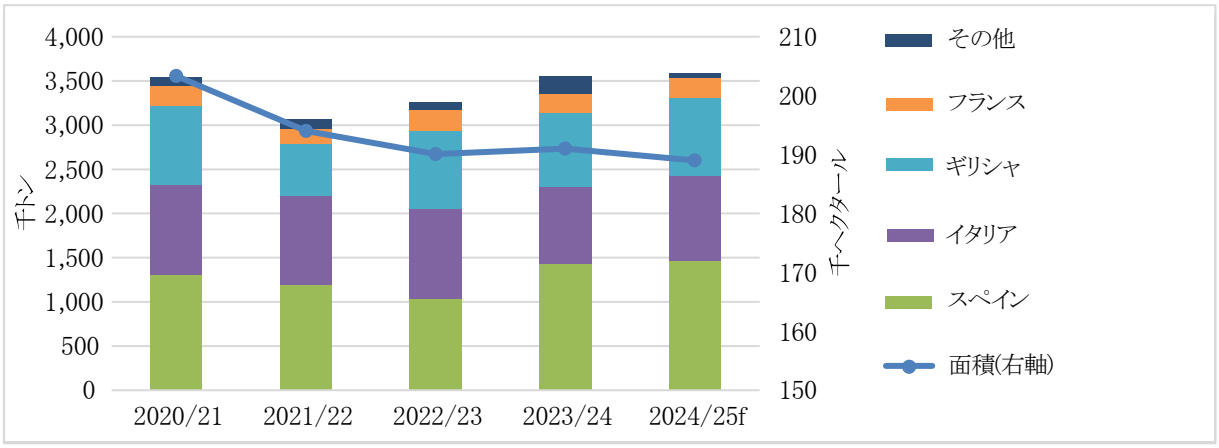
＜モモ・ネクタリン＞

表1　EUのモモ・ネクタリンの生産需給統計

モモ・ネクタリン（生鮮） 販売年度の始まり 欧州連合	2022/2023 2022 年 1 月		2023/2024 2023 年 1 月		2024/2025 2024 年 1 月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積（ヘクタール）	197,087	201,260	195,953	191,306		189,310
収穫面積（ヘクタール）	182,341	186,315	181,434	170,889		174,424
商業的生産量（トン）	3,220,959	3,091,066	3,617,061	3,390,258		3,589,467
非商業的生産量（トン）	32,535	29,275	36,536	34,245		36,257
生産量合計（トン）	3,253,494	3,120,341	3,653,597	3,424,503		3,625,724
輸入量（トン）	41,000	40,922	40,000	47,580		47,700
総供給量（トン）	3,294,494	3,161,263	3,693,597	3,472,083		3,673,424
国内消費量（トン）	3,169,494	3,036,220	3,523,597	3,335,493		3,476,399
輸出量（トン）	125,000	125,043	170,000	136,590		197,025
総仕向量（トン）	3,294,494	3,161,263	3,693,597	3,472,083		3,673,424

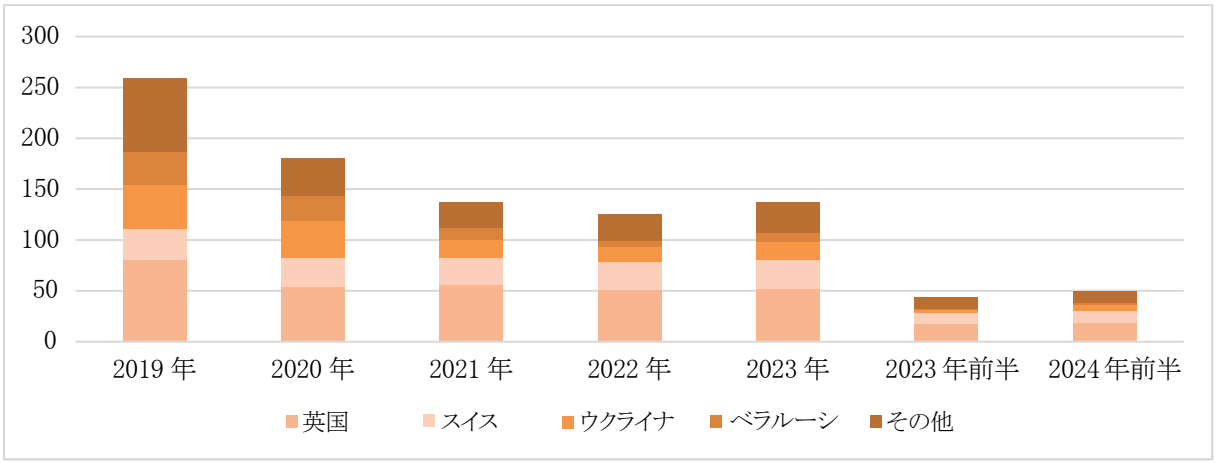
公式データには PSD Online Advanced Query からアクセスできる。
注:「加工仕向量」と微量の「市場からの隔離」は「国内消費量」に含めた。
出典: 海外農業局EU内関係事務所

図1　EUのモモとネクタリンの栽培面積及び生産量



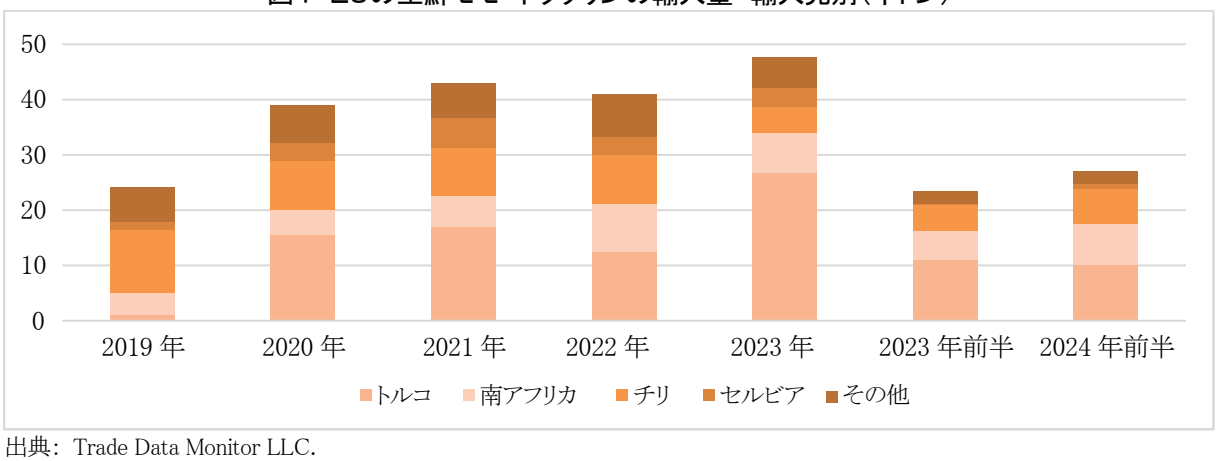
出典：各加盟国の統計に基づき海外農業局EU内関係事務所が推計　　fは予測値

図3　EUの生鮮モモ・ネクタリンの輸出量　輸出先別（千トン）



出典：Trade Data Monitor LLC.

図4　EUの生鮮モモ・ネクタリンの輸入量　輸入先別（千トン）



出典：Trade Data Monitor LLC.

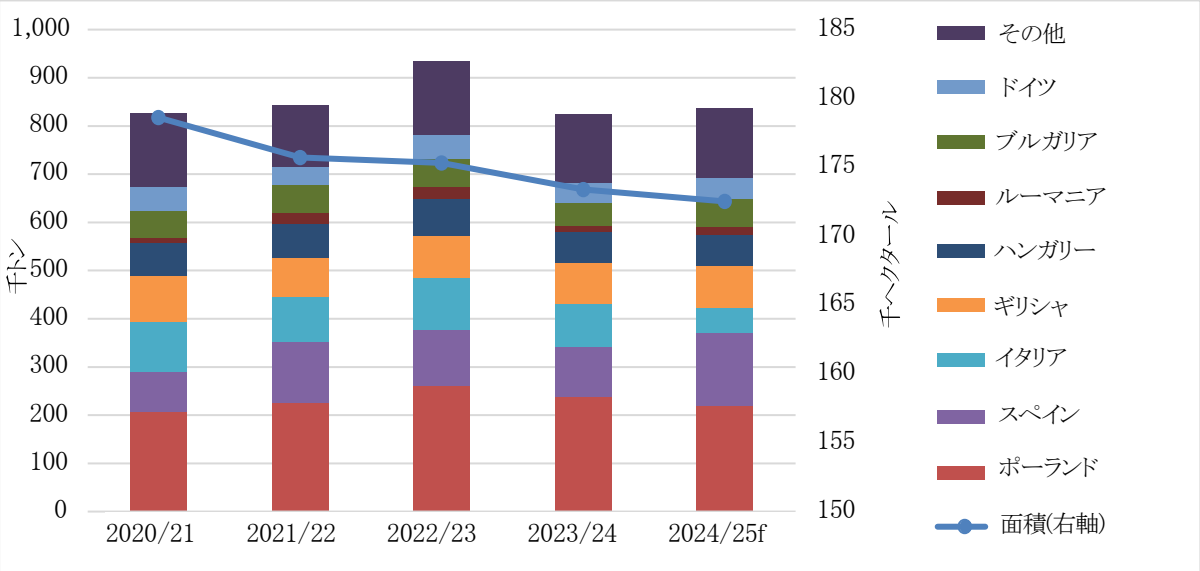
＜サクランボ＞

表2　EUのサクランボ（オウトウ）の生産需給統計

オウトウ(甘果、酸果)生鮮 販売年度の始まり 欧州連合	2022/2023 2022 年 4 月		2023/2024 2023 年 4 月		2024/2025 2024 年 4 月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	165,381	164,324	165,286	160,607		159,892
収穫面積(ヘクタール)	157,596	155,731	153,756	154,189		153,093
商業的生産量(トン)	830,996	823,983	657,435	702,110		713,546
非商業的生産量(トン)	–	3,891	–	2,712		1,800
生産量合計(トン)	830,996	827,874	657,435	704,822		715,346
輸入量(トン)	29,000	29,062	40,000	57,923		60,000
総供給量(トン)	859,996	856,936	697,435	762,745		775,346
国内消費量(トン)	843,596	840,765	682,435	750,557		758,346
輸出量(トン)	16,400	16,171	15,000	12,188		17,000
総仕向量(トン)	859,996	856,936	697,435	762,745		775,346

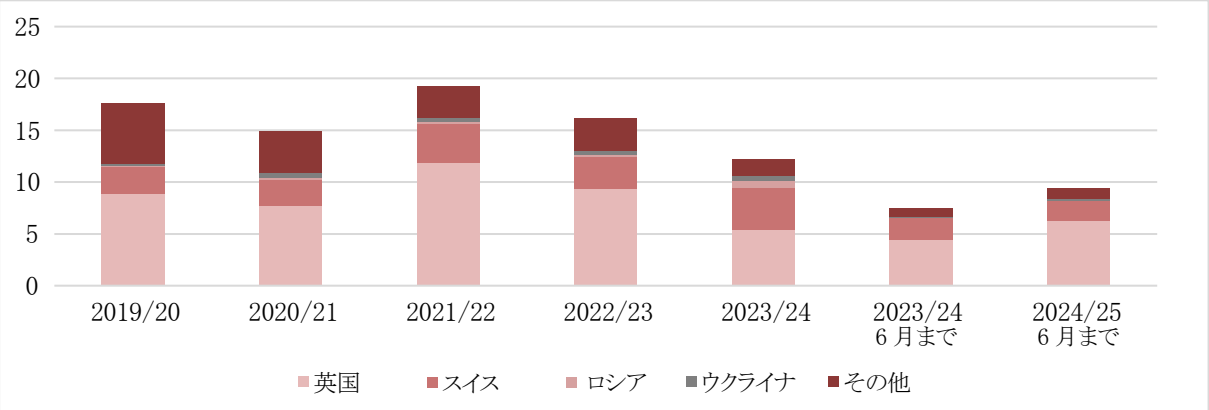
公式データには PSD Online Advanced Query からアクセスできる。
注:「加工仕向量」と微量の「市場からの隔離」は「国内消費量」に含めた。
出典: 海外農業局EU内関係事務所

図5　EUのサクランボの栽培面積と生産量



出典: 各加盟国の統計に基づき海外農業局EU内関係事務所が推計　　fは予測値

図7　EUの生鮮サクランボ（甘果オウトウ及び酸果オウトウ）の輸出量　輸出先別（千トン）



出典: Trade Data Monitor LLC.

185. 中国　繁栄する浙江省のモモ栽培

FreshPlaza　2024年8月30日

夏になると、果物の屋台やモモウーロン茶を売る奶茶店(ミルクティー専門店)で、また、かき氷用の食材として、モモが目立つようになる。中国を原産地とし、およそ4千年前から消費されてきたモモは、栽培面積と生産量で中国が世界をリードしている。その中でも、浙江省寧波市奉化区は、モモの栽培で際立っている。

800年以上の歴史を持つ奉化は、モモの栽培に最適な環境に恵まれ、現在3万5千ムー(約2,333ヘクタール)で30品種以上を栽培している。これにより、約6万トンを生産し、関連産業の総生産額に10億元(約1億7千万ドル)以上の貢献をしている。

この地区の温暖で湿度の高い気候は、モモの生育に理想的で、独特の甘さの果実を産出する。奉化のモモブランドの代表者は、「モモの果皮は通常緑色で、日光が当たるところは赤みがかっている。モモの中には、日光への露出の差により色ムラが出るものや、表面に天然の斑点があるものもあるかも知れない。しかし、味が本物であることに変わりはない」と説明する。

奉化は、収穫後の管理を重視し、中国で最初の高度なモモ選別システムを採用し、成熟度の正確な調整、効率的な物流と輸送中の温度管理に力を入れている。

最近、奉化は600箱のモモをドバイに輸出し、4玉入りの各箱が79.9ディルハム、すなわち1玉当たり約40元(約810円)で販売された。輸出会社のスタッフは、「今回のモモの輸出は、弊社の国際的な販路を広げるチャンスとなる。我々は申し分のない品質を保証し、世界市場における奉化モモの足場を確立する必要がある」と述べた。

奉化区林家村のリン・ヨンチェ党書記は、モモの販売が地域社会に与える経済的影響を強調し、「モモはこの村の繁栄の鍵である。多くの村人は、モモの販売によって新しい家を建てたり、子供達を大学に行かせたりしている」と述べた。また、モモの花の季節には、約30万人の観光客が村内の有名な果樹園を訪れた。

シンガポールとオランダの市場への参入を果たした後、最近のドバイへの出荷は、奉化のモモ輸出のさらなる拡大を表している。奉化の人々は、彼らのモモを世界の隅々まで届けることを目指している。

出典:　人民日報

186. ペルー　2024-25年度のブドウ出荷は回復の見込み

FreshPlaza　2024年8月30日

ペルー生食用ブドウ生産者・輸出業者協会(Provid)は、2024-25年度シーズンの最初の収穫量予測を7,870万箱(8.2kg/箱)と発表した。この予測は、協会関係者と生産者の推計値に基づいている。

同国北部のブドウ生産は、昨シーズンは悪天候の影響を受けたが、今シーズンは回復が見込まれる。これは、ブドウセクターが挫折を乗り越え、新たな課題に適応する優れた能力を有しており、世界市場での競争力と地位を維持しようとする成熟した産業としての地位を固めていることを示している。このセクターはまた、特に生産性の高い新品種の採用を通じて、変化する消費者の嗜好に適応している。

ペルーは来シーズン、米国、中国、ヨーロッパ諸国、中南米諸国等、50以上の市場にブドウを輸出する。ペルーでは、海岸線の大部分に沿ってブドウを栽培している。生産はイカ県(49%)とピウラ県(37%)が主導し、ランバイエケ(6%)、ラリベルタ(5%)、アレキパ(3%)、アンカシュ(0.5%)、リマ(0.5%)、モケグア(0.1%)の各県がこれに続いている。

生食用ブドウは、産地の大きな経済成長を牽引し、地域経済の安定に貢献している。さらに、この業界は、資源保護とコミュニティの福祉を促進する持続可能な栽培方法に取り組んでおり、責任ある経済、社会、環境開発に対する国の取組みに貢献している。Providは今後、10月と12月(出荷開始後)に予測を発表する。

187. 生食用ブドウ主要輸出国の2023年の動向

EastFruit　2024年9月1日

訳注：この記事は2023年の実績に基づくものであり、他の2024年見通しの記事とは一致しない点があります。

ペルーは生食用ブドウの首位の輸出国としてチリを破り、中国はトップ3に躍り出た

世界で最もブドウを輸出している国はどこか？ 輸出を最も速く増減させているのはどの国か？ これらの質問は見た目ほど単純ではないため、本誌（EastFruit）はこれらの傾向を調査することにした。

世界最大の輸出国のランキングに入る前に、上位20カ国の中で一部の国が他の国と置き換わるという明確な傾向があることに留意しておくことが重要である。他方、世界のブドウ貿易は現在停滞しており、つまり成長していない。この停滞は、脱グローバリゼーションの傾向や気候変動、すなわち緯度がより高い地域での生産を可能にするブドウ品種の選択の変化によるものである可能性がある。いずれにせよ、世界のブドウ貿易は非常に競争が激しい。

ペルーは現在、生食用ブドウの輸出量が世界で最も多い。この変化は、長年にわたって首位であったチリを2023年に抜いたことで起こった。ペルーの優位性は、生育期間が長く、労働力が安いことにある。平均して、ペルーのブドウ輸出量は年率14.3%に当たる6万6千トン増加し、一方、チリの輸出量は毎年6.6%に当たる4万トン減少している。

国連食糧農業機関（FAO）投資センターのエコノミストであるアンドリー・ヤルマク氏は、「生食用ブドウの世界市場は大きな変革を遂げつつある。多くの国では古いブドウ品種を、急速に変化する消費者の嗜好により適した新しいブドウ品種に置き換えている。さらに、病害虫や気候ストレスに対してより耐性のある品種の供給量が増えている。世界の果実市場が停滞の兆しを見せており、ブルーベリー等の新しい品目との競争の激化に直面しているため、これらの変化は非常に重要である。ちなみに、ペルーはブルーベリーの輸出でも世界をリードしている」と述べている。

中国は2023年に大きな飛躍を遂げ、イタリアと南アフリカをそれぞれ3位と4位の座から追い落し、2つ順位を上げて生鮮生食用ブドウの輸出国第3位となった。中国は年7.4%に当たる2万8千トン輸出を増やしているが、イタリアの輸出は毎年1万トン減少している。

もう一つの注目すべき傾向は、インドからのブドウ輸出の継続的な成長であり、年10.2%という驚異的な増加を示している。この成長により、インドは2023年末までに世界の輸出国ランキングで8位に上昇し、輸出量を毎年10%減らしている米国に取って代わった。

上位10カ国を締めくくるトルコは、2023年に輸出を大幅に減らし、同国の通常の順位を下回った。全体的に見て、トルコの生食用ブドウ輸出は停滞の兆候を示しており、市場でより効果的に競争するためには、同国は古い品種を置き換え、果実の品質を向上させることが緊急に必要である。

上位20カ国の中で、メキシコはペルーとの競争に苦戦しており、年平均21%の輸出の減少が際立っている。一方、ブラジルのブドウ輸出量は年間10.6%、モルドバは6%増加している。モルドバは世界ランキングで18位に上昇し、2022年にトップ10に入っていたウズベキスタンは2023年には20位に転落した。この急激な減少は、ウズベキスタンや他の中央アジア諸国のブドウ園が大規模な霜の被害を受けた「ブドウの大災害」によるものである。

188. ペルー　晩生マンダリンの輸出が力強い成長

fresh fruit　2024年9月2日

2024年7月までに合計14万3,410トン（22%増）、1億8,500万米ドル相当（44%増）を出荷

近年、ペルーはこの地域の柑橘類産地として重要性を増している。このプロセスを推進した品目の1つがマンダリンであった。新しい市場の開拓と農産物輸出の拡大に伴い、マンダリンとその様々な派生品種はペルーの生産者によってますます商業的に探求されており、有望な結果を示している。

国際的なマンダリン市場は、近年のパンデミック以来、非常に不安定な状態を示している。この品目は繊細であるため、パンデミック後の物流上及び気候学的な問題の影響を特に受けやすかった。その結果、世界中で取引パターンが不規則になり、潜在的な競争相手が世界の主要市場に参入する新たな機会が生まれた。

ペルーでの生産は、国際市場でほとんど評価されない非常に一般的な品種から始まったが、時間の経過とともにこれは良い方向に変化した。現在、ペルーでは数多くの品種と「亜種」が生産・輸出されている。実用的な理由から、それらは3つの大きなグループに分類することができる：**ハイブリッド**の中では、マーコット、ナドルコット、オッリなどの品種が際立っている（このグループは75%を占めている）。**クレメンタイン**には、プリモソール、オログランデ、クレメンソール等の優れた亜種がある（シェアはほぼ15%）。そして最後に、**ウンシュウミカン**（サツマ）には尾張、興津等の亜種がある（シェア10%）。ハイブリッド品種は、国際市場での需要の増加により、クレメンタインやウンシュウミカンに比べてますます多くの栽培面積を獲得している。

ペルーのマンダリン生産の現在の動向を観察する上でもう一つの重要な点は、収穫時期である。マンダリンには早生と晩生の品種がある。ペルーでは、以前は早生品種が主体であったが、国際市場の需要に合わせて収穫時期の遅い品種へのシフトが次第に顕著になった。現在、ペルーの輸出の大半は晩生品種である。

直近のエルニーニョ現象は、今シーズンの早生品種の収穫に大きな影響を与えた。そのほか品種の変動があり、ウンシュウミカンは44%減少し、プリモソール等のクレメンタインの一部の亜種も7月までに75%の減少が報告された。一方、マーコット、ナドルコット等の晩生品種は7月までに、同国で見られた天候の恩恵を受け、収穫量が90%増加した。収穫期間の残りの月はハイブリッド品種が主体となるため、今年は良い結果で終わることが期待される。

2024年1月から7月までの輸出は1億8,500万米ドル相当の合計14万3,410トンで、これは金額で44%、数量で22%の成長に相当する。価格に関しては、ほとんどすべての品種で上昇が報告されており、平均単価は1.28米ドル/kgで前年に比べて18%高い。最も価格の高い品種はクレメンソール1.44米ドル/kg、ノヴァ1.38米ドル/kg、プリモソール1.32米ドル/kgであった。

輸出動向

ペルー産マンダリンの主な輸出先は米国であった。米国内の生産量は平年を最大16%下回り、主要輸出国に新たな参入余地を生み出した。また、早期に始まった今年の米国の出荷シーズンは同じく早期の終了が報告されているため、ペルーの晩生品種にとって好都合である。昨年までは、年の前半の出荷量はクレメンタインが多かったが、今シーズンは大きく変わり、マーコットの出荷量が大幅に伸び（164%増）、米国向け輸出で最も多い品種となった。これにより、7月までの米国向け出荷量は54%増となったが、米国内の生産の低迷により需要が満たされていないため、平均価格は約12%上昇した。

一方、ヨーロッパ向けについては、従来、年の前半に最も出荷量が多いのはウンシュウミカンであったが、今年は驚いたことにナドルコットが137%以上も成長し、ウンシュウミカンに取って代わった。しかし、この増加はウンシュウミカンの亜種等、他の品目の減少を埋め合わせることができず、総出荷量は12%減少した。一方、価格は約21%上昇し、この状況を十分に補うことができた。

189. 米国フロリダ州　柑橘類の栽培面積は減少、出荷量は増加

FreshPlaza　2024年9月3日

フロリダ州の柑橘類の栽培面積は17%減少、出荷量は12%増加

柑橘類の総栽培面積が17%減少

販売用柑橘類年次調査の結果によると、柑橘類の総栽培面積は27万4,705エーカーで、前回の年次調査から17%減少した。5万7,551エーカーの減少は、前シーズンの減少面積よりも1万4,505エーカー多い。新植面積の4,751エーカーは前シーズンよりも少ない。(1エーカー＝約0.405ヘクタール)

報告書の3ページ目の表に掲載されている23のすべての郡で、栽培面積が減少した。前シーズンから1万2,374エーカー減少したヘンドリー郡は、最も多くの面積を失った。ポーク郡は5万8,516エーカーで柑橘類の栽培面積が最も多く、デソト郡が5万1,800エーカーでこれに続いている。

オレンジの栽培面積は24万8,028エーカーで、前シーズンから18%減少した。現在、バレンシア種の栽培面積はオレンジの総栽培面積の63%を占め、バレンシア種以外の栽培面積が35%で、残りのオレンジ栽培面積の内訳は不明である。グレープフルーツの栽培面積は現在1万4,316エーカーで、前シーズンから10%減少した。

特産果実の栽培面積は1万2,361エーカーで、前シーズンから6%減少した。タンジェリンとタンジェロは7,189エーカーで、特産果実の58%を占めている。残りの42%は他の柑橘類の栽培面積で、合計5,172エーカーである。

柑橘類の栽培面積に関する米国農務省の報告書全文はこちら

全柑橘類の生産額は6%、出荷量は12%増加

2023-24年度の柑橘類生産額(樹上評価額)の暫定値は2億2,100万ドルで、2022-23年度の改訂値である2億800万ドルを6%上回った。

フロリダ州の2023-24年度の柑橘類の総出荷量は2,020万箱で、前シーズンの1,810万箱から12%増加した。オレンジの総出荷量は14%増の1,800万箱であった。そのうちバレンシア種以外の出荷量は、2022-23年度より10%多い676万箱であった。バレンシア種のオレンジの出荷量は1,120万箱で、16%増加した。グレープフルーツの総出荷量は1%減の179万箱であった。2023-24年度のタンジェリン及びタンジェロの出荷量は、前シーズンから6%減となった。

柑橘類の出荷量と出荷額に関する米国農務省の報告書全文はこちら

柑橘類の品目別出荷量、用途、価格及び出荷額　フロリダ州　2023-24 年度

品　　目	出荷量	用　途		樹上評価額	
		生鮮消費用	加工用	価　格	出荷額
	千箱	千箱	千箱	米ドル/箱	千ドル
バレンシア種以外のオレンジ	6,760	798	5,962	8.19	55,387
バレンシア種のオレンジ	11,200	954	10,246	9.51	106,492
オレンジ合計	17,960	1,752	16,208	9.01	161,879
赤肉グレープフルーツ	1,550	1,050	500	(X)	(X)
白肉グレープフルーツ	240	151	89	(X)	(X)
グレープフルーツ合計	1,790	1,201	589	21.87	39,151
タンジェリン及びタンジェロ	450	329	121	43.73	19,677
柑橘類合計	20,200	(X)	(X)	(X)	220,707

X は公表データなし

訳注：上の表は米国農務省の報告書から品目別の2023-24年度分のみ抽出しました。

190. アルゼンチン北西部でカンキツグリーニング病の媒介昆虫を確認

FreshPlaza　2024年9月3日

アルゼンチン国立農産食品衛生品質庁(SENASA)は、北西部トゥクマン州の柑橘類農場で、カンキツグリーニング病(黄龍病、HLB)の媒介昆虫であるミカンキジラミの存在を確認した。この検出は、既に生鮮レモンの輸出や加工品の減少によって影響を受けている柑橘類セクターに警鐘を鳴らした。北西部柑橘類協会(ACNOA)のパブロ・パディージャ会長は、これは2014年以来このセクターが直面した最も深刻なシナリオであると述べた。

州都サンミゲル・デ・トゥクマン市の南にあるカスピンチャンゴ地域でこの媒介昆虫が発見されたのは、この昆虫がプランテーションで発見された初めての事例であり、治療法が知られていない柑橘類の病害であるHLBの蔓延を防ぐため、SENASAは管理の強化を迫られた。予防措置は既に強化されており、複数の農業機関や団体で構成される緊急委員会によって調整されている。

トゥクマン州では懸念にもかかわらずHLBは発生していないが、アルゼンチンの他の州では発生が確認されている。柑橘類セクターの危機は深刻化しており、生産者らは生鮮果実の輸出が35%減少すると予想している。レモンを収穫するよりも樹上に放置しておく方が負担が少ないため、多くの農場が放棄された状態にある。パディージャ氏は、輸出の減少は、植物検疫要件の厳格化や輸出先国での防疫措置等、複数の要因によるものであると述べた。

現在の状況は、生鮮果実で起こったことと同様に、レモン由来の加工品の市場でトゥクマン州が重要性を失うことを示唆している。パディージャ氏は、この危機に立ち向かうためのコンセンサスの形成と戦略の実施を提唱し、このセクター、特に生産者や小規模梱包施設所有者の損失が増えることを避けるために迅速に行動する必要性を強調している。

アルゼンチン国立農業技術研究所(INTA)のファマイジャ試験場の調査は危機を反映しており、2024年シーズンには、トゥクマン州の柑橘類栽培面積が前年比7.52%減少したことが示されている。この減少は州内のいくつかの郡で見られ、柑橘類セクターの憂慮すべき傾向を示している。パディージャ氏によると、このセクターは、世界の飲食料品業界で高い需要のある加工品の生産に向けて再転換する必要がある。

出典: tucumannoticias.com.ar

191. 中国　台湾産ザボンの移入再開へ

FreshPlaza　2024年9月3日

中国税関総署(GAC)は、月曜日(2日)からの台湾産ザボン(文丹)の移入再開を発表した。この決定は、この柑橘類からの検疫害虫の検出に伴う2022年8月3日からの移入の一時停止に関するものである。GACは、台湾の果実生産者らが実施した是正措置の包括的評価を実施し、それが移入禁止の解除につながった。

本土市場に再参入するには、ザボンは公式に登録された果樹園と梱包施設から出荷されなければならず、これらの施設のリストはGACの公式ウェブサイトで入手できる。

中国国務院台湾事務弁公室の陳斌華(チェンビンファ)報道官は、元々の移入停止は中国本土の生物学的安全と消費者の健康を保護するための措置であったと強調した。ザボンの移入再開を求める声は、国民党(台湾の野党)の傅崐萁(フークンチー)氏や花蓮(ホアリアン)県の代表者など、台湾の一部の個人や公人の間で特に強くなっていた。これらのグループは、品質管理を向上させ、中国本土での消費用に指定されたザボンの安全性を確保するために努力してきた。陳報道官は、移入再開の決定は、花蓮県の業界が文書で示した改善内容にも影響されたと指摘した。

中国本土は「両岸一家親」(両岸は一家族)の精神を掲げ、台湾の草の根コミュニティの福祉を支援することを目指し、農産物の輸入に関する台湾側関係者との対話にオープンであることを表明した。

出典: ChinaDaily

192. 米国カリフォルニア州　核果類は好調、ブドウは下方修正

FreshPlaza　2024年9月5日

今年はカリフォルニア州産の核果類の量が多く、出荷シーズンは昨年に比べて大幅に長くなると予想される。マウンテンビュー果実販売会社（MVFS）のボー・ブレット氏は、「今年は過去3年間よりも好調で、平均に近い」と言う。オフシーズン中に追加の園地を取得したため同社のシーズン序盤の供給量が増え、一方、カリフォルニア州では、過去2年間にシーズン序盤の出荷量を減らした寒波の影響を受けなかった。同社はさらに、今年はシーズン後半の事業がはるかに大規模になることを期待している。同氏は、「シーズン後半の果実は、天候に恵まれ、9月中または10月上旬まで収穫できるはずである。これは、ハリケーン・ヒラリーによって後半の事業が実質的に全滅した昨年とは全く逆である。シーズンの最後には、黄肉のモモとネクタリン、赤と黒のスモモが十分に供給できる」と説明した。

より好ましい生育条件の結果として、多くの品種が今シーズンはるかに良い成績を収めている。同氏は、「8月は既にずっと良くなっている。過去2年間のような雨が降らなければ、9月もずっと良くなるだろう。弊社では、白肉のモモとネクタリンはすぐに終わるが、赤と黒のスモモは10月中旬まで出荷できる」と話す。黄肉のネクタリン品種の収穫は今後2週間続き、黄肉のモモは10月初旬に終わる。

シーズン後半の事業予定

同社はシーズン後半の事業のために、黄肉のモモとネクタリンの新しいブランド「オータムライプ」を立ち上げた。この事業で栽培された果実は、シーズンを通して樹上で育まれ、独特の甘みとジューシーさを得ることができた。オータムライプのモモとネクタリンは9月から10月上旬まで出荷される。

全体として、良好な核果類のシーズンであった。ブレット氏は、「降雹に見舞われた園地もあり、7月の熱波も一部の出荷に影響を与えたが、多くの果実を出荷することができた。果実は良好な糖度で非常に食味が良く、その結果、需要が高まっている。シーズンの残りの期間も味の良い果実を出荷し、最終的には良好なシーズンになっていると思う」とコメントした。

生食用ブドウの出荷予測はわずかに減少

核果類は出荷シーズンの最終段階にあるが、生食用ブドウはまだシーズンの中間点に達していない。今シーズンのカリフォルニア州産生食用ブドウの出荷量予測は、同州が7月に経験した過度の暑さのため、当初の予想値から引き下げられた。ジョージ・マトイアン氏は、「冬と春の降雨量は平均的であったが、サンホアキンバレーの7月の暑さは記録的であった」と述べている。当初の予測では、同州では今シーズン9,450万箱を梱包する見込みであったが、これは9,200万箱に引き下げられた。同氏は、「早生品種の一部の出荷量は、熱波による損傷の影響を受けた。この傾向は残りの品種にも及ぶと思うが、箱に収まる最終的な果実の品質には大変満足している」と言う。

国内外からの需要

ポジティブな点としては、需要はあらゆる面で安定しており、同社の販売チームはそれが秋まで続くことを望んでいる。カリフォルニア州のブドウの60～65%が9月1日以降に収穫、梱包、出荷されるため、最盛期が近づいている。

マトイアン氏は「弊社では現在、今年お勧めの緑色ブドウ品種、スイートグローブ™を収穫している」と話す。現在収穫されている赤ブドウはアリソン™、ティムコ™、スカーレットロイヤルで、農務省の新しい種なし黒ブドウ品種であるソルブリオもこの時期に収穫されている。同社のブドウは、全米のチェーン店や卸売業者に流通している。さらに、同社は現在、台湾、ベトナム、日本、マレーシア、香港、シンガポール、コスタリカ、エクアドル、メキシコ、及びカナダ全土に輸出している。

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

193. 南アフリカ　リンゴとナシの輸出先として重要性を増すアジア

FreshPlaza　2024年9月3日

南アフリカ産のリンゴとナシが、その主要なアジア市場であるインドと中国で一層求められるようになる中、新たにタイのリンゴ市場の開放が早期に実現することが望まれている。落葉果樹生産者の支援団体ホルトグロ（Hortgro）の貿易・市場担当部長であるジャック・デュプリーズ氏は、「アジアは全体として、南アフリカのリンゴとナシの出荷先として重要性を増しており、インドや中国などの既存の市場が成長を続け、うまく行けばタイ市場が早期にリンゴに解放されることから、一層の成長が見込まれる」と話す。（以下「 」は同氏の発言）

これまでのところ、極東及びアジア市場への輸出は、南アフリカからのリンゴ輸出の33%及びナシ輸出の17%を占めている。「極東とアジアは南アフリカのリンゴの主な輸出先であり、インドはこの地域に輸出される果実の26%、バングラデシュは25%、マレーシアは16%を受け取っている。リンゴの色に関しては、アジア市場への輸出の62%が赤系のバイカラー、28%が赤リンゴ、9%が青リンゴ、そしてわずか1%がピンク系のバイカラーである。」

インドへのリンゴの輸出は年々増加している。過去5年間で、輸出数量は約200万箱（12.5kg/箱）から300万箱相当弱へと54%増加した。「赤系バイカラーのリンゴはインド向けリンゴの81%を占めており、そのうち主要品種であるロイヤルガラとガラが46%を占め、次いでビッグバックスが33%である。ロイヤルガラとガラの数量は、前年比34%増の134万箱に達した。インド向けのリンゴ輸出量は増え続けると見込まれている。南アフリカのナシについては今年、前年比3%増の約122万箱相当（12.5kg/箱）をインドに送った。輸出された主な品種は、パッカムズ・トライアンフ（37%）、フォレル（23%）、バーモント・ビューティー（22%）である。」

今シーズンの中国向け輸出は、リンゴとナシの両方で数量がわずかに減少している。「中国向けのリンゴとナシの出荷量は前年比でわずかに減少しているが、これは継続的な傾向ではなく、単に今シーズンの結果であると見ている。2024年は南アフリカが中国にナシを輸出できるようになってまだ3年目であるが、出荷量は20万箱相当（12.5kg/箱）に達し、フォレルが主な輸出品種である。シーズン初めの赤みを帯びた夏のナシ品種であるチーキーとセリーナは、どちらも2023年に比べて出荷量が2倍になったことに注目している。インドでは赤系バイカラーのリンゴが中心であるが、中国では赤リンゴが好まれる。ふじが主要なリンゴ品種であり、出荷量の60%を占めている。」

中国市場の開拓キャンペーン

2024年シーズンのホルトグロの中国市場開拓キャンペーンは、近年のシーズンと同じキービジュアル、メッセージ、目標を使用したとデュプリーズ氏は言う。「このキャンペーンの目的は、南アフリカ産のリンゴとナシの認知度と購入量を高め、中国市場でのシェアを拡大することである。今後の戦略的焦点は2級都市（地域的中心都市）に絞る。このキャンペーンは、フルーツデー（天天果园）、シティーショップ、ププ、パゴダ（百果园）等の小売業者と行う小売プロモーションが主体である。母親と子供を特に引きつけることに焦点を当てたテーマ別のグループイベントや、大規模な野外活動も開催する。また、卸売市場でも取引業者向けに戦略的に企画したイベントを開催する。全体として、中国市場における市場開拓キャンペーンは主要な目標を達成することに成功しており、将来のさらなる発展のための良好な基盤も確立した。」

核果類は極東・アジア向けが少ない

「核果類も考慮に入れると、極東とアジアは輸出先に占める割合が小さくなる。南アフリカ産核果類の主な出荷先はヨーロッパ、英国、中東であるが、これらの伝統的な市場にはそれぞれ課題がある。現在、中国政府と協力して核果類（アンズ、モモ、ネクタリン、スモモ、プルーン）のアクセス獲得を目指しており、歴史上初めて核果類を中国に輸出できるようになることに非常に期待している。中国市場が南アフリカ産核果類に開かれれば、我々により多くの輸出機会が提供されるだろう。」

「アジアフルーツロジスティカに参加する目的は、アジア市場だけでなく、世界中の主要な関係者と会うことである。これは、南アフリカの果実業界が提供するものを紹介する毎年恒例の機会である。」（出展の詳細省略）

執筆者：クレイトン・スワート

194. スペイン　バレンシア州でカキ等に降雹被害

FreshPlaza　2024年9月6日

農業者組合の最初の推計によると、バレンシア州ヴァルダルバイダ地方での過去数日間の降雹は、160万ユーロ以上の損害をもたらした。

複数回の荒天は6千～8千ヘクタールに影響を与えた。最も被害を受けた作物はカキで、降雹は約4千トンの果実に被害を与え、100万ユーロの損害をもたらした。また柑橘類にも大きな影響を与え、約2千トンの柑橘類が被害を受け、40万ユーロの損害となった。悪天候はブドウ園やアーモンドの果樹にも影響を与えたが、その数量と被害額ははるかに小さかった。

降雹は、アイエロデマルフェリット、ロレリア、オンティニエント、アグレント、アルバイダ、モンタヴェルネール、アドザネタダルバイダ、パロマール、カリコラ、ベルギダ及びオトスの各町に影響を与えた。被害率は5%から90%の範囲で、被害は非常に不均一である。アグレントとオンティニエントで最も被害が大きく、一部の生産者は作物をすべて失った。

雹害は、現在の農業保険制度でカバーされる気象リスクであることは留意するに値する。農業者組合は今後、農業保険連合会に対し、影響を受けた区画の被害を迅速に査定するよう要請する。

農業者組合はまた、影響を受けた生産者に対する一連の対策も呼びかける。求められる措置は、直接的な支援、農地と農地内の建物に対する固定資産税の免除、社会保障費の1年間の減額、利子補給の有る融資制度の創設、及び影響を受けた出荷協同組合に対する一連の措置と援助等である。

雨はバレンシア州の他の地域のコミュニティには有益

バレンシア州内の雹が降らなかった他の地域では、降雨は天水栽培の作物の干ばつを緩和するのに役立った。しかし、干ばつによる被害が取り返しのつかない場合もある。この意味で、農業者組合は、ワイン、生食用ブドウ、オリーブ園、アーモンドの木、及び穀物等について、干ばつによる損失を軽減するための直接的な支援を再度求めた。

雨は灌漑されている作物にとっても非常に有益であり、生産者が水利費を節約し、病害虫の脅威から果樹を守り、枯渇した帯水層や貯水池を涵養するのに役立つ。また、干ばつによって深刻な状態にある畜産用牧草地の再生に寄与し、家畜飼料のコスト増加を回避するのにも役立つ。

195. 台湾の果実需要を牽引する文化的習慣

ASIAFRUIT　2024年9月6日

台湾では近代的な小売業態が発展をしてきているが、本誌（Asiafruit）の詳細な市場レポートが説明しているとおり、従来からの流通チャネルが依然として支配的である

台湾では多種多様な果実が栽培されているが、リンゴ、サクランボ等の大部分の温帯果実は依然として輸入に大きく依存している。

地元の業界関係者によると、台湾の人口約2千万人の年間1人当たりの果実消費量は約135kgである。

台湾の大手輸入業者であるキンゴ（金果貿易）社のジョージ・リュウ（劉）氏は、「台湾の輸入果実需要は依然として高い。我々が大量に輸入しているサクランボ、リンゴ、ブルーベリーは、地元ではほとんど生産されていない。量的には、リンゴが台湾で最大の輸入果実品目である」と言う。

リンゴの需要は一貫して高止まりしており、この傾向は台湾の宗教的慣習と密接に関連している。リュウ氏によると、台湾では、家庭と企業の両方で月に2回、神や先祖を崇拝する儀式を行う。

北半球の主な供給国は米国と日本であり、南半球ではニュージーランドと南アフリカが主要な原産国である。同社の流通部長であるキャサリン・リュウ（劉）氏は、「昨年、検疫の問題により、南アフリカ産リンゴの台湾への輸入が停止された。最近再開し、現在、最初の荷が輸送中である」と述べた。

リングスフレッシュ（和新生鮮）社の執行役員であるイーソン・チー（紀）氏は、リンゴが同社の全品目の40%を占めているが、金額的にはサクランボが依然としてトップにランクされていると指摘する。

同氏は、「米国とチリがサクランボの2大供給国である。昨年、弊社では約10万箱の米国産サクランボを台湾市場に輸入した」と話す。

オンラインの利用

ゼスプリの台湾市場マネージャーであるジョアン・チェン（陳）氏は本誌に対し、台湾でのオンライン消費にはまだ多くの制約があると語った。

同氏は「台湾のオンライン決済手段はあまり発達しておらず、主に現金取引に依存している。生鮮食品のロス率が高いことが、ビジネスを圧迫している。さらに、台湾ではドアツードアの配送コストが高く、主に消費者が負担している。果実の小売店が近所にあるので、消費者は価格と品質を直接見極めるために実店舗に行くことを好む」と説明する。

しかし、一見制約されているように見えるオンラインチャネルにも「突破口」がないわけではない。チー氏は、「台北市の中心部にある弊社の実店舗『スイートシーズンズ』は、冷蔵倉庫兼商品展示センターとして機能しており、オフラインの販促活動を展開しつつ、最終消費者との距離を適切な範囲に保つことができる。（商品を見せた）後で、弊社の物流サービスを通じて消費者の自宅に直接配送することができる」と話す。

オンラインとオフラインを統合したこのほかのアプローチとしては、コンビニエンスストアを配送のエンドポイントとして使用し、消費者がオンラインで注文した品物を店舗で受け取るという方法もある。

キャサリン・リュウ氏は、「セブンイレブンは台湾に6千以上の店舗を持ち、各店長は中国本土における共同購入リーダーと同様の機能を果たしている。消費者は、店舗のウェブサイトまたはモバイルアプリを通じて事前に注文し、配達後に店舗で商品を受け取ることができる。冷蔵設備が整っているので、コールドチェーンは途切れることなく維持される」と述べた。

同氏によると、最近の米国産サクランボのシーズン中、キンゴ社はセブンイレブンを通じて多くの共同購入注文を受けた。

消費動向

世界的にインフレが蔓延している今日、台湾の消費者もより保守的になっている。しかし、新品種や高品質な輸入品に対する需要は依然として旺盛である。

ジョージ・リュウ氏は、「近年、輸入果実の価格が大幅に上昇した。価格が上昇すると、消費者の期待も高まる。ハイエンドの商品に対する市場の需要は依然としてあるが、人々は中級品やローエンドの商品、特に輸入品を購入する意欲が低くなっている」と言う。

一方、消費者は果物を購入する際に、より小さなパッケージを求める傾向にある。

キャサリン・リュウ氏は、「現在、多くのスーパーマーケットで小さなパッケージが使用されている。弊社では、当初は限られたスペースで再梱包を始めたが、その後、需要が非常に高いことがわかった。次は、このサービスを拡大していく」と話す。

チー氏は、「小さなパッケージの単価を100台湾元（3米ドル）以内に保つのが理想的である。弊社では様々なデザインにも取り組んできている」と言う。

若い世代が生活ペースを加速させ、利便性を追求する中、台湾ではコンビニエンスストアで生鮮カットフルーツを売ることが極めて一般的になっている。

チェン氏は、「台湾の若者は果物を食べるのが面倒だと感じているため、コンビニエンスストアでゼスプリのキウイフルーツをカットフルーツとして販売している。オフィスで働く人達も、ランチを買う際に栄養が摂れるだけの分量の果実を購入することができる」と言う。

もう1つの新しい傾向として、台湾の消費者は、地元産の果実に高い金額を支払うことを次第に厭わなくなっている。

ジョージ・リュウ氏は「以前は、人々は地元産の果実はあまり良くないと考えていたが、今では変わった。これは、二酸化炭素排出量の削減や地元の農業への支援という概念も一因である」と述べた。

販売方法

ゼスプリは、現地チームの努力により、引き続き台湾市場でのブランド認知度と信頼を高めている。台湾の崇拝文化を熟知しているゼスプリは、キウイフルーツを儀式の供え物として効果的に宣伝している。チェン氏は、「弊社では有名な占い師をメディアで起用しているが、それは商品を推奨する形ではなく、崇拝文化の観点からキウイフルーツを供え物として使用すべき理由を説明している」と話す。

チー氏は、果実業界では通常、予算が限られており、最大の効果を上げるように予算の活用方法を決定することは、販売業者にとっての課題であるとして、「弊社では社内にデザイナーと販売スタッフがいる。これは、競争上の優位性の1つと見なすことができる」と述べた。

キンゴ社は、直近のチリ産サクランボのシーズン中にセブンイレブンと提携して販促キャンペーンを行い、目覚ましい成果を上げた。キャサリン・リュウ氏は、「弊社では、チリのサクランボ委員会のメンバーを台湾に招待し、セブンイレブンの店長が顧客を教育できるように研修を行った。チリの地理的条件や栽培方法を紹介することで、商品に対する自信を深めた。これは、セブンイレブンがチリ産サクランボを販売しようと試みた最初のシーズンであり、この種の販売戦略を試すのも初めてであった。この販促キャンペーンの成功により、旧正月期間中のセブンイレブンの売上に画期的な影響を与えた」と語った。

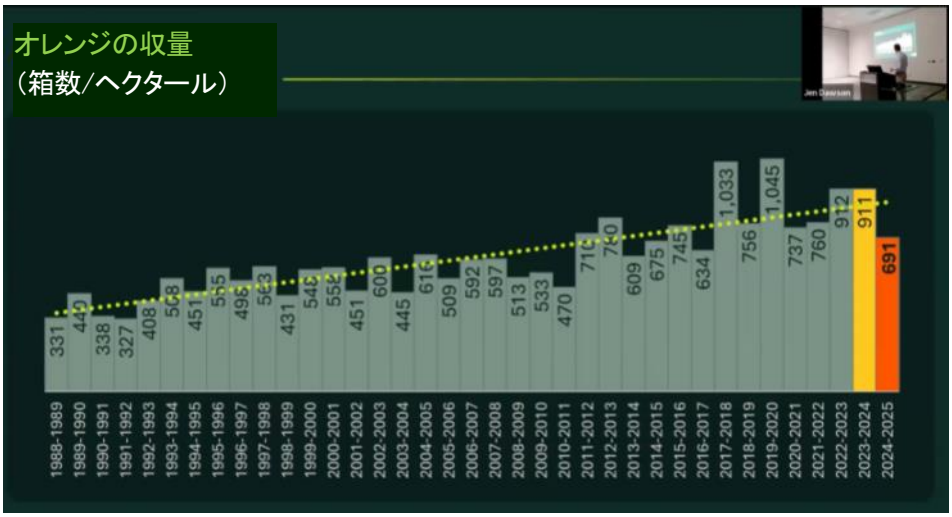
執筆者：ウィニー・ワン

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

196. ブラジル　オレンジ生産に打撃を与える暑さとカンキツグリーニング病

Citrus Industry Magazine　2024年9月9日

ブラジルの柑橘類栽培防衛財団（Fundecitrus）上級研究員のフランクリン・ベーラウ氏によると、ブラジルの柑橘類栽培は今シーズン苦戦している。これは、同氏が米国のフロリダ大学食品・農業科学研究所（UF/IFAS）柑橘類研究教育センター（レイクアルフレッド市）で行った最近のプレゼンテーションの要点である。
（以下「 」は同氏の発言）

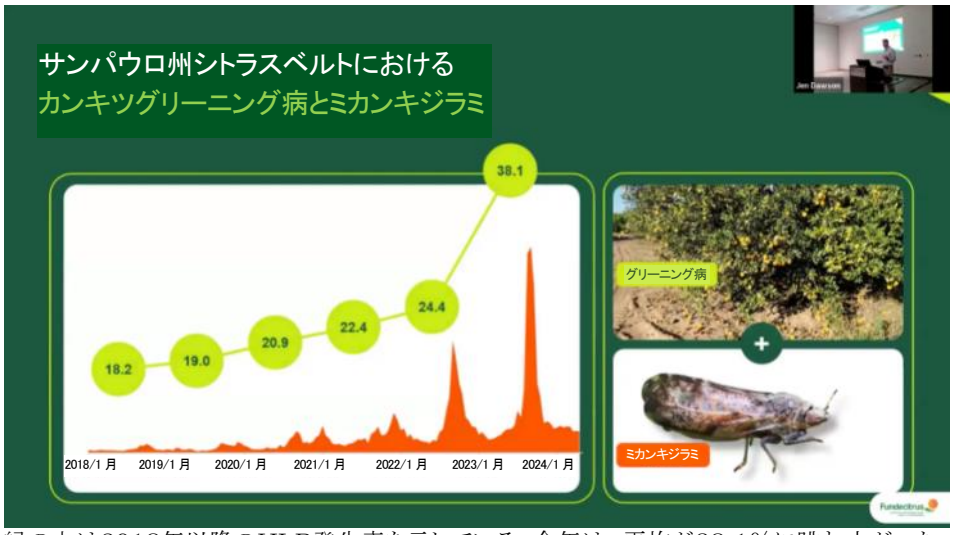


ブラジルのオレンジ生産量はここ数年全般的に増加傾向にあるが、今シーズンはヘクタール当たりの出荷箱数が大幅に減少した。

「今シーズン、ブラジルでは状況が変わった。カンキツグリーニング病（HLB）に関し、フロリダ州よりは少し遅れているものの、柑橘類主産地（シトラスベルト）の一部では発生率と収穫量の減少に関し、この病害の最悪の状況に入ったと感じ始めている。」

ブラジルの主要な柑橘類産地はサンパウロ州にあり、同州はブラジルで生産されるオレンジの約74%を占めている。この国では、9,600人の生産者が約114万エーカー（46万ヘクタール）で柑橘類を生産している。その大部分はオレンジであり、レモンとライムが柑橘類生産量のごく一部を占めている。

「今年のオレンジの出荷量は2億3,238万箱と推定されており、これは昨シーズンより約25%少なく、この30年間で最も少ない出荷量となる。この減少は主に天候に起因するものであるが、一部の地域ではHLBによる問題が増加している。」



緑の丸は2018年以降のHLB発生率を示している。今年は、平均が38.1%に跳ね上がった。一方、ミカンキジラミの個体数（赤い部分）は徐々に増加している。

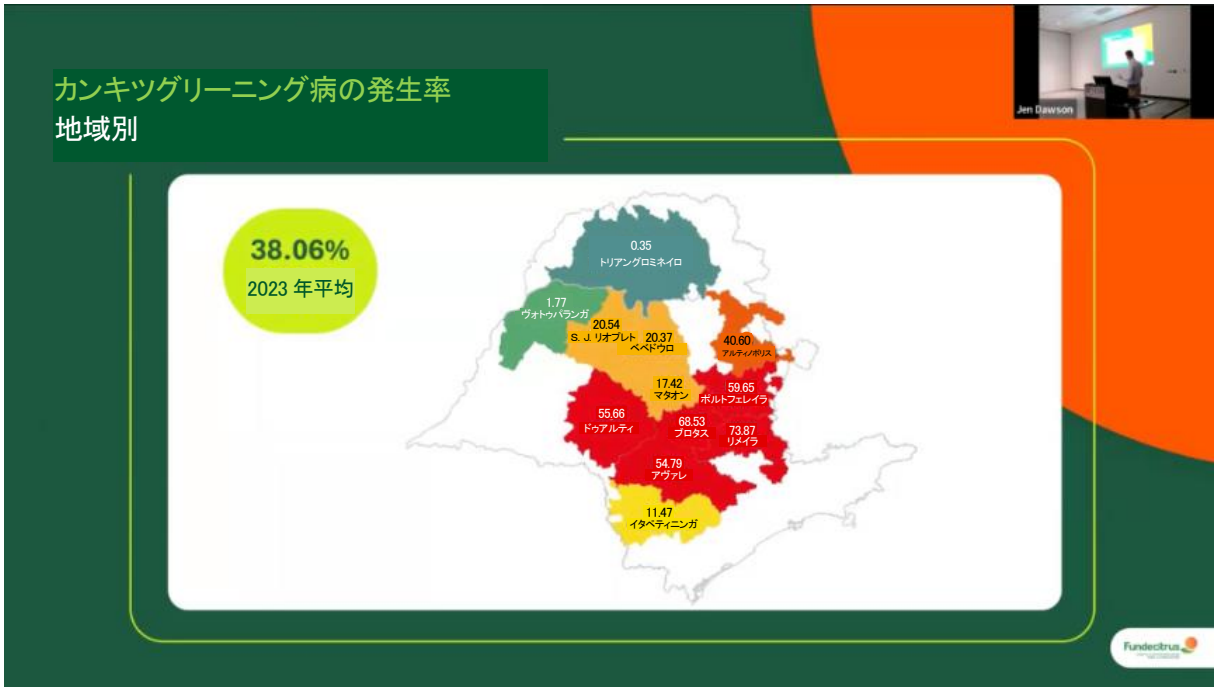
天候の課題は干ばつと暑さによるものである。ベーラウ氏によると、昨年は5回の熱波があり、暖冬であった。

「果樹は大きなストレスを受けており、多くの落果が見られた。ブラジルのシトラスベルトでは約40%しか灌漑されていない。」

シトラスベルトの気候はかなり多様で、HLBの発生率も様々である。この地域の北部では、この病害にとって条件があまり良くないため、発生が少ない。また、北部では少数の生産者が大規模な農場を持つ傾向があり、病害の管理が調整しやすい。

しかし、地域の中部と南部では、この病害はより大きな影響を及ぼしており、それはデータに現れ始めている。2018年以降、ブラジルの生産者は、全体的なHLBの発生率を20%程度にかなり安定的に維持してきた。しかし、2024年には発生率が38%に跳ね上がり、その大部分が中部と南部での増加によるものである。

ミカンキジラミ(ACP)は拡散を続けており、毎年数が増えている。しかし、現在は果樹が干ばつ状態に置かれているため新梢(ACPが卵を産み付ける)が少なく、ACPの個体数は少なくなっている。生産者達は、この害虫を防除するために使用される4系統の化学物質に対するACPの耐性を報告している。ベーラウ氏は、生産者達は現在、薬剤のローテーションと耐性管理を以前よりうまく行っていると述べた。



ブラジルのシトラスベルトの北部ではHLBの発生率がまだ低く(2%未満)、中部と南部では発生率がはるかに高い。

「HLB発生率が最も高いのはシトラスベルトの中部である。現在、若い果樹(樹齢3～5年)の約3分の1が発症している。発症した果樹は生産性が低下することが分かっており、これは憂慮すべきことである。」

一部の生産者、特に北部ではまだ発症した果樹を探して除去しているが、他の生産者、特に発生率が高い地域では、果樹を除去することにうんざりし始めている。

感覚的にHLBの進行が加速しており、データはそれを裏付けている。そのため、ブラジルの生産者は、フロリダ州の生産者がこの病害の影響を緩和するために試みてきたことに注目している。

「落果の状態がフロリダ州で見られるものと似ている場所がある。一部の生産者は、フロリダ州の生産者のように、落果を減らすために植物成長調整剤を使い始めている。」

同氏は、一部の生産者は、病害にとって条件があまり好ましくなくHLBの発生率が低い北部に移動していると付け加えた。

(訳注: 英文の記事では随所で「感染率」となっていますが、他の記事に照らし合わせ翻訳では「発生率」としました。)

197. ブラジル産ハスアボカドに日本が市場を開放

FreshFruitPortal　2024年9月9日

ブラジルのアボカド産業は、市場を征服し続けている。今年これまでにコスタリカへの参入を果たし、現在、日本がこの南米の主要産地で生産されたハス品種を歓迎している。

ブラジル政府と国内の業界は、日本政府がこの果実の送付を公式に承認したことを満足を以て受け止めた。ブラジル農牧省と外務省は共同コミュニケで、「アボカド輸出の承認は、ブラジルのアグリビジネスに新たなチャンスを開くと同時に、世界で最も要求の厳しい市場の1つである日本市場への果実の供給を多様化するものである」としている。ブラジル果実・果実加工品生産者輸出業者協会（Abrafrutas）も、果実セクターにとって重要なこのニュースを祝福した。

同協会は、ブラジルの輸出業者が遵守すべき一連の要件を日本が設定したと説明した。その中には、品質の高い果実のみが送られるよう、日本の検査官が毎年訪問し、輸出される果実の収穫・梱包施設を認証することが含まれている。

ブラジルは世界最大のアボカド生産国の1つであり、2022年の生産量は33万8千トンを超えている。アボカドは主に、気候と土壌がハス種、ブレダ種等の生育に適したサンパウロ州、ミナスジェライス州、パラナ州、エスピリトサント州及びセアラ州で栽培されており、国際市場で高く評価されている。

ブラジルのハスアボカド輸出は近年大幅に増加しており、2023年の輸出量は前年比9.72%増の2万3千トンに達したと同協会は強調する。主な輸出先はアルゼンチン、ボリビア、フランス、ウルグアイ等のほか、ヨーロッパ諸国（特にスペイン、オランダ、英国）である。

同協会はまた、日本が世界最大の生鮮果実輸入国の1つであり、アボカドは栄養が豊富で料理の用途が広いスーパーフードとしての人気により消費量が近年急速に伸びていることから、日本市場がブラジル産アボカドにとって有望な機会を提供することを強調した。

同協会のギリェルメ・コエーリョ会長は、「この市場開放は、官民両部門による多くの共同作業と対話の成果である。我々にとっては、その独特の品質と風味が認知されているアボカドで、日本人の味覚を虜にする絶好の機会である。日本の厳格な植物検疫基準を継続的に遵守して、この扉をブラジルに開放し続けることは、今や我々次第である」と述べた。日本はアジア最大のアボカド輸入国である。　（参考：植物検疫実施細則）

198. 米国カリフォルニア州　カンキツグリーニング病検疫規制地域を拡大

米国農務省動植物検疫局通知 DA-2024-35 2024年9月10日（11日送信）

件名：APHISはカリフォルニア州のカンキツグリーニング病（HLB）検疫規制地域を拡大

宛先：州、部族及び準州の農業規制当局担当官

以下は直ちに発効する。米国農務省動植物検疫局（APHIS）は、カリフォルニア州食品農業局（CDFA）と協力して、*Candidatus Liberibacter asiaticus* によって引き起こされるカンキツグリーニング病（黄龍病;HLB）の検疫規制地域を拡大する。拡大される地域は、ロサンゼルス郡、オレンジ郡、リバーサイド郡の約50平方マイルである。APHISはまた、ベンチュラ郡の検疫エリアを約0.7平方マイル拡大する。APHISは、ロサンゼルス郡、オレンジ郡、リバーサイド郡及びベンチュラ郡の住宅地から収集された植物組織のサンプルからカンキツグリーニング病が検出されたためにこの措置を講じるものである。この拡大措置の影響を受ける商業的な柑橘類はない。

APHISは、カリフォルニア州の検疫規制地域からの規制対象物品の州間移動に安全対策を適用している。これらの措置は、CDFAが2024年8月1日、8月5日及び8月22日に定めた州内の検疫と並行して行われる。この措置は、HLBが米国の非感染地域に広がるのを防ぐために必要なものである。

カリフォルニア州の検疫規制地域の具体的な変更内容は、APHISカンキツグリーニング病ウェブサイトに掲載されている。APHISは、おってこの変更を連邦官報に掲載する。（連絡先等省略）

199. ニュージーランド　オレンジ果汁供給が世界的要因によって圧迫

FreshPlaza　2024年9月10日

国内東海岸でのサイクロン被害や世界有数のオレンジ生産国であるブラジルの収量の減少などの要因が重なり、ニュージーランドでは全国のスーパーマーケットでオレンジ果汁の不足に直面している。ブラジルの果樹園は干ばつと病害の影響を受けており、その結果、生産量が大幅に減少している。

ニュージーランド柑橘類協会が7月の当初見通しで同国のオレンジ果汁の供給に影響はないと保証していたにもかかわらず、8月には不足が明らかになった。チャーリーズブランドのオレンジ果汁の販売代理店であるベタードリンクス社は、世界的な不足の影響で同社では先月在庫が尽きたことを認めたが、すぐに補充されると予想している。同様に、ホームグロウンジュース社でも不足が生じている。フードスタッフス社は、世界的な不足が同社の店舗に与える影響に注目し、小容量の容器での販売を増やしたり混合果汁の選択肢を提供したりすることで、その緩和に取り組んでいる。ウールワース社は、自社ブランドの果汁を導入することで供給問題に対処している。

この不足は、オレンジ農場経営の財政的継続可能性など、より広範な業界の課題を浮き上がらせている。リビングジュース社のブルース・コベントリー氏は、低価格と厳しい認証要件によって悪化した小規模生産者、特に有機生産者にとっての経済的圧力を指摘した。この状況は、製品の品質が高いにもかかわらず、小規模な生産者が市場で直面している困難を際立たせている。

出典: RNZ（ニュージーランド国営放送局）

200. ペルー　課題はあるも農産物輸出が増加

FreshPlaza　2024年9月10日

ペルーの農産物輸出額は2023年末までに105億4,500万米ドルに達し、農産物輸出部門における世界の主要な供給国としての地位を確立している。農業開発灌漑省（Midagri）の報告によると、この数字は2024年末までに115億米ドルを超えると予想されている。同省の農業貿易スペシャリストであるセザール・ロメロ氏は、課題はあるものの、農業生産者、輸出業者及びペルー政府の協力により、2023年の農産物輸出は前年比で2.9%増加したと述べている。

ペルーの農産物輸出の成功は、農産物輸出全体の74.6%を占める20の主要品目に支えられている。中でも、ブドウ、ブルーベリー、アボカドは主要な輸出品として浮上してきており、それぞれ年間の実績が10億米ドルを超えるか、それに近づいている。特にブドウは、2023年に64万9千トンが輸出され、輸出額は2022年と比較して28%の大幅な増加となった。米国、EU、アジア市場、特に香港と中国がこれらの輸出の主な出荷先である。

ブルーベリーが僅差でこれに続き、2023年の輸出額は16億7,600万米ドルであったが、前年比では24.2%減となった。ただし、この供給量の減少は、国際市場価格の上昇につながった。植物遺伝学の革新により、ペルーはブルーベリーの輸出シーズンを延長し、果実の品質に関する高い国際基準を満たすことができるようになった。米国とEUは、ペルー産ブルーベリーの最大の消費者である。

アボカドも好調で、2023年の輸出額は7.6%増の総額9億6,300万米ドルとなった。EUがペルー産アボカドの最大の市場であり、米国がそれに続く。ペルーの多様な気候と生態系は、年間を通じての生産と地理的な柔軟性を高め、気候の課題を克服することを可能にしている。

さらに、コーヒー、カカオ、マンゴー、アスパラガスなどの品目は、国際市場で引き続き注目を集めている。2023年のペルーの農業セクターの回復力は、その自然の利点と多様な気候を活用し、安定した生産と輸出の成長を確保する能力によるものである。

出展：Andina

201. EU裁判所がマンダリン品種の権利に対する異議を棄却

EUROFRUIT　2024年9月12日

欧州連合（EU）一般裁判所がナドルコット品種の権利に対するユーロセミージャス社の異議を棄却

ナドルコット品種の権利に関するユーロセミージャス社の異議申し立てを欧州連合一般裁判所が棄却し、ナドルコットプロテクション（NCP: 同品種の知的財産権を保有し、その保護を行う組織）が法的な勝利を収めた。

欧州連合の一般裁判所は2024年9月11日、NCPの立場を支持し、ユーロセミージャス社による無効申請を却下した欧州植物品種庁（CPVO）審判部の決定に対する同社の異議申し立てを棄却した。

この判決は、CPVOとその審判部が十分な証拠を収集し分析した上で結論に達したこと、及び証拠の評価に対するユーロセミージャス社の主張が曖昧であり、CPVOやその審判部による評価の何が誤っているかさえ特定していないことを強調した。

この一般裁判所の判決は、ユーロセミージャス社の申し立てに対し、ナドルコットの権利の有効性が3回連続で確認されたことを意味する。

この決定は、CPVOの審判部がユーロセミージャス社の立場を否定し、タンゴールド品種とナドルコットとの間には2つの違いしかないと裁定し、植物の新品種の保護に関する国際条約（UPOV）が「『本質的に由来する品種』の定義についての注釈」の中で、NCPが当初から「本質的に由来する品種」の概念について持っていた立場を確認したことを踏まえて下されたものである。

NCPのモハメド・ベンビガ氏は、「NCPはナドルコット品種に対する有効な権利を有しており、我々は権利の侵害が黙認されることを許さない」と述べた。

執筆者：リアム・オキャラハン

（関連記事）EUの一般裁判所はナドルコットマンダリンの保護を支持

FreshPlaza　2024年9月13日

欧州連合司法裁判所（CJEU）が、保護の無効を求めてユーロセミージャス社が提起した控訴を却下したため、欧州連合一般裁判所は、2004年からモロッコ国王が有しているナドルコットマンダリン品種の保護が有効であることを認めた。

水曜日に出された裁定は、欧州植物品種庁（CPVO）の職権上の調査の欠如を批判した同社の主張を否定するものである。なお、欧州植物品種庁は、同社による以前の訴えを「根拠がない」と判断して2020年にすでに棄却していた。

ユーロセミージャス社は、猶予期間が終了する前にこの品種の構成要素や収穫物がEU内外で利用する目的で移転されたと指摘し、ナドコット品種が新規性の要件を満たしていないと主張していた。しかし、欧州連合一般裁判所は、同社が言及した移転と引き渡しは純粋に実験的なものであり、問題となっている植栽は猶予期間内に行われたものであるため、ナドコット品種の新規性には影響しないと指摘した。

同社はまた、ナドルコット品種の申請は不正確な情報を含んでおり、これによりEUでの猶予期間の延長をもたらす出願日の割り当てが妨げられるべきであるため、保護は有効でないとの立場を維持していた。しかし、一般裁判所は、保護の要求が有効であるとしたCPVOの結論は正しいと判断した。

出典：　europapress.es

（関連記事）EU　ナドルコットマンダリンの登録取り消し要求を棄却

FreshPlaza　2024年10月7日

ナドルコットマンダリン品種の保護を無効化するためのユーロセミージャ社の要求に関する先月の記事に続いて、その後の進展があった*。欧州連合のすべての機関は、ナドルコット品種の登録取り消しを求める同社の要求を棄却した。同社の直近の敗北は、2024年9月11日の欧州連合一般裁判所の判決であった。当該記事はこちら。

ユーロセミージャ社は、ナドルコットプロテクション（NCP: 同品種の知的財産権を保有し、その保護を行う組織）が提起した侵害訴訟に対応せざるを得なくなる。また、品種偽造であるとのナドルコットプロテクションの主張も強化されている。中でも、欧州当局と国際機関は、タンゴールドはナドルコット品種の権利侵害であるとの判決を下している。すなわち、（1）欧州当局は、タンゴールドとナドルコットの間には（繁殖力に関連する）2つの違いしか存在しないことを示しており、（2）タンゴールドが「本質的に派生した品種」であり、したがってナドルコット品種の偽造品であると主張するためにUPOV（植物の新品種の保護に関する国際条約）の「本質的に由来する品種」に関する注釈が用いられている。

NCPは、ナドルコットの独占的権利を引き続き保護し、関連するすべての法的地域において、その知的財産の不正利用を防止するために、あらゆる適切な措置を講じることとしている。

訳注：この記事で、「その後の進展」は上記のEUROFRUIT　2024年9月12日及びFreshPlaza　2024年9月13日の記事に記述されている事柄を指します。内容が重複しますが、記述の仕方が異なるため参考として掲載しています。

202. フィリピン　アジアのバナナ市場で強力な足場を維持

FreshPlaza　2024年9月12日

国連食糧農業機関（FAO）によると、フィリピン産キャベンディッシュバナナは、アジア市場で引き続き最大の選択肢となっている。FAOの「バナナ市場レビュー2023」は、フィリピンがアジアのキャベンディッシュバナナ需要の約60%を供給していることを強調している。グアテマラに抜かれて世界第3位の輸出国に転落したとは言え、フィリピンは国際的なバナナ市場で強い存在感を維持している。

価格が手頃なバナナは、世界中で安定した需要がある。FAOによると、プランテインを除く世界のバナナ輸出は、2023年に0.3%の微増で1,930万トンとなった。これは、2022年に見られた6%の減少からの回復を示している。モルドールインテリジェンス社の市場分析は、世界のバナナ産業は2022年から2027年までの期間に年平均（複利）4.5%で成長すると予想している。

しかし、フィリピンのバナナ産業は、輸出機会を活用する能力を妨げる可能性のある国内生産の課題に直面している。FAOの報告書は、フィリピンを含む主要生産国からの輸出供給の制約が成長を制限していると指摘している。フザリウム菌熱帯株4（TR4）などの問題が生産に大きな影響を与えており、フィリピンでは最大1万8千ヘクタールのキャベンディッシュバナナ農場が影響を受けている。

新たな市場を開拓しようとする政府の努力と、従来とは異なるバイヤーからの関心は前向きな兆候である。しかし、FAOの調査結果は、生産の非効率性と高いコストに対処するための政策介入の必要性を強調している。ドゥテルテ前大統領の政権下で策定されたフィリピン農業省のバナナ産業ロードマップは、これらの課題に取り組むことを目的としており、特に小規模生産者を支援するため、病害虫防除と生産費の削減に焦点を当てている。

出典：BusinessMirror

203. ブラジル　年次調査でカンキツグリーニング病の拡大が判明

FreshFruitPortal　2024年9月12日

カンキツグリーニング病（黄龍病、HLB）の発生率に関する柑橘類栽培防衛財団（Fundecitrus）の最新の年次調査によると、サンパウロ州とミナスジェライス州南西部（三角地帯）の柑橘類主産地（シトラスベルト）全体として、この病害の発生率は2023年の38%から2024年には44%に上昇した。これは、7年連続の増加となる。

同財団によると、シトラスベルトには合計2億374万本のオレンジの木があり、約9,036万本が発症している。

シトラスベルトの12の地域のうち、5つの地域は発生率が60%を超え、2地域は発生率が40～50%、3地域は発生率が15～25%で、発生率が5%未満の地域は2つだけである。

報告書によると、この増加は、この病害を媒介する昆虫の個体数が2023年にこれまでで最も多くなり、トラップ当たりの平均捕獲数が2022年と比較して54%増加したことに起因する可能性がある。

発生率は増加したものの、今年の6.29ポイントの上昇は、2022年から2023年にかけての13.66ポイントの上昇に比べて大幅に小さい。2023年から2024年にかけての病害の拡大の鈍化に関連する可能性のある要因の1つは、シトラスベルト全体で通常よりも気温が高かったことである。

2023年にこの病害の発生率が低かった北部と北西部では、最高気温が35℃を超える日がより多く記録された。同財団の研究者であるヘナート・バッサネッジ氏は、これが新たな発生を押しとどめた可能性があると考えている。

発生を鈍化させた可能性のあるその他の要因としては、生産者が若い果樹園と成熟した果樹園の両方で同じ厳格さで疾病管理手法（作用機序の異なる殺虫剤のローテーションでの使用、散布間隔の短縮、散布技術の向上等）を適用したことが挙げられる。

また、発生率の低い地域での発症した果樹の除去も引き続き行われ、ひどく影響を受けた果樹園の廃止が増加した。

さらに、新しい果樹園の立地を選択する際に病害圧力が低い場所を探すようにしたことは、シトラスベルト内の発生率の低下に有利に働いた。

2024年に最も発生率が高かったのは、引き続きリメイラ（79.38%）、ブロタス（77.06%）、ポルトフェレイラ（71.77%）、ドゥアルティーナ（63.93%）、アヴァレ（63.41%）の各地域である。発生率が最も増加した地域はベベドウロ（39.7%）であった。アルティノポリス地域は発生率が高い（42.93%）グループ内に留まった。

マタオン（18.91%）、サンホセドリオプレト（17.57%）及びイタペチニンガ（15.19%）の各地域は、中程度にとどまっている。

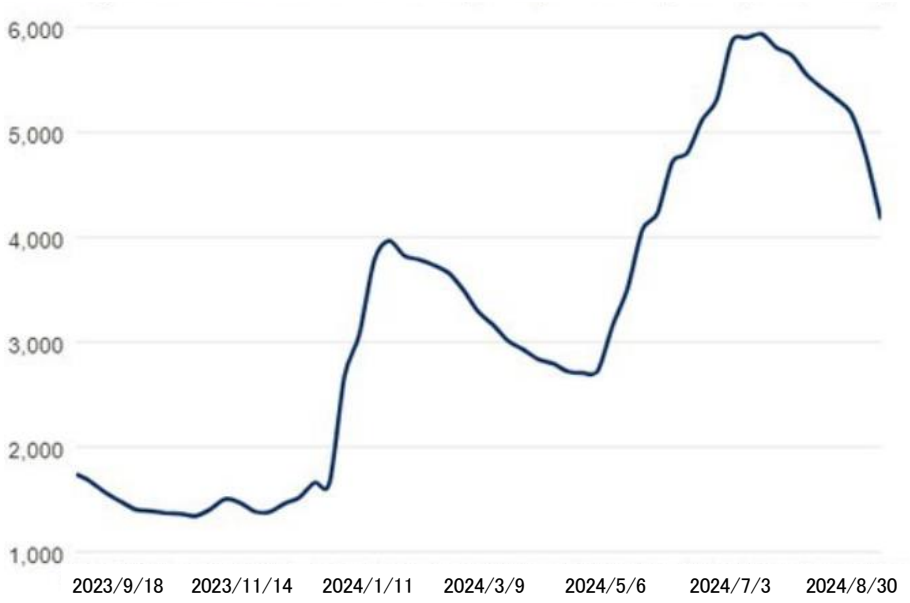
ヴォトゥポランガ（3.14%）とトリアングロミネイロ（0.11%）は、引き続き発生率が最も低い。ただし、トリアングロミネイロでは発生率の低下が見られた一方、ヴォトゥポランガ地域では前年と比較して発生率の大幅な増加が観察された。

204. 海上コンテナ運賃　総合指数が下落

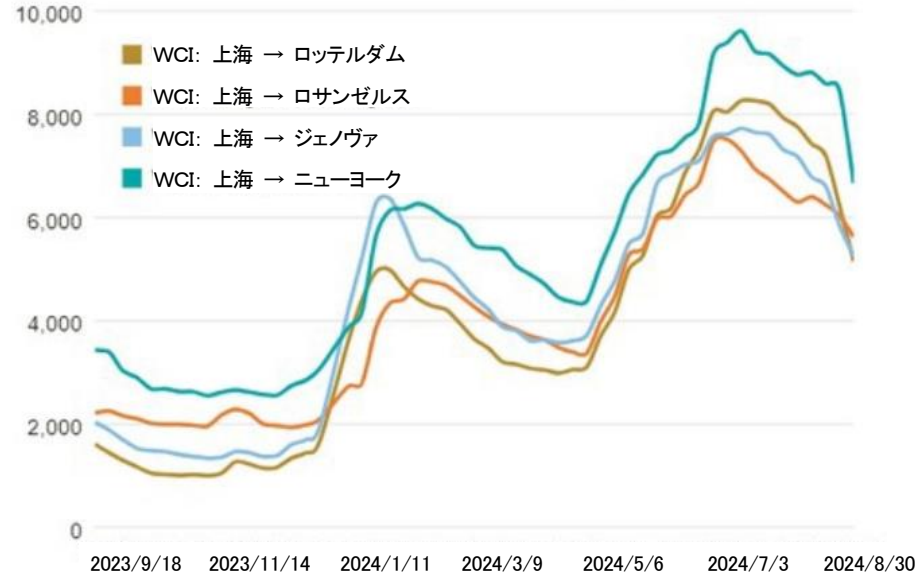
FreshPlaza　2024年9月13日

ドリューリー社世界コンテナ指数（WCI）の総合指数は、今週13%下落し、40フィートコンテナ当たり4,168ドルとなった。

ドリューリー社世界コンテナ指数（WCI） – 2024年9月12日（米ドル/40フィートコンテナ）



ドリューリー社世界コンテナ指数（WCI） 上海発（米ドル/40フィートコンテナ）



2024年9月12日（木）の詳細な評価

- 最新のドリューリーWCI 総合指数は40フィートコンテナ当たり（以下同じ）4,168ドルで、前回のパンデミックによるピークであった2021年9月の1万377ドルを60%下回っているが、2019年（パンデミック前）の平均である1,420ドルより193%高くなっている。
- 年初来の平均総合指数は4,128ドルで、10年平均の2,818ドル（2020年から2022年のコロナ禍で膨らんでいる）よりも1,310ドル高くなっている。

- 上海からニューヨークへのスポット運賃は21%(1,790ドル)急落し、6,661ドルとなった。同様に、上海からロッテルダムへの運賃は17%(1,067ドル)下落し5,152ドルとなった。上海からジェノヴァへの運賃は10%(586ドル)下落し、5,256ドルとなった。また、ロッテルダムからニューヨークへの運賃は9%(201ドル)下落して2,011ドルとなった。さらに、上海からロサンゼルスへの運賃は、7%(403ドル)下落して5,627ドルとなった。ニューヨークからロッテルダムへの運賃は4%(28ドル)低下し704ドルとなった。ロッテルダムから上海までの運賃は1%(6ドル)縮小し606ドルとなった。逆に、ロサンゼルスから上海へのスポット運賃は、1%(4ドル)上昇して718ドルとなった。荷主は、10月に予定されているILA(米国東海岸の港湾労働者組合)のストライキを避けるため米国東海岸から西海岸に貨物を移動させており、その結果、需要が減少している。これにより、東海岸のスポット運賃は21%と大幅に低下した。ドリューリー社は、需要が弱いため東西航路の運賃が今後数週間でさらに低下すると予想している。

スポット運賃、航路別

航路	航路コード	2024/8/29	2024/9/5	2024/9/12	対前週比(%)	対前年比(%)
総合指数	WCI-COMPOSITE	$5,181	$4,775	$4,168	-13% ▼	167% ▲
上海 – ロッテルダム	WCI-SHA-RTM	$7,204	$6,219	$5,152	-17% ▼	297% ▲
ロッテルダム – 上海	WCI-RTM-SHA	$622	$612	$606	-1% ▼	25% ▲
上海 – ジェノヴァ	WCI-SHA-GOA	$6,611	$5,842	$5,256	-10% ▼	210% ▲
上海 – ロサンゼルス	WCI-SHA-LAX	$6,248	$6,030	$5,627	-7% ▼	160% ▲
ロサンゼルス – 上海	WCI-LAX-SHA	$710	$714	$718	1% ▲	-14% ▼
上海 – ニューヨーク	WCI-SHA-NYC	$8,591	$8,451	$6,661	-21% ▼	120% ▲
ニューヨーク – ロッテルダム	WCI-NYC-RTM	$743	$732	$704	-4% ▼	-4% ▼
ロッテルダム – ニューヨーク	WCI-RTM-NYC	$1,908	$2,212	$2,011	-9% ▼	28% ▲

205. ペルー　チャンカイ港の開港によりアジア向け地域物流のハブに

FreshPlaza　2024年9月12日

チャンカイ港の開港が間近に迫り、ペルーは国際物流の主要なプレーヤーになると目されている。同港は、南米からのアジア向け輸出の輸送時間と物流コストを大幅に削減することを約束するインフラである。ペルー輸出観光促進庁（PromPerú）貿易促進部のサユリ・サキハマ・メレンデス次長は最近のインタビューで、このプロジェクトがペルーと南米の輸出の見通しをどのように変えるかを強調した。（以下「 」は同次長の発言）

11月に開港予定のチャンカイ港は、南北アメリカで最も近代的で100％自動化されており、ペルーから中国への直行便は輸送時間をわずか25日に短縮できる。「現在は、ペルーまたは南米の太平洋岸から上海に向かう輸出品は、到着までに約35日かかる。この新しい港によって、その時間は10日から12日短縮される。」ブラジルやアルゼンチンなど大西洋岸の国では、現在はアジアまで60日かかる輸送時間が丸1カ月短縮され、その差はさらに大きくなる。

現在の航路と主要港　　新しい航路による貿易の強化

左：現在の航路　チリ、ペルー、コロンビア、メキシコから日本、中国まで所要日数 35 日（赤：往路、青：復路）
中：現在の航路　ブラジル、ウルグアイ、アルゼンチンからシンガポール、日本、中国まで所要日数 60 日（同）
右：新しい航路でアジアまでの輸送時間が 10～12 日短縮

アジアとの主要接続港であるペルーは、新しいハブの恩恵を受ける唯一の国ではない。チャンカイ港を利用して輸送時間を短縮できる他の南米諸国からの輸出も容易になる。「ブラジルとペルーを結ぶ大洋間高速道路などの陸路による相互接続は、ブラジルの産品がアジア市場により早く到達することを可能にし、この地域の他の港の代替となるだろう。」

チャンカイ港の最も注目すべき特徴の1つは、最先端の自動化であり、コンテナの積み下ろし時間を大幅に短縮する。「Cosco社（中国遠洋海運集団）が行った投資のおかげで、この港は上海で使用されているのと同様の技術を使用するため、以前は3時間かかっていた船からの荷下ろしが1時間未満でできる。」

さらに、ポストパナマックスとして知られる大型船を扱えるキャパシティがあり、より多くの貨物を輸送することができる。これは、青果物や加工品などの傷みやすい産品や、市場価値を維持するために目的地に迅速に到着する必要がある鉱物に関して大きな違いを生むであろう。

ペルー及び同地域への経済的影響は甚大である。輸送時間を短縮することで、ペルーと南米の産品はより早くアジアに到着するようになり、輸出業者は鮮度と配送速度を重視する市場で競争力を高めることができる。サキハマ氏は、チャンカイ港の操業開始により、南米地域の他の港に比べ、ペルーはアジアへの出荷において重要な競争優位性を獲得すると付け加えた。「新しい港湾インフラとこれまでに締結された22の自由貿易協定によって、ペルーは独自の優位性を有している。我が国を出発する産品は、より低い関税でアジア市場に到着する。」

サキハマ氏は、このプロジェクトが短期的にも長期的にも物流を変革すると強調した。見通しとしては、今後10年間で、ペルーは南北アメリカにおけるアジア向け出荷の主要な物流ハブとしての地位を固める。

ペルーはチャンカイ港とインフラの改善により、地域全体に利益をもたらし、輸出企業や物流サービスプロバイダーのために大きな機会を創出し、国際貿易の主要なハブとしての地位を確立する道をたどっている。

206. ニュージーランド　キウイフルーツ産業の3つの記念日

HORTNEWS　2024年9月13日

キウイフルーツ生産者は来月、業界の3重の祝賀を迎える。

10月22日にマウントマウンガヌイ地区（タウランガ市内のゼスプリ本社の所在地）のマーキュリーベイパークで開催される祝賀ディナーでは、過去と現在の生産者に加え、業界の関係者が一堂に会する。

このイベントは、業界の成功を支えるシングルデスクの仕組み（独占販売制度）の35周年、生産者支援団体であるニュージーランド・キウイフルーツ生産者協会（NZKGI）の30周年、そしてゼスプリの商業運営を可能にするキウイフルーツ産業再編法の25周年を祝うものである。

NZKGIは声明で、ニュージーランドのキウイフルーツ産業が今日の成功に至る道のりは、決して平坦なものではなかったとして次のように述べている。

「ニュージーランドを象徴するキウイフルーツの物語は、1900年代初頭に少数の果樹園が形成された時に始まった。しかし、商業的なキウイフルーツ産業が本格的に始まったのは1960年代になってからであった。

当時の生産者の多くは、今日我々が知っている業界のバックボーンを作り上げることに尽力した。祝賀会には過去と現在のすべての生産者と業界の関係者が集まり、互いに旧交を温め、業界がどれだけ進歩したかを称え合う。

この祝賀会は、参加者が交流するとともに、今日大成功を収めている業界の基礎を築くために多大な個人的犠牲を払いつつリーダーシップと交渉スキルを発揮した業界の先駆的な生産者から話を聞く機会である。」

キウイフルーツ栽培者のヘンドリック・ピーターズ氏は、こうした生産者の1人であり、20代の頃にキウイフルーツの区画を設置し、後にテプケ地区果実生産者協会に参加した初期の頃を振り返る。

1980年代までに、キウイフルーツの生産は活況を呈するようになった。

ピーターズ氏は、「販売と輸出業者について多くの議論があり、私は変化の必要性について見解を持つに至った。生産者は輸出業者や小売業者の言いなりになっており、私は生産者が栽培だけでなく、販売についてももっと主導権を持つべきだと考えていた」と話す。

キウイフルーツが豊富にあり海外での需要が減少していたため、輸出用のキウイフルーツをすべて買い取る権限を持つキウイフルーツ販売委員会が設立された。2024年は、キウイフルーツ輸出のためのシングルデスクの制定から35周年を迎える。

1992年と1993年には、キウイフルーツ販売委員会が価格を高く設定しすぎ、キウイフルーツは廃棄を余儀なくされた。生産者達は莫大な借金と不安を抱えており、何かを変える必要があった。ピーターズ氏は生産者達をまとめ、彼らの利益を代表する作業部会の結成に向けた合意形成に主導的役割を果たすことになった。この作業部会は後に、ニュージーランド・キウイフルーツ生産者協会（NZKGI）として知られることとなる。現在、約2,800人のキウイフルーツ生産者の声を代表しているこの組織は、30年前の1994年に実現した。

その後、1999年9月にキウイフルーツ産業再編法が可決され、キウイフルーツ販売委員会の商業的運営体であるゼスプリが、生産者間での株の取引が可能な会社として、2000年4月1日に設立された。2024年は、キウイフルーツ産業再編法の25周年に当たる。

ピーターズ氏は、キウイフルーツかいよう病（Psa-V）からの回復を含め、キウイフルーツ産業が成功を収めたのは偶然ではないと言い、「我々のゼスプリモデルは魔法のようなものであり、守る必要がある」と述べた。

執筆者：スデシュ・キッスン

207. 南アフリカ　柑橘類の輸出予測は安定

EUROFRUIT　2024年9月16日

総輸出量の最新の予測は前年よりわずかに多い1億6,550万箱

南アフリカは今シーズン、昨年よりも多くの柑橘類を輸出する可能性が高く、最新の予測は1億6,550万箱となっている。

今シーズンこれまでは、果汁市場が好調だったため、加工用の出荷を増やした生産者が多く、その結果、生鮮輸出量の予測はシーズン当初の1億8,170万箱から最新の予測に低下した。

情報筋によると、重要な市場で南アフリカ産果実が不足しているとの認識が広がっていることを背景に、生鮮市場の収益性が改善した。

また、あるコメンテーターは、「南アフリカの柑橘類業界の幹部たちが今年もまた、過去数年間そうであったように、すべてのオレンジのヨーロッパ向け輸出検査を早期に終了すると発表する可能性は低い」と指摘した。

南アフリカ柑橘類生産者協会（CGA）は業界向けの最新のブリーフィング文書で、「シーズンが進む中で品目別部会が何度も下方修正を行ってきたが、最近では好調な市場環境がシーズン後半の輸出を促進し、上方修正の傾向にある。2024年の輸出向け検査合格数量の合計は現在、2023年の水準をわずかに上回っているが、当初の見通しやビジョン260（業界目標の2億6千万箱）の水準をはるかに下回っている」としている。

主として国の北部と東部の生産者と輸出業者に影響を与える早期の検査終了を検討しない主な理由は、カンキツ黒星病を理由とする欧州当局の不合格判定が前のシーズンよりも少ないためであると報告されている。

また、現在最終段階に移行しつつある南アフリカと欧州連合との間のWTO手続きにも関係があると考える人もいる。ある情報筋は「WTO のプロセスに照らして、誰も船を大きく揺らしたくないことは明らかだ」と述べた。

ただし、シーズン後半まで輸出量を維持したい全く普通の販売上の理由 － 通常の供給条件によるヨーロッパでの品不足の恐れ － があるかも知れない。あるオブザーバーは、「不足が起こると経済原則が効いてくるため、これが現在起こっていることかも知れない」と概説した。

いずれにしても、南アフリカの輸出シーズンは終盤に向かっており、西ケープ州の生産者は10月上旬に米国への出荷を完了し、10月末までに輸送、通関を終えるものと予想されている。シーズン終盤のヨーロッパと英国への出荷は、まだしばらく続くと予想される。

グレープフルーツの出荷シーズンは1,520万箱で終了し、昨年の1,470万箱を上回った。マンダリンとソフト柑橘類は3,800万箱から4,170万箱に増加し、レモンは昨年の3,560万箱から約100万箱の減少、ネーブルオレンジは2,490万箱で横ばい、バレンシアオレンジは昨年より約200万箱少ない4,910万箱と予想されている。

執筆者：フレッド・メインチェス

208. 米国北西部　サクランボの収穫は予想を上回る

FreshPlaza　2024年9月16日

北西部サクランボ生産者協会は、困難はあったがサクランボの収穫は良好だったと見ている

北西部サクランボ生産者協会のB. J. サービー会長は6月に、再び残念な収穫シーズンとなる可能性について懸念を表明していた。しかし、作物の一部に悪影響を及ぼした1週間の猛暑を除いて、そうした懸念は大幅に軽減された。サービー氏は、「需要が大変強く、収穫量もすばらしかった」と述べた。

同協会は、ワシントン州、オレゴン州、アイダホ州、ユタ州、モンタナ州のサクランボ生産者を代表する組織で、ワシントン州が収穫量の大部分を占めている。今年、北西部では1,920万箱（20ポンド（約9.1kg）/箱）のサクランボが産出され、そのうち1,770万箱はワシントン州から出荷された。この収穫量はサービー氏の当初の予測を上回り、この地域の良好な年の水準に値するものであった。

サービー氏は、「最も良かったことは、全体的な需要が最初から最後まで供給を上回ったことである」と述べ、この需要の多くが果実のサイズと品質によるものだとして、「今年の果実は本当に良かった」と付け加え、果実の並外れた品質について生産者達を称賛した。

北西部では2023年にサクランボの生産量が大幅に回復し、2022年の1,330万箱に対して合計1,870万箱が収穫された。ナイト果樹園のオーナーであるケビン・ナイト氏は、過度の暑さにより米国農務省がワシントン州の11の郡について災害宣言を出したり、収穫が遅れたカリフォルニア州産との競合があった過去2年間に比べて良くなったと振り返る。

ナイト氏によると、7月の熱波の後、廃棄率が通常の2倍の約30%に上昇したものの、サクランボの収穫は7月29日に好調のうちに終了した。同氏は最後に、「全体として、不満は何もない。私にとってはかなり良い年であった」と述べた。

出典：The Seattle Times

209. ブラジル　オレンジ主産地は収穫量減少の予測

FreshPlaza　2024年9月17日

サンパウロ州の大部分で9月上旬に高温を記録した。このシナリオは、今年も深刻な熱波に直面する可能性がある柑橘類生産者に懸念をもたらした。気象予報会社のクリマテンポ社は、9月の熱波はブラジルのほとんどの地域でより一般的になってきており、より激しく、より長く続くようになっているとしている。

柑橘類生産防衛財団（Fundecitrus）が9月10日に発表したデータによると、サンパウロ州とトリアングロミネイロ地域（ミナスジェライス州北西部の三角地帯）では、2024/25年度のオレンジ出荷シーズンに、2億1,578万箱（40.8kg/箱）が収穫されるものと見られる。これは、以前の生産量（平均生産量）よりも30%少なく、今年度の当初予測である2億3,238万箱を下回る。

この減少は、乾燥して暖かい天候による果実の小玉化に関連している。天候はまた、成熟に影響を与え、収穫のペースを加速させた。この乾燥した天候のシナリオでは、9月下旬まで雨が降らないと予測されているため、この期間に果実の半分以上を収穫することができる。

サンパウロ州の南西部を除き、柑橘類主産地のほぼすべての地域で降雨量が少なかった。Fundecitrusによると、今シーズンの生産量が増加すると予想されるのはサンパウロ州の南西部のみで、そこでは2023/24年度よりも19%増加する可能性がある。他の地域では、生産量が28%～60%減少する可能性がある。

210. ペルー　今年上半期の果実輸出の分析

FreshFruitPortal　2024年9月17日

農業輸出情報のフルクトゥアンテ社は最近、2024年上半期のペルーの農産物輸出に関する最新のレポートを発表した。本サイト（Freshfruitportal.com）はペルーの主要な果実の現状と動向を分析した同社のデビッド・サンドバル氏に話を聞いた。

サンドバル氏は、ペルーは昨年に比べていくつかの悪天候による課題を経験しており、「今年は一部の品目、特にブルーベリーに影響が出ており、今シーズン序盤の出荷が減少した。これはまさに昨年の悪天候に起因するもので、主に剪定の遅れにより今頃になって影響が出ている」と述べた。（以下「 」は同氏の発言）

同氏は、今年上半期の輸出向け農産物は例年ほど好調ではなかったが、「しかし、成長した」と付け加えた。

アボカド

アボカドに関して同氏は、果実のサイズが要求を満たしていないため問題があると指摘した。

同氏は、上半期にはアボカドは18%のシェアを占めるペルーの主要な輸出農産物であり、ドル建ての輸出額は同様（約20%）の率の成長を遂げたと詳述した。

「輸出の66%はオランダ向けであり、スペインが20%、米国が12%でそれに続く。」

産地については、リマ、ラリベルタード、ランバイエケ、イカ及びアンカシュの各県が主要産地であると指摘した。

「2025年シーズンに期待するのは、果実のサイズが大きくなり、出荷の面で重要な役割を果たせることだ。」

生食用ブドウ

サンドバル氏は生食用ブドウの市場分析について、イカ県がこの果実の生産において重要な地域であり、ピウラ県とアレキパ県がそれに続くと説明した。

「ブドウは2024年上半期の2番目に重要な品目である。ペルーは主に3つの輸出市場に出荷した。第1位は米国でシェア48%、次いでメキシコが11%、オランダが9%であった。」

ブルーベリー

ブルーベリー業界は、分析対象期間に112%の成長を遂げ、最も重要な品目の第3位にランクされた。

「通常と異なり、昨年の終盤、つまり10月、11月、12月の出荷量がそれほど多くなく、それらの月の出荷量が今年の最初の数カ月にシフトした。そのため、今年前半の成長率が大きくなった。」

同氏は、ブルーベリー栽培は寒さで苦労していると説明した。さらに、低温の結果として剪定が遅れた。「来年は、2024年前半に比べて成長率が鈍化する可能性が非常に高い。」

市場に関しては、主な輸出先として63%が米国に集中し、オランダと英国がそれに続くと述べた。

マンゴー

マンゴーは、2024年のペルーの農産物輸出第6位の品目であり、主な輸出先はヨーロッパ、特にオランダ、スペイン、英国である。

サンドバル氏は、「輸出のほぼ3分の1、つまり28%を米国向けが占め、そこでの主な競争相手はメキシコである」と説明した。

同氏は、2023年のペルーの農産物輸出額は合計100億ドルであったと述べた。「これに対し、メキシコは600億ドル強を輸出しており、これは我が国の輸出額の6倍である。」

マンゴーについては、昨年はピウラ県、カスマ県をはじめとして開花に適した天候ではなかったため、特に年の最後の数カ月に出荷量が大きく減少したと同氏は詳しく説明した。

同氏は、今年、生産者は着花量が多いことを目にしており、「これにより、生産者はやや大玉のより良い果実を得ることができると見られ、一部の地域では、輸出できない小玉のマンゴーを間引きしている」と説明し、また、マンゴーの出荷量は年末までに増加し始めると予想していると述べた。

同氏はさらに、マンゴー生産者が供給量を調整し、ヨーロッパと米国をはじめとする様々な市場に産品を出荷する際に、特定の週の供給過剰を防ぐよう出荷時期を検討することを推奨した。

そのうえで、生産者が自ら組織化して全員が同じ時期の同じ市場に出荷しないようにすべきであり、「収穫期間をもう少し延ばせる人は、1週間後に出荷するべきだ。そうすれば、供給が集中して価格が下がるという問題を避けることができる」と同氏は付け加えた。

チャンカイ港

今年の11月に予定されているチャンカイ港の開港が近づいている。この点について同CEOは、ペルーの産品が最適な条件で約束された時間にアジア市場に到達できることが、「果実の需要が大きく要求が厳しい中国、日本、台湾、韓国に輸出しようとする際の最大の課題であったことから」、この開港により実現されることが望まれると述べた。

同氏は、新港が開港すると、「ブドウの主要産地であるイカ県が港に非常に近く、果実を輸出するための迅速なアクセスが得られるので、主にブドウが輸出されるだろう」と付け加えた。

サンドバル氏は、中国は商業的な観点からペルーで非常に戦略的な行動をとっていると述べた。「上海の港でペルーの産品が扱われるよう公共部門と民間部門の両面でうまく対応すれば、受け入れられるだろう。」

同氏は、1年や2年で結果が出ないことを強調した。「おそらく、他のすべての港湾と同様に、中長期的に、5年から10年くらいで結果が出るだろう。」

推奨事項

このセクターのグローバルな視点から、サンドバルCEOはペルーの果実業界にいくつかの推奨事項を示した。

「様々な市場に出荷を分散させ、新しいニッチ市場を探すことが重要である。この戦略は、新しい市場に参入するための植物検疫要件を満たすため、ビジネス部門だけでなく政府にも共有されなければならない。」

同氏は、道路が維持管理されていないため、ペルーの陸上物流を改善する必要があると付け加えた。「多くのことを改善する必要があるが、その一つが国内の連絡道路である。」

同氏は、「生産、出荷期間、及び商業的なコミュニケーションに細心の注意を払わなければならない。なぜなら、外国の取引先とコミュニケーションを取らなければ、彼らは我々が持っている産品を知らず、彼らが我々を知らなければ、我々は産品を売ることができないからだ」と述べて締めくくった。

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

211. トルコ　ザクロ栽培に最適な天候

FreshPlaza　2024年9月17日

トルコの青果物輸出業者アクスン社の販売部長であるアキン・ソイレン氏は、今年のトルコ産ザクロは期待できるとして、「今年は豊作で、例年よりも出荷量が多くなることを喜んでいる。気象条件が良好で大雨が降らなかったことから開花期は大変良好で収量の増加に貢献した。この豊作により、高まる需要に対応し、既存の市場と新興市場の両方で立場を強化することができる。さらに、出荷期間が5月まで延び、通常よりも長く高品質のザクロを提供することができる」と述べた。（以下「 」は同氏の発言）

天候がトルコのザクロ栽培に非常に適していたため、アクスン社は出荷シーズンの延長を予想していると同氏は説明する。「今シーズンのトルコの天候は、ザクロの栽培に非常に適している。生育期間の重要な時期における穏やかな気温と適時の降雨は、弊社の果樹の健全な成育に貢献した。大雨や雹を伴う嵐、予期せぬ降霜などの極端な天候がなかったため、作物のストレスや病害の蔓延が最小限に抑えられたことは重要である。その結果、最適な開花期となり、味と外観が優れた高品質の果実が得られ、出荷期間が延長された。」

ソイレン氏によると、消費者がザクロを食事に取り入れる傾向がますます強まっている。「現在、ザクロの需要は堅調で、世界的に成長を続けている。消費者は、高い抗酸化レベル等の健康上の利点が認識されたザクロのようなスーパーフルーツをますます求めている。供給シーズンが5月まで延長されたことで、この高まる需要に対応することができる。特に、ヨーロッパ、中東、アジアの市場から強い関心が寄せられている。」

物流上の課題があまりにも長期化したため、同社は新しい状況に適応することができたとソイレン氏は言う。「紅海の危機が物流上の課題をもたらしたことから、弊社では輸出戦略を積極的に適応させ、最適化した。潜在的な混乱を軽減するために、弊社では輸送ルートを多様化し、代替の港や輸送パートナーと協力してきた。出荷シーズンを5月まで延長したことで、これらの課題を乗り切るための柔軟性がさらに高まった。このアプローチにより、弊社の商品は遅滞なく取引先に届き、先方が期待する信頼性と効率性が維持される。」

出荷シーズンが安定しているように見えるため、アジア市場での拡大を目指す同社は、既存のクライアントと新規のクライアントの両方に焦点を当てる。「今シーズンの弊社の焦点は2つある。出荷シーズンの延長と出荷量の増加により、需要が堅調で安定しているヨーロッパ諸国との関係を強化することを目指す。一方、新規市場での新たな機会も模索して行く。弊社では、ザクロのような健康的でエキゾチックな果実への欲求が高まっているアジア市場への拡大を目指している。今シーズンのこの時点では、価格は生産者と消費者の双方にとって良好である。昨シーズンと比較すると、供給量が多く、入手可能期間が長いことを反映して、価格はわずかに低くなっている。この価格戦略は、取引先に利益をもたらすだけでなく、弊社が市場シェアを拡大するのにも役立つ。」

ソイレン氏は、トルコ産のザクロが今シーズンの競争で優位に立つための非常に強力な立場にあると感じている。「弊社の競争相手は主にスペイン、インド、エジプトなどの国に拠点を置いている。しかし、トルコ産のザクロには、それらと一線を画す明確な利点がある。良好な気象条件と最適な開花期のおかげで、より高品質な果実のより多くの生産につながった。また、主要な市場に近いため、輸送時間が短く、到着時の鮮度が確保できる。最後に、供給シーズンが延長されたことで、競合相手が対応できない時期にも需要を満たすことができる。これらの強みを活用することで、トルコ産のザクロは他国との競争において先行している。」

「今後数週間で活気に満ちた成功の時を迎えるものと予想している。弊社のチームは、収穫がスムーズに進み、ザクロが効率的に調製・出荷されるよう注力している。出荷シーズンが5月まで延長されたことで、需要は引き続き堅調に推移するものと予想しており、弊社は市場ニーズに迅速に対応する準備が整っている。」

執筆者：ニック・ピーターズ

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

212. スペイン　バレンシア州でカキの収穫が始まる

FreshPlaza　2024年9月17日

「スペインでは、ロホブリランテ品種のカキの世界最大の生産者であることの幸運と課題がある」

先週、スペインのバレンシア州でカキの収穫が始まった。モロンド社のフェルナンド・マルティ氏は、「出荷シーズンは9月12日に始まり、2月20日頃まで続く。昨年と比較して、降雨量が不足しているため小玉になるが、品質は良く、出荷量は同程度と見込んでいる。ただし、雹を伴う嵐やアザミウマなどの害虫の脅威が依然として存在することから、損失が増えるかもしれない」と話す。（以下「 」は同氏の発言）

「それでも、今年は、園地管理のお陰でシーズンの初めから終わりまで適切な色と硬さの果実を提供することができるので、再びシーズン全体を通じて通常のサービスを提供する。」

「この点に関し、農業での使用が許可されている植物衛生措置について、ヨーロッパの規制当局からの圧力が高まっていることを指摘する必要がある。認可された有効成分の数が減少し病害虫を制御するための十分に有効な代替手段がないため、病害虫の増殖を引き起こしている。」

「植物検疫資材の使用による環境への影響を減らすための対策の実施と、農業部門の生存を確保するための有害な病害虫との闘いとのバランスを模索することが望ましいと思う。これは、病虫害では損失に加えて処置の費用もかかるからである。例えば、アザミウマの場合、既に使用している薬剤に新しいものを追加する必要があるが、コストが絶えず上昇している状況では収益性の低下を伴う。」

「スペインの農業が次第に持続可能になっていることを忘れてはならない。実際、弊社は水の効率的な管理と持続可能な使用に関する新しい認証を取得した。我が国はこれまで常にヨーロッパの農園であった。その地位を失わないために、ヨーロッパの規制は我々が必要とする予防と処置のためのツールの使用を認めるべきである。」

「毎年、夏果実から秋果実への移行期に、カキは多くの関心を集めている」

カキは国内外の市場で大変好評を博してきた。「出荷に必要な脱渋処理が近代化されたのはわずか30年前であり、カキは比較的新しい果実である。毎年、夏果実から秋果実への移行期に、カキは多くの関心を集めている。」

「弊社は引き続き、スペインとヨーロッパの主要な卸売市場及びヨーロッパの主要なスーパーマーケットチェーンと取引している。また、カナダなど遠方の取引先もあり、実際、現在、カナダ市場ではカキの消費量が増加傾向にある。」

「スペイン全般、特にバレンシア州で、我々はロホブリランテ品種のカキの世界最大の生産者であることの幸運と課題を有している。そのため、我々にはこの産品の収益性を確保する責任がある。」

「こうした理由から、近年、果実の消費量が全般的に減少していることを考えると、弊社のカキを宣伝する取り組みはますます重要になっている。我々は弊社が素晴らしい産品を持っていると分かっているが、一部の国の消費者の間ではまだ認知度が低い。」

「だからこそ、弊社はスペイン・カキ協会が実施しているすべての販促活動に感謝している。その中で、弊社は、ささやかながらカキを主な食材とした美食イベントを開催している。実際、前回の出荷シーズンの成功体験を踏まえて2025年に新しいバージョンを開催する予定で、参加に関心のある人は誰でも今後数カ月の内に登録することを歓迎する。」

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

213. 米国ワシントン州　リンゴの作柄は中程度

The　Packer　2024年9月17日

不作と豊作の後、ワシントン州産のリンゴの作柄は中程度

今シーズンのワシントン州のリンゴの作柄について、ワシントン州ヤキマ市に本拠を置くワシントンフルーツグロワーズ社のダン・デイビス事業開発担当副社長は、平年並みに戻ったとして、「もはや何が普通であるのか誰もわからないのではないかと思うが、今年は中間の平均的な作柄のようだ － 過去2年間に目にしたような豊作でも、不作でもない」と述べた。

ワシントン州ウェナチー市に本拠を置くCMI果樹園のロッシェル・ボーム販売担当副社長は、2022年の不作と2023年の大豊作の後、今年の作柄は生産者や梱包業者、販売業者にとってより扱いやすいものになるとして、「リンゴ業界は過去数年間かなりの変動を経験しており、生産量は一方の極端からもう一方の極端に振れた。2年前には供給不足が市場を襲い、在庫の逼迫と引き合いの強さにつながった。昨年はその逆の大豊作で、豊富な果実が市場に溢れかえった。今年は、バランスの取れた中程度の作柄で最適だ。安定的で取り扱いやすい収穫量は完璧な需給バランスに繋がり、高品質なリンゴの安定的な入手を確保することができる」と語った。

ワシントン州セラ市に本拠を置くレーニアフルーツ社のタイラー・ジョンソン営業部長は、「熱波から寒波へ振れる極端な天候が数シーズン続いた後、通常と言える状態に戻ったことに安堵している。全体的な予想収穫量は2023-24年度より少ないが、昨年のワシントン州の収穫量は記録破りだったので、これは驚くことではない」と述べた。

ウェナチー市に本拠を置くステミルトグロワーズ社のブリアンナ・シェールズ販売部長は、今年の収穫量はやや減少すると言い、「2024年のワシントン州の収穫量は1億2,400万箱と予測されており、昨年より9%少ない」と述べた。

ワシントン州グランドビュー市に本拠を置くリバーバレーフルーツ社の営業専門家であるカッシ・オロスコ氏は、同州の生産者は穏やかな冬を経験したが、夏の終わりの暑さが果実のサイズに影響を与えたとして、「7月と8月を通しての高温は果実の全般的なサイズに影響を及ぼし、本来のサイズまで肥大することができなかった。すべての果実を大きくすることは難しかったので、大玉の価格は高く保たれると期待したい。大半の品種では、入数100から125のサイズが最も多いと予想される。果実の品質は素晴らしいようだ」と語った。

一方ボーム氏は、果実のサイズが小さいほど、小売業者は消費者の関心に応えることができると言い、「一部の品種では果実のサイズが小さい方が、袋詰めでリンゴを販売するのに適しており、利便性と分量の調整を重視する現在の消費者トレンドと完全に一致している」と述べた。

収穫が進行する中、シェールズ氏も結果は良好なようだと言い、「着色は良好であり、現在、周年供給を確保するために、果実の長期保存に重点を置いていくつかの品種を選んでいる」と述べた。

品種の見通し

シェールズ氏は、州全体の収穫量が9%減少した理由の一部は、今年のワシントン州のハニークリスプ品種の収穫量が推定26%減少したことであると考えている。これは隔年結果の可能性がある。同氏は、ハニークリスプは2023年に前年比30%数量が増加したとして、「今年は、ハニークリスプが大幅に減少しているため、ハニークリスプの購入者の一部をコズミッククリスプなどの新興品種に移すことが重要になる」と述べた。

ワシントン州ブリュースター町に本拠を置くハニーベアブランドのドン・ローパー営業販売担当副社長は、特定の品種では2023年産の多少の持ち越しがあるとして、「我々は良い荷動きを期待している。当初の価格は昨年と比較して堅調な兆候が見え始めており、これは良いことである。弊社では、小売業者と積極的に協力しており、特にリンゴが小売の中心となる秋の間にリンゴの販売を促進するため、消費者に焦点を当てたプログラムを実施している」と語った。

ワシントンフルーツグロワーズ社のデイビス氏は、ハニークリスプやグラニースミスが貯蔵ものと一部重複すると述べた。同氏は、生産者の出荷が1週間遅れていることが、同氏のチームが昨年からの持ち越しをより適切にさばくのに役立っていると言い、「昨年産の最後のCA貯蔵ものと今年最初に入荷したハニークリスプを並行して扱っていることが多く、現在、後者の多くが貯蔵庫に運ばれている」と話す。

デイビス氏は、今年のハニークリスプの収穫量が少なく、シーズンのスタートが遅いことが販売業者にとって有利に働いているとして、「ハニークリスプの収穫量が大幅に減少すると予想しているため、昨年の収穫物の残りを扱い、新しい収穫物にそれほど追い立てられていないのが、ありがたいことに現状だ」と述べた。

ヤキマ市に本拠を置くセイジフルーツ社のケイシー・コムスタディウス販売担当副社長は、今年はガラとコズミッククリスプの数量が大幅に増加すると予想しているとして、「ハニークリスプは業界全体としては減少すると予想しているが、弊社では2023年と同程度の量になるだろう」と語った。

ローパー氏は、コズミッククリスプの数量が昨年の800万箱から今年は1,100万箱に約40％大幅に増加すると予想していると言い、「すべてのコズミッククリスプを適切にさばくため、弊社のワシントン州の販売担当者達の努力が必要になる」と述べた。

シェールズ氏も、レッドデリシャスやゴールデンデリシャスが減り、クラブ品種のリンゴが増えたと指摘しつつ、業界はリンゴの消費を促進するために努力する必要があると同意し、「これは競争の激しい分野であり、リンゴの消費量は減少傾向にあるため、消費者が定期的な購買習慣にリンゴを取り入れるよう、我々はより良い仕事をする必要がある」と述べた。

課題

シェールズ氏は、同州の生産者にとって輸送コストが大きな課題であるとして、「地域で流通する作物は主要な出荷先に近いため、多くの場合、我々よりも物流上の有利性がある」と述べた。

ローパー氏はまた、昨年の豊作と出荷量の多さが生産者の収益に影響を与えたと言い、「ワシントン州の全体的な価格水準が大幅に下がり、これは農場出荷と弊社の出荷/貯蔵の両方の段階で収益性に直接影響を与えた。価格が下がった一方、必ずしも販売額の低下を埋め合わせるほど数量が増えたわけではなかった」と語った。

コムスタディウス氏は、労働力はコストと確保の両面で、同州の生産者にとって引き続き大きな課題であるとして、「ビジネスを行うための他の多くのコストと同様に、人件費は過去数年間で大幅に増加した」と述べた。

デイビス氏も同意見で、州の時間外労働規制の影響が、生産者にとって既に困難な状況をさらに悪化させたと指摘し、「ワシントン州のリンゴ生産者にとって最も困難なことの1つは、作物の収益性が高いわけではなく、賃金が上がり続け、時間外労働法が変更された中で、事業を経済的に成り立たせることだ」と述べた。

コムスタディウス氏によると、生産者は自動化とテクノロジーへの投資を通じて効率を最大化する方法を模索することで、ある程度の安心感を求めている。

デイビス氏は、同州の乾燥した気候のおかげで、生産者達は投入される資材を大部分コントロールできる一方で、それらの投入物のコストの上昇がビジネスの動向を変えたとして、「我々は、一連の健全な投入資材を利用できるという幸運に恵まれているが、そのコストはすべて劇的に増加している。重要な関心事は、コストが上昇し、農場の売り上げが増えない環境で、どのようにして営農を続けるかということだ」と述べた。

（以下省略）

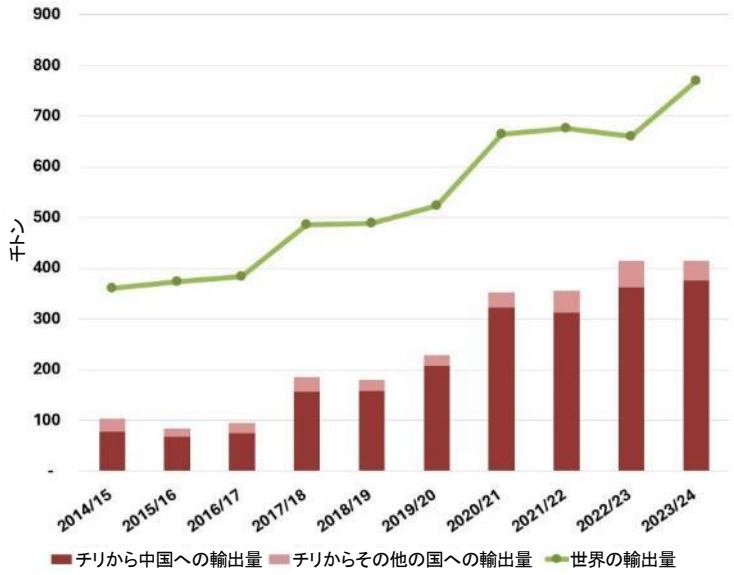
執筆者：クリスティーナ・ヘリック

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

214. 世界の核果類事情と市場動向（モモ、サクランボ）

米国農務省海外農業局 2024年9月14日

中国の需要がチリの生鮮サクランボ輸出を促進



出典：Trade Data Monitor, LLC.

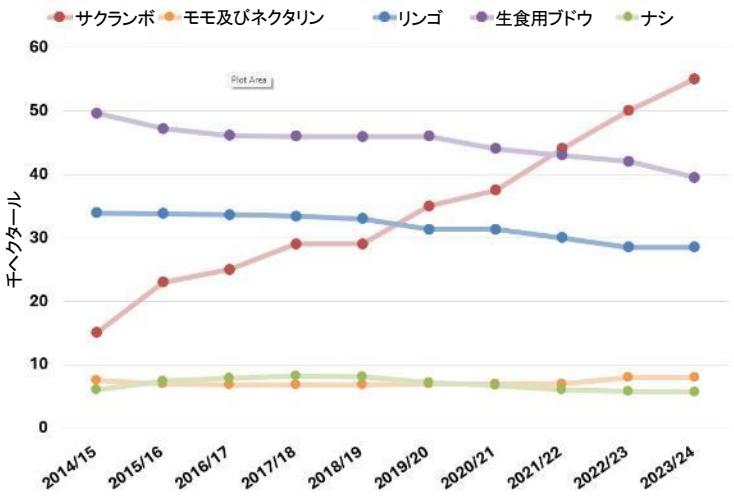
チリの生鮮サクランボ輸出は過去10年で4倍に増加し、その約90%が中国向けであり、国内産とは季節が逆の重要な供給を担っている。2023/24年販売年度（年度）（南半球では2023年11月～2024年10月）のチリから中国へのサクランボ輸出量は37万5千トンと推定され、世界の生鮮サクランボ貿易量のほぼ半分を占めた。[1]

チリの生産量と中国の国内消費量はともにさらに増加すると予測されており、この二国間関係は世界の生鮮サクランボ貿易において引き続き大きな役割を果たすと考えられる。

中国の生鮮サクランボ生産量は近年着実に伸びており、2023/24年度（北半球では2023年4月～2024年3月）には80万トンに達したが、国内の消費需要に追いついていない。チリからの輸入は、12月から2月にかけての国内産とは季節が逆の時期の重要な供給源であり、旧正月前後の需要ピークと一致している。米国は中国で2番目に大きな輸入サクランボの供給国であるが、米国の市場シェアは中国の国内生産との季節的な競合と高い関税によって制約されている。[2]

チリは世界第4位のサクランボ生産国であるが、輸出国としては最大であり、その輸出量は第2位の輸出国であるトルコの約5倍である。チリでは、過去10年間で収穫面積と生産量がほぼ4倍になったが、国内消費量は2倍にとどまっている。この成長は、チリの収益性の低い他の果実生産、特にリンゴと生食用ブドウの減少の上に成り立っており、それらの栽培面積がサクランボ生産に移行した。チリの2023/24年度のサクランボの輸出量は、暖冬と春の多雨によって収量が減少したためわずかに減少した。[3]

チリの落葉果実及び核果類の収穫面積



米国向けの輸出量は20%減少したが、中国向けの輸出は数量ベースで3%、金額ベースで15%近く増加した。昨年のチリの生産量の伸び悩みと中国の変わらない高い需要は、中国市場でのチリ産サクランボの価格上昇と、輸出市場を多様化しようとする意欲の抑制につながった。

1 販売年度はまだ終了していないが、通常チリの生鮮サクランボの輸出の99%以上が11月から3月の期間に発生している。
2 詳細については、海外農業局北京事務所（中国）の核果類年次報告書（2024年）参照
3 詳細については、海外農業局サンチャゴ事務所（チリ）の核果類年次報告書（2024年）参照

中国の景気減速に対する懸念がこのセクターに影響を与えるとは予想されておらず、2024/25年度の中国の生鮮サクランボの輸入量は最大41万5千トンと予測され、これは10年連続の成長となる。チリでは冬季の生育条件に恵まれ、生産量は史上最高の50万2千トンと予測される。サクランボ生産国の上位15カ国のうち唯一南半球に位置するチリの輸出上の優位性は短期的に変わる可能性が低く、中国との二国間貿易は引き続き世界のサクランボ部門の主要な推進役となるものと見られる。

生鮮サクランボ　2024/25年度の主要ポイント

世界のサクランボ生産量は、中国、チリ、欧州連合（EU）及び米国での通常の生育条件下での増産が、トルコでの減少を上回るため、微増の500万トンと予測される。輸出量は、チリでは増加するがウズベキスタンとイランでは減少するため、全体では過去最高であった昨年の輸出量に近い75万9千トンと予測される。

トルコの生産量は、今年の生育条件は良好ではあるものの昨年の例外的な好天と過去最高の生産量には及ばないと予想されることから、4万8千トン減の90万トンと予測される。輸出量は、EUの需要が引き続き堅調であるため、前年とほぼ同じ8万5千トンと予測される。

中国の生産量は、最大のサクランボ産地である山東省の干ばつにもかかわらず、他の地域での栽培面積の増加と平年並みの生育条件が継続的な成長を支え、5万トン増の85万トンと予測される。輸入は、チリと米国での生産量の増加により、7%増の41万5千トンと予測される。生産と輸入の同時の成長に牽引され、国内消費量は過去6年間で2倍以上に増加し、2024/25年には130万トンに達するものと予測される。

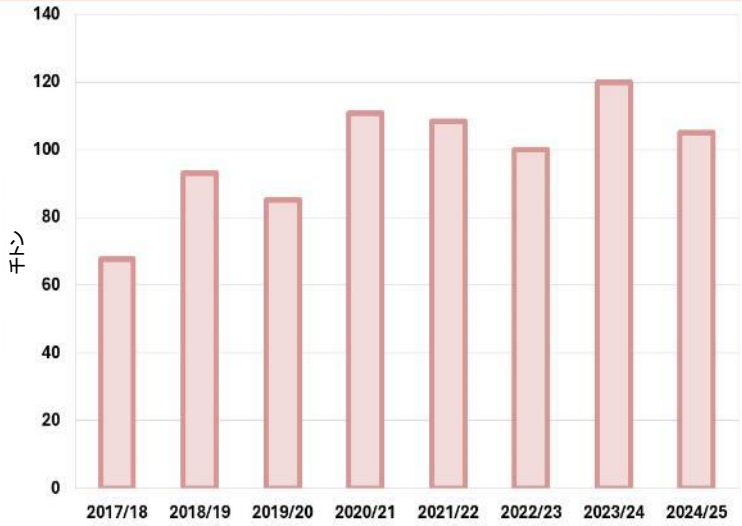
EUの生産量は、最大の生産国であるポーランドの霜害により、昨年の悪天候による被害からの回復が限定されるため、1万トン増の71万5千トンと予測される。輸入量は、トルコからの好調な出荷により微増の6万トンで、17年ぶりの高水準になると予測される。輸出量は、3千トン増えるものの5年平均を下回る1万5千トンと予想される。

チリの生産量は、栽培面積の増加とこの冬の豊富な降雨や良好な天候条件が相まって、3万2千トン増の50万2千トンと予測される。輸出量は、このセクターが中国の高い需要に対応するとともに他の輸出市場への多様化に努めており、記録的な生産量が収穫と梱包の能力を引き続き押し上げると見られることから、3万1千トン増の44万5千トンと予測される。

米国の生産量は、ワシントン州の甘果オウトウ果樹園の凍害にもかかわらず、甘果オウトウと酸果オウトウの合計で1万3千トン増の41万3千トンと予測される。ミシガン州の酸果オウトウの生産量は増加すると予測されるが、今年の夏の暖かく湿った状態と病害虫からの圧力により、品質上の懸念がある。輸出は微増量で10年平均を上回る8万5千トンと予測される。輸入は、チリからの出荷量の増加がカナダからの出荷量の減少を埋め合わせるため、基本的に前年と変わらない2万トンと予測される。

ロシアの輸入量は、アゼルバイジャンとウズベキスタンからの出荷量の減少が、トルコからの出荷量の増加を上回るため、過去最高であった昨年より1万5千トン少ない10万5千トンと予測される。

ロシアのサクランボ輸入量は史上最高の昨年から下落



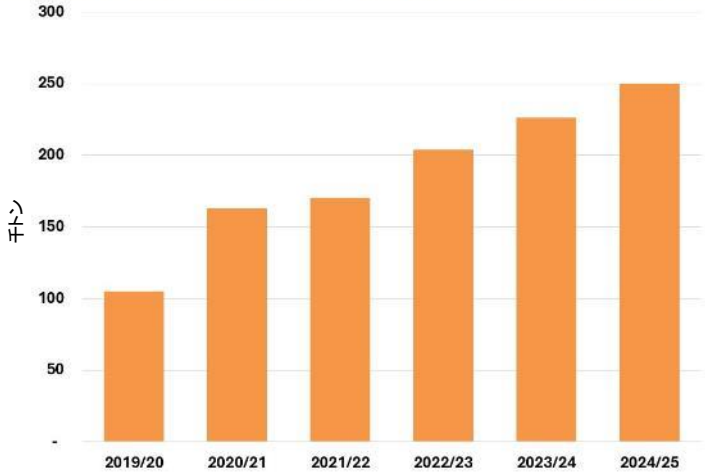
生鮮モモ及びネクタリン　2024/25年度の主要ポイント

世界のモモとネクタリンの生産量は、中国、EU、トルコ、米国の上位4カ国の増加により、42万5千トン増の2,540万トンと予測される。これらの国々での供給の増加に牽引されて、輸出量は6万5千トン増の100万トンと予測される。また輸入量も、ロシア、英国、中国、カナダへの出荷量の増加が、イラク及びサウジアラビアへの出荷量の減少を上回るため、増加すると予想される。

中国の生産量は、南部の省の増収が継続的な栽培面積の減少と北部の省の干ばつによる減収を上回ったため、10万トン増の1,760万トンと予想される。輸出量は、ベトナム、キルギスタン、ロシアへの出荷の増加により、25%増の7万5千トンと予測される。輸入量は、中国が最近チリに対し、これまでのネクタリンに加えてモモにも市場アクセスを与えたため、生産量の増加にもかかわらず、1万1千トン増の5万4千トンと予測される。

EUの生産量は、最大の生産国であるスペインをはじめとする良好な生育条件により、20万1千トン増の360万トンと予測される。生産量の増加に伴い、輸出量は6万3千トン増で5年ぶりの高水準となる20万トンと予測される。輸入量は、トルコからの供給量の増加により、微増の5万トンと予測される。

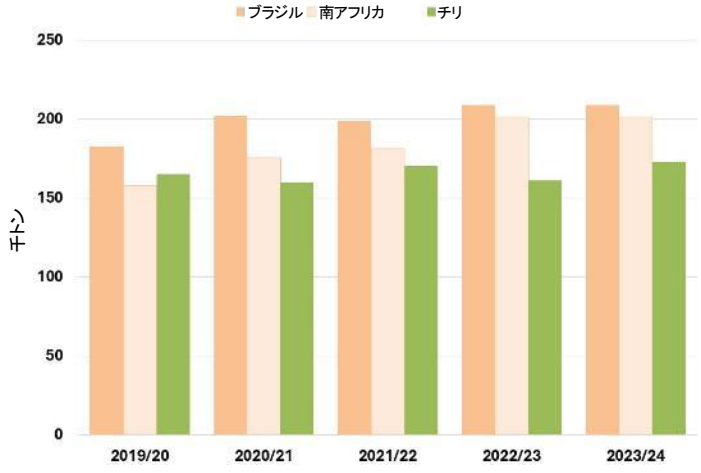
トルコのモモ・ネクタリン輸出量は5年で倍増



トルコの生産量は、栽培面積の拡大、多収性品種の普及及び良好な生育条件により、12万3千トン増の120万トンと予測される。ネクタリンの生産量は、国内外の消費需要に応えて過去5年間で倍増したが、2023/24年度のモモとネクタリンの合計生産量の4分の1にとどまっている。輸出量は、供給量の増加とロシア及びイラクへの出荷量の増加により、2万4千トン増の25万トンと予測される。

米国の生産量は、少なくとも過去40年間で最低水準であった昨年からわずかに改善し、1万5千トン増の66万9千トンと予測される。2年にわたって凍害を受けたジョージア州とサウスカロライナ州の生産量は回復した。カリフォルニア州では春の天候は良好であったが、夏の気温が高く品質に悪影響を及ぼした。輸出量は、輸出可能な供給量の増加により30%増の6万トンと予想され、カナダ、メキシコ、台湾への出荷量が2022/23年度の水準以上に回復する。輸入量は、販売年度の序盤にチリからの出荷が減少したため、5千トン以上の減少となる2万7千トンと予測される。

南半球のモモ・ネクタリン生産量



チリの生産量は、ネクタリンの栽培面積の増加がモモの栽培面積の減少に匹敵するため、17万4千トンでほぼ横ばいと予測される。輸出量は微増の11万6千トンと予測される。生産量ではブラジル、南アフリカ両国の方が多いが、チリは南半球のモモとネクタリンの輸出国としては群を抜いている。

ロシアの輸入量は、トルコ及び中国からの出荷量の増加により、1万1千トン増の34万5千トンと予測される。これが実現すれば、2023/24年度に記録された33万4千トンを超える新記録となる。

サクランボ（甘果及び酸果、生鮮） 主要国の生産需給統計

（千トン）

	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24	2024/25 9月予測
生産量						
トルコ	846	914	874	833	948	900
中国	450	520	630	680	800	850
EU	738	653	726	828	705	715
チリ	256	386	392	471	470	502
米国	398	329	406	308	400	413
ロシア	292	306	332	357	357	357
ウズベキスタン	241	256	287	298	298	298
イラン	253	271	250	240	240	240
ウクライナ	236	238	256	238	238	238
セルビア	114	181	171	187	187	187
その他	237	248	228	254	261	258
合 計	4,062	4,301	4,551	4,694	4,905	4,958
国内消費量						
中国	680	856	948	1,058	1,188	1,265
トルコ	766	827	803	775	865	815
EU	770	688	751	841	751	760
ロシア	378	417	440	457	476	462
米国	324	274	350	293	340	348
ウズベキスタン	224	224	226	271	247	268
ウクライナ	233	239	257	239	240	239
イラン	238	244	230	227	211	225
セルビア	98	164	159	173	178	173
シリア	62	36	38	64	62	65
その他	257	300	310	264	288	299
合 計	4,029	4,269	4,512	4,661	4,844	4,918
輸入量						
中国	230	336	319	378	388	415
ロシア	85	111	108	100	120	105
EU	50	53	44	29	58	60
カナダ	28	26	32	19	31	35
米国	10	13	21	27	21	20
韓国	15	17	19	11	16	15
英国	13	14	16	14	12	15
台湾	12	13	14	12	12	12
イラク	15	12	10	9	14	10
カザフスタン	8	18	29	9	11	7
その他	24	24	25	20	25	25
合 計	491	634	637	628	708	719
輸出量						
チリ	229	353	356	415	414	445
トルコ	81	88	71	58	84	85
米国	84	67	77	42	82	85
ウズベキスタン	17	32	61	26	51	30
アゼルバイジャン	27	31	20	29	36	25
EU	18	15	19	16	12	15
イラン	16	27	20	13	29	15
モルドバ	7	10	8	13	18	15
セルビア	17	18	12	14	10	15
カナダ	9	7	10	12	8	7
その他	19	18	22	21	25	22
合 計	524	664	675	660	769	759

販売年度は、北半球諸国では第1年次の4月に始まり、南半球諸国では第1年次の11月に始まる。サクランボには、甘果オウトウと酸果オウトウを含む。

モモ及びネクタリン（生鮮） 主要国の生産需給統計

（千トン）

	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24	2024/25 9月予測
生産量						
中国	15,800	15,000	16,000	17,000	17,500	17,600
EU	4,066	3,224	2,907	3,120	3,425	3,626
トルコ	830	890	892	1,008	1,077	1,200
米国	728	715	742	693	654	669
イラン	591	605	548	577	577	577
メキシコ	159	173	217	238	238	238
ウズベキスタン	189	184	193	212	212	212
ブラジル	183	202	199	209	209	209
南アフリカ	158	175	181	201	201	201
チリ	165	160	171	161	173	174
その他	694	560	643	629	673	658
合 計	23,563	21,888	22,693	24,049	24,939	25,364
国内消費量						
中国	15,706	14,959	15,989	16,982	17,483	17,579
EU	3,801	3,058	2,813	3,036	3,336	3,476
トルコ	725	727	722	804	851	950
米国	694	686	692	664	640	636
イラン	557	505	481	527	487	512
ロシア	231	324	292	364	381	391
メキシコ	190	195	257	266	267	273
ブラジル	196	214	210	221	226	224
南アフリカ	138	145	151	174	173	172
アルゼンチン	196	96	166	149	145	148
その他	1,057	959	885	879	927	965
合 計	23,489	21,869	22,657	24,066	24,915	25,325
輸入量						
ロシア	194	286	250	317	334	345
イラク	82	76	59	53	94	80
英国	93	63	57	64	67	75
中国	27	37	33	45	43	54
EU	24	39	43	41	48	50
カナダ	39	41	41	36	28	40
キルギス	11	23	13	27	28	35
メキシコ	32	23	40	28	30	35
サウジアラビア	38	49	39	36	45	35
ウクライナ	48	48	35	24	34	35
その他	283	241	180	158	164	181
合 計	870	926	789	829	914	965
輸出量						
トルコ	105	163	170	204	226	250
EU	259	180	137	125	137	200
チリ	102	99	112	104	115	116
中国	121	78	45	63	60	75
ウズベキスタン	56	86	56	77	92	75
イラン	35	100	67	50	90	65
米国	71	61	83	61	46	60
ヨルダン	70	54	59	42	56	50
アゼルバイジャン	8	8	23	27	45	35
南アフリカ	21	32	31	29	29	30
その他	64	61	43	31	42	47
合 計	914	921	825	812	938	1,003

販売年度は、北半球諸国では第1年次の1月に始まり、南半球諸国では第1年次の11月に始まる。

215. 米国カリフォルニア州　ネーブルとマンダリンの2024-25年度当初予測

Citrus Industry 2024年9月20日

カリフォルニア州食品農業局（CDFA）は米国農務省農業統計局と共同で、カリフォルニア州のネーブルオレンジと一部のマンダリンの収穫量について、2024-25年度の当初予測を発表した。

ネーブルオレンジ　カリフォルニア州の2024-25年度産ネーブルオレンジ出荷量の当初予測は、前年比2%増の7,800万箱である。この予測は、6月8日から8月25日までに実施された調査に基づいている。この予測には、慣行栽培、有機栽培、及び特殊なネーブル品種（カラカラ、ブラッドオレンジ等）が含まれる。

調査データによると、果樹1本当たりの着果数は前年比24%増の414果であった。9月1日現在の果実の平均直径は前年比5%減の2.06インチであった。結果面積は11万エーカーと推計され、1エーカー当たりの収量は709箱と予測される。

カラカラオレンジの生産量は900万箱と予測される。調査データによると、果樹1本当たりの着果数は前年比10%増の301果で、5年平均の262果を15%上回った。9月1日現在の果実の平均直径は2.14インチで、前年を2%下回り、5年平均の2.18インチを2%下回った。

タンゴ及びダブルマーコットアフーラー品種　カリフォルニア州の2024-25年度のタンゴとダブルマーコットアフーラー品種マンダリンの予測出荷量は、40ポンド箱で2,900万箱である。この予測は、7月1日から9月1日までに実施された調査に基づいている。

調査データによると、果樹1本当たりの着果数は前年比12%増の666果であった。9月1日現在の果実の平均直径は1.3インチで、これらの品種の前年との比較で8%増加した。結果面積は3万3千エーカーと推計され、1エーカー当たりの収量は40ポンド箱で879箱と推計される。過去の最終生産予測は、こちら

出典：CDFA

（1インチ＝2.54センチメートル、1エーカー＝約0.4047ヘクタール、1ポンド＝約0.4536キログラム）

（関連記事）米国カリフォルニア州　柑橘類の収穫量は増える見込み

FreshPlaza 2024年9月17日

カリフォルニア州の柑橘類実測調査報告書によると、2024-25年度のネーブルオレンジ出荷量の当初予測は7,800万箱（前年比2%増）に達し、マンダリンの収穫量は昨年より800万箱増加するとされている。

カリフォルニア州ポータービル市にあるピアソン農場のトニー・マルケス氏は、「今シーズンのオレンジの予測が増加しているのはうれしいことだ。現場で見る限り、予想は妥当な数値だと思う」と話す。カリフォルニア州の柑橘類の生育シーズンは、華氏100度（摂氏37.8度）に達する日が多く、暑い夏が非常に長いなどの課題があり、その結果として柑橘類への灌漑が増加したが、マルケス氏は楽観的である。（以下「 」は同氏の発言。）

2023-24年度とアザミウマ

「このオレンジ生育シーズンで最も注目すべきことは、アザミウマの被害に関してはるかに良くなったという事実である。」 言うまでもなく、昨年はアザミウマが柑橘類産地の生産者に多くの問題を引き起こした。中でもオレンジの表面の擦り傷は、果実の外観に関する見た目の問題を引き起こし、生産者の収益が低下した。「生産者は、生鮮果実市場よりも収入が少ない果汁用に果実を売らなければならないこともあった。」

アザミウマの問題はまた、この害虫のために果樹園での対応により多くの時間とリソースが割り当てられたことを意味する。「被害は深刻で、多くの生産者が保険金を請求しなければならなかった。次の柑橘類シーズンに向けての状況は、全体としてはるかに良いようだ。天気が良く、不測の事態が発生しない限り、良い年になることを願っている。」

執筆者：アストリッド・ヴァン・デン・ブローク

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

216. 世界の2024/25年度の生食用ブドウ貿易は回復の予想

FRUITNET　2024年9月20日

ラボバンク(オランダの金融機関)の新しい報告書は、気象現象の影響を受け2022/23年度の世界のブドウ輸出が過去4年間で最低の水準に落ち込んだとしている。しかし、同バンクの専門家によるこの報告書「生食用ブドウ最新動向2024」は、天候の影響を受けたほとんどの国が回復の兆しを見せていると指摘し、2024/25年度には貿易量が回復すると予想しており、この分野の楽観的な見方を示している。(以下「 」は報告書の引用)

「昨シーズン(2022/23年度)の世界の生食用ブドウ輸出量は420万トンで、この4シーズンで最低となった。この減少は主にヨーロッパと南北アメリカの気象現象によるものであり、チリ、中国、その他の主要生産国からの輸出の増加はこれを埋め合わせることができなかった。」

報告書によると、南北アメリカからの輸出量のシェアは、過去10シーズンで45%から36%に減少した。米国では、ハリケーン・ヒラリーの影響による減収を受けて、2023/24年度に輸入量が初めて国内生産量を上回った。「ヨーロッパも一層極端な天候、利潤の圧迫、厳しい規制、ヨーロッパ市場の停滞などの課題に直面しており、同様の衰退を経験している。」

対照的に、中国とインドは世界の生食用ブドウ貿易においてより重要性を増しており、純輸入国から純輸出国に移行しつつある。両国の合計輸出量は10シーズンで183%増加し、2023/24年度の世界の輸出量の19%を占めた。

今後、2024/25年度シーズン(北半球では2025年5月31日まで、南半球では9月30日までの12カ月間)には、天候の影響を受けたほとんどの国で生産が回復の兆しを見せており、世界的な貿易が回復するとの期待がある。「さらに、ほとんどの国で新しいライセンス品種による果樹園の更新が予想され、その結果、今後数年間で輸出が増加すると予想されている。」ただし、報告書は、これらの品種の市場シェアが拡大するにつれて、小売り段階でのプレミアムが減少したと指摘している。

217. 台湾　中国の関税免除終了に伴い交渉を促す

FreshPlaza　2024年9月20日

台湾の行政院は、中国政府が台湾の様々な農産物に対する関税免除を停止したことを受けて、中国がWTOの枠組みの中で協議に入るよう求めている。中国財政部は、生鮮果実・野菜、水産物など34品目の免税を終了するが、これは両岸の経済協力を妨げているとされている台湾の「一方的かつ差別的な制限と措置」のためであると発表した。

李慧芝(リ ホイジ)内閣報道官は、2021年以降の中国による台湾に対する「経済的圧力」と同氏が呼ぶものに対して強い反対を表明し、中国の行動がWTOの規範に反していると強調した。同氏は、対立をめぐってWTOの枠内で対話することを提唱した。それと同時に、行政院の大陸委員会も、これは台湾海峡を挟んだ農業関係者に不利益をもたらすために貿易を武器として用いるものであり、二国間関係の発展を阻害するものであると示唆し、中国の動きを「経済的圧力」であると批判した。

台湾農業部は、中国が以前に台湾産の特定の果実の輸入を一方的に停止したことに言及し、台湾の輸出業者が中国市場で直面する高い販売コストや長い通関手続きがもたらしている障害を強調しつつ、この政策変更の影響は管理可能であるとした。陳駿季(チェンジュン ジ)農業大臣は、今回関税免除から除外された34品目は、2005年と2007年のリストに元々掲載されていたものであり、ザボン、アテモヤ等の品目に影響を与えると指摘した。

農業部は、これらの課題にもかかわらず台湾の農産物輸出市場を多様化し、オーストラリア、ニュージーランド及び日本の市場への様々な果実の拡大を成功させた取り組みを強調した。この多角化戦略は、より広範な国際市場へのシフトを意味しており、台湾の農産物輸出に占める中国のシェアの減少に寄与している。

出典: Taipei Times

218. ニュージーランド　キウイフルーツの輸出が順調

ASIAFRUIT　2024年9月23日

ニュージーランドのキウイフルーツ輸出額は20%増の31億NZドル

ニュージーランド統計局が発表したデータによると同国のキウイフルーツの独占的輸出事業者であるゼスプリの収益が大幅に増加

ニュージーランド統計局が発表した新しいデータによると、2024年8月までの1年間にニュージーランドのキウイフルーツ輸出額は31億NZドル（17億4千万ユーロ）を超え、2022/23年度の同じ時期に比べて20%増加した。同局の国際貿易部長であるヴィキ・ウォード氏は、「今シーズンのキウイフルーツの輸出額は、これまでで最高である」と述べている。（以下「 」は同氏の発言）

「キウイフルーツの輸出シーズンは通常3月から11月である。」 主にサンゴールドとして販売された果肉の黄色いキウイフルーツの輸出額は24億NZドル（13億5千万ユーロ）で、2023年8月までの1年間に比べて24%増加した。この成長は、輸出量が23%増加したことによるものとみられる。

一方、グリーンキウイフルーツの輸出額は7億3,700万NZドル（4億1,500万ユーロ）で、前年同期比9.9%の増加となった。この増加は、価格が9%上昇したことによるものだとされている。

「ニュージーランドの生産者は、中国や日本などの市場でより大きな輸出額を獲得するため、ますます多くのゴールドキウイを植え、今ではレッドキウイを植えている。」

サンゴールドの最大の出荷先は中国で、主にゼスプリグリーンとして販売されたヘイワード品種の最大の輸出先は欧州連合であった。

執筆者：マイク・ノウルズ

219. 米国カリフォルニア州　カンキツグリーニング病検疫規制地域を拡大

米国農務省動植物検疫局通知 DA-2024-39 2024年9月23日（25日送信）

件名：APHISはカリフォルニア州のカンキツグリーニング病（HLB）検疫規制地域を拡大

宛先：州、部族及び準州の農業規制当局担当官

以下は直ちに発効する。米国農務省動植物検疫局（APHIS）は、カリフォルニア州食品農業局（CDFA）と協力し、*Candidatus Liberibacter asiaticus* によって引き起こされるカンキツグリーニング病（黄龍病；HLB）の検疫規制地域を拡大する。拡大される地域は、サンディエゴ郡の約86平方マイルである。APHISは、サンディエゴ郡の住宅地から収集された植物組織のサンプルからカンキツグリーニング病が検出されたためにこの措置を講じるものである。この拡大の影響を受ける商業的柑橘類園地は830エーカーである。

APHISは、カリフォルニア州の検疫規制地域からの規制対象物品の州間移動に安全対策を適用している。これらの措置は、CDFAが2024年9月16日に定めた州内の検疫と並行して行われる。この措置は、HLBが米国の非感染地域に広がるのを防ぐために必要なものである。

カリフォルニア州の検疫規制地域の具体的な変更内容は、APHISカンキツグリーニング病ウェブサイトに掲載されている。APHISは、おってこの変更を連邦官報に掲載する。（連絡先等省略）

（訳注：1平方マイル＝約2.59平方キロメートル、1エーカー＝約0.405ヘクタール）

220. ペルー　ブルーベリー出荷量は緩やかなピークで昨年を上回る予想

FreshPlaza　2024年9月23日

ペルーのブルーベリー産業は昨年の生産量を上回る見込みだが、今回は例年の急激なピークに比べて緩やかな出荷曲線が見込まれる。このことは、世界の大部分の市場でブルーベリーの価格の安定維持に寄与する可能性がある。フォールクリーク社（本社は米国オレゴン州）でペルー担当の応用研究責任者を務めるキアラ・マクセラ・ヌニェス氏は、「予測では生産量は昨年よりも多くなるが、出荷量曲線はより平坦で、以前のようなピークは見られない」と説明する。（以下「 」は同氏の発言）

ヌニェス氏は、南アフリカのパール市で開催された同社グループの会合で講演し、ペルーの今シーズンの概要を説明した。「昨年、ペルーではエルニーニョ現象が発生し、生産量は減少したが価格の上昇につながった。ブルーベリーは引き続き非常に収益性の高い作物である。2024-25年度シーズンは生産曲線の変動が少なくなり、遅延が発生するだろう。9月末または10月上旬までにピークに達すると予想している。」

ヌニェス氏は、昨シーズンの輸出水準の低下時には、品不足のために価格が急騰したことを強調した。「2022年には9月に非常に高いピークを迎え、数量が多く、価格が下落した。ペルーでは現在、ピーク時の集中が少なくなることを目指しており、一部の生産者は年間を通しての収穫を計画している。しかし、1月から3月までの夏季に収穫することは難易度が高いため、年の前半は収穫量が減少すると予想している。昨シーズンのペルーの生産量が23%減少したため引き合いが強まり、ブルーベリーの価格は1kg当たり7ドルに達した。」

生産者は変化する状況に適応

ヌニェス氏は、ペルーの生産者は、気候上の課題と変化する消費者の好みに対処するため、次第に古い品種を新しい遺伝資源に置き換えていると説明した。「生産者は、古いビロクシ品種とベンチュラ品種を置き換えるため、新しい品種に目を向けている。ペルーで最も新しい生産施設では現在、培養土を用いた鉢植えで栽培している。」

この変化は、これらの新しいブルーベリー品種のおかげで需要が拡大している中国等の市場に関して特に重要である。「これらの新品種は気候と市場の需要の両方によりよく適合しており、その品質と特性により中国市場は拡大している。」

世界中での試験

ヌニェス氏の主な役割はペルーでの応用研究リーダーであるが、世界中のフォールクリーク社の新しい品種の試験も監督している。「我々は13カ国以上の80の施設で試験を行っている。我々はシーズンを通じて世界中の生産者と協力している。」

ヌニェス氏は、FCM14-057やFCM17-132など、試験中の新品種の一部を紹介した。「FCM14-057は、早生品種で、歯ごたえがあり、貯蔵寿命に優れた大粒からジャンボサイズの果実を生産する。FCM17-132も有望な品種で、こちらは中生である。」

ただし、これらの品種は有望視されているものの、様々な培地やすべての地域の条件への適応を確保するためには、まだやるべきことがあると同氏は警告した。「選抜は進んでいるが、異なる培地への適応性を検証し、様々な国でうまく生産できることを確認する必要がある。」

執筆者：クレイトン・スワート

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

221. スペイン　今年のカキは病害虫が大きな脅威

FreshPlaza　2024年9月26日

スペインのロホブリランテ品種のカキの出荷シーズンは既に始まっている。第39週から第40週（9月末から　10月初頭）には、ほとんどの業者がカキを販売していると予想されるが、まだ数量は限られる。

スペイン・カキ協会のパスクアル・プラッツ会長は、「先週、最初のロホブリランテ品種のカキが一部の早い農場で収穫され始め、現在は最高の色の果実だけが収穫されている。来週には、民間業者の約80％が販売を開始すると予想している」と話す。（以下「　」は同氏の発言）

「できるだけ早く出荷を開始してシーズンを延長するのは興味深いことかも知れないが、未熟な果実の販売は消費者に害を及ぼすため、最低限の品質基準を満たしている場合に限られる。例年どおり、出荷シーズンの最初の15～20日間は供給が限られるため価格がかなり高くなる。より多くの量が出回るようになれば、価格は下がる。」

乾燥した天候のため、昨シーズンよりも果実が小さい。これまでのところ天候上の問題がないため、30万トン超の当初見通しは変わらない。しかし、同会長は、「今年はカイガラムシなどの害虫がカキに大きな脅威をもたらすだろう」と警告し、「このセクターは、これらの脅威に対処するためのリソースがますます少なくなっている。我々の推定によると、カイガラムシは今年、生産量を約10％減少させる可能性がある」と嘆く。

過去6年間でスペインのカキ栽培面積は約20％減少し、現在のカキの生産力は34～35万トンに低下している。それでも、この国は依然としてヨーロッパで突出して最大のカキの生産国であり、輸出国である。「イタリア、ギリシャ、トルコでは生産量が増加しているが、彼らはまだ我が国にとって重大な競争相手ではない。」

222. 中南米　バナナの病害との世界的な闘いを世界銀行が支援

FreshPlaza　2024年9月26日

世界銀行は、「対フザリウム菌熱帯株4グローバル・アライアンス」への支援を拡大した。これは、世界的に重要な食料源であるバナナを危険にさらす病害との闘いに取り組む国際的な取組みである。この協力は、世界中の小規模農家の生活と食料安全保障に大きな影響を与えるこの病気の蔓延を抑制することを目的としている。

フザリウム菌熱帯株4（TR4）が引き起こすこの病害は、栄養ニーズをバナナに大きく依存している人々にとって不可欠なバナナ産業を脅かしており、コロンビア、ペルー、ベネズエラ等数カ国に広がっている。

米州農業協力研究所（IICA）がパナマで開催した会議では、世界銀行、国際金融公社（IFC）、及びバナナセクターのさまざまな関係者の間での議論が促進された。参加者は、生産者団体、バナナのサプライチェーンに関わる企業、研究者、IICAの関係者などであった。

世界銀行は会議の中で、特に主要なバナナ輸出国であるエクアドルでのパイロットプロジェクトを通じ、同アライアンスの取り組みを支援する意思を表明した。このプロジェクトは、新しいバナナ品種の開発、小規模農家の支援、バイオセキュリティシステムの実装、植物病理研究の実施、及び政府の関与に焦点を当てる。

同アライアンスは既に、予防、訓練、抵抗性品種の栽培、防除手法及び政策支援の分野で成果を上げている。生産方法の革新と、TR4耐性遺伝子の同定等の重要な科学的進歩が強調された。

世界銀行のアグリビジネス首席専門家であるクリストファー・イアン・ブレット氏は、小規模農家を支援し、農業食料セクターの公共財とサービスを強化するために用意された幅広い事業項目があることを指摘し、世界銀行が農業セクターに関わっていくことを強調した。

出典：Caribbean News Service

223. 米国　果実とナッツ類の生産見通し（主要果実抜粋）

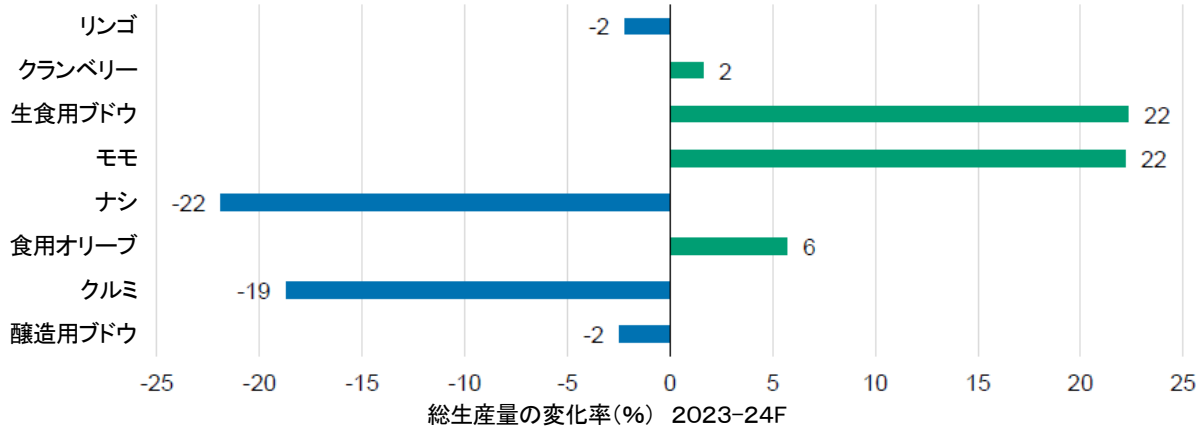
米国農務省経済調査局　2024年9月26日

この報告書では、米国の計量単位が使用されています。メートル法の単位への換算率は次のとおりです。
1ポンド＝約453.6グラム（1億ポンド＝約4万5千トン）、1トン（1米トン、ショートトン）＝約907kg（1万米トン＝約9千トン）、
1エーカー＝約0.4ヘクタール、1ガロン＝3.785リットル（1億ガロン＝約38万キロリットル）

暑さに打ち勝つ：2024年の生食用ブドウとモモは生産量増加の予測

米国農務省農業統計局（NASS）の2024年の生産予測では、リンゴ、ナシ、クルミ、醸造用ブドウは減少し、クランベリー、生食用ブドウ、モモ及び食用オリーブは増加する。2024年のカリフォルニア州の生食用ブドウ生産量は、夏の終わりの熱帯低気圧の名残によって悪影響を受けた昨シーズンよりも多くなると予想されている。2024年のモモの収穫量も上向きで、南東部の生産量は春の寒波に見舞われた前シーズンから回復する。カリフォルニア州のクルミの生産量は、過去最高を記録した2023年の後、2024年には19%減少すると予測されている。暖冬とそれに続いた夏の極端な暑さが2024年のクルミの収量低下の一因である。

主要果実とナッツ類の生産量の前年比　2023-2024予測値



F = 予測
注：生食用ブドウの予測はカリフォルニア州、醸造用ブドウの予測はカリフォルニア州及びワシントン州の生産量を表す。
出典：農務省農業統計局「作物生産報告書」（2024年8月、9月）及び「2024年カリフォルニア州生食用ブドウ生産性調査報告書」のデータに基づき経済調査局が作成

非柑橘果実の見通し

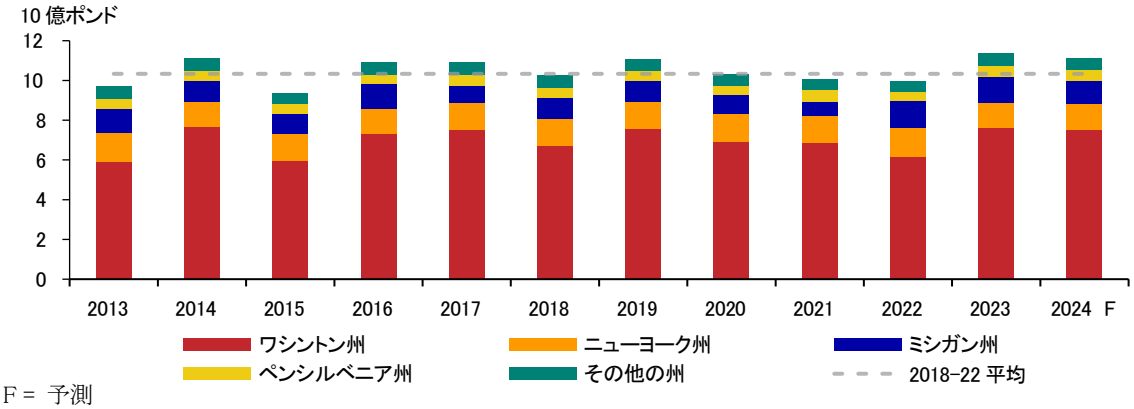
＜リンゴ＞

2024年の米国のリンゴ予想収穫量は平均を上回る

8月に発表された農務省農業統計局（NASS）の「作物生産報告書」は、2024年の米国のリンゴ収穫量は前年比2%減の111億ポンドと予測されるとしている。2024年の生産量は前年比では減少すると予想されているが、現在の予測は、NASSが調査した7つの州のデータに基づくそれ以前の5年間（2018～22年）の平均よりも依然として8%多い（図3）。

ワシントン州は最大のリンゴ生産州であり、収穫量は75億ポンドと予測されている。これは、昨年からは1%（1億1千万ポンド）の減少となるが、同州の2022年のリンゴ収穫量より22%多い。ワシントン州果実協会は2024年8月に、今シーズンの果実は品質が高く、有機リンゴが同州の生鮮市場出荷量の16%を占めると推定した。平均して、ワシントン州のリンゴの約80%が生鮮市場に出荷される。この生鮮市場出荷の割合は、近年の平均が50%程度である次項以下の3つのリンゴ生産州（ニューヨーク、ミシガン、ペンシルベニアの各州）よりも高い。米国リンゴ協会によると、2024/25販売年度（8月～7月）には、ワシントン州の上位3つのリンゴ品種（ガラ、グラニースミス、レッドデリシャス）が総生産量の46%を占めると予想されている。

図3　2024年の米国（調査対象の7州）のリンゴ生産量はわずかに減少



F = 予測

注：NASSが行なった7州の調査に基づく総生産量。「その他の州」はバージニア州、カリフォルニア州及びオレゴン州。

出典：農務省農業統計局のデータを用いて経済調査局が作成

ニューヨーク州の2024年のリンゴ生産量は前年から4%回復して13億ポンドに達すると予測されており、ワシントン州に次ぐ2位にランクされている。5月中旬の寒波によって悪影響を受けた昨シーズンとは異なり、農務省農業統計局の9月上旬の作物状況調査では、83%が「良好～優良」と評価された。これは、同時期の5年平均の2倍であり、昨シーズンのほぼ3倍である。米国リンゴ協会は、2024/25販売年度にはニューヨーク州の上位3品種（マッキントッシュ、ガラ、アイダレッド）が総生産量の30%を占めると予想している。

ミシガン州の生産量は、2シーズン連続で13億ポンドを超える過去最高の豊作の後、2024年は12億ポンドとNASSは予測している。そのとおりになれば、2024年の生産量は前年比で減少するものの、依然として2019～2021年の平均よりも29%多く、記録上ミシガン州で5番目にリンゴ収穫量が多い年にランクされる。近年のミシガン州のリンゴ生産量の増加は、密植栽培品種による栽培面積の増加に一部起因している。米国リンゴ協会は、2024/25販売年度にはミシガン州の上位3品種（ガラ、ハニークリスプ、ゴールデンデリシャス）が総生産量の45%を占めると予想している。

ペンシルベニア州は2024年に5億1千万ポンドのリンゴを生産すると予測されており、これは米国の生産量の5%に相当する。今年の予測は2023年の収穫量と比較して4,300万ポンドの減少（8%減）であるが、全般的な品質は高いと報告されている。2024年9月上旬のペンシルベニア州のリンゴの状況調査では80%が「良好～優良」と評価され、5年平均（74%）をわずかに上回った。米国リンゴ協会は、2024/25販売年度にはペンシルベニア州の上位3品種（ゴールデンデリシャス、ヨーク、ふじ）が総生産量の57%を占めると予想している。

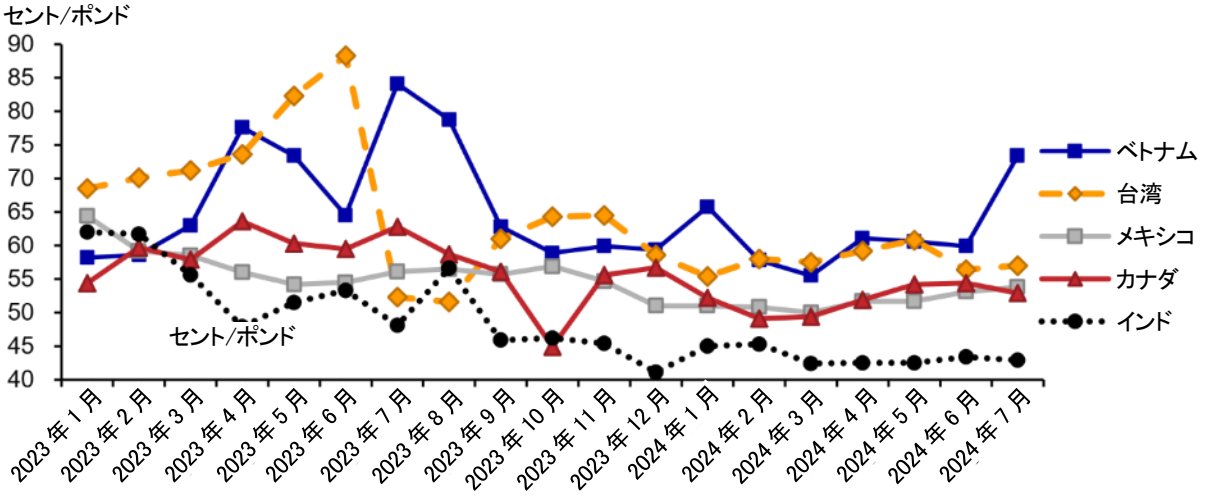
消費量の増加にもかかわらず、2023/24年度シーズン終了時の貯蔵リンゴの供給量は高水準を維持：昨年のリンゴ収穫量の増加は、2023/24年度を通じて貯蔵リンゴの増加につながった。米国リンゴ協会によると、2024年6月1日のリンゴの総貯蔵量（青果用及び加工用）は前年同期比で約40%増加し、過去5年間の平均よりも25%多かった。農務省農業統計局が報告した2023/24販売年度の生鮮市場月別平均生産者価格は6カ月連続で下落し、2024年2月には販売年度の最低値（0.605ドル/ポンド）に達した。生鮮市場における2024年2月のリンゴの平均生産者価格は、名目と実質（インフレ調整後）の両方で過去4年間の最低であった。農務省農業流通局（AMS）の出荷価格データ（FOB）によると、ハニークリスプ品種は、ガラ、グラニースミス、ふじ等の人気のある他の品種と比較して、2023/24年度初頭に価格が大幅に下落した。2024/25年度の最初の6週間に、ハニークリスプ、グラニースミス及びふじのFOB価格は、引き続き前年同期を大きく下回る水準で推移した。

2023/24年度を通じての貯蔵リンゴの豊富な供給量と価格の下落が、1人当たりの供給量（消費量の近似値）と生鮮リンゴ輸出量の前年比での増加を支え、生鮮リンゴの輸入需要の減少をもたらした。2023/24年度の1人当たりの生鮮リンゴの暫定的な供給量は17.9ポンドで、前シーズンから1.7ポンド増加した。1980年代以降、生鮮リンゴの供給量は年間1人当たり15～21ポンドの範囲で、生鮮果実のカテゴリーでバナナに次

ぐ第2位にランクされており、国内生産量は毎シーズンの総供給量の90%以上を占めている。

2023/24年度の生鮮リンゴの輸出量は増加したが輸出単価は下落：米国は2023/24年度の生鮮市場向けリンゴ出荷量の約25%を輸出し、2022/23年度から4%ポイント増加した。2023/24年度の生鮮リンゴの輸出量は約20億ポンドで、2022/23年度より6億3,200万ポンド(47%)多く、過去5年間の平均より9%増加した。しかし、2023/24年度の生鮮リンゴの輸出額は、前のシーズンに比べて輸出単価が下落(8.5%減)したことを反映して増加率が小さかった(35%)。米国の生鮮リンゴの輸出先上位5カ国(輸出量ベース)のうち、単価が最も低かったのはインド(44セント/ポンド)で、ベトナムと台湾(60セント/ポンド)が最も高かった(図4)。

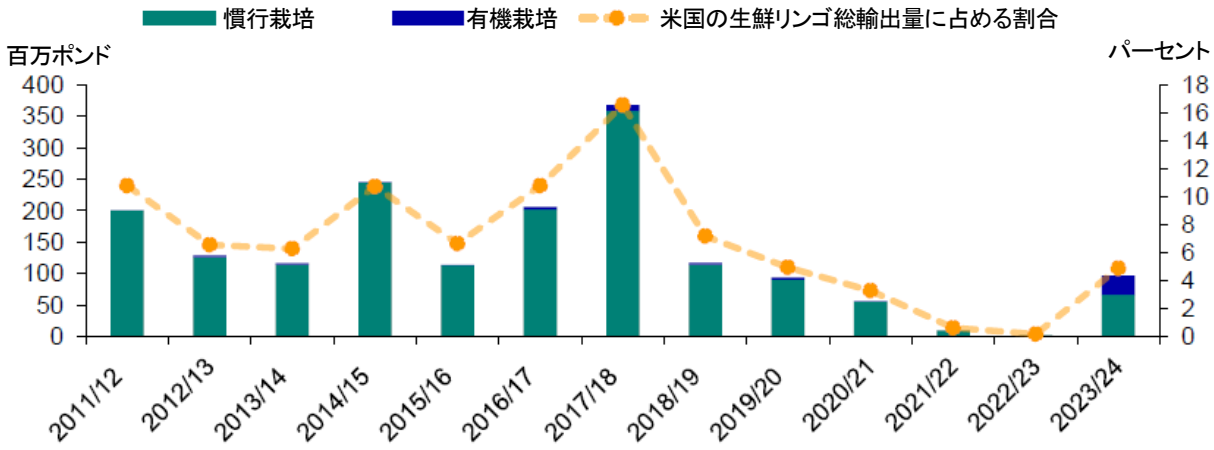
図4　主要輸出先の米国産生鮮リンゴの月間輸出単価



出典：米国商務省センサス局のデータを使用して農務省経済調査局が作成

2023/24年度の有機リンゴの輸出量が過去最高：2023/24年度の有機リンゴの輸出量(3億2,800万ポンド)は生鮮輸出量の17%を占めた。有機リンゴ輸出量の65%以上(2億1,500万ポンド)が、最大の輸出先であるメキシコ向けであった。カナダは従来有機リンゴの輸出量で2位にランクされてきたが、2023/24年度にはインドが輸出量の9%(3千万ポンド)を占めて2位となり、カナダ(2,050万ポンド)は3位となった。インド向けの生鮮リンゴの総輸出量(慣行栽培及び有機栽培)は、インドが2019年に米国産リンゴに課した報復上乗せ関税を撤廃したことを受けて、前年比で3,725%増加した(図5)。2023/24年度のインドへの輸出量は過去4年度を上回ったものの、米国の生鮮リンゴの総輸出量に占めるインド向けのシェア(5%)は、依然として報復関税適用前の記録(2017/18年度の17%)を下回った。

図5　2023/24年度の米国の生鮮リンゴのインド向け輸出量は4年ぶりの高水準



注：リンゴの販売年度は8月に始まり、翌年の7月に終わる。
出典：米国商務省センサス局のデータを使用して農務省経済調査局が作成

＜ブドウ＞

2024年のブドウ生産量は増加

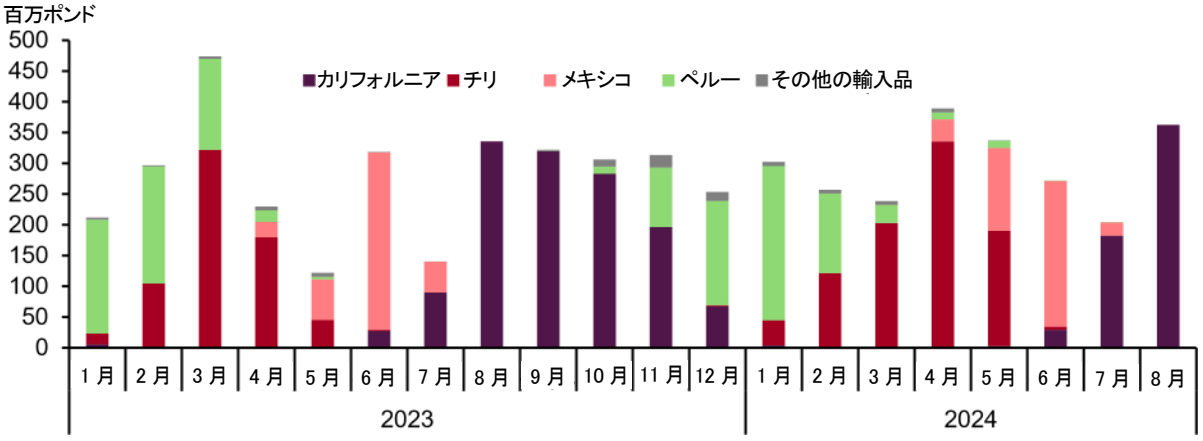
2024年の米国のブドウ生産量は127億3千万ポンドと予測されている。この農務省農業統計局の予測には、カリフォルニア州、ワシントン州のほかニューヨークとオレゴンの2州が含まれている。カリフォルニア州とワシントン州だけを合わせた生産量は、前年同期の118億2千万ポンドに対して3%増の122億1千万ポンドと予想されている。

カリフォルニア州の生食用ブドウとレーズン用ブドウは増加、醸造用ブドウは減少： 2024年のカリフォルニア州のブドウ生産量は、2023年の111億4千万ポンドから4%増となる116億ポンドと予測されている。同州のブドウ生産量のうち約62%が醸造用、20%が生食用、18%がレーズン用の品種である。カリフォルニア州の醸造用ブドウ生産量は、前年比2%減の72億ポンドと予測されている。カリフォルニア州の2024年の生食用ブドウの生産量は、前年比22%増で2020年から2022年の平均を上回る23億ポンドと予測されている。2023年には、生食用ブドウの収穫の最盛期にハリケーンの名残の低気圧がカリフォルニア州を襲い、生食用ブドウの生産量は1987年以来の低水準に押し下げられた。カリフォルニア州のレーズン用ブドウの生産量は、2023年の18億8千万ポンドから2024年には21億ポンドに増加すると予測されている。同州内のレーズン用ブドウの生産量は、栽培面積が減少したため、2000年代後半の半分になっている。

ワシントン州のブドウ生産量は減少するとの予想： ワシントン州の生産量は6億1千万ポンドと予測されており、これは2023年より10%少なく、過去5年間（2018～22年）の平均を19%下回っている。そのとおりになれば、ワシントン州の2024年のブドウ収穫量は、過去20年間で2004年と2021年に次いで3番目に少ないものになる。ワシントン州のブドウ生産は、醸造用ブドウ（51%）と果汁用ブドウ（49%）に区分される。同様に、ニューヨーク、オレゴン両州のブドウ生産は、従来から生鮮市場よりも加工市場に集中してきた。2007年から2017年にかけては[1]、ニューヨーク州のブドウ生産はほぼすべて（97%）が加工向けであった。そのうち、平均して約70%が果汁用、30%が醸造用であった。オレゴン州のブドウ生産は、すべて加工市場向け、特に醸造用であった。

2023/24年度の1人当たりの生食用ブドウの供給量は8.30ポンドで、前年の1人当たり8.63ポンドから減少した。2023/24年度には生食用ブドウの輸入量が過去最高を記録し、初めて国内生産量を上回ったものの、輸入量の増加は国内生産量の減少を完全には埋め合わせることができず、供給量が減少した。8月から11月にかけて、カリフォルニア州が国内消費向け生食用ブドウの主要な供給地である（図8）。冬の間はペルー産の輸入品が入手可能で、春にはチリからの輸入に、初夏にはメキシコからの輸入に移行する。

図8　生食用ブドウの供給は季節によってカリフォルニア州から輸入にシフトする



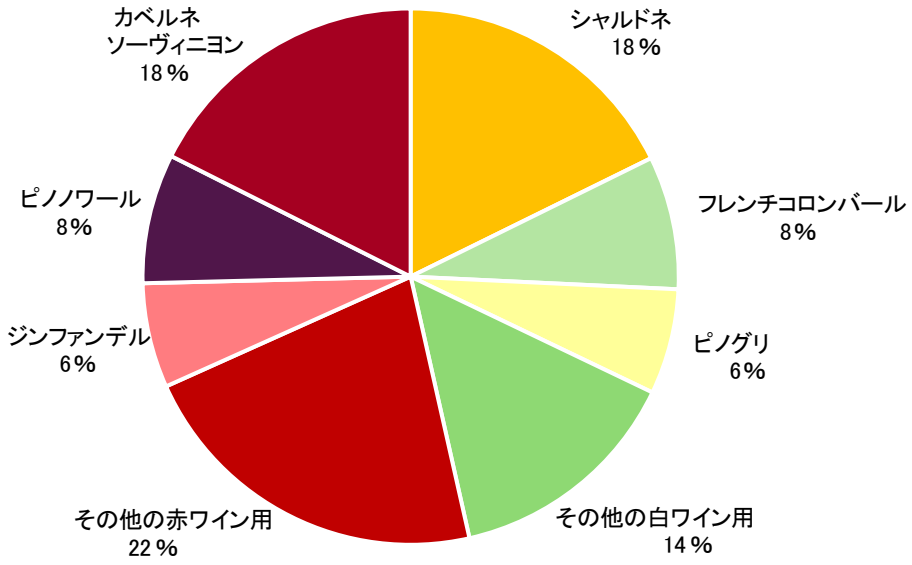
注：その他の輸入品には、ブラジル、カナダ、イタリア、南アフリカ、韓国、スペインからの輸入が含まれる。
出典：米国農務省農業流通局「マーケットニュース」のデータに基づき経済調査局が作成

1 ニューヨーク州とオレゴン州については、2018～2023年の州レベルの生産量データ及び2024年の推計値が入手できる。

近年、加工用ブドウ（醸造用を除く）の供給量は、1人当たり年間約8.25ポンドであった。このうち約64%（生鮮重量ベース）はレーズン用である。レーズン管理委員会[2]のデータによると、2023/24年度（8月～7月）のレーズンの総出荷量は前年比4.5%増加した。2023/24年度には、天然の種無し品種が出荷量の88%を占め、ゴールデンシードレス（6%）がそれに続いた。多くの天然種無し品種とは異なり、ゴールデンシードレスは黄金色を保つため収穫後に機械的に加工される。2023/24年度の乾燥ブドウの輸入量は5,590万ポンドで、2022/23年度の6,540万ポンドから15%減少した。

シャルドネとカベルネソーヴィニヨンは2023年もカリフォルニア州で破砕されたブドウのトップ品種を維持：カリフォルニア州食品農業局のブドウ破砕報告書によると、2023年にカリフォルニア州で破砕されたブドウは390万トンで、2022年の367万トンから6%増加した。ブドウは、ワイン、濃縮物、果汁、ビネガー、またはブランデーの製造のために破砕される。赤ワイン用の品種は197万トンで、前年同期比3%増加した。赤ワイン用の品種は、破砕されたすべてのブドウの中で最も大きな割合（51%）を占め、次いで白ワイン用の品種（44%）、生食用及びレーズン用品種（6%）であった。白ワイン用品種は171万トンで2022年に比べて15.5%増加した。上位2品種であるシャルドネ（白ワイン用）とカベルネソーヴィニヨン（赤ワイン用）は、破砕された醸造用ブドウのトン数の3分の1以上を占めた（図9）。フレンチコロンバール、ピノノワール、ピノグリ、ジンファンデル等上位6品種が、ワイン用ブドウ破砕量のほぼ3分の2を占めた。赤ワイン用ブドウは、白ワイン用ブドウよりも平均して価格が高い。赤ワイン用ブドウの平均価格は1,345.68ドル/トン（13%上昇）で、白ワイン用ブドウの平均価格は733.54ドル/トン（6%上昇）であった。2023年の破砕量が多い上位6種類のワイン用品種のうち、カベルネソーヴィニヨンが1トン当たりで最も高価（2,124.33ドル）であり、フレンチコロンバール（白ワイン用品種）が最も安価（318.49ドル）であった。すべてのワイン用品種の中で、カベルネフラン（赤ワイン用）はトン当たり4,544.50ドルで最も高価であった。

図9　カリフォルニア州で破砕されたワイン用ブドウの品種別割合　2023年



出典：農務省農業統計局とカリフォルニア州食品農業局が共同で発行した「カリフォルニア州ブドウ破砕報告書 2023年度」のデータを用いて経済調査局が作成

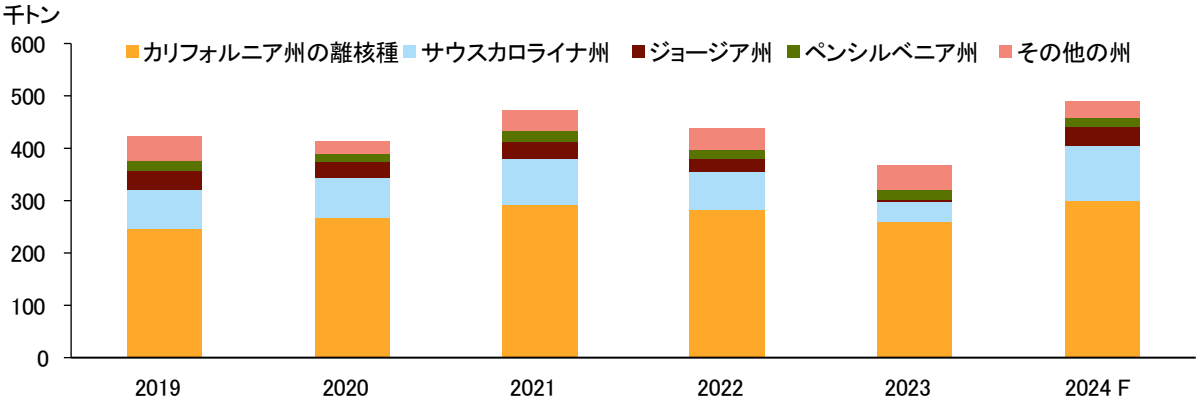
2 レーズン管理委員会は、米国農務省（USDA）の権限の下で、カリフォルニア州で栽培されたブドウから生産されるレーズンを規制するレーズンに関する連邦マーケティング令を管理している。

＜モモ＞

2024年の米国の生鮮モモ供給量は増加

8月に発表された農務省農業統計局（NASS）の「作物生産報告書」は、2024年の米国のモモ生産量を前年比22%増の71万9千トンと予測している。モモの生産量が最も多いカリフォルニア州では、離核種と粘核種のモモの生産量は、前年に比べてどちらも（それぞれ16%及び4%）増加すると予測されている。平均して、カリフォルニア州産の離核種のモモの約70%が生鮮市場に出荷されるが、粘核種はほぼ加工市場専用に栽培されている。NASSが調査した他の州のモモは、主に離核種で、生鮮市場向けに栽培されている。NASSが調査したすべての州の予想収穫量をカリフォルニア州の離核種と合わせると、離核種の推定生産量は昨年より35%多い（図10）。

図10　2024年のカリフォルニア州の離核種と南東部のモモにより生鮮モモの供給量が増加



F = 予測

注：カリフォルニア州の粘各種は含まない。その他の州は、コロラド州、ミシガン州、ニュージャージー州及びワシントン州。2024年以降、ワシントン州は農務省農業統計局の年次調査に含まれなくなった。

出典：農務省農業統計局「非柑橘果実及びナッツ類要覧（各年）」及び「作物生産報告書（2024年8月）」のデータを用いて経済調査局が作成

南東部のモモの生産量は昨シーズンの減少から回復：2024年のサウスカロライナ州とジョージア州のモモの生産量は、凍害を受けた昨シーズンを大きく上回る（それぞれ171%増及び651%増）と予測されている。そのとおりになれば、今シーズンの収穫量はサウスカロライナ州では2010年以来、ジョージア州では2016年以来の最大となる。6月末時点でサウスカロライナ州のモモの88%以上及びジョージア州のモモの99%が「良好～優秀」と評価され、品質は高いと報告されている。8月中旬までに両州のモモの収穫は90%以上完了した。

暑さの影響を受けたカリフォルニア州のモモ：カリフォルニア州の離核種のモモの今年の収穫量は30万トンと予測されている。そのとおりになれば、5年間の平均を11%上回り、2012年以降カリフォルニア州で最大の離核種の豊作となる。春の天候が良好なため着果量が増えたが、セントラルバレーで夏の高温が長引いたため、8月と9月の間に熱波関連の品質の低下が増加した。カリフォルニア州の粘核種生産者らは8月中旬に、今シーズンの出荷量に占める低品質な果実の割合が高いのは、極端な暑さが原因である可能性が高いと指摘した。果実の成熟が果樹園内で不均一なことが増えたと報告されている。

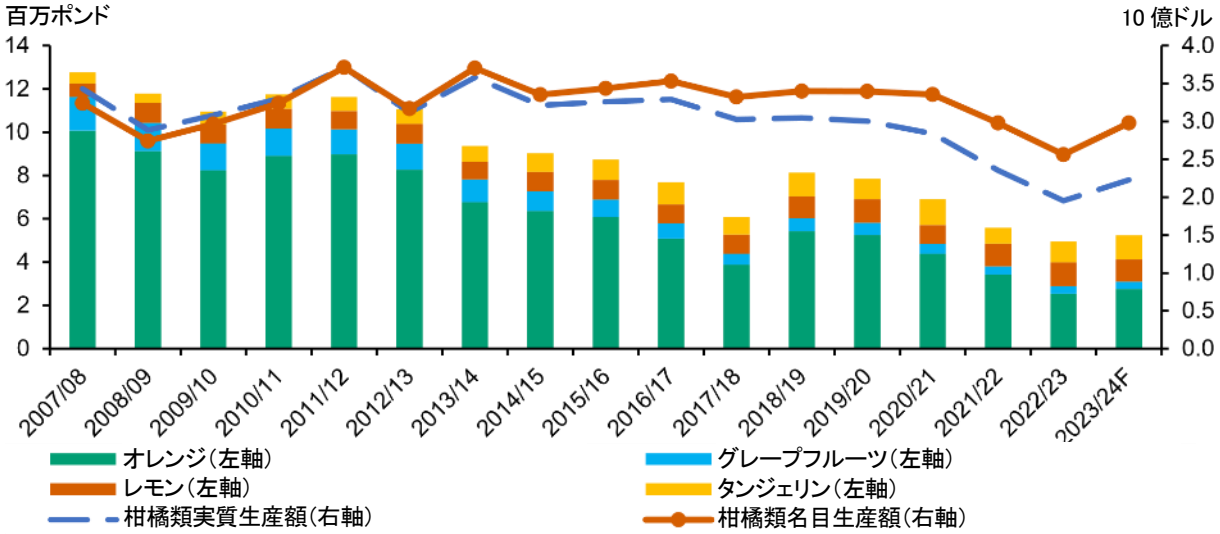
国内生産量の増加と価格の下落により、今シーズンの米国の生鮮モモ輸出量は増加した。2024年の年初来7月までの輸出（生鮮モモとネクタリンの合計）は、前年同期に比べて数量ベースで50%、金額ベースで21%増加した。カナダとメキシコが引き続き最大の輸出先で、輸出量の84%を占めた。

柑橘類の見通し

米国の柑橘類総生産量は依然として少ない

NASSによる2023/24年度の柑橘類生産量の最終的な推定値が、2024年8月29日に発表された。国内総生産量（すべての柑橘類の合計）は520万トンで、推定生産額は29億8千万ドルであった（図23）。

図23　2023/24年度の米国の柑橘類総生産量は520万トン、総生産額は29億8千万ドル



F=予測
注：柑橘類の実質生産額は、2012年を基準年とするGDPデフレーターを使用してインフレ調整されている。GDPデータの出典は、セントルイス連邦準備銀行である。
出典：農務省農業統計局「柑橘類要覧」のデータを用いて経済調査局が作成

NASSによる箱数の最終的な推計値は、柑橘類の生産量の増加がカリフォルニア州のタンジェリン生産量の17%の増加と、同州のオレンジ生産量の7%の増加によることを示唆している。オレンジの生産量の増加は、カリフォルニア州とフロリダ州の両方でバレンシア種と非バレンシア種（ネーブル種及び早生/中生の品種を含む）の収穫量が増えたためである。フロリダ州のオレンジ収穫量は昨シーズンより増加した。しかし、現在の生産量はハリケーン「イアン」以前の水準（2021/22年度）を下回っており、2023/24年度のオレンジの収穫量は87年間で2番目に少ないと予想されている。2023/24年度のレモン生産量は、カリフォルニア州の収穫量の減少と、アリゾナ州のレモン栽培面積の減少により6%減少した。2024年の生鮮柑橘類の需要と供給はともに比較的安定していたが、国内のオレンジとグレープフルーツの業界は引き続き縮小した。

夏の間は国内の収穫量が少なくなる傾向があり、外国産のオレンジ、タンジェリン、グレープフルーツの輸入が、国内で消費される生鮮柑橘類の中で占めるシェアが大きくなる。米国の消費者が今年の9月に地元のスーパーマーケットに陳列されている生鮮柑橘類を調べたなら、チリ、南アフリカ、ペルーから輸入されたグレープフルーツ、オレンジ、タンジェリンやアルゼンチン産のレモンを目にするだろう。これらの国々との確立された貿易チャネルのおかげでスーパーマーケットの棚が埋まり、消費者には年間を通じて選択肢がある。1年間に消費されるすべての生鮮柑橘類に占める輸入品の割合は小さい。ただし、これはオレンジジュースにはもはや当てはまらない。米国の消費者が手にするオレンジジュースの75%が、ブラジルとメキシコから供給されている。

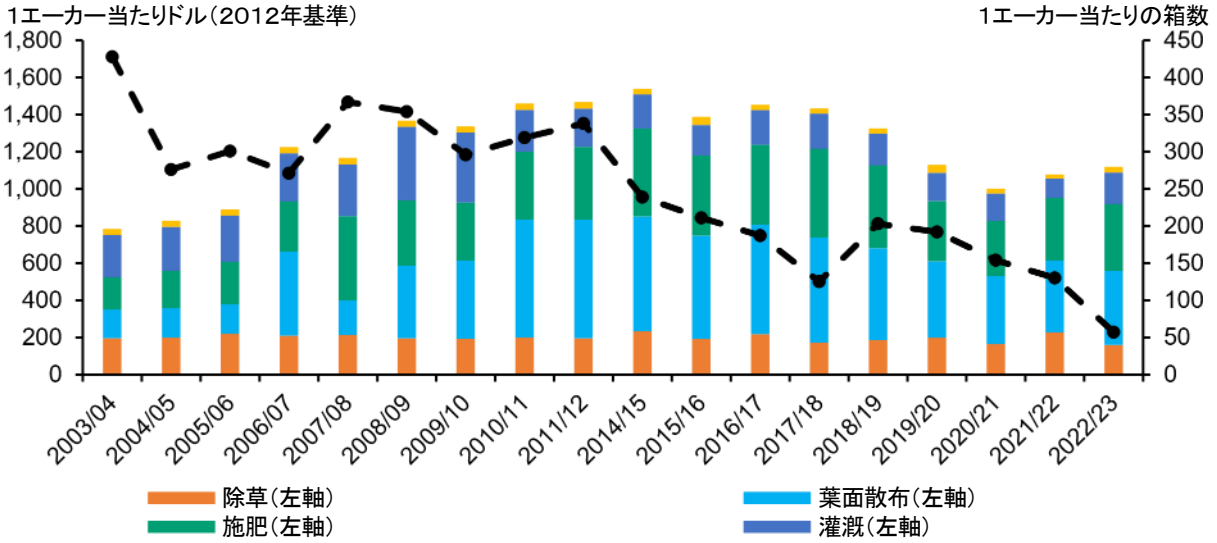
2023/24年度にはカリフォルニア州がフロリダ州よりも多くのオレンジを生産：カリフォルニア州は何十年にもわたって、米国内の生鮮市場向けオレンジに関して最大の供給者であった。しかし、昨シーズンは、すべてのオレンジの総生産量（生鮮市場向けと加工用の合計）でフロリダ州を上回った。カリフォルニア州の非バレンシアオレンジ（ネーブル種及び早生/中生品種等）の生産量は、今シーズン6%増加して150万トンとなった。2023/24年度のカリフォルニア州のバレンシアオレンジ生産量は8%増の37万2千トンとなった。バレンシア種のオレンジは果汁業界で好まれる品種であるが、カリフォルニア州で生産されるバレンシアオレン

ジの約3分の2(68%)は生鮮市場向けである。カリフォルニア州のオレンジの収量は、今シーズン、1エーカー当たり351箱と推定され、フロリダ州の収量よりも数倍高い。カリフォルニア州のオレンジ生産者達は、商業的果樹園がこれまでのところカンキツグリーニング病に感染していないため、比較的高い収量を維持することができている。

カンキツグリーニング病(HLB)は、フロリダ州の柑橘類産業に壊滅的な影響を与えた。HLBは、媒介昆虫(ミカンキジラミ)によって伝染する破壊的な細菌性病害である。細菌は、感染した果樹が栄養素を吸収するのを妨げ、したがって果樹の大きさ、健康状態、寿命、及び果実の品質を低下させる。この病害は、2005年にフロリダ州の商業的果樹園で初めて発見され、それ以来、フロリダ州特有の病害となっている。治療法が知られていないため、柑橘類の栽培者は、感染した果樹の健康を増進し、果実の品質を向上させるために、さまざまな管理手法を実践している。それは場合により、農薬や肥料の施用の増加、保護スクリーンの使用、さらに最近では抗生物質の施用等である。HLBによる損失を最小限に抑えるための生産者の最善の努力にもかかわらず、収量は2005年以前の記録を大きく下回っており、面積当たりのコストは上昇している。

2023/24年度のフロリダ州のシーズン平均の1エーカー当たりの収量は78箱で、20年前の2003/04年度にカンキツグリーニング病が始まる以前(同428箱)に比べてほんのわずかに過ぎない。フロリダ大学食品農業科学研究所の研究者達は、20年前にさかのぼってフロリダ州の柑橘類生産の1エーカー当たりの推計コストを発表した。フロリダ州南西部の産地(果汁用オレンジで有名)の1エーカー当たりのインフレ調整済みオレンジ生産コストは、2004/05年度から2014/15年度の間に年平均7%増加した(図24)。2014/15年度シーズン以降は、生産者が除草、灌漑、葉面散布(殺虫剤等)のために1エーカー当たりに費やす金額が減少したため、コストは数年間にわたって減少傾向にあった。しかし、2021/22年度シーズン以降、コストは再び上昇し始め、カンキツグリーニング病侵入前の2003/04年度の水準を上回っている。

図24　フロリダ州の加工用オレンジの年間生産コスト



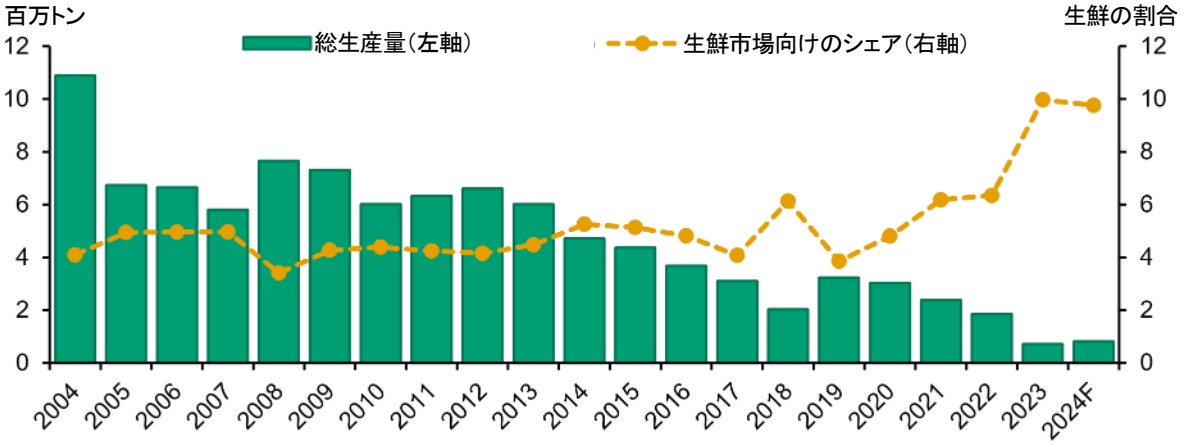
注: ドルの値は、2012年を基準年とするGDPデフレーターを用いてインフレ調整済み。GDPデータはセントルイス連邦準備銀行による。

出典: フロリダ大学食品農業科学研究所「フロリダ州南西部における加工用オレンジの生産コスト」及び農務省農業統計局「フロリダ州年次別オレンジ収量推計値」のデータを使用し、経済調査局が計算

従来からフロリダ州産オレンジの極一部(約4～5%)だけが生鮮市場向けであり、残りは加工用に仕向けられていた(図25)。しかし、近年、生鮮市場向けのオレンジの割合が増加した。2022/23年度及び2023/24年度には、フロリダ州産オレンジの約10%が生鮮市場に出荷された。この増加の理由は明らかでないが、1つの可能性はハリケーン「イアン」が加工向けに生産するフロリダ州の生産者に大きな影響を与え、それが2023/24年度まで続いていることである。もう1つの可能性は、生鮮市場と加工市場の価格差が従来よりも大きいことが、生産者がバレンシアオレンジを生鮮市場向けに販売する動機となったことである。2023/24年度

に生鮮市場で販売されたバレンシアオレンジの全国平均樹上相当生産者価格は、1箱当たり22.86ドルで、加工市場価格の7.74ドルの2.95倍であった。ちなみに、過去5年間（2018/19～2022/23年度）の平均では、バレンシアオレンジの1箱当たりの生鮮と加工用の価格の比率は1.87倍であったため、今シーズンは生鮮と加工用の価格差が通常よりも大きくなっている。フロリダ州産バレンシアオレンジは、昨年の米国のバレンシアオレンジ生鮮市場の総販売額の約10%を占めたが、今年は約14%を占めると見られる。

図25　フロリダ州のオレンジ総生産量と生鮮市場向け出荷量のシェア



F = 予測
出典：農務省経済調査局「果実及びナッツ類年鑑」の表のデータを用いて同局が作成

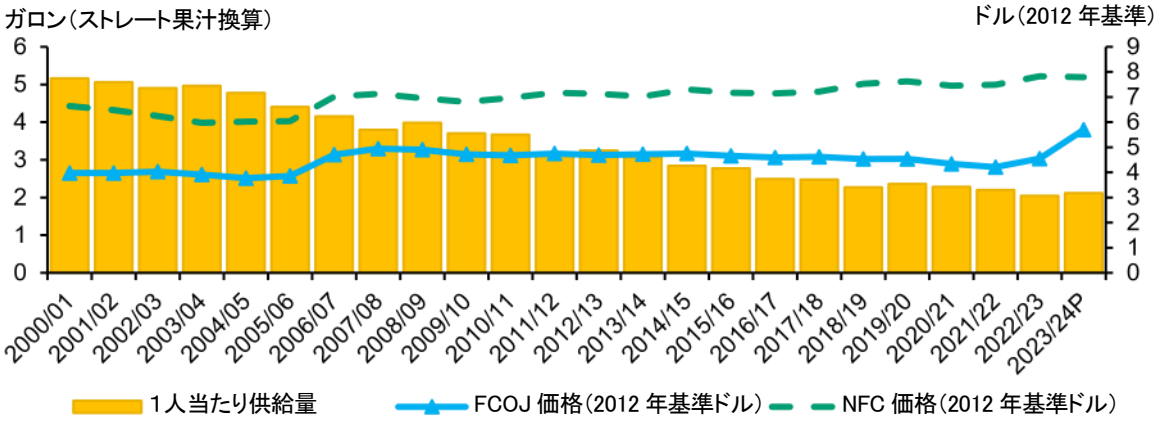
2023/24年度（2023年11月～2024年10月）の生鮮市場向けオレンジの1人当たりの供給量は7.21ポンドで、オレンジ総収穫量（生鮮及び加工用）の増加にもかかわらず、2022/23年度から8%減少した。2023/24年度には、米国のオレンジ収穫量のうち生鮮市場に出荷された割合が小さく（52%）、その結果、生鮮オレンジの国内出荷量は前年比で9%減少した。今年は輸入量が史上最高の5億3,800万ポンドに達したが、国内出荷量の減少を埋め合わせるには十分でなかった。2023/24年度もメキシコ、チリ、南アフリカが、引き続き米国の主要な生鮮オレンジ輸入先になると見込まれる。2023/24年度の生鮮オレンジ輸出量は2%増の7億7,200万ポンドと予測されている。2023/24年度の米国産オレンジの主要輸出先市場は、カナダ、韓国、メキシコであると予想されている。

2023/24年度のオレンジ果汁輸入は減少：国内消費向けオレンジ果汁とグレープフルーツ果汁に占める輸入のシェアが増加している。2023/24年度に米国で消費されたオレンジ果汁の推定78%が輸入品であったが、20年前（2003/04年度）には15%であった。2023/24年度のオレンジ果汁の輸入量は、5億5,280万ガロンと予想されており、昨年から1,300万ガロン（2%）減少したが、それでも過去最高水準に近い。

ブラジルとメキシコは、米国の輸入オレンジ果汁の主要供給国であり、2023/24年度これまで（10月～7月）の総輸入量のそれぞれ67%及び28%を占めている。また、コスタリカはオレンジ果汁輸入の約4%を占めている。2023/24年度のオレンジ果汁の輸出量は3,500万ガロンと予想されており、ハリケーン「イアン」後の低い出荷量からわずかに増加したが、それでも少なくとも過去50年間で2番目に低い水準である。カナダとメキシコは、今シーズンの米国産オレンジ果汁の輸出市場上位2カ国であった。

フロリダ州は2023/24年度もオレンジ果汁の生産量で全米最大：オレンジ果汁は米国で最も人気のある天然果汁100%の飲料で、2023/24年度の1人当たりの供給量の暫定値は2.12ガロンである（図26）。しかし、消費量は、1人当たりの供給量が5.82ガロンであった26年前（1998年）のピーク以来、大幅に減少している。グレープフルーツ果汁はオレンジ果汁ほどの人気はなかったが、同様の軌跡をたどっており、現在の消費量は1998年の10分の1である。このようなオレンジ果汁消費量の長期的な減少にもかかわらず、実質価格（インフレ調整後）は比較的安定している。

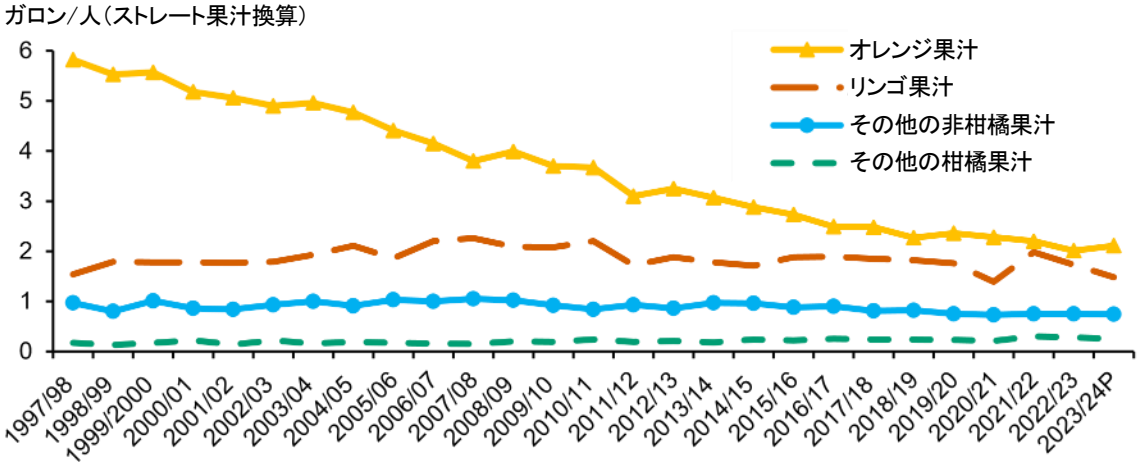
図26　オレンジ果汁の供給量とインフレ調整後の価格　2000/01～2023/24暫定値



P = 暫定値　FCOJ = 冷凍濃縮オレンジ果汁、NFC = 非濃縮オレンジ果汁
注：価格は米国労働統計局2012年基準GDPインプリシット価格デフレーターで調整済み
出典：農務省経済調査局「果実及びナッツ類年鑑」の表及び労働省労働統計局のデータを用いて経済調査局が作成

2004年から2024年の間に非濃縮（NFC）果汁の平均小売価格は年平均1%上昇し、冷凍濃縮オレンジ果汁（FCOJ）の価格は年平均約2%上昇した。しかし、この価格上昇の大部分は、2004/05年度に相次ぐハリケーンのためにフロリダ州の柑橘類の生産量が大きく減少した後の2004/05年度と2007/08年度に発生したことは注目に値する。FCOJの平均実質小売価格は、2008/09年度から2020/21年度までの間、ほぼ横ばいで推移し、2022/23年のハリケーン「イアン」の後に急騰した。オレンジ果汁の実質価格は、1人当たりの供給量が減少しているにもかかわらず過去20年間比較的横ばいであり、これは消費者需要が減少していることを示している。

図27　柑橘類及びその他のフルーツ果汁の1人当たりの供給量　1997/98～2023/24暫定値

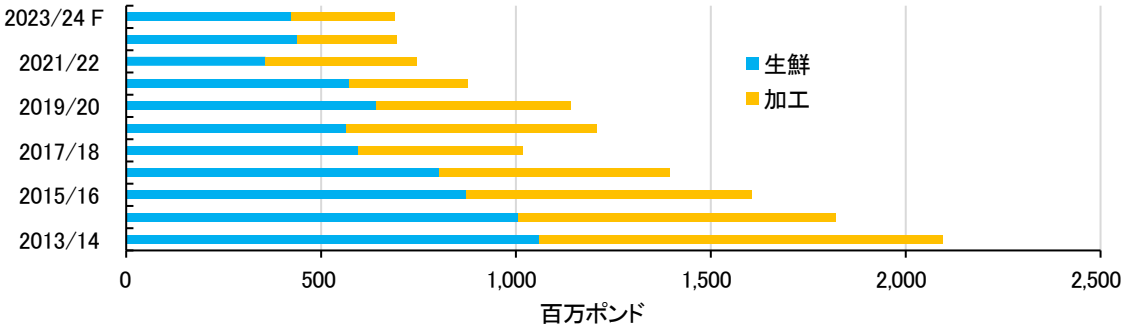


P = 暫定値
出典：農務省経済調査局「果実及びナッツ類年鑑」の表を用いて経済調査局が作成

対照的に、レモン果汁とライム果汁の1人当たり供給量は、同じ期間（1998～2024年）にそれぞれ年平均4%及び10%の割合で増加した。レモン果汁やライム果汁よりもオレンジ果汁の消費量が多いが、これはオレンジ果汁が添加物や原料ではなく、独立した飲料であるためでもある。しかし、レモン果汁とライム果汁はともに、2022/23年度にグレープフルーツ果汁の1人当たりの供給量を上回った。さらに、柑橘類以外のフルーツ果汁の1人当たりの供給量も次第に増加しており、米国の消費者の果汁摂取量に占める割合が引き続き拡大している。2021/22年度のリンゴ果汁の1人当たりの供給量は1.98ガロンで、同年のオレンジ果汁の供給量に近づいている（図27）。

米国のグレープフルーツ産業は2023/24年度も縮小：生鮮グレープフルーツの販売年度は9月に始まり、翌年の8月に終わる。グレープフルーツの国内生産は、カリフォルニア州、フロリダ州及びテキサス州に分かれている。カリフォルニア州の2023/24年度のグレープフルーツ生産量は、17万2千トンで国内生産量の50%を占め、引き続き全米をリードした。テキサス州は2023/24年度のグレープフルーツ生産量が増加した唯一の州であり、同州のグレープフルーツ生産量は前年比7%増の9万6千トンであった。今シーズンの国内のグレープフルーツ生産量の約60%が生鮮市場に出荷された（図28）。カリフォルニア州が加工市場に絶対量として最大のグレープフルーツを供給した一方、テキサス州は自州の生産量に加工用が占める相対的なシェア（46%）が最大であった。

図28　加工市場と生鮮市場に出荷されたグレープフルーツの割合　2013/14～2023/24予測



F = 予測値
出典：農務省経済調査局「果実及びナッツ類年鑑」の表を用いて経済調査局が作成

国内の1人当たり供給量で測定すると、グレープフルーツは20年前、オレンジに次いで2番目に人気のある生鮮柑橘類であった。しかし、今シーズンの時点で、米国の1人当たりの生鮮グレープフルーツ供給量は1.34ポンドであり、2003/04年度の水準を70%下回っている。注目されるのは、2023/24年度の輸入量が2022/23年度に比べて68%増で史上最高の8,450万ポンドに達すると予想され、これにより生鮮グレープフルーツの1人当たりの供給量が昨シーズンより増加（2%）したことである。生鮮グレープフルーツ供給量に占める輸入品のシェアは近年大幅に増加しており、今シーズンは過去最高の18%に達すると予想されている。メキシコは、2023/24年度（9月～8月）のグレープフルーツ輸入量で最大の供給国になると予想されている。2023年9月から2024年7月の期間には、メキシコは生鮮グレープフルーツの全輸入量の27%を占め、次いで南アフリカが22%、ベトナムも22%を占めた。生鮮グレープフルーツの輸出量は今シーズン13%増加し、5,400万ポンドに達すると予想されている。カナダが米国産グレープフルーツの最大の輸出市場であり、日本と韓国がこれに続くと予想されている。

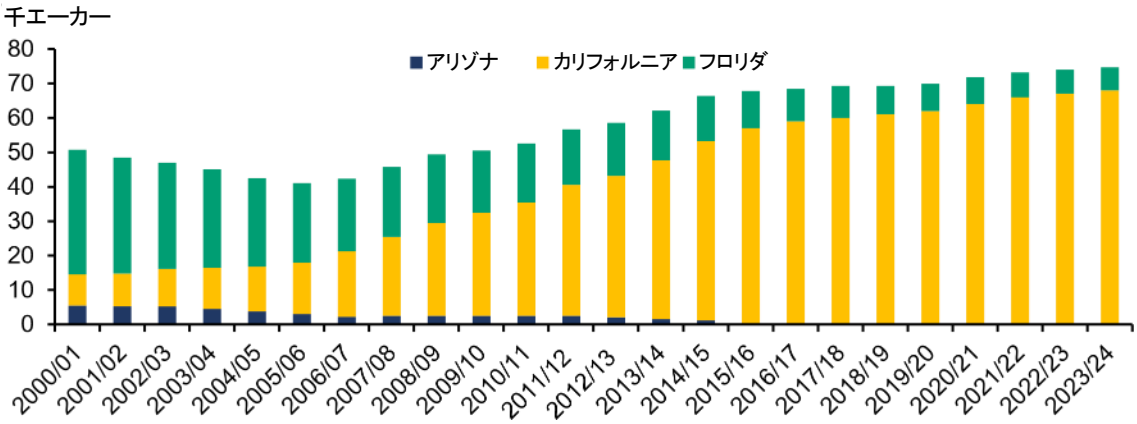
2023/24年度にはグレープフルーツ果汁の輸出入が減少：グレープフルーツ果汁の販売年度は10月に始まり、翌年の9月に終わる。2023/24年度のグレープフルーツ果汁の輸入量は600万ガロンと予想され、これは2022/23年度から33%の減少となる。今シーズン、総供給量に占める国内産グレープフルーツ果汁の割合は36%に達すると予想されている。このシェアは、2003/04年度に1%未満だった20年前に比べて大幅な増加となる。2023/24年度のグレープフルーツ果汁の総輸出量は、少なくとも50年間で最も低い水準である390万ガロンと予想されている。カナダ、韓国、英国、日本が、2023/24年度の米国産グレープフルーツ果汁の主要な輸出市場になると予想されている。

2023/24年度のタンジェリン生産量は増加：2023/24年度（11月～10月）のタンジェリン、マンダリン及びタンジェロ（以下、タンジェリンと総称する）の生産量は112万トンで、2022/23年度の96万3千トンから16%増加した。米国産タンジェリンの約70%は生鮮市場向けであり、30%が加工に仕向けられている。2023/24年度の生産額は、2022/23年度に比べて34%増加し（10億3,500万ドル）、10億ドルの大台を上回った。

米国のタンジェリン生産量は、カリフォルニア州（96%）とフロリダ州（4%）に集中している。2023/24年度のカリフォルニア州のタンジェリン生産量は110万トンで、2022/23年度の94万トンから17%増加した。同州

の結果面積は、今世紀になって以来毎年増加しており、平均1万375エーカー（2000/01～2003/04年度）から6万6,250エーカー（2020/21～2023/24年度）へと6倍に増加した（図29）。カリフォルニア州のテュレアとカーンの2つの郡は、2024年の同州のマンダリン及びマンダリンハイブリッドの結果面積の70%（各郡それぞれ39%及び31%）を占めた。

図29　タンジェリンの結果面積がカリフォルニア州で過去最高に



注：タンジェロを含む。2015/16年度以降、アリゾナ州はタンジェリンの年次調査に含まれなくなった。
出典：農務省農業統計局のデータに基づき経済調査局が作成

フロリダ州の2023/24年度のタンジェリン生産量は2万1千トンで、2022/23年度の2万3千トンから9%減少した。州内の結果面積は、平均7,175エーカー（2020/21～2023/24年度）で、2000年代初頭（2000/01～2003/04年度）の同2万2,925エーカーの3分の1未満である。

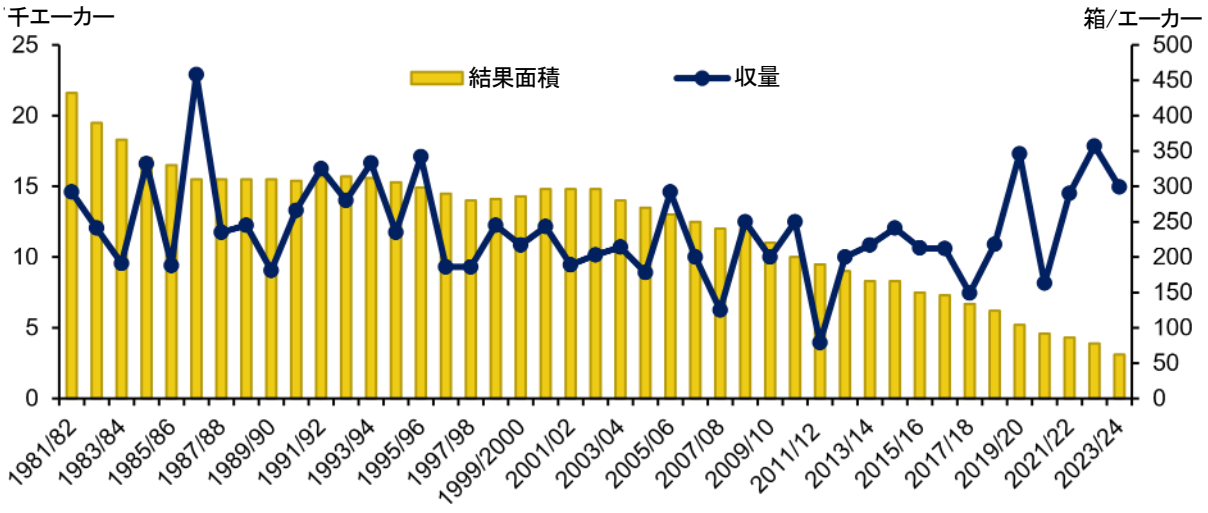
2023/24年度にはフロリダ州の生産量の76%が生鮮市場に出荷され、過去3年間（2020/21～2022/23年度）の平均である67%を上回った。2023/24年度の生鮮タンジェリンの生産者価格は前年比で28%上昇し、フロリダ州の生産額は前シーズンに比べて19%増加した。

生鮮タンジェリン（マンダリン及びその他の *Citrus reticulata* のハイブリッドを含む）の輸入量は、今シーズンこれまでのところ（11月～7月）前年比13%増加し、主要輸出国であるチリ、ペルー、モロッコからの入荷量が増えた。生鮮タンジェリンの輸入は通常9月にピークを迎え、国内供給量の約44%（2020/21～2022/23年度）を占め、これは2000年代初頭のシェアのほぼ2倍である。生鮮タンジェリンの輸出量は、今シーズンこれまでのところ（11月～7月）昨年と比較して15%増加しており、同期間にメキシコに出荷された量がかなり増加している。メキシコの柑橘類生産は近年、高温と不規則な降雨のため困難に直面している。米国の生鮮タンジェリン輸出量は、通常2月または3月にピークに達する。

2023/24年度のレモン生産量は減少：2023/24年度のレモンの生産量は102万トンで、2022/23年度の109万トンから6%減少したが、3年平均を上回っている。米国のレモン生産は、カリフォルニア州（約95%）とアリゾナ州（約5%）に集中している。タンジェリンと同様に、国内のレモン生産量の約70%は生鮮市場向けで、残りの30%は加工市場向けである。2023/24年度のレモン生産額は、前シーズンより22%増加した。

カリフォルニア州の2023/24年度のレモン生産量は98万4千トンで、2022/23年素の103万トンから5%減少した。同州の結果面積は2010年代初頭から徐々に増加しており、2024年には5万3千エーカーと推定され、1980年代初頭以来最高となった。アリゾナ州の2023/24年度のレモン生産量は3万8千トンで、2022/23年度の5万6千トンから32%減少した。カリフォルニア州とは対照的に、アリゾナ州のレモンの結果面積は、今世紀の始め以降大幅に減少し、平均1万4,600エーカー（2000/01～2003/04年度）から同3,975エーカー（2020/21～2023/24年度）に減少した（図30）。収量は2022/23年度よりは低かったものの、過去3年間の平均（2020/21～2022/23年度）を上回った。2023/24年度には、アリゾナ州の生産量の82%が生鮮市場に出荷され、過去3年間（2020/21～2022/23年度）の平均である73%を上回った。

図30 アリゾナ州のレモンの栽培面積と収量 1981/82～2023/24



注：1箱は80ポンドに相当する。
出典：農務省農業統計局のデータに基づき経済調査局が作成

2023/24年度（8月～7月）の生鮮レモンの輸入量は、アルゼンチンとチリからの輸入量の増加に牽引され、前年比17%増加した。近年（2019/20～2023/24年度）、アルゼンチン（36%）、メキシコ（31%）、チリ（29%）の3カ国が生鮮レモンの輸入量の平均96%を供給している。近年では、輸入品の生鮮レモンは国内の供給量のほぼ4分の1を占めている。2023/24年度の生鮮レモンの輸出量は、2022/23年度に比べて1%未満の微増であった。生鮮輸出量の約4分の3は、暦年の前半（1月～6月）に出荷される。2023/24年度には、韓国とメキシコへの生鮮輸出の増加が、上位の輸出先であるカナダと日本へ輸出の減少を埋め合わせた。

2024/25年度の米国の柑橘類シーズンの見通し

農務省農業統計局は2024年10月に、米国の2024/25年度の全柑橘類の生産に関する当初予測を発表する。一方、カリフォルニア州食品農業局の2024/25年度カリフォルニア州ネーブルオレンジ実測調査報告書に掲載された早期予測では、カリフォルニア州のネーブルオレンジの生産量は、2023/24年度の生産量から2%の増加となる7,800万箱（40ポンド/箱）に達するとされている。予測される増加は、主に果樹当たりの着果量が24%増加したことによるものである。ただし、果実の直径は2.063インチで5%減少すると予測されている。

フロリダ州の2024/25年度シーズン最初のオレンジとグレープフルーツの成熟度テストの結果は、9月12日に農務省農業統計局によって発表された。サンプリングされた果実は、早生のオレンジ（ネーブル等）、中生の非バレンシアオレンジ及び赤肉と白肉の種無しグレープフルーツ等であった。この調査では、早生の品種では2024/25年度は2023/24年度よりも原料1箱当たりの果汁（加工・精製されていない生果汁。以下同じ）と果汁中の固形分が少ないが、中生の非バレンシア種では果汁が多く、固形分が少ないことが示唆されている。また、2024/25年度の赤と白の種無しグレープフルーツの果汁と固形物は、2023/24年度を下回った。

224. オーストラリア　後悔しないスナックとしてリンゴの消費を促進

FreshPlaza　2024年9月26日

オージー・アップルズ（オーストラリア・リンゴ協会）は、オーストラリア人の健康的なスナック（軽食、間食）習慣を促進するための「スナックで後悔しない（No Snackgrets）」キャンペーンを主導している。この取組みは、950万人のスナック消費者がリンゴを好むように影響を与えることを目的としており、リンゴ・ナシ戦略的市場開発パネル（リンゴ・ナシ産業の成長と発展を促進するアドバイザリーパネル）が支援している。このキャンペーンは調査研究に基づいており、リンゴを「罪悪感のないスナック」の選択肢に高めることを目指している。

リンゴは健康的なスナックとして認識されているが、スナックの選択肢が多数ある中で、リンゴが最初に消費者の頭に浮かぶことはあまりない。調査では、リンゴを消費するものの他の果物に比べて購入頻度が低いライトユーザーと、より定期的に購入するヘビーユーザーに区分している。買い物の際にリンゴを購入する消費者は6.8%にとどまり、スナックとしての魅力に欠けていることを示している。

「スナックで後悔しない」キャンペーンは、特にライトユーザーに対して、定番のスナックの選択肢としてリンゴの視認性と魅力を高めることに焦点を当てている。オリンピックボクサーのティナ・ラヒミ氏をキャンペーンアンバサダーに起用したこの取り組みは、彼女のソーシャルメディアでの影響力を活用して、リンゴがどのようにしてトレーニング計画をサポートし、欲求を管理するのに役立つかを示している。同氏は「トレーニング中に手早く簡単なスナックが欲しいことがあったが、適切でないスナックに手を伸ばした時は動きが鈍ったと感じた。その時、リンゴに目を向けた － リンゴは美味しくて腹持ちが良く、回復するのに十分役立った」と話す。

このキャンペーンは、「スナックで後悔しない」報告書によってさらに裏打ちされている。同報告書によると、オーストラリア人の93%が毎日間食をとっている一方で、57%が少なくとも週に1回は不健康なオプションを選んで後悔していることが明らかになった。しかし、85%はより健康的なスナックの選択肢を望んでいると述べ、41%がコストが障壁だとしている。リンゴは、回答者の97%が健康的であると考えており、この課題に対する実行可能な解決策として浮上した。

「スナックで後悔しない」キャンペーンは、マルチチャネルを利用したアプローチにより、ティナ・ラヒミ氏の影響力を活用し、より健康的な選択を促進する際のコストの懸念に対処して、リンゴをオーストラリアのスナック文化の定番として位置付けることを目指している。

出典：APAL

225. 米国フロリダ州　果汁用オレンジが高値

FreshPlaza　2024年9月27日

フロリダ州産オレンジの一部で早期の収穫が始まった。フィークファミリーシトラス社のダグ・フィーク氏は、「弊社では早い作物の収穫が始まったが、本体の収穫は10月中旬頃まで準備が整わない。弊社では早い園地がいくつかある」と話す（以下「 」は同氏の話）。フロリダ州のオレンジの収穫は、昨年と同じ時期に始まった。

フロリダ州のオレンジ収穫量についてフィーク氏は、やや少ないと言う。「しかし、生鮮市場向けの果実はたくさんあるだろう。」 同氏は糖度と果汁含有量も上がりそうだと付け加えた。「見たところ、品質は良いようだ。生鮮市場の需要を満たすのに十分なだけの量があるが、果汁用の出荷量は少し減少するだろう。」

今のところサイズは小さい　同氏はまた、果実は今のところ小さく、昨年とほぼ同じサイズであると付け加えた。1箱の入数では125と138が最も多く、入数100が続き、80及びそれより大玉のものはほとんどない。

一方、カリフォルニア州産は果汁用が終了し、南アフリカ産のミッドナイトオレンジは今シーズン供給が逼迫しているため、需要は良好なようだ。テキサス州は準備にあと3～4週間かかり、メキシコも同様である。

これにより、価格は昨年よりも少し高くなっている。「これは主に果汁の価格が上がるためで、それはフロリダ州だけではない。メキシコとテキサス州も同じになるだろう。」

執筆者：アストリッド・ヴァン・デン・ブローク

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

226. ペルー　ブルーベリー輸出は前年に比べ減少

FreshPlaza　2024年9月27日

ペルーのブルーベリー輸出は昨シーズンに比べ7%減少

2024/25年度のペルー産ブルーベリーの出荷シーズンが進む中、前シーズンの数字には遅れをとっているものの、実績は業界の予測とよく一致している。第37週（9月半ば）までに、合計4万4,926トンのブルーベリーが様々な市場に出荷され、これは2023/24年度シーズンより7%少ないが、最近の予測に比べて1%多い。

総出荷量のうち、4万2,296トンは慣行栽培のブルーベリーで、昨シーズンから1%減少したが、予測よりは2%多い。有機ブルーベリーの出荷量は2,629トンで、前年比52%減で、予想を14%下回っている。

第37週の出荷量は9,274トンで、2023/24年度出荷シーズンの同時期より30%多いが、直近の予測より2%少ない。出荷量が最も多い業者は6,550トンのコンポソル社で、次いでアグロビジョンペルー社及びその他の主要出荷業者が総出荷量の大部分を占めている。

米国は引き続きペルーのブルーベリーの主要輸出先であり、2万2,707トンを受け取って51%の市場シェアを確保している。その他の主な市場は、中国、欧州諸国、英国、及び新たな輸出先等で、前シーズンと比較した出荷量の傾向は様々である。

産地別では、ラリベルタ県がブルーベリーの輸出量が最も多いが、2023/24年度シーズンに比べて11%減少した。ランバイエケ県は顕著な増加を見せたが、アンカシュ、イカ、リマ、ピウラ、モケグア、アレキパの各県等他の地域の輸出量はまちまちの結果を示した。

出典：Blueberries Consulting

227. 世界のオレンジ市場（抜粋）

FreshPlaza　2024年9月27日

南アフリカ産のオレンジは、まだ市場で多く見かけるが、同国では冬の天候が地域によって様々であったほか、国内の果汁価格が高騰したため、輸出量が減少した。ブラジルの悪天候による果汁用オレンジの不足は今後も続くと予想されており、南アフリカのオレンジ果汁価格の高騰もあと数シーズン続くものと見られる。このことは生産者に、輸送費や梱包費用をかけずに出荷して良い収入を得る選択肢を与えている。

エジプトでは12月に新シーズンが始まるが、紅海危機は長引く可能性が高い。生産者と輸出業者は、次のシーズンも危機の状況によって左右されると予想している。エジプトの輸出業者の価格設定の観点からは、次のシーズンの成功のためには、数量の削減が不可欠である。

北米では、国内産のオレンジの収穫が始まっている。フロリダ州では一部の早いオレンジの収穫が始まったが、本体の収穫は10月中旬頃まで準備が整わない。収穫量はやや減少するが、生鮮市場向けには多くの果実が期待されている。テキサス州はあと3～4週間で出荷の準備が整い、メキシコも同様である。

中国市場では、南アフリカ産オレンジの量をさばくためには合理的な価格帯が必要であり、現在までの入荷量は前年同期の60%にすぎない。

アルゼンチンのオレンジ生産者と輸出業者にとっては、価格が適切でなかった昨年とは異なり、今シーズンは全般的に好調な年であった。

スペインでは、オレンジの出荷量が2024/25年度シーズンにやや回復すると予想されている。マンダリンの出荷量は前年を下回る見込みである。南半球からの供給が少ないため、スペイン産オレンジの出荷シーズンの開始が関心を集めている。スペインの柑橘類業者は、既に8月末ないしは9月上旬から、最初のナベリーナオレンジの高い価格での購入を園地で進めている。

228. 米国カリフォルニア州　2024年のブドウ出荷量は増加

The Packer　2024年9月27日

出荷価格が下がったことで拍車がかかり、8月下旬の米国のブドウ出荷量は前年同期比で大幅に増加した。

カリフォルニア州フレズノ市のバーリ青果会社のジャスティン・ベドウェル社長は、カリフォルニア州の貯蔵ブドウの供給は1年前よりも進んでおり、これは昨年8月上旬の雨によって2023年産の収穫の大部分が失われたことが主な原因であると述べた。(以下「 」は同社長の話)

「一方、今シーズンの荷動きはかなり良好であり、秋が深まるにつれて供給がさらに逼迫すると予想している。序盤の多少の暑さ以外には、天候に関してはかなり良いシーズンとなっており、その結果、品質の高いブドウが育った。シーズン初めの暑さが一部の品種の収穫を促進したようで、昨年よりも少し早く収穫が終わると予想している。」

同社は輸入品を扱っていないが、同社長は、南米産の輸入品が11月中旬までに入荷する可能性があり、それはカリフォルニア州の一部の生産者の遅い出荷と重なると述べた。

同社長は、同社では通常11月上旬までブドウを販売していると述べた。「以前は出荷シーズンの延長を試みたが、輸入がますます早くなっているので、収穫、梱包、出荷をタイムリーに行うのが最善の策のようだ。」

荷動きが増加　米国農務省の出荷統計によると、8月25日から31日の週の米国のブドウ総出荷量は19ポンド箱で452万箱(8,587万ポンド)で、前年同期比で15%増加した。農務省によると、カリフォルニア州は生鮮ブドウの総供給量の99%以上を出荷し、カナダ、メキシコ、イタリア、韓国からの輸入は非常に少量であった。(1ポンド＝約0.4536kg、1億ポンド＝約4万5,359トン)

カリフォルニア州中部の生食用ブドウの今シーズン8月末までの累計国内出荷量は、前年同期比20%増の2,540万コンテナ(4億8,260万ポンド)であった。同省によると、2023年シーズンのカリフォルニア州産ブドウのトラックによる国内出荷数量は6,150万コンテナ(11億7千万ポンド)であった。

2024年には、カリフォルニア州中部のブドウの輸出量も大幅に増加した。農務省は、カリフォルニア州中部の輸出向けブドウのトラックによる出荷数量が今シーズンこれまでの累計で前年比42%増加し、航空貨物による輸出は72%増加、船舶による輸出は4%増加したと報告している。全体として、カリフォルニア州中部の今シーズン現在までの輸出向けブドウ出荷量は264万コンテナ(5,020万ポンド)で、前年同期の225万コンテナ(4,290万ポンド)に比べて17%増加した。

価格と販促活動　出荷量が増えたため、カリフォルニア州産ブドウの8月下旬の出荷価格は前年同期の水準を下回った。9月上旬のカーン郡の19ポンド箱の種無し白ブドウの価格は、需要が供給を上回っていた前年同期の30.95～38.95ドル/箱に対し、22.95～26.95ドル/箱と報告された。同じく種無し赤ブドウは、24.95～28.95ドル/箱で、前年同期の30.95～38.95ドル/箱から下落した。(販促については省略)

ブドウ業界の変化　LinkedIn(ビジネス向けSNS)の青果物業界ディスカッショングループの最近の調査で、「過去50年間で米国の生鮮ブドウ市場はどのような点で最も変化したか」と質問した。調査参加者は次の4つの選択肢を与えられ、80票が投じられた(パーセンテージは投票数の割合)：　ブドウの新品種/ブドウ品種の増加(35%)、周年供給/輸入(50%)、有機ブドウの増加(5%)、パッケージの進歩(10%)

ベッドウェル氏は、ブドウの取引は過去20年間で大きく変化したと言う。「生産者の立場から見ると、投入コストが上昇を続けており、増加したコストのバランスをとることが引き続き課題となるだろう。消費者の立場からは、おそらく品種が最大の変化である。過去20年ほどの間に、いくつかの優れた品種が生まれた。私は最終的な品種は個々の栽培者によって決定されるものだと考えているが、新しく、味の良い品種の爆発的な増加により、カリフォルニア州産のブドウに関しては消費者にさらに多くの選択肢が与えられたことは間違いない。」

執筆者：トム・カースト

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

229. フィリピン　病害と土地の制約によりバナナの生産量が減少

FreshPlaza　2024年9月30日

ミンダナオ島のバナナ産業は、パナマ病としても知られるフザリウム菌による萎凋病等の病害や土地利用の制約による課題に直面しており、これらはバナナ産業の生産量に影響を与え、バナナに依存する人々の生活を脅かしている。フィリピン・バナナ生産者輸出業者協会（PBGEA）は、この地域でバナナ生産が減少を続けており、約70万人の雇用をリスクにさらしていることを強調した。これらの課題にもかかわらず、過去7カ月間の生産と輸出が増加したと報告されており、従来からの市場である日本、韓国、中東諸国に引き続き輸出されている。しかし、中国ではフィリピンからの供給量が十分でないため、ベトナム、カンボジア、エクアドル等の国々との競争が激化している。

PBGEAの事務局長であるスティーブン・アンティグ氏は、法改正の必要性、特に5ヘクタールを超えるプランテーションの拡大を制限する農地改革法はバナナ栽培の為にならないとして、改正の必要性を強調した。また、この業界は病害虫の被害により、元々あった8万9千ヘクタールのうち1万5千ヘクタールしかバナナの栽培に利用されていないという利用可能な土地の減少にも取り組んでいる。復旧の努力が続けられているが、植物が実を結ぶまでに最大1年かかり、その進展は遅い。

2012年以降の主要な輸出先での市場シェアの減少は、これらの課題がフィリピンのバナナ産業に与える影響を浮き彫りにしている。病気に抵抗性のあるバナナの品種を開発する努力は、残された農地を保護し、セクターの存続を確保するために重要である。PBGEAは、バナナ産業の活性化を目的とした法案に取り組んでおり、これには、キャベンディッシュバナナセクターとフィリピンのより広範な農業に利益をもたらす世界クラスの研究施設を設立する提案が含まれている。

出典：Business World 及び Sunstar

230. 中国北部　未曾有の降雨でリンゴの収穫に課題

FreshPlaza　2024年9月30日

亜熱帯高気圧の影響により、中国北部では9月上旬に頻繁な降雨があり、降水量が平年より大幅に多く、日照時間が少なくなった。これらの条件は、中生のリンゴ品種の成熟期と一致し、果実の着色と糖の蓄積に影響を与えている。生産者は、気象パターンを注意深く監視し、果樹の管理と果実の品質管理に備えている。

中国の主要なリンゴ産地である山東省では、通常、ふじリンゴの除袋（袋はぎ）を9月下旬から10月上旬に予定している。一般的に、リンゴは100日以上袋を掛けられ、その間に果皮が乳白色に変わる。徐袋が早すぎたり遅すぎたりすると（特に雨が降り続く時期）、着色不良やリバースグリーニング（着色後の退色）及びその他の品質問題を引き起こし、収量と品質に大きな影響を与える可能性がある。

ワンデーワングループ（奕天壹（イーティアンイー）集団）の製品マネージャーであるリー・シャオリャン氏は、今年は果実の品質を向上させるためにリンゴの徐袋を遅らせたと述べた。雨季が長引くと土壌水分が増加し、気温が下がり、日照が減り、これらすべてが果実の成熟過程に影響を与える。徐袋を遅らせることで、リンゴは温度、湿度、光の変化に適応する時間が増え、成熟状況が改善する。

徐袋は、細心の注意を要する時間のかかる作業であり、その後の収穫作業の管理に大きな影響を与える。同社のふじリンゴは、果実が環境に順応するように外側の袋を最初に取り除き、その2～3日後に内側の袋を取り除くという2段階の徐袋プロセスを経る。この作業は、日焼けを防ぎ、果実の外観を維持するために、午後3時以降または曇りの日に行われる。

リー氏によると、天候条件に応じて徐袋の時間を調整するだけでなく、光を遮る枝の剪定、玉回し、反射フィルムの敷設、徐袋後のリンゴの緩衝材での保護など、他の品質管理手法も実践している。同氏は、「全体として、今年のふじリンゴの品質については楽観的である」と述べた。

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

231. チリ　2024-25年度のブルーベリーシーズンが始まる

FreshFruitPortal　2024年10月1日

フルタスデチリ*のブルーベリー委員会は、初めての「ブルーベリーの日」に、2024-25年度のブルーベリーシーズンを正式に開始した。(＊ チリ果実輸出業者協会(ASOEX)のブランド。対外的に組織名としても使用)

この式典はホルティフルット社のビルケンコ農場で行われ、チリのエステバン・バレンズエラ農業大臣やバーナデット・M・ミーハン駐チリ米国大使をはじめとした業界と関係機関の代表者らが集まった。

会合では、「ブルーベリー委員会所属シール」の立ち上げと、2024-25年度シーズンの予測に影響を与える新品種の栽培の伸びが有望であるという2つの重要な発表が行われた。

同ブルーベリー委員会のルイ・バルボサ委員長が発表した今シーズン最初の推計では、チリの輸出量は前年より3.2%多い13万5,501トンと予測されている。そのうち、8万501トンが生鮮ブルーベリー(6.7%減)で、5万5千トン(22.2%増)が冷凍ブルーベリーである。(以下この項で「 」は同委員長の話)

「生鮮ブルーベリーの輸出量が約7%減少したことは、我々にとって悪い知らせではなく、業界で行われている品種の交代を反映している。これにより、より良い生鮮ブルーベリーを市場に届けることができる。今シーズン中の出荷量のうち新品種は26%増加し、1万6千トン以上になると予想される。」

ブルーベリー委員会所属シールについて、バルボサ委員長はそれが国際市場における委員会メンバーの象徴になると述べた。

「これは、市場での我々の位置付けを再構築するためのツールである。このシールは、最善の栽培管理を実施し、市場に良いものが届くよう品種を更新し、市場での差別化をもたらし、日々より良い品質のブルーベリーを提供している委員会のメンバー企業を表している。」

「主な目的は、取引先に信頼と安心を伝えることである。このシールは、チリ産ブルーベリーのイメージを広め、強化するための中心的な要素になることを目指している。」

ブルーベリーの日

フルタスデチリのイヴァン・マランビオ会長は、初めての「ブルーベリーの日」の重要性はチリ産ブルーベリーが世界の注目を浴びることであり、「それによって、チリのブルーベリー産業が持続可能性について、特に新品種の更新、物流チェーンの改善、より優れたより大規模な技術の実装に関連して何をしているのか、また世界のブルーベリー消費量を増やすために何をしているのかを世界に示すことができる」と強調した。(以下この項で「 」は同会長の発言)

同会長は、農業大臣と米国大使の臨席と支援に感謝した。「これまで述べてきたとおり、我々は常にバレンズエラ大臣とそのチームの支援を受けてきたので、我々は1つのチームであり、業界としてそのことに感謝している。」

「ミーハン大使が常に示してこられた活動への参加意欲も高く評価している。特に、大使はブルーベリーの約50%を占める主要市場であり、生鮮果実全体の主要な輸出先である米国を代表しておられる。この関係の深さは、本日米国で、当委員会のアンドレス・アームストロング事務局長が、ブルーベリー消費の成長への貢献に対して、米国の北米ブルーベリー評議会から表彰を受けていることでもわかる。」

同会長はまた、チリのブルーベリー生産者がシステムアプローチを国内の新しい地域に拡大したいという願望を表現する機会を逃さなかった。「システムアプローチがニュブレ州とビオビオ州で4シーズンにわたって成功裏に実施された後、オイギンス州とマウレ州に拡大できることが極めて必要である。」

232. 米国　チリ産ブドウの輸入条件緩和で生産者団体が農務省を提訴

The Grape Reporter　2024年10月1日

カリフォルニア州の複数の生食用ブドウ関係団体は、米国農務省（USDA）がチリ産生食用ブドウを輸入する際のシステムアプローチの実施基準（プロトコル）を承認したことに異議を唱え、同省に対して訴訟を起こした。

訴状は、この承認は、従来からの実績のある保護措置を違法に放棄し、侵入病害虫に関連するものを含め、米国のブドウ生産者を重大なリスクとコストにさらすものだとしている。

この実施基準は、20年以上にわたる二国間の協議の末、今年6月に承認され、それに基づいて輸出された最初のブドウが11月に米国に到着する予定である。システムアプローチは、臭化メチル燻蒸を果実の原産地で実施される一連の対策に置き換えるもので、チリのアタカマ州とコキンボ州、及びバルパライソ州の一部で生産されるブドウが対象となる。

訴訟の原告は、カリフォルニア州生食用ブドウ委員会、全米ブドウ研究連盟及びカリフォルニア州生食用ブドウ輸出協会である。

この文書には、これらの団体が実施基準の実施に反対するさまざまな理由がリストされており、決定は恣意的、気まぐれ、裁量の乱用であり、または法律に適合していないとしている。

関係団体は、農務省の動植物検疫局（APHIS）が承認の背後にある理由を説明せず、通知に対するコメントの機会を十分に提供しなかったと主張している。彼らはまた、当局による燻蒸の放棄に対してコメント提出者が意味のある関与をするために必要な文書と情報を提供することをAPHISが拒否したと付け加えた。

生産団体はまた、当局の決定は、リスクとコストをチリの産業から、「過去の病害虫の発生により既にかなりの負担をしてきている」米国の産業に転嫁するものであると主張している。

さらに、APHISがチリの植物防疫機関と共同で密室で詳細を詰めたとして、「APHISは、作業計画（OWP）の文書を一般公開することや、作業計画の構成をどのようにすべきかについて一般市民がコメントすることを拒否している」と主張している。

昨年、カリフォルニア州生食用ブドウ委員会のキャスリーン・ネイブ委員長は農務省に対し、システムアプローチの承認を永久に放棄するよう求めるとの声明を発表した。

同委員長は、この提案は「多くの侵入病害虫が移動する可能性のある、定義が明確でないシステムアプローチを支持するために、実証的に成功している措置の枠組み」を放棄し、全米の醸造用、レーズン用、生食用のブドウに重大な脅威をもたらすと述べていた。

関係団体は、ブドウの輸入に関する通知は恣意的、気まぐれ、裁量の乱用であり、または法律に適合していないため、行政手続法（APA）に違反していると裁判所が宣言することを求めている。

233. エクアドル　バナナ輸出業者団体が病害に対処

EUROFRUIT　2024年10月1日

AEBEと州政府関係者が農場を検査・管理する監視チームの計画を策定

エクアドルのバナナ輸出業者協会（AEBE）は、壊滅的な病害であるフザリウム熱帯株4（TR4）及び細菌性のモコ病（萎凋病）と闘うため、ロスリオス州の政府関係者と協力協定を締結した。先週合意されたこの連携協定には、地域全体のバナナ農園を脅かす病気の蔓延を監視、予防、抑制する専門のバイオセキュリティ「部隊」（複数）を設置する計画が含まれている。

バナナの主要産地であるロスリオス州は、これらの植物病原体に対して特に脆弱であると言われている。検査チームには、脆弱な農場で検査を実施する専門技術者が参加する。彼らは、バイオセキュリティキットの提供、衛星技術を使用したリスクの高い地域の監視、及び感染ホットスポットの検出を担当する。

AEBEの広報担当者は、「これらの取組みは、フザリウム菌TR4と細菌性モコ病の蔓延を抑制するだけでなく、ロスリオス州とエクアドルの経済に不可欠なバナナ農園の持続可能性と生産性を強化することを目指すものである」と述べた。

エクアドルのバナナ統計調査によると、ロスリオス州では合計2,637ヘクタールがモコ病に感染している。

一方、AEBEは、バナナの輸出は引き続き減速しており、8月までの出荷量は2023年の同時期と比較して460万箱少ない（1.83%減）としている。

執筆者：マイク・ノウルズ

234. 南アフリカ　生食用ブドウ業界は2024-25年度の輸出量を微増と推定

FreshPlaza　2024年10月2日

南アフリカの生食用ブドウ業界は、来たる2024/25年度シーズンの輸出検査数量が、2023/24年度の検査実績と比較して約1%増加すると予想している。全国の出荷量は7,640万箱（4.5kg/箱）と予想される。

今シーズンの出荷量の最初の推定における南アフリカ生食用ブドウ協会（SATI）の特記事項：

上限は約7,870万箱と予想され、下限は約7,410万箱と予想される。この数字は、5年間の平均出荷量に比べて6%多く、南アフリカは世界市場に十分な品質の産品を供給するのに適した状況にある。

北部の複数の州の合計出荷量が3%減少することは、栽培面積の8%の減少に帰することができる。ベルク川流域とヘックス川流域の予想出荷量は、引き続き5年平均に非常に近いと予想される。

この冬のシーズンには低温が観測された。これは、作物が高品質になる前向きな指標である。冬の雨はダムの水位を好ましく増加させ、通常のシーズンには十分な水供給を支える。

SATIの最新のブドウ悉皆調査では、種無し白ブドウ品種が引き続き増加していることが示唆されており、南アフリカが世界市場のニーズに合致していることを示している。

出荷業者は、産品を最適な状態で市場に供給するため、引き続き品質を重視している。SATIが委託した物流予測モデルの開発は、生食用ブドウのバリューチェーン全体のデータを考慮に入れて最適な物流ソリューションを予測することにより、これを促進する。業界関係者は引き続き、南アフリカが世界中の小売業者にとって好ましい原産国としての地位を維持できるよう取り組んでいる。

出荷量の最初の推定値は、複数の要因に基づく合理的な推論を示している。必要に応じて数値を修正する場合がある。

235. ブラジル　オレンジの搾汁は晩生品種に移行

Cepea　2024年10月2日

セペア（サンパウロ大学応用経済高等研究センター）、2024年10月2日 - サンパウロ州の果汁加工会社では、9月末時点で、2024/25年度産のオレンジの搾汁が順調に進んでいた。関係者らによると、品種別ではパールオレンジが最も多く加工された。ただし、収穫のペースは上がってきており、晩生の果実（バレンシア種やナタルオレンジなど）の入荷が増えている。

1番目の開花による果実の割合が高いため、収穫は通常よりも進んでいる。Fundecitrus（柑橘類栽培防衛財団）のデータによると、今シーズン生産されたオレンジの64%を1番目の開花の果実が占め、その後の4回の開花による果実（最大で36%）よりも多くなっている。したがって、今年は搾汁ペースが早期に減速する可能性が高い - Fundecitrusによると、2回目の開花による果実は10月以降に収穫される。

それに加えて、カンキツグリーニング病（HLB - 黄龍病）、平均以上の気温、及び乾燥した天候も収穫を加速させる。カンキツグリーニング病については、早期の落果が症状の一つであり、生産者は損失を避けるため早めに収穫を行うことがある。一方、気象条件は成熟を加速し、早期の落果をもたらす可能性がある。

加工における晩生の果実の割合は10月に高くなりそうであるが、果汁生産に割り当てられるパールオレンジの量も依然として関係する可能性がある。

在庫量 - 9月19日にCitrusBR（果汁業者の団体）が発表したデータに基づくセペアの計算によると、ブラジルのオレンジ果汁の在庫量は現在の収穫期間中（2024/25年度）には回復せず、今シーズンは技術的に在庫ゼロで終了する可能性がある。加工歩留まりの改善（平均以下の降雨量による）と輸出量が限られるという予測でさえ、加工用果実の数量の減少を補うのに十分ではない。

CitrusBRによると、2023/24年度末（2024年6月30日）の果汁在庫量は11万6,700トンで、前年同期より37.7%増加したが、それでも史上（1988/89年度以降）3番目に少なかった。

（関連記事）ブラジル　暑く乾燥した天候でオレンジ収穫量がさらに減少

Mintec　2024年10月2日

Fundecitrus（柑橘類栽培防衛財団）は9月10日、2024/25年度のブラジルの柑橘類収穫量に関する最新の予測を発表し、サンパウロ州とミナスジェライス州西南西部の柑橘類地帯（シトラスベルト）の生産量を5月の予測より7.1%少ない2億1,578万箱に修正した。これは、昨シーズンの3億722万箱から29.8%の減少となる。収穫量が少ないのは、高温で乾燥した条件によって、果実の小玉化と落果の増加が悪化したためである。2024年5月から8月の間のこの地域の降水量はわずか64mmで、過去の平均を54%下回っている。

暑さは、1番目と2番目の開花によるオレンジの大部分で成熟を加速させた。カンキツグリーニング病による損失を減らすために、生産者も収穫を早めに開始した。市場関係者はエクスパナ社（調査会社）に対し、ブラジルでの現地視察中に「カンキツグリーニング病の影響を受けた果樹がない園地は1つも見たことがない」と語った。同財団によると、8月中旬までに、前年同期の30%に対して果実の約45%が既に収穫された。

オレンジの収穫が進んだことで、ブラジル産オレンジ果汁は入手し易くなった。加工業者は果実を加工しているところであり、9月には需要と供給は均衡していたが、価格は歴史的な高止まりが続いている。EU向けブラジル産オレンジ果汁のエクスパナ社ベンチマーク価格（EBP）は、前年より55%高い7千ドル/トンである。市場筋は、2024/25年度シーズンが進むにつれて需要が供給を上回り、次のシーズンが始まる前にオレンジ果汁が不足する可能性があるとの懸念を表明している。市場関係者は、ヨーロッパの大手小売業者との過去に結んだ安価な契約が切れるため、スーパーマーケットでは値上がりが予想されると言う。

236. フィリピン　バナナの病害と闘う新たなアプローチ

FreshPlaza　2024年10月3日

ダバオ地方の農業局（DA-Davao）は、かなりの数のバナナに影響を与えているフザリウム萎凋病 － パナマ病としても知られる － がもたらす課題に取り組むことを目的として、トリコデルマ菌の培養に特化した研究所を設立する過程にある。この取組みは、トリコデルマ菌を他の生物農薬（BCA）と合わせて使用することにより、バナナのフザリウム萎凋病を抑制するための効果的な解決方法を提供しながら、植物の成長を促進することを目指している。

アグリビジネス・メディアフォーラムで紹介された最近の進捗の中で、農業局の果実に関する地域担当者であるアーリーン・ティワン氏は、地域作物保護センター（RCBC）が病害管理のためにトリコデルマ菌を培養する際に、技術スタッフの専門知識をどのように強化するかについて詳述し、「農業局とRCBCとの協力は進行中である。フザリウム萎凋病の影響を受けている生産者にトリコデルマ菌を提供し、トリコデルマ菌をフザリウム萎凋病と戦わせるための体制を整備する資金も支援している」と述べた。

この研究所の設立は、トリコデルマ菌及びフザリウム萎凋病に対抗するその他の生物農薬の製造を合理化するための戦略的な動きである。この土壌伝染性の真菌性病害（フザリウム萎凋病）は、バナナを始めとする様々な植物に重大な脅威をもたらす。ダバオ地方農業局は2022年に、ダバオデオロ州内の3つの自治体（名称省略）にトリコデルマ菌生物学的防除（BioCon）村落研究施設を開設し、フザリウム萎凋病との闘いに290万ペソ（約750万円）の予算を割り当てた。

ティワン氏はさらに、最も生産量の多いバナナであるキャベンディッシュ品種の品質を向上させることを目指し、農業局は商業セクターに働きかけたい旨を強調した。同氏は、「農業局は、民間部門と利害関係者の間の協力のために常にオープンである。フザリウム病の制御を最適化するための適切に文書化された提案であれば、農業局はいつでも歓迎する」と締めくくった。

出典：SunStar

237. オランダ　スペイン産のカキの入荷が早い

FreshPlaza　2024年10月4日

スペイン産のカキのシーズンは今年、異例の早さで始まった。OVフルーツ社のオスカー・ファン・トゥレンハウト氏は、「予想外だ。通常、カキの供給は9月末にゆっくりと始まるが、今年は9月の第3週にかなりの量を受け取った。最初の1週間だけで、トラック2台分を良い価格で販売した」と話す。（以下「 」は同氏の発言）

同氏は数年前からカキを販売しているが、現在では販売者の数が減って落ち着いたと見ている。「数年前、ちょっとしたブームがあり、誰もが突然カキに手を出した。しかし、その後、価格競争が起こり、それは誰の利益にもならなかった。スペインの生産者たちは、取引相手を一層選別するようになったことがわかる。カキを消費するのは依然として移民のコミュニティが主体であり、それは弊社の輸出市場でも同じである。販売は主に卸売市場に供給する輸入業者と、カキを効果的にさばける海外の取引先が担っている。」

同氏によると、スペインのカキの収穫量は昨年と同程度の水準にある。「供給量の大半が小玉なのでスーパー向けの1kgパックには多くのカキが入れられる。中玉（入数20-22-24）の価格は2～2.50ユーロ/kg、より大きいサイズは2.50～3ユーロ/kgである。全体として、これらはリーズナブルな価格だ。特に大玉はこの水準をしっかりと維持することを期待している。小玉の場合、この価格水準を維持できるかどうかわからない。」

「一方、カキに対する病害虫の圧力は常に比較的高いため、シーズンを通じて収穫がどの程度続くかは不確実だ。」トルコやギリシャ等の国々でカキ栽培の試みが増えているが、同社はスペイン産に注力している。「スペインから十分な量を調達できるので、他の国から調達する理由が見当たらない。」

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

238. 南アフリカ　業界団体はカンキツグリーニング病の「新たな脅威」を否定

EUROFRUIT　2024年10月8日

柑橘類生産者協会のジャスティン・チャドウィックCEOはブルームバーグのレポートに対して声明を発表

南アフリカ柑橘類生産者協会（CGA）は、同業界におけるカンキツグリーニング病の脅威を否定する声明を発表した。この声明は、ブルームバーグ社が先週末に発表したレポートに対する回答である。同レポートは、真菌による感染性病害の取り扱いをめぐってEU、特に柑橘類供給国としてのライバルであるスペインとの緊張が続く中、南アフリカの柑橘類輸出業者が「新たな病害の脅威」に直面していると示唆するものであった。

CGAのジャスティン・チャドウィックCEOは、この主張を「不正確で誤解を招く」と表現し、「輸出された柑橘類がこの病害を広める可能性があるといういかなる示唆も正しくない」とコメントした。柑橘類のグリーニング病は1932年から南アフリカに存在しており、影響を受けた地域から影響を受けていない地域への繁殖材料の移動を防ぐ厳格な措置を通じて管理されていると同協会は指摘した。また、チャドウィック氏が指摘したように、果実や種子によって感染が拡大することはないため、南アフリカ産の柑橘類に輸出制限はない。

黄龍病と呼ばれるこれとは別のより危険な病害が、アジア型のカンキツグリーニング病またはイエロードラゴンとして知られており、世界の他の地域では柑橘類の生産を著しく妨げているが、南アフリカには存在しない。チャドウィック氏は、「南アフリカの柑橘類産業の未来は明るい」と付け加えた。

執筆者：マイク・ノウルズ

（関連記事）南アフリカ　柑橘類の病害に対する監視プログラム

FreshPlaza　2024年10月8日

農業・土地改革・農村開発省（DALRRD）は、東ケープ州ゲベハ市（英語名ポートエリザベス市）近郊でアフリカ型のカンキツグリーニング病を監視するためのプログラムを開始した。このプログラムは、同市の住宅地で最近この病害が検出されたのを受けて、この地域に同病害が存在するかしないかを確定することを目的としている。この病害は、細菌によって引き起こされ、柑橘類に付くアフリカ型のキジラミによって広がり、葉面の斑模様や葉脈の黄変などの症状を引き起こし、果実の品質に悪影響を及ぼす。

監視プログラムの取り組みの一環として、病害の分布をマッピングするための区画調査が実施され、植物検疫措置の実施に必要な情報が提供される。同省は、柑橘類研究インターナショナル（CRI）と協力して、柑橘類の果樹に病害の兆候が出ていないか調査し、検体を収集して実験室で分析することもある。同省は、この地域の苗木業者、柑橘類生産者及び住民に対し、監視活動への協力を求めるとともに、同省が設置した黄色い粘着トラップに手を出さないよう警告するための通知を行った。

農業病害虫法の下では、病害の蔓延を防ぐため、柑橘類の繁殖材料を東ケープ州内の感染地域から非感染地域へ移動することが制限されている。同省は、感染していない地域を保護するために、これらの規制を守るよう呼び掛けている。

ジョン・ステーンハイゼン農業大臣はまた、ヒューマンサイエンス調査協議会が実施した全国食品栄養安全保障調査（NFNSS）の結果を公表する予定である。この調査は、世帯レベルでの食料安全保障の達成を支援するため、同国の食料と栄養の安全保障に関する考察を提供することを目的としている。

柑橘類業界に対する新たな病害の脅威を示唆するメディアの報道に対して、南アフリカ柑橘類生産者協会（CGA）のジャスティン・チャドウィックCEOは、アフリカ型のカンキツグリーニング病は1932年に検出されて以来制御されてきたことを明らかにしている。チャドウィック氏は、この病害は繁殖材料の移動を制限する措置を通じて管理され、果実や種子を介して病害が広がることはないため、柑橘類の輸出に影響を与えないことを強調している。

出典：SA News及びIOL

239. オーストラリアの落葉果実事情（生食用ブドウ）

米国農務省GAINレポート　2024年10月9日

これは米国農務省海外農業局キャンベラ事務所（オーストラリア）が作成した「生鮮落葉果実年次報告書」を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

要約

オーストラリアの2024/25年度の生食用ブドウ生産量は、2023/24年度の推定19万5千トンから、過去最高に近い23万トンに増加すると予測される。この増加は主に、十分な低温時間や通常より高い最高気温等の好ましい気象条件が近年で最も良好な発芽をもたらした結果である。この好ましい生育条件が収穫の終了まで続くとすれば、2024/25年度の生食用ブドウは豊作が期待される。

また、これらの最適な生育条件と収穫期までの好ましい条件への期待が相まって、輸出市場に適した生産物の供給が増えるものと期待される。その結果、2024/25年度の輸出量は史上3番目に多い13万5千トンと予測される。

中国は依然としてオーストラリアの生食用ブドウの主要な輸出先であるものの、国内生産量の増加により輸入量が5年間で50%以上減少すると見込まれる。それでも、中国からの近さと高品質なブドウの生産により、オーストラリアのブドウ産業は南米の競合国に対して有利な立場に位置付けられている。

予測される生産量の増加は、2024/25年度の国内消費量の10%の増加を支えるものと見込まれる。ただし、輸出に向けられる高品質なブドウが多くなると見込まれることから、生産量に占める国内消費量の割合は低下するものと予想される。

＜生食用ブドウ＞

概要

オーストラリアの生食用ブドウの大半は、ビクトリア州北部のサンレイシア地域とマレーバレー地域で栽培されており、出荷量の約78%を占めている（図1）。これに加えて、ニューサウスウェールズ州南部の2つのリベリーナ地域が出荷量の約10%を占めている。これらの地域の主な特徴は、温帯気候であり、排水の良い砂壌土で、年間降雨量が約300ミリと少なく、そのほとんどが基本的に収穫期間の11月～5月ではなく、5月から10月に降ることである。冬は穏やかであるが、樹体が必要とする十分な低温期間がある。これらの地域は、ブドウの樹体の水需要を満たすため、灌漑に大きく依存している。これらの条件は発芽を促して潜在的収穫量を高め、春から秋までの降雨量の少なさと暖かい気温は降霜、過湿及び降雹のリスクを最小限に抑え、よく管理された噴霧/点滴灌漑及び施肥計画と相まって作物の生育を最適化する。

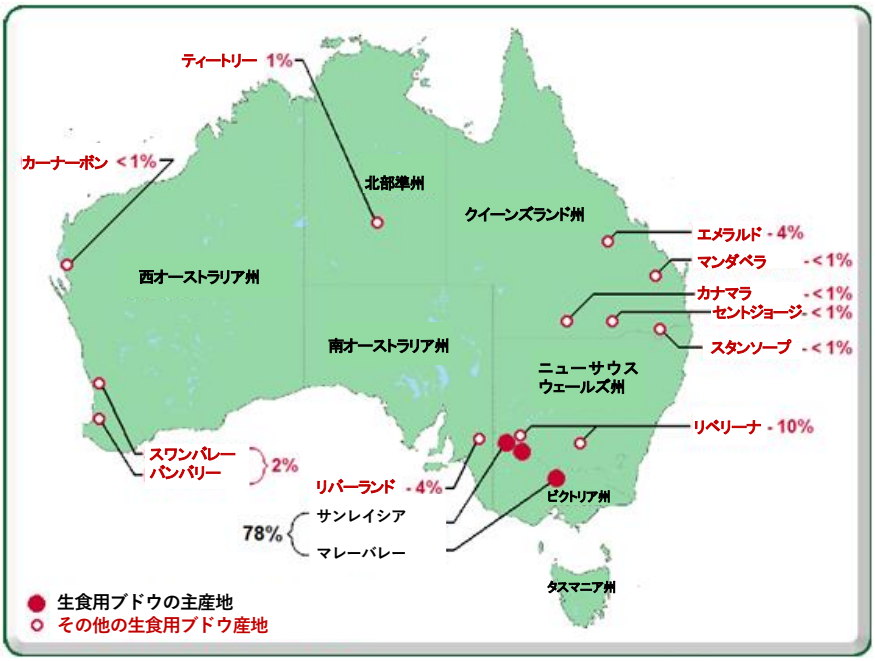
他の重要な産地はこれらよりも北のクイーンズランド州、北部準州及び西オーストラリア州にあり、早く暖かくなり出荷時期が前倒しになるが、冬が暖かいため低温期間が短く、最適な産地とは言えない。しかし、これらの地域の生食用ブドウは、ビクトリア州の主要産地よりも早く成熟するため、主に国内市場向けの出荷期間の延長に貢献している。これらの地域では出荷量が相対的に少ないため、主に国内市場向けに、米国産ブドウの輸入が減少し始め、かつ国内の南部の主要産地の収穫が始まる前の時期に出荷している。

オーストラリアの生食用ブドウの出荷は、10月に北部準州のティートリー地域及びクイーンズランド州のエメラルド地域で始まり、西オーストラリア州のカーナーボン地域では11月上旬に始まる。さらに南の地域が徐々に収穫を開始するにつれて出荷量が増加し、最も南部のリベリーナ、マレーバレー、サンレイシアの各地域で大規模な出荷が始まる2月～3月に最盛期となる。これらの地域は、国内では最も遅く毎年5月頃に出荷を終了する。また、クイーンズランド州最北部のマリーバ地域や西オーストラリア州のブルーム地域からも非常に少量の出荷があり、輸入品と競合する6月下旬から7月にかけて収穫が始まる。これらの地域は、産地としてはまだ未成熟な発展段階にあり、現時点では生産量と果実の品質は安定していない。

オーストラリアの生食用ブドウ産業にとって前向きな重要事項は、過去10年間、生産者が面積を拡大しており、権利関係のある輸出志向の新品種に特化してきたことである。品種の選択は、中国などのアジア市場

からの強い需要を背景にしている。中国の消費者は、次第にレッドグローブ等の種有り品種から離れて種無し品種に目を向けており、新しい品種や食味を試すことにも関心を持っている。

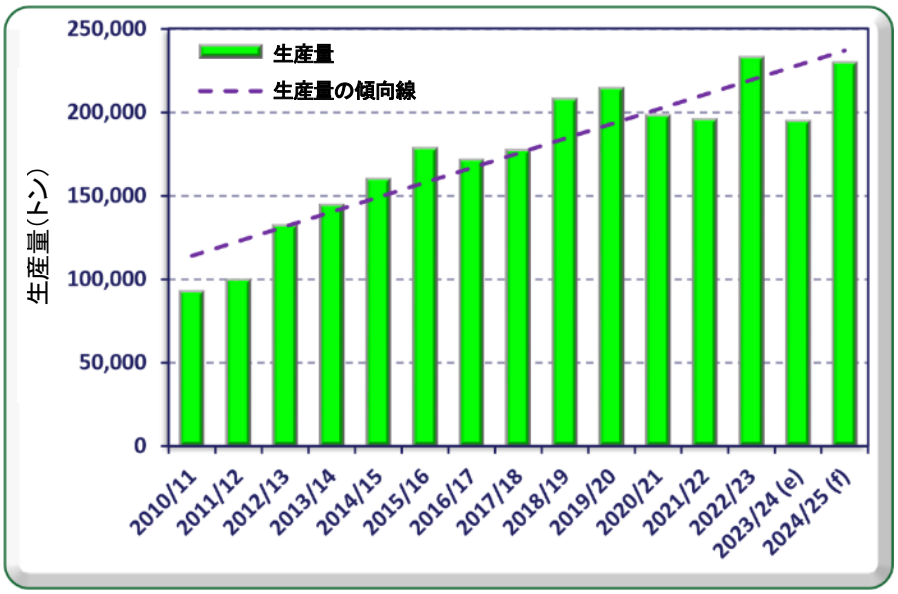
図1　オーストラリアの生食用ブドウ産地



出典: オーストラリア生食用ブドウ協会/Horticulture Innovation Australia

2010年頃から10年以上にわたって業界は急速に成長してきたが、この成長はCOVID-19のパンデミックの影響で引き起こされた収穫労働力の不足と投入資材及び物流コストの増加により停止した。さらに、主要な産地をはじめとして、春や収穫時期に平均以上の雨が降ったため、生産量と果実の品質が低下した。これらの複合的な影響は、業界の収益に影響を与え、近年の新植の速度を大幅に低下させた。これらの要因により、近年の生産量は業界の生産能力を下回って変動している(図2)。主要な産地をはじめとして、季節ごとの気象条件がより典型的なものに戻れば、近年そうであったよりも生産量が増加し、品質が向上することが見込まれる。

図2　オーストラリアの生食用ブドウの生産動向



出典: Horticulture Innovation Australia 並びに当事務所の推計(e)及び予測(f)

生産

オーストラリアの2024/25年度の生食用ブドウの生産量は、2023/24年度の下方修正された推計値である19万5千トンから23万トンに増加すると予測される。達成されれば、過去最高の生産量であった2022/23年度の23万3千トンに近いものとなる。主要産地の生産者らは、今シーズンの発芽がここ数年で最も良いと報告しており、2024年10月下旬に予想される開花と結実の結果を待ちつつも、このことは非常に高い着果量の可能性を示している。特に、十分な低温積算時間とここ数カ月の最高気温の上昇により、近年のシーズンに比べて約2週間早く発芽したことが注目される。

これまでのところ、平均以下の降雨量や高い気温（その結果、近年に比べて曇りの日が少なくなった）等の良好な条件が、シーズンのこの早い段階での病害圧力の低下に貢献している。これらの要因と十分な灌漑用水の利用可能性が、最高記録に近い生産量の基盤を形成している。シーズンを通して好天が続く場合、生産量は現在の予測を超える可能性がある。

主要産地の生食用ブドウの木は、5月から7月にかけての平均以下の最低気温により、休眠期の初期に低温積算時間が積み上がった（図3省略）。

主要産地の生産者らは、今シーズンの発芽は近年目にした中で最も力強いと報告している。低温時間の積み上げに続き、2024年9月の発芽に至るまでの期間及び発芽期の間、平均を上回る最高気温が続いた（図4省略）。これにより、今シーズンの着果量が増えるが、最終的な最大収穫量は2024年10月下旬に予想される開花と着果の結果によって決まる。

発芽後の段階に入って数週間しか経っていないが、今シーズンの生食用ブドウの休眠期間が始まって以来の降雨量が平均を下回るため、病害圧力が非常に低いと生産者らは報告している（図5省略）。降雨量の減少により、曇りの日が少なくなり、日照時間が増え、病害の発症を助長しにくい状況を作り出している。

しかし、今後数カ月間に予測される平均以上の降雨量による潜在的な影響については、いくつかの懸念がある。オーストラリア気象局は、2024年11月から2025年1月にかけて平均以上の降雨が発生する可能性があると予測している（図6省略）。生産者は通常、特に十分な灌漑用水がある場合は乾燥した条件を好み、過度の降雨は真菌類の蔓延、土壌水分の問題、及び収穫作業の混乱のリスクを高める可能性がある。通常よりも湿った条件が広がると、生産者は果実の生育と品質を制御できなくなる。しかし、雨が降った後に曇り空が長引かず晴れた状態が続く場合は、リスクを効果的に管理できる可能性がある。土壌水分のレベルが通常より低い現在の状態も、予想される降雨に対するある程度の緩衝力となり、土壌飽和のリスクを減少させる。

主要な生食用ブドウ産地であるマレーバレー、サンレイシア及びリバーランドの主な灌漑水源は、これらの地域の南東に位置するダートマスダムとヒュームダムである。両ダムの貯水率は、2024/25年度の灌漑シーズンに入った後の2024年9月末時点でも、それぞれ95%及び68%に達している。ブロワーダムとブリンジャックダムに依存しているリベリーナ地域は、同時期にダムの貯水率がそれぞれ77%及び84%であると報告した。これらの高い貯水率は、10月から11月の春の雨による追加の水の流入と相まって、灌漑用水の利用可能性とコストがこの栽培シーズンの制約要因にならないことを保証している。

2023/24年度の生産量予測については、当事務所は前回の22万トンから19万5千トンに修正した。この大幅な下方修正は、同シーズンの不利な状況、特に主要産地の収穫期における悪天候によるものである。このことは果実の品質に影響を与え、その結果、ブドウの木から収穫される果実の量が減少した。

消費

当事務所は、生食用ブドウの消費量が2023/24年度の推定値の9万3,700トンから、2024/25年度には10万3千トンに増加すると予測する。この増加は、2024/25年度の生産量の改善が見込まれるためで、国内供給量の増大と消費量の増加に貢献すると予想される。

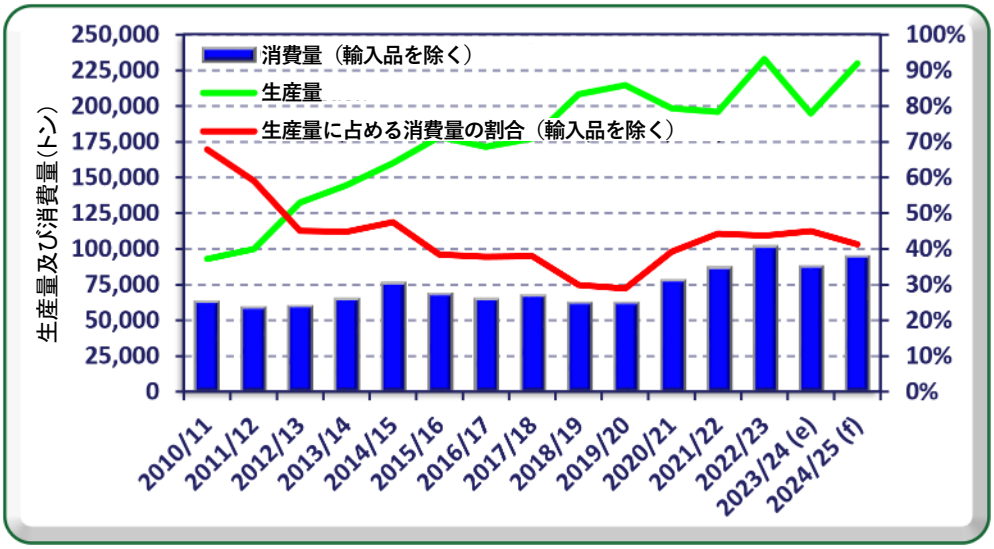
オーストラリアでは、国内産の生食用ブドウは主として12月から5月まで販売され、7月から11月までは大部分が米国産である輸入ブドウが市場の不足を埋めている。

概して言えば、時間の経過とともに生産量が増加するのにつれて、国内消費量も増加傾向にあった。しかし、近年では、総生産量に占める国内消費量の割合は横ばいになっている(図7)。この傾向に影響を与える主な要因としては、国内市場と比較して輸出市場で獲得できる価格プレミアムの程度と季節ごとの全体的な果実品質の変動が挙げられる。

通常、生育シーズンが順調であれば、全体的な作物の品質も向上する。生食用ブドウの品質が高いほど、輸出に適した作物の割合が高くなり、このことも国内供給を制限する傾向がある。

2024/25年度は、生育条件の改善により、期待される生産量と品質が前年度を上回る見込みである。国内消費量は10%増加すると予測されるが、総生産量に占める消費量の割合は4%ポイントの減少が予測される。

図7　オーストラリアの生食用ブドウの生産と消費の傾向



出典：当事務所　　(e)推計値、(f)予測値

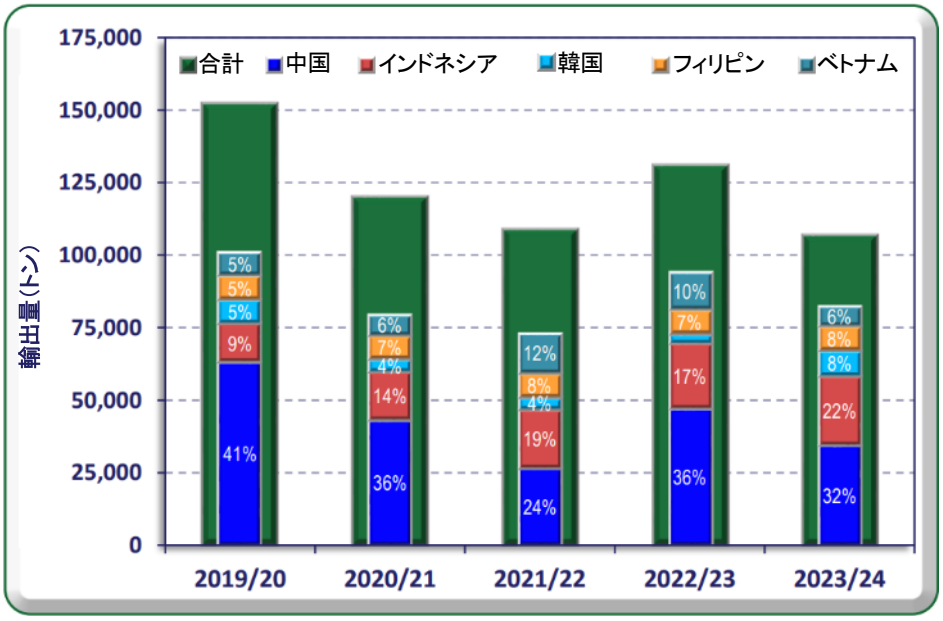
貿易

オーストラリアの2024/25年度の生食用ブドウ輸出量は13万5千トンに達すると予測され、2023/24年度の大幅に下方修正された推計値の10万7,300トンから26%の増加となる。実現すれば、これは2018/19年度と2019/20年度に次ぐ史上3番目に多い輸出量となる。なお、これらの年には全体の生産量が少なかった一方、果実の品質と中国をはじめとする輸出市場の需要が高かったため、輸出に仕向けられる割合が大きくなり、国内への供給量が制限された。

オーストラリアは生食用ブドウを主にアジア市場に輸出している。輸出量は年々急速に増加しており、2010/11年度の2万9,900トンから2019/20年度のピーク時には15万2,500トンに増加した。しかし、COVID-19のパンデミックに関連する混乱と、それに続く数年間の収穫時の平均以上の降雨量は、生産量と果実の品質の両方に影響を及ぼした。オーストラリアの潜在的生産能力は予測された水準を上回っており、気象条件が良好であれば、ブドウ産業は以前の輸出記録を超える能力を有している。

中国は長い間、オーストラリア産生食用ブドウの主要な市場であり、全体の輸出の4分の1から3分の1以上を占めてきた。インドネシアも数年前から、韓国、フィリピン、ベトナム等と同様に主要な輸出先となっている。この輸出先グループは、一貫して生食用ブドウの輸出量全体の約70%を占めている(図8)。過去には、日本が輸出量全体の約10%を占め、輸出先の上位3位以内にランクインされていた。業界の最近のレポートによると、日本はオーストラリア産生食用ブドウの品種の制限を解除し、予測対象年度における日本向け輸出の増加への期待が高まっている。

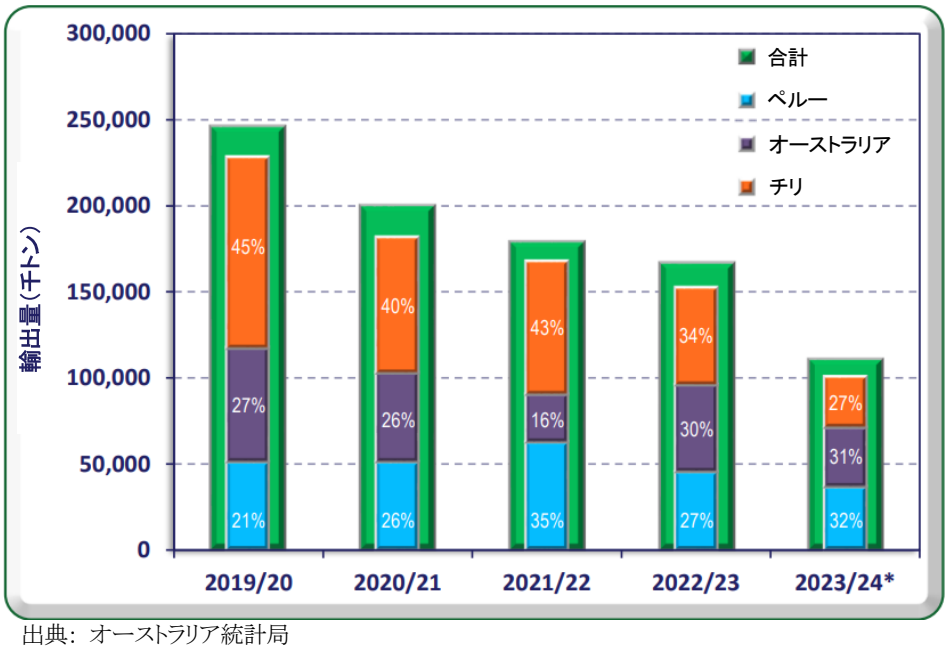
図8　オーストラリアの生鮮生食用ブドウの主要輸出先



出典：オーストラリア統計局

中国の生食用ブドウ輸入量は、過去5年間でおよそ半減した。これは、中国での生食用ブドウ生産の急速な拡大によるものである。業界は、中国が国内での販売期間を延長するため、ブドウを最大6カ月間貯蔵したと報告している。しかし、これは消費者に届くブドウの品質に悪影響を及ぼした。従来、中国の生食用ブドウ輸入量の90%以上はチリ、ペルー、オーストラリアからであった。しかし、チリが米国向けの輸出の増加に焦点を移したため、中国の輸入に占めるチリのシェアは近年大幅に低下しており、最大の供給国から第3位に後退した(図9)。

図9　中国の生鮮生食用ブドウの輸入動向と供給国



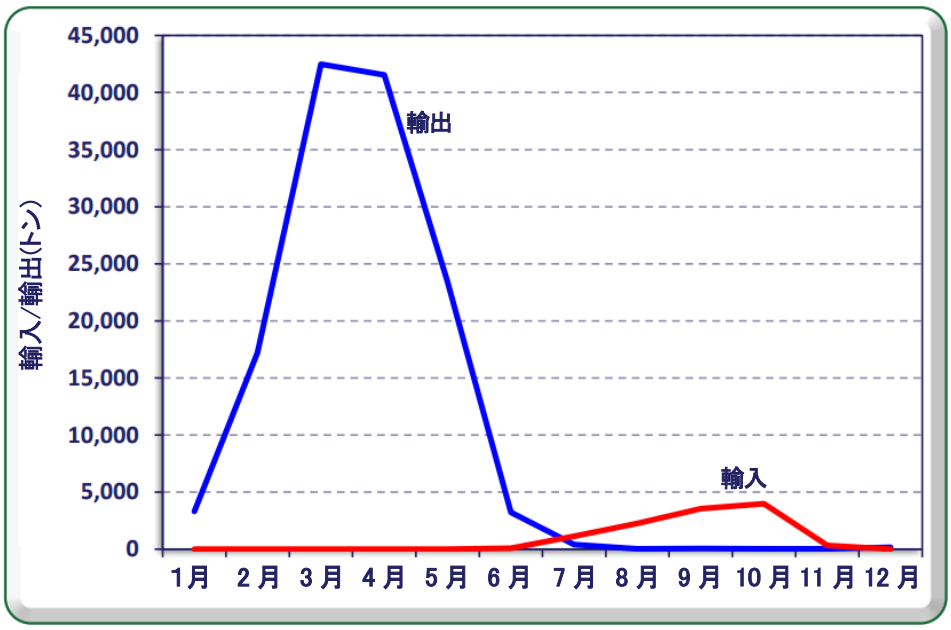
出典：オーストラリア統計局
注：＊ = 2023年10月～2024年7月の10カ月間

オーストラリアの輸出業者の主な有利性は、南米諸国から中国への輸送が約35日かかるのに対し、オーストラリアからは18～20日であることである。前述のように、近年、オーストラリアの生食用ブドウ生産者は、輸出市場で求められる権利関係の有る新しいブドウ品種に栽培を集中させている。これらの要因は、南米の供給者よりも主要な市場に近いオーストラリアの生食用ブドウ輸出業者を支えている。

オーストラリアの輸入量は、2023/24年度の推定6千トンから2024/25年度には8千トンへとわずかに増加すると予想される。オーストラリアによる生食用ブドウの輸入はほぼ全てアメリカからで、中でもカリフォルニア州産がほとんどである。一部の果実業界の関係者は、2023/24年度現在小売店で販売されている生食用ブドウの品質が通常の基準を下回っており、消費者の需要に影響を与えているようだと指摘している。予測対象年度の輸入ブドウの品質が通常の水準に改善されることで、消費者の需要と全体的な輸入が増加するものと予想される。

オーストラリアの生食用ブドウの輸入は、ほぼ完全に季節補完的に米国から出荷され、7月から11月の間に入荷する(図10)。そのため、米国及び他国からの輸入品と国内産との間には直接的な競争はない。

図10　オーストラリアの5年平均の輸出入の季節性



出典：オーストラリア統計局

表1　オーストラリアの生食用ブドウの生産需給統計

ブドウ(生鮮、生食用)	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
販売年度の始まり	2022 年 10 月		2023 年 10 月		2024 年 10 月	
オーストラリア	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	14,000	14,000	0	14,000	0	14,000
収穫面積(ヘクタール)	14,000	14,000	0	14,000	0	14,000
商業的生産量(トン)	233,000	233,000	233,000	195,000	0	230,000
非商業的生産量(トン)	0	0	0	0	0	0
生産量合計(トン)	233,000	233,000	233,000	195,000	0	230,000
輸入量(トン)	6,700	6,200	10,000	6,000	0	8,000
総供給量(トン)	239,700	239,200	243,000	201,000	0	238,000
生鮮国内消費量(トン)	108,500	108,000	88,000	93,700	0	103,000
輸出量(トン)	131,200	131,200	155,000	107,300	0	135,000
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	239,700	239,200	243,000	201,000	0	238,000

公式データには、PSD Online Advanced Query からアクセスできる。

240. 中国湖北省・湖南省　タンジェリンの生産量は少ないが輸出需要は安定

FreshPlaza　2024年10月10日

中国湖北省と湖南省のタンジェリンは今、例年に比べて約1カ月遅れて始まった輸出シーズンの初期段階にある。

遼寧中上国際貿易有限公司の責任者である朱雲全氏は、「当地のタンジェリンはその特性と成熟度のおかげで保存性が良く、長距離輸送に耐えることができる。湖北、湖南両省では成熟が通常他の地域よりも早く、弊社の柑橘類の輸出はここから始まり、徐々に他の産地に移動することが多い」と話す。（以下「 」は同氏の話）

「今年、湖北省と湖南省はタンジェリンの裏年であり、悪い天候条件のため生産量は近年に比べて30～40%少ない。現在の仕入れ価格は4～4.4元/kg（1元＝約21円）と高く、前年同期比で15～20%高くなっている。その結果、輸出価格も上昇している。収穫の最盛期は来月から始まると予想されている。」

天候の影響で、今シーズンは小玉の割合が多い。輸出市場では、東南アジアと中央アジアでは小玉を好む傾向があり、一方ロシア市場では大玉を好む傾向がある。輸出需要は現在安定しているが、過去1～2年でロシアからの需要が大幅に増加した。

輸出市場の消費動向について、朱氏は海外需要の改善を指摘する。「弊社の柑橘類は、輸出先国のスーパーマーケットや卸売市場に直接供給されている。私の観察によると、高品質な果実に対する需要は強い。昨年から、高品質な果実を販売しやすくする小型のプレミアムパッケージへの顕著なシフトが見られる。」

同社は、東南アジア、中央アジア、ロシア及びカナダの市場に輸出している。同社の製品には、カンボジア産マンゴー、中国産柑橘類（ブンタンを含む）、ベトナム産ドラゴンフルーツ等がある。「過去2カ月間、弊社では湖南省と湖北省からタンジェリンを輸出してきた。12月までに、広西チワン族自治区の沃柑オレンジやハニータンジェリン（蜜橙）、それに江西省南豊県産のタンジェリンの輸出に移行する。」

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

241. 南アフリカ　柑橘類生産者は輸出に課題がある中で果汁市場に軸足

FreshPlaza　2024年10月11日

南アフリカの柑橘類生産者は、輸出のボトルネックや悪天候による出荷量の減少等により、厳しい輸出シーズンを迎えている。これを受けて、多くの生産者が国内の果汁市場に軸足を移し、果汁価格高騰の恩恵を受けている。南部アフリカ柑橘類生産者協会のジャスティン・チャドウィックCEOは、同国の3つの主要な輸出経路のそれぞれが独自の困難に直面しており、柑橘類の輸出効率に影響を与えていると強調した。マプト港とダーバン港を利用する北部地域回廊では港湾設備の問題が発生し、東ケープ回廊では強風による港の混乱に直面した。これらの課題にもかかわらず、柑橘類に特化したリーファー輸送は安定しており、また港湾でのリーファー用電源プラグの容量の増加は前向きな動きであると同氏は指摘した。

熱波や洪水などの悪天候や7月の降霜が果実の品質とサイズに影響を与え、輸出量の減少につながった。一方、果汁市場の高い需要と有利な価格は、生産者にとって実施可能な代替手段を提供した。国内の果汁用果実の価格は最大6ランド（約50円）/kgに達した。この果汁用へのシフトは、ほとんどリスクがなく、良好な収益を提供したため、多くの生産者にとって魅力的な選択肢となった。世界と国内のオレンジ果汁市場の価格は、ブラジルのエルニーニョ現象とカンキツグリーニング病によって押し上げられ、継続的な高値を維持し、農場の収益を支えた。しかし、シーズン後半の「黒い霜」（乾燥した低温）は、北部地域を始めとして収量にさらなる影響を及ぼし、柑橘類の総出荷量は約30%減少したと報告されている。

出典：foodformzansi

242. 世界のブルーベリー業界は2024年シーズンの立ち直りを目指す

FreshPlaza　2024年10月11日

世界中でブルーベリーを消費する人が増えており、世界のブルーベリー業界は今年は出荷量が回復することを期待している。今週マドリードで開催されたフルーツアトラクションでは、国際ブルーベリー機構（IBO）が業界の概要を説明した。また、来年のIBO総会が南アフリカで開催されることも発表された。（詳細省略）

フォールクリーク社のCEOであり、IBOの「世界の業界事情2024」報告書の編集者であるコート・ブラゼルトン氏は、世界のブルーベリー需要は依然として高いと述べた（以下「 」は同氏の話）。「今年は出荷量が少なく、価格は上昇傾向にある。最大の要因は、エルニーニョ等によるペルーでの減収であった。モロッコとスペインも天候の問題があり、価格が上昇した。」

同氏は、会員団体に対して新たな調査を行い、今後影響を与えると予想される業界の主要な問題について現状把握を行ったと述べ、その要点をまとめた。「市場を混乱させる悪天候の増加が業界の内部検討を促したこと、世界的な生産量の増加の影響、品質基準の高度化、新しい製品とカテゴリーの出現、機関投資家の影響、ESG（環境、社会、企業統治）に配慮する傾向、及び将来の供給の変動はすべて、会員団体によって重視されている。」

アグロノメトリクス（農業情報プラットフォーム）のデータ分析者で、IBOレポートの主要な統計をとりまとめているサラ・イリヤス氏は結果の概要について、ブルーベリーを栽培する国が世界的に増えており、主にエルニーニョ現象によって20万トンの不足が生じたが、新植によって埋め合わされたと説明した。

ブラゼルトン氏は、業界の資本的支出（設備投資）が依然として懸念されると警告した。「価格が高いにもかかわらず、すべての生産者が儲かったわけではない。数年の内には、天候などによって20万トンも左右されることなく、すべてが市場に出荷されるという大きな飛躍が起こるかもしれない。（南北半球間での）季節補完的な供給が急速に増加しており、収穫期とは逆のシーズンが新たな入荷のピークとなっている。寒い夏が、量と質の面で新たな供給ギャップを生むと予想される。」

結論として、ブラゼルトン氏は世界のブルーベリー業界に対して次のような賢明なアドバイスを提供した。「もし私がある生産者と同席してビールを飲みながらアドバイスをするとしたら、それは次のことになる。年間計画を立て、どの市場にどのように出荷するかを知り、新しい品種を評価するプロセスを決め、資本ニーズをどのように満たすかを決めなさい」というのがその要点である。

執筆者: クレイトン・スワート

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

（関連記事）ペルー　ブルーベリー輸出額が2024年の最初の8カ月で急増

FreshPlaza　2024年10月10日

輸出業者協会（Adex）の報告によると、ペルーの2024年1月～8月のブルーベリー輸出額は5億4,594万米ドルに達し、昨年の3億8,575万米ドルから41.5%増加した。輸出先では米国が60%のシェアを占め、依然として最大の輸入国であり、前年比74.2%増の3億2,600万米ドル相当がそこへ出荷された。その他の主要市場は、オランダ、香港、中国、英国のほかブラジル、タイ、台湾、スペイン、コロンビア等であった。

このセクターの主要な輸出業者は、コンポソル、ホーティフルーツペルー、アグロビジョンペルー等の企業であった。ラリベルタ県が主な供給源で総輸出の60%を占め、次いでランバイエケ、イカ等の県が続いた。

年間（12カ月）では、2023年の年次報告書によると、ブルーベリーの輸出額は前年比26.7%増の合計16億7,100万米ドルで、米国、オランダ、中国が上位の輸出先であった。

出典: Blueberries Consulting

243. 米国カリフォルニア州　ウンシュウミカンの出荷は好調なスタート

FreshPlaza　2024年10月11日

今年のカリフォルニア州産ウンシュウミカンは出荷量の増加が予想される

カリフォルニア州産のウンシュウミカン（サツママンダリン）の今年の収穫は、好調なスタートを切ろうとしているようである。フルーティションセールス社（Ripe to you®ブランド）のジェイコブ・ラボギン氏は、「品質は、ここ数年で最も良い。今年はヴィンテージの年だ」と述べ、同社が得意とする茎と葉の付いたウンシュウミカンの品質も良いと付け加え、「着果量は昨年より少し多い程度だが、品質は天と地の差がある。今年はアザミウマが発生していないので、出荷できる果実がかなり多いことは確実だ」と述べた。

今年の収穫は、1、2週間早く始まる見込みであった。同氏は、「暑さのためにそれは一旦止まったが、今後数週間で天候が涼しくなると、着色が進んで予定通りに戻るかもしれない」と述べつつ、暑さによって果実の風味が強まったと指摘する。収穫は10月末に始まり、1月1日までに終了する予定である。

ハリケーンミルトンとマンダリンの需要

ウンシュウミカンについては良い需要が予想される。「現在、人々が店頭で柑橘類を購入しているのが見られるので、需要はあるだろう」とラボギン氏は述べ、ハリケーンミルトンが東海岸の柑橘類の収穫量に影響するかどうか、また影響の仕方によっては、カリフォルニア州産の需要が高まる可能性があると付け加えた。

なお、ウンシュウミカンの小売価格は下がっているが、生産者価格は変わっていない。

執筆者：アストリッド・ヴァン・デン・ブローク

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

244. エジプト　柑橘類の輸出が初めて200万トンを突破

FreshPlaza　2024年10月14日

エジプト輸出入管理総局は、2023/24年度のエジプト産柑橘類シーズンの公式結果を発表した。輸出量が初めて200万トンの大台を超えた一方、輸出単価は下落した。ジェリラ社のエスラム・ジェリラCEOが、この数字について述べる。（以下「 」は同氏の話）

輸出は11億米ドル相当の230万トン

柑橘類の輸出量は2022/23年度シーズンと比較して21%増の239万1,145トンに達し、そのうちオレンジは193万トン、レモンは14万7千トンであった。「これはエジプトの柑橘類セクターにとって、新たな記録的パフォーマンスである。この記録的な量を達成できたのは、2022/23年度シーズンと比較して約25%の大幅な生産量の増加と、世界的な需要の着実な増加のおかげである。」

当然のことながら、輸出額は数量と同じペースでは増加せず、9億米ドルから11米億ドルに増加し、1トン当たりの輸出単価は497米ドルから474米ドルに下落した。「紅海危機の影響を受けなければ、今シーズンはもっと良くなっていただろう。豊富な供給量により、アジア向けの物流で大きな問題に直面したほか、当然のことながらほとんどの市場で価格が下落した。」

アジアへの輸出の減少

エジプト産柑橘類のアジア向け輸出は全般的に減少したが、その程度は同じではない。エジプト産オレンジの主要輸出先の1つであるインドでは、エジプトからの輸入量が2022/23年度の12万1千トンから2023/24年度には10万8千トンに10%減少した。マレーシアでは同12%減、シンガポールでは同4.6%減に留まった。対照的に、エジプト産オレンジのバングラデシュへの輸出は30%、中国向けは27%、香港向けは63%、ベトナム向けは62%減少した。「これは明らかに、輸出シーズンの初めに始まった紅海危機の影響である。すべての目的地に関して輸送時間が大幅に増加し、中国では最大90日に達した。ただし、取引先の反応は同じではない。」

例えば、中国では買い手が南アフリカ産オレンジに目を向けた一方で、インドはエジプト産オレンジに対する強い需要を維持した。バングラデシュへの輸出は、同国の不安定な経済・政治情勢の影響を受けた一方、ベトナムは1年のうちわずかな期間しか輸入せず、その機会を逃した。その他のアジア市場では状況は買い手次第であり、リスクを冒すことを厭わない人もいれば、オレンジを扱うのを控えた人もいた。そのため、シンガポール向け輸出の減少はわずか4～5%であったが、香港向けの減少は63%であった。物流の困難に加えて、各市場にはバイヤーの選択に影響を与える独自の文化的・経済的な特異性がある。」

ヨーロッパでのエジプト産柑橘類への需要の増加

エジプト産オレンジのヨーロッパ向けの輸出が大幅に増加した。スペインはエジプト産オレンジの輸入量を8万9千トンから10万4千トンへと17%増やした。フランスでは前年比86%増、英国では76%増、アイルランドでは37%増となった。「これは、危機がなくても当然起こったはずの傾向である。気候変動はエジプトに明確な競争上の優位性をもたらし、世界的な需要はこれまでになく高まっている。ただし、エジプト産オレンジは、紅海危機とヨーロッパの供給過剰により人為的に価格が下げられており、それが輸出の増加に寄与していることにも言及しておかねばならない。しかし全体として、ヨーロッパ市場がこれほど多くの量を吸収できるのは、そこに需要があるからだ。」

オランダ、ロシア、サウジアラビアが引き続き上位3カ国を占める

エジプト産柑橘類の最も重要な3大輸出先は変わらず、1位のオランダではエジプト産オレンジの輸入量が7.15%増加し、次いでロシアでは前年比35%増、サウジアラビアでは25%増であった。これら3つの輸出先を合わせると、前シーズンの62万トンに対し、2023/24年度には76万トンのエジプト産オレンジを吸収した。

新しい市場

アジア市場への到達が難しいため、エジプトの輸出業者は他の地域の扉をたたくようになった。エジプト産オレンジのカナダへの輸出は177%、ポーランド向けは117%、ブラジル向けは137%増加した。全体として、以前はエジプト産オレンジをほとんど輸入していなかった東ヨーロッパ、南北アメリカ、西アフリカ及び中央アジアの国々で昨シーズンは注文が大幅に増加した。ジェリラ氏によると、これらの国々は現下の状況による一時的な需要をによってエジプト産オレンジに巡り会っているが、安定的な輸出先になる可能性が高い。

国内市場が大量に吸収

国内市場でも、需要は非常にダイナミックである。「エジプトの人々は柑橘類に目が無いことを忘れてはならない。青果での消費に加えて、エジプトにはいくつかのオレンジ果汁濃縮工場があり、そのうちの2つは昨シーズンに立ち上げられた。柑橘類加工業は国内で活況を呈しており、国内市場の需要を押し上げると見られる。国内の市場だけでも、昨シーズンは350万トンから400万トンの柑橘類が消費された。」

「弊社の輸出量は5万1千トンで、主要な輸出業者の中で第4位を占めており、シーズンの成功に貢献したことを誇りに思っている。弊社では最近、新しいラインに投資し、2週間後に稼働する予定である。これにより輸出能力は日量900トンに増える。」

執筆者: ユーネス・ベンサイド

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

245. 米国フロリダ州　農務省の柑橘類暫定見通しは厳しい

FreshPlaza　2024年10月14日

USDAはオレンジ生産量が減少するフロリダ州の厳しい柑橘類シーズンを予測

米国農務省（USDA）は、2024-25年度の柑橘類の収穫量に関する暫定見通しを発表し、フロリダ州の柑橘類生産者にとって厳しい時が待ち受けていることを示した。農務省の予測によると、オレンジは1,500万箱、グレープフルーツは140万箱、タンジェリンとタンジェロは20万箱の出荷が予測されている。この予測では、フロリダ州のオレンジ生産量は前シーズンの数値を約300万箱下回り、収量が減少する傾向が続いている。

フロリダ州柑橘類協会は、この予測に対して懸念を表明し、減少傾向を逆転させるための支援の必要性を強調した。同協会の副会長兼CEOであるマット・ジョイナー氏は、「今シーズンの予測に非常に落胆している」と述べた。同協会は、ハリケーンミルトンの影響とカンキツグリーニング病に対する継続的な闘いを強調し、ハリケーンの到来前には短期間ながら果樹園の状態について楽観的な見方があったことを指摘した。

オレンジの出荷量が2億4,400万箱に達した1990年代後半の業界のピークを思い起こすと、現在の出荷予測は過去の出荷量のほんの端数にすぎない。フロリダ州柑橘類協会のリリースは、このセクターの再生のための支援と研究が重要だとしている。最近のハリケーンやカンキツグリーニング病によってもたらされた課題にもかかわらず、ジョイナー氏はフロリダ州の柑橘類生産者の回復力を肯定し、回復と成長を促進するための支援の必要性を強調した。

出典：Florida Politics

246. 米国　フロリダ州のハリケーン被害でオレンジ果汁先物価格が上昇

FreshPlaza　2024年10月15日

ハリケーンミルトンの余波を受けてフロリダ州のオレンジ生産量の減少が予想されることに影響され、オレンジ果汁先物は2日連続で上昇傾向にある。ハリケーンがフロリダ州の主要な柑橘類産地を通過したことで、大量の果実の損失と果樹への被害をもたらした。業界コンサルタントのジュディ・ゲインズ氏は、オレンジの損失を300万箱以上と推定し、フロリダ州の今季の収穫量は1920年代後半以来の最低になると予測している。

これらの状況を受けて、ニューヨーク市場のオレンジ果汁先物価格は最大3.3%上昇した。この急騰の前に、世界的な供給量の制約と最大のオレンジ果汁輸出国であるブラジルの深刻な干ばつにより、先月の価格は過去最高に達していた。フロリダ州は、米国の果汁用オレンジの生産量でトップクラスとして知られ、オレンジ全体の生産量ではカリフォルニア州に次いで第2位にランクされているが、既にカンキツグリーニング病と2年前のハリケーンイアンの影響による課題に直面していた。

最近のハリケーンとフロリダ州のオレンジ収穫量の期待を裏切る予測は、これらの課題を悪化させた。ハリケーンミルトンによる損害を評価する前に発表された米国農務省の2024/25年度の当初予測では、同州のオレンジ生産量は1933年以来最低の1,500万箱とされていた。農務省の報告書はさらに、作物の健康状態の重要な指標である果実のサイズが改善されていないことを強調している。カンキツグリーニング病はオレンジの小玉化につながることが多い。ゲインズ氏は、果実のサイズを改善し落果率を減らすという業界の期待が達成されなかったと指摘し、それは箱を満たすために必要な玉数が増えたことからも明らかになっている。

出典：BNN Bloomberg

247. トルコ　ザクロの収穫が始まる

FreshPlaza　2024年10月15日

トルコのザクロの収穫が始まり、今年は天候がよい影響を与えていると、トルコの青果物貿易業者トゥメン・タルム社の輸出マネージャーであるケレム・トゥメン氏は述べている(以下「 」は同氏の話)。「トルコではヒジャーズ(Hicaz)品種のザクロの収穫が始まった。気象条件は引き続き非常に良好で、大雨やその他の悪天候の影響に対処する必要はなかった。これは品質への影響がないことを意味しており、弊社の果樹園のザクロには裂果が見られない。ただし、暑い天候のため、昨年に比べてザクロが小玉化している。」

トゥメン氏によると、出荷量は昨年と同程度になるはずである。昨年は着果数がもっと多かったが、損失も多かった。「今年の生産量を見ると、昨年とほぼ同じだと言えるだろう。前のシーズンには樹上の着果量は本当に多かったが、雨で多くの裂果が発生しかなりの損失が出た。今年は天気が良く、大きな損失を出さないと見られ、大変ありがたい。」

ヒジャーズザクロはトルコの品種として人気を集めているが、トルコ産ザクロ全体の需要も高まっている。「ヒジャーズザクロはトルコで栽培される特有の品種で、甘い味が大変よい。ヒジャーズ品種の市場シェアが年々増えるにしたがって、この味の良さで品種の認知度が高まった。そのため、このザクロの需要はここ数年よりも少し高いようだ。今はまだシーズンの始まりに過ぎないため、市場の動向を見守る必要がある。2025年3月中旬まで出荷を続けることができると見込んでいる。」

執筆者: ニック・ピーターズ

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

248. ニュージーランド　キウイ生産者はゼスプリの世界拡大計画を支持

FreshPlaza　2024年10月15日

ニュージーランド・キウイフルーツ生産者協会(NZKGI)は、2022年には海外での生産拡大に関して中立的な立場であったが、現在は海外でのキウイフルーツの収穫量を増やすというゼスプリの取り組みを支持している。2022年の提案は、国内のシーズンオフに供給する海外の栽培面積を拡大しようとするものであったが、賛成は約70%に留まり、可決に必要な75%の生産者の支持を得ることができなかった。

NZKGIのコリン・ボンドCEOは、この問題についてアドバイスを求める生産者が増えていると強調し、その重要性に対する認識が高まっているとして、「この問題が現在どれほど重要であるかについての理解が高まっており、そのメッセージはゼスプリからも出されていて、我々はゼスプリの草案を支持している」と述べた。この提案では、イタリア、フランス、日本、韓国、ギリシャでのサンゴールドキウイフルーツの栽培に、6年間にわたって毎年最大420ヘクタールを割り当て、ゼスプリの取締役会が毎年レビューを行い、需要が供給を上回っていることを確認する。

ゼスプリは、オフシーズンの棚のスペースを維持することが課題となっているが、その時期のサンゴールドの供給量の80%以上はイタリアから出荷されている。今シーズンの供給量は、需要の約70%を満たしている。ボンド氏は最近ヨーロッパを訪問したことで、他の複数の業者が供給ギャップを埋める用意があるという競争上の脅威に注目し、ゼスプリの拡大を支持することの緊急性を確信した。同氏はまた、ギリシャのキウイフルーツ生産者の可能性や、イタリアの生産者が直面しているつる枯れ病の問題についても言及した。

この提案はまだ草案段階であり、ゼスプリの取締役会による承認が必要であり、年末までに生産者の投票が行われると見られる。ゼスプリは、すでに北半球で5千ヘクタールのサンゴールドキウイフルーツを栽培する承認を得ており、小売業者に様々なキウイフルーツを売り込むイタリアの業者との競争に直面している。

出典: farmersweekly

249. ブラジル　サンパウロ州の柑橘類生産者は熱波の影響を懸念

FreshPlaza　2024年10月16日

サンパウロ州の柑橘類生産者は出荷量に影響を与える熱波の問題に直面

ブラジルのサンパウロ州では、10月初旬の高温により柑橘類の栽培者の間で懸念が高まっている。灌漑の無い地域をはじめとして、熱波は今シーズンの果実（2023/24年度産）と次の作物（2024/25年度産）の生産量の両方に影響を及ぼしている。暑さによる悪影響を緩和することを狙って、10月の中旬までに主要産地で降雨があることへの期待が高まっていた。

2023/24年度産のシーズンが直面する主な課題は、品質を損なう果実の萎れである。それにもかかわらず、供給が限られているため、価格は安定している。2024/25年度を見通すと、灌漑のある地域と無い地域で状況が異なる。灌漑のある地域では、果実の生育はやや進んでいるが、高温に関する懸念は残っている。これに対し、灌漑されていない地域では開花が少なく、土壌水分を回復して開花を促進するために降雨が決定的に必要であることが際立っている。

出典: Cepea

250. 南アフリカの柑橘類主要病害虫に対する欧州の見方

FreshPlaza　2024年10月16日

南アフリカ産柑橘類のカンキツ黒星病（CBS）による2021年以降の輸入検査不合格は年平均37回

この9月にヨーロッパの港でカンキツ黒星病（*Phyllosticta citricarpa* /CBS）による7件の輸入検査不合格が記録され、南アフリカ産柑橘類からのこの危険な真菌（その規制はEUによって「優先」と規定されている）の今年の検出数は26件となった。欧州植物衛生監視システム（Erophyt-Traces）の公式統計に記録されている2024年全体の輸入検査不合格件数は、南アフリカの事業者がこの病気を管理するために抱えている問題が一時的なものではないことを証明している。実際、2021年以降（特に輸入が集中する10月分が含まれていないため今年のデータは暫定的なものと見なす）、南アフリカはこの理由により年平均37回輸入検査で不合格になっている。我々はこれらの数字に、ジンバブエ － 南アフリカの隣国で、主な生産者と輸出業者は南部アフリカ柑橘類生産者協会（CGA）のメンバーである － の数字（今年はさらに6件）を加えることができる。

スペインの民間柑橘類輸出業者の統括組織である柑橘類管理委員会（CGC）のインマクラーダ・サンフェリウ会長は、CGCとしてはこれらの数字は「EUの柑橘園への感染リスクを高めており、受け入れられない。なぜなら我々は、この病原体が南アフリカの『正確な』言い分に反して、地中海気候に適応できることを既に知っているからである。それは、2019年に初めて検出されて以来、野放しで広がっているチュニジアでのその存在が示している」と述べ、したがって、世界貿易機関（WTO）に設置を要請した対EUパネルは「招集すらされないうちにすべての意味を失った」と結論付けた。サンフェリウ会長は、黒星病だけでなくフォールスコドリングモスに対してもより柔軟な規制を求める南アフリカの要求を受け入れるどころか、「我々はむしろそれらの規制をより厳しくし、さらに/または米国など他の西洋諸国の規制と一致させるべきだ」と述べている。

過去11回の欧州の輸入シーズンのうち7回で起こったこととは異なり、この輸入シーズンには南アフリカ輸出業者協会（CGA）は、この病原体が存在すると宣言された地域からのオレンジの輸出を一方的に停止していない。これは、非常に多くの不合格にもかかわらず欧州委員会（EC）がそのような措置を強制していないことを意味する。この点に関し、南アフリカが2023年にそのような措置を採用し、理論上9月15日以降は病害がないと宣言された地域からのみ輸出が行われたことは思い起こす価値がある。この措置は、既にこの規制が実施中であった同年10月に、感染したオレンジが12の貨物から検出されることを防げなかった。

CGCの会長は、「南アフリカは、植物防疫に関してすべての信用を失ったため、彼らがWTOでEUの責任を問う前に、ECはこの異常事態（規制下での病害の発生）について説明を求め、南アフリカが本当にEUの規制

要件を遵守しているかどうか、そしてこの病害に対して最も有効な殺菌剤を使用しているかどうかを確認する必要がある。おそらく彼らはそうではないことを認め、最も適切（で最も高価）な薬品による処理を節約しようとすることで、我々の柑橘類セクターを危険にさらしていると認めるだろう」と話す。

これは、今年、南アフリカとジンバブエの両方でCBSによる不合格が懸念される数だけ記録されているにもかかわらず、CGAがこの措置の実施を拒否した理由を説明する助けになるだろう。このような制限は、EUからのより強い対応を避けるために過去にも繰り返し実施されてきたが、本質的に見せかけのものであった。なぜなら、実際には、公式に真菌が存在するとされる地域は最も早く収穫され、9月と10月には果実はほとんどすべてが既に収穫され販売されているからである。

CBSの影響の深刻さは、EC自身がWTOでの協議の呼びかけに応えて4月に南アフリカ当局に送った書簡に記されている。その書簡でECは、欧州の柑橘類産地で仮に黒星病の影響が発生した場合、EFSA（欧州食品安全機関）によれば、それから生じる経済的影響は11億8,200万ユーロに達すると概説している。

EUが優先事項として規制している他の2つの病害虫、すなわちフォールスコドリングモス（*Thaumatotibia leucotreta*）とカンキツグリーニング病（HLB）の状況も同様に懸念されている。前者については、南アフリカ当局がWTOに第2のパネルを設置するよう要請したが、CGCは、南アフリカの事業者が2022年に規制された条件 - フォールスコドリングモスの影響を受けている国からのオレンジを低温処理することを要求している – に繰り返しまたは定期的に違反していることを指摘している。今年はこれまでに、フォールスコドリングモスの幼虫の存在が確認されたオレンジ2件（1件は南アフリカ産、もう1件はジンバブエ産）ともう1件レモン（同じくジンバブエ産）の輸入検査不合格があった。2023年は4件（3件が南アフリカ産、1件がこの処理が免除されているイスラエル産）であった。これらの理由から、CGCはこの害虫の影響を受けているすべての国と、上述のようにこの害虫の幼虫の宿主として認定されているすべての種（オレンジのほかマンダリンとレモン）に低温処理を拡大するよう求めている。

カンキツグリーニング病（HLB）に関しては、CGC自身が既に4月にアフリカ株（*Candidatus liberibacter africanus*）が南アフリカに再度出現したことを警告していた。この株はアジア株よりも毒性が低いが、同様に深刻であり、生産量の大幅な減少を引き起こし、多くの場合に果樹の枯死さえも引き起こすことが知られている。南アフリカの主要な柑橘類センターであり、同国の輸出業者によって設立された柑橘類研究インターナショナル（CRI）によると、アジア型と同様に治療法がないこの株の存在は、早くも2022年に確認されている。

最近では2023年10月にCRI自身が、ゲベハ市（国の南東部（英語名ポートエリザベス））で再び検出されたことを報告している。そこは住宅地であるが、特に最大級の産地であるサンデーズリバー地域や、国内全体に配布する果樹を生産する種苗業者に消毒した苗木を供給する柑橘類原種農場（CFB）の施設に近接していることから、重要な意味がある。

南アフリカ農業省は、最初の検出から2年以上が経過し、2回目のより深刻な検出からちょうど1年が経過した10月4日に、「害虫が広く蔓延しているかどうかを判断し、効果的かつ効率的な植物検疫措置の実施を可能にするために」この地域で「監視プログラム」を開始すると発表した。

スペインの輸出業者団体の責任者であるCGC会長は、このような大きな病害に直面して「最初の境界設定しか実施されておらず、どの地域が影響を受けるのかまだ完全には明らかでない。検疫措置を適用する唯一の権限がある当局は対応に時間がかかりすぎている」と嘆く。

問合せ先：CGC

251. 米国ワシントン州　リンゴ委員会が2024年の作柄と販売計画を協議

Good Fruit Grower　2024年10月17日

ワシントン州リンゴ委員会は10月15日、エレンズバーグ市でマイケル・シャドラー新会長を迎えての初会合を開催し、現在進行中の収穫、2024-25年度のプロモーション予算、及びそうした事業の成功の計測方法について協議した。

この会合はまた、退任するトッド・フライホバー前会長の最後の会議でもあり、ワシントン州農業局のデレク・サンディソン局長が前会長の業界への貢献に謝意を表明するため立ち寄った。サンディソン局長は、フライホバー前会長のリーダーシップの下でのリンゴ委員会の仕事を称賛し、ワシントン州の輸出パートナーと会うための海外出張で、「環太平洋地域の至る所で、人々がワシントン州産のリンゴブランドを認識している」ことがわかったと述べた。

委員会のメンバーは、様々な農産企業で現在進行中の収穫に関する最新情報を共有した。昨年記録的な収穫量を達成した後で今年大幅に減少したハニークリスプを除いて、ほとんどの委員が上位の品種は予想に近いかそれ以上に収穫されていると報告した。

CPCインターナショナルアップル社のジョン・アレグリア社長は、ワシントン州果樹協会が8月に発表した1億2,400万箱の推定収穫量に言及し、「今年の収穫量は1億2,500万箱よりも多い」と述べ、委員会の他のメンバーも、収穫量は1億2,500万箱から1億3千万箱の間になると推定してこれに同意した。業界は昨年、1億4千万箱を収穫し低価格に苦しんだ。

同委員会のリンゼイ・フーバー国際販売管理役は、2024年産作物の販売計画と、地域農業振興プログラム（RAPP）からの新しい連邦助成金を組み込むために委員会が予算をどのように調整したかについての最新情報を説明した。委員会はRAPPから700万ドルを受け取り、これからの収穫年度に260万ドルを支出する予定である。ただし、その資金はワシントン州の上位2つのリンゴ市場であるメキシコとカナダでのプロモーション活動には使用できない。この規定により、北米市場での活動をカバーするために、委員会の別の連邦助成金である市場アクセスプログラム（MAP）からの資金の再配分が必要となった。

どちらのプログラムも、生産者の負担金が必要である。2024年度に同委員会は、MAPからの520万ドル、RAPPからの260万ドル及び生産者自己資金の230万ドルを含む1,040万ドルを支出する予定である。予算配分の上位市場は、メキシコ、カナダ、ベトナム、中米地域及び台湾である。

リンゴの健康上の利点を打ち出すためのターゲットを絞った国内プロモーションを検討する提案は、今回の委員会では議論されなかった。シャドラー氏は、その議題は12月または2025年初頭の委員会で議論されるだろうと述べた。

執筆者：ケイト・プレンガマン

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

252. 中国浙江省　天候の影響でマンダリン収穫量が大幅に減少

FreshPlaza　2024年10月18日

裏年と悪天候により、今シーズンは中国浙江省台州(タイジョウ)市で生産される臨海(リンハイ)マンダリンの生産量が大幅に減少した。台州嘉盛(チャシェン)生態農業有限公司の馮(フォン)氏は、「生産量は不作だった2年前と同様で、豊作だった昨年と比較すると50%近く減少した。過去4、5年で、多くの柑橘類産地で隔年結果がより顕著になっている。果樹の栄養的な要因に加えて、気候変動も大きく影響している」と述べた。(以下「 」は同氏の話)

「今年、台州市の産地では、開花期と着果期に大雨が降り、着果と果実の表面の品質に影響を与えた。その後、高温と台風の影響で日焼けや裂果が発生し、収量がさらに減少した。幸いなことに、シーズンの終わりにかけて天候が回復し、果実の酸度の低下が加速した。味は昨年よりもさらに良く、現在のブリックス値は最高で概ね13に達する水準である。」

「生産量の減少により農場出荷価格が上昇し、大玉の果実は近年に比べて30%高く取引されている。11月に収穫される予定の小玉の果実は、まだ値決めを待っている。」 特にこの地域の臨海マンダリン、中でも小玉と中玉のものは、甘みと風味に優れ価格がより高い。

「価格の上昇は市場の需要に影響を与えており、販売は鈍化している。弊社の製品は、中級品～高級品に位置付けられ、過去2年間は課題に直面してきた。市場の変化に適応するため昨年はオレンジ果汁飲料を開発し、今年は多様な市場ニーズに対応するため、より手頃な価格のブランドを導入した。」

同氏は、主力ブランドである「東海爆橘(ドンハイバオジュ)」が地元臨海市の高品質な果実を引き続き使用し、当初の基準と位置付けを維持していると詳しく説明した。一方、新しいブランドは全国の様々な地域の産品を調達している。「マンダリンは中国の柑橘類生産に大きなシェアを占めている。一部の地域では、天候に恵まれ生産コストが低いため、より美味しく、より費用対効果の高い果実が得られる。また、全体的なコストを削減するために、パッケージ、仕様、規格も調整した。」

「弊社ではこの新商品のラインをブランドとして管理しており、差別化を図るために、果実の大きさではなく、酸味と甘さのバランスに焦点を当てている。」

また、果樹園と工場の両方で機械化の水準が向上した。「過去2年間で、果樹園でのドローン管理を最適化し、新しい工場を建設した。果実の選別に引き続き近赤外線技術を使用するとともに、人件費を削減し、スペース効率を最大化するために、段ボール箱を流すベルトコンベヤを追加した。これらのイノベーションは、当社の中核的競争優位性の強化に役立つ。弊社は常に新しい可能性を模索している。」

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

253. 中米グアテマラとベリーズで台湾の衛星技術がバナナの病害と戦う

FreshPlaza　2024年10月18日

台湾宇宙機構(TASA/台湾国家太空中心)の専門家達は、グアテマラとベリーズのバナナとプランテイン(調理用バナナ)を危険にさらすフザリウム菌熱帯株4(TR4)に対処するために衛星技術を利用している。この取り組みは、グアテマラで開催された2024年応用技術国際フォーラムで取り上げられ、衛星リモートセンシングの病害モニタリングへの応用の様子が展示された。

グアテマラとベリーズをはじめとする中米諸国は世界有数のバナナ輸出国であるが、最大100%の収量の損失を引き起こす可能性のあるフザリウム菌TR4の大きな脅威に直面している。

TASAの張麗玉(チャンリーユー)衛星データグループ副主任は、この取り組みにおけるFORMOSAT衛星5号機の使用について詳しく述べた。FORMOSAT-5は、植物からの近赤外線の反射を測定することで、作物の健康状態と生育の評価を支援する。この技術は、3年以上にわたり、両国でのフザリウム菌TR4の拡散を効果的に管理し、バナナの病害虫と戦うための衛星分析の新たなベンチマークを打ち立てた。

出典: Channel 5 Belize

254. スペイン　オレンジ果汁価格高騰による青果の価格上昇を期待

FreshPlaza　2024年10月18日

コルドバ県(アンダルシア自治州)の2024/25年度のオレンジシーズンには大きな期待が寄せられており、当初の生産量見通しは前向きで昨年に比べて増加が見込まれる。

コルドバ県農畜産業協会のエドゥアルド・エラソ氏は、「アンダルシア州政府は先月、8月に収集されたデータに基づく生産量見通しを発表した。柑橘類では特に組織に加盟している生産者の割合がそれほど高くなく、オレンジの場合、コルドバ県では22%にも満たない。このため、正確な生産量を計算することは難しい。実際、公表された数字は少し高いと考えており、我々の予測ではコルドバ県の全般的な柑橘類の生産量は、州政府が発表した53.4%増ではなく、約30～35%増と見ている」と話す。(以下「 」は同氏の話)

「しかし、今シーズンは生産量の増加とは別に、楽観的になる別の理由がある。それはオレンジ果汁の価格である。我々は以前から、オレンジの生産上の問題により果汁の価格が過去最高に達していることを報告してきたが、この高価格が生鮮市場の価格水準を押し上げることを願っている。」

「同時に、今シーズンは労働力の問題があるかも知れないと見ている。収穫と調製の労働者不足の影響は、通常収穫期が重なる柑橘類とオリーブが両方とも収穫量が少なかったため、これまでは深刻でなかった。しかし、今年は生産量が増加するため、生産者は収穫労働者を必死に探すことになると予想している。」

「このような状況に直面して、我々は既に他の国からの収穫労働者と契約できるように、割当の承認を求めている。17～18年前、労働力が不足していたため、収穫期には多くの人がルーマニアから来ていたことを覚えている。今年は、必要な行政上の決定が下されるまでは採用できる労働者の国籍はわからない。しかし、今シーズンは全ての状況が、労働力不足がコルドバ県やベガデルグアダルキビール地域全般の柑橘類生産者にとって大きな問題になることを示しているため、労働者はすべて歓迎されるだろう。」

「サプライチェーン法がコストを下回る金額での契約に署名することを禁じているなら、その金額がいくらであるかを知る必要がある」

労働力は必要かつますます不足しているリソースである。同時に、それは柑橘類の栽培において最も高い費用の1つである。実際、州の農畜産業協会が最近発表したレポートによると、今日のオレンジの平均生産コストは0.27ユーロ/kgに達している。

「バレンシア自治州の仲間達は、2020年以来変更されていなかった数値を更新した。この計算は簡単ではないことは認識している。例えば、バレンシア州の小規模農場は、アンダルシア州の大規模農場とは比較できないし、生産性等によって品種ごとに確かに数字が異なると思う。しかし、州の協会が提示したデータは、現実を非常によく表している。」

「何年もの間、我々はアンダルシア州政府とスペイン農業省に対し、柑橘類の生産コストの推計値の更新を求めてきた。なぜなら、サプライチェーン法によりコスト以下の金額で契約を結ぶことが禁止されているため、その金額を知る必要があるからだ。単純な価格帯でも十分であり、少なくとも参考になる。」

「既に収穫されているオレンジもあるが、当面は代表性のある価格データがない。10月下旬または11月上旬から柑橘類取引所が稼働しデータが収集されるのを待たなければならない。我々が言えることは、アンダルシア州のオレンジには既に多くの動きと高い関心があり、果汁の価格が青果の価格を最適なレベルに押し上げることに非常に期待しているということである。」

255. スペイン トマトカキは他とは一線を画すユニークなカキ

FreshPlaza 2024年10月21日

トマトカキ(トマテーロ)は、その原産地であるカステリョン県(バレンシア州)のアルトパランチア地域でそう呼ばれており、一時は姿を消すかと思われたが、この品種の差別化のおかげで人気と栽培面積を取り戻している。

カステリョン県セゴルベ町にあるブラスコフルーツ社の販売部長であるセシリア・タボアーダ氏は、「トマトカキのシーズンは9月の第1週に始まり、すでに最後の商品を販売している。何世代にもわたってこの地域で消費されてきたこの品種を多くの農家が放棄していたため、弊社は過去6年間で栽培面積を回復してきた」と話す。(以下「 」は同氏の話)

「重要なことは、それに価値を与えることであった。なぜなら、それは他とは異なる珍しい品種だからである。小玉で果肉が柔らかく、果皮は透明で、色は深紅である。サイズが小さいため、他のカキとは違った箱詰めの仕方をしている。また、人気のあるロホブリアンテ品種等のペルシモン(カキ全般)とは異なる方法で消費される。さらに、その味は大変甘く、ブリックス値は18〜20度である。」

同社は少しずつ地元以外の市場を開拓し、様々な国にも進出している。「弊社はこの品種を、国内では人々がシャロンタイプのカキの消費に慣れているスペイン南部で販売している。また、カタルーニャ自治州全域でも販売している。」

「トマトカキは、ほとんどの競合品と差別化されるユニークな商品である。弊社では既に、ロホブリランテ品種の事前キャンペーンとして使用できる十分な量を持っている。その人気が高まるにつれて、出荷量を増やしていきたいと考えている。」

同社では最近、ロホブリランテ品種の出荷シーズンも始まった。「シーズンは10月の第2週の最初の出荷で始まった。売上予測は昨年よりも高く、弊社の目標は供給を可能な限り拡大することである。」

同販売部長によると、「今年は乾燥しており、雨が降るのが遅すぎた」ため、全般的に果実のサイズは小さくなる。同氏は、同社の市場がヨーロッパ諸国から、より遠方のブラジル、コスタリカ、カナダ、アジア諸国、中東、アフリカなどまで多様化していると強調した。

「弊社はすでに出荷量の約70%を販売した。次はB級品を販売しようとしている。これはより困難であるが、弊社では東ヨーロッパ諸国に出荷先を見出している。」

訳注: トマテーロ(Tomatero)は、スプーンで食べるほど果肉が柔らかくなるカキ品種と思われます。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

256. 米国　過剰生産と他の果実との競争に影響されるリンゴ産業

FreshPlaza　2024年10月22日

今年はワシントン州のリンゴに関して昨年と様子がまったく異なるが、懸念と課題は残っている。ビバティエラ有機農場のクリス・フォード氏は、「昨年は市場に出回るリンゴが多過ぎ、生産者にとって本当にひどい年になった」と言う(以下「 」は同氏の話)。供給が需要を上回り、生産者価格は非常に低く、その結果、一部の生産者は廃業した。「正直なところ、店頭には今でも昨年からの貯蔵もののリンゴが出ており、供給過剰の状態は消費者にとっても良いことではない。」

競争

端的に言えば、ワシントン州のリンゴ産業は成長しすぎている。そこでは、結果面積の増加と貯蔵技術の向上が組み合わさっている。後者により無駄になる産品が少なくなり、より多くのリンゴが市場に出回るようになる。供給は増え続けているが、需要は良くてもせいぜい横ばいである。「業界全体として、消費者に一貫したリンゴの食体験をうまく提供できておらず、それが大きな課題に繋がっている。」

今日、消費者には、リンゴ以外の食味の良い果実を購入する選択肢がこれまで以上にたくさんある。「生食用ブドウやベリー類などの業界は、風味が豊かで品質の一貫した品種の育種において目覚ましい進歩を遂げたが、リンゴは遅れをとっている。その結果、リンゴは他の果実との多くの競争にさらされている。」

減量薬

皮肉なことに、リンゴの中でも競争が生まれている。「赤色の品種が多すぎ、マーケティングは非常に縦割りで出荷業者ごとに異なる結果、業界内に不必要な競争が発生している。」 業界内外の競争に加えて、3番目の課題は減量のための糖尿病治療薬の台頭である。これらの薬は血糖値をコントロールするだけでなく、空腹感を軽減し、全体的な食物消費量を減少させる。体重を減らすために薬を服用する人がますます増えると、リンゴを含め食品全体の消費量が減少する。

今年、ワシントン州のリンゴの収穫量は平年並みに近づくと予想されているが、有機栽培品の割合は増加しており、現在では州全体のリンゴ出荷量の約15%に達している。通常、有機リンゴの消費は1月または2月頃に増加する。その頃までには収穫が進み、地域のリンゴの販売は徐々に減少し始めている。地域の品種が棚から消えると、有機リンゴがより多くの棚のスペースを利用することが可能になり、その結果、消費量が増加する。

供給過剰であってもなくても、フォード氏は良いリンゴには常に市場があると信じている。それは、季節を追いかけ、高い品質と優れた風味を重視している同社がよって立つ柱の1つでもある。その結果、同社のワシントン州の事業は、今年で33年目を迎える南半球からの輸入プログラムによって補完されている。リンゴの出荷シーズンはアルゼンチン、チリ、ニュージーランドからの輸入に続き、初夏にはカリフォルニア州に移る。

ナシは供給不足

米国ではリンゴと対照的に、今年のナシの収穫量が非常に少ない。それは様々な気象現象によって引き起こされ、収穫量はこの40年間で最も少ない。主要な品種の生産量はすべて大きな影響を受けているが、フォード氏はこれが南半球の出荷シーズンに大きなチャンスを提供すると考えている。「このことによって、アルゼンチンは、2月中旬にウィリアムズバートレット品種で開幕する輸出シーズンに向けて良い位置を占めている。その頃には、南半球のナシが大いに期待されるようになるだろう。」

執筆者: マリーケ・ヘムズ

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

257. ニュージーランド　リンゴ・ナシ産業は年間20億NZドルの貢献

FreshPlaza　2024年10月23日

ニュージーランドのリンゴ・ナシ産業が19億6千万NZドルの収益と持続可能性の向上で経済を後押し

生産性の向上と高価値品種の増加により、ニュージーランドのリンゴ・ナシ産業は、過去12カ月間で国民経済に約20億NZドル（1NZドル＝約91円）の総収益効果をもたらしたことが、マーティンジェンキンス社の新しい調査で明らかになった。

土地利用の減少が記録された一方で、果樹園・梱包施設インフラの革新や、価値の高い新品種の植栽への投資により、この業界は2023年には過去最高の19億6千万NZドルの総収益効果を生み出した。

「ニュージーランドのリンゴ・ナシ産業の経済的貢献2024」の調査は、マーティンジェンキンス社によって実施され、国民経済及び主要な地域経済におけるこの業界の価値を明らかにした。

1万2千人以上の常用及び季節的な労働者を雇用するリンゴ・ナシ産業は、ニュージーランドの総輸出額を上回る成長率を記録した。2023年までの10年間で、このセクターの輸出額は3億4,700万NZドルから8億9,200万NZドル以上に増加した。

生産性と出荷率の向上は、梱包施設と冷蔵施設の二酸化炭素排出量を19%削減し、リンゴの輸出バリューチェーン全体でも13%削減することに貢献した。

ニュージーランド・リンゴ・ナシ協会CEOのカレン・モリッシュ氏は、業界が引き続き産出額の成長を目標とする中で、この経済報告書は貴重なスナップショットを提供すると述べている。

同氏は、「我々の輸出額の増加が、生産性の向上と投資の増加、及び国際市場の多様化によるものであることを嬉しく思う。業界として、これらの効率性により、産出額と利益がさらに成長する余地が生まれると考えている。適切な条件が整うことにより、当業界の国や地域の経済への貢献を確保し、安全で持続可能な状態を保ち、そしてここニュージーランドで世界最高品質の果実を生産し続けることができる」と語った。

ニュージーランドが今後10年間で輸出額の倍増を目指す中で、T&G グローバル社のリンゴ部門の最高執行責任者（COO）であるシェーン・キングストン氏は、リンゴ・ナシ部門がこの目標の達成に重要な役割を担っていると述べている。

キングストン氏は、「ニュージーランドは、知的財産、革新的な栽培・収穫後処理システム及び世界クラスの食品安全、食品品質、持続可能性の基準に関して、世界をリードする地位を占めている。このことと、環太平洋地域という地理的な位置付けとが相まって、本セクターは高めた価値を補足するのに適したポジションにいる」と話す。

同氏はまた、「弊社では、多額の投資により、独自のプレミアム品種の開発と栽培、自動化への対応のための果樹園の再整備、及びホークスベイ地方にある世界をリードする9千万NZドルの自動梱包施設の整備を行ってきた。弊社自身の人材と外部とのパートナーシップを通じて、市場での強力な販売力と販売実績を築くという弊社のコミットメントと相まって、この投資は、グローバルブランドを構築し、生産性を向上させ、生産者と地域コミュニティに多くの利益を提供するのに役立っている」と語った。

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

258. チリ　生食用ブドウ輸出は新品種への変更で増加の予測

The Grape Reporter　2024年10月23日

チリの生食用ブドウ委員会は、前回の輸出シーズンと比較して輸出量が2.4%増加するとした2024-25年度シーズン最初の業界予測を発表した。輸出量は6,600万6,178箱と予想されている。

同委員会のイグナシオ・カバレロ事務局長は、この予測は業界の85%の協力を得て行われ、委員会は2シーズン連続で生食用ブドウの出荷量の増加を見込んでいると述べ、「この成長は、チリのブドウ産業を高い品質と多様なブドウを有するものとしてあらためて位置付ける」と付け加えた。

この推計では、新品種の出荷が増加する傾向が国際市場で引き続き拡大し、2024-25年度シーズンの輸出量の65%、すなわち4,286万6,374箱を新品種が占めると予想している。

カバレロ氏は、「消費者はより風味がよく、しっかりした歯ごたえのある食感を求めているため、新品種の供給が増えることで、チリ産ブドウは輸出市場でますます魅力を高めることになる」と説明した。

システムアプローチ

米国は、引き続きチリの生食用ブドウ産業の主要な輸出市場であり、出荷量の60%近くが米国向けである。アジアが2位で16%を占め、次いでヨーロッパ(14%)、その他の市場(10%)となっている。

今シーズンは、チリ産生食用ブドウが初めてシステムアプローチのプロトコルの下で米国に出荷されるため、業界にとって非常に重要である。これにより、タラパカ、コキンボの両県及びバルパライソ県の一部から生食用ブドウを出荷する際に燻蒸する必要がなくなる。

カバレロ氏は、「システムアプローチのプロトコルがチリ産生食用ブドウの最も重要な市場で大きなチャンスを切り開く」ため、チリの生食用ブドウ業界はこの新しいシーズンについて非常に楽観的であると述べ、これにより出荷される果実の品質を向上させ、地域の生産者を支援することができると付け加えた。

同委員会は、生食用ブドウの消費をさらに増やすために、これに特化した販売促進キャンペーンを展開しており、また、メキシコでのシステムアプローチのパイロットプランが策定され、進行中であると付け加えた。

259. トルコ　果実輸出が2024年の最初の9カ月で10億ドルを突破

FreshPlaza　2024年10月24日

2024年の最初の9カ月で、トルコは10億米ドル相当を超える果実を114カ国に輸出することに成功し、世界の農産物市場におけるこのセクターの戦略的役割を際立たせている。世界的な経済の逆境や物流上の困難に直面しているにもかかわらず、トルコの果実輸出部門は一貫した成長を遂げており、柑橘類、リンゴ、ザクロ、サクランボ等がそれを主導している。国際市場におけるトルコの果実の魅力は、その高い品質、エコロジカルな生産基準の遵守、及び競争力のある価格設定によるものである。

輸出先地域を拡大する中、トルコの主要輸出市場は、欧州連合、中東、ロシア等であり、中国、韓国等のアジア諸国への輸出が大幅に増加するとともに、アフリカ諸国との積極的な関わりも見られる。トルコにとって果実輸出の経済的影響は重大であり、外貨収入の獲得と農業地帯での雇用の創出、さらに世界の青果物市場の主要プレーヤーとしてのトルコの立場の強化に貢献している。輸出の成功は、生産振興と品質向上を目的とした国の補助金と事業に支えられて、地域農業の発展、技術革新、及び世界的な競争力を強化する。

トルコは今後、最新の物流と農業関連技術を活用した戦略的な市場統合と新市場の開拓を通じて、果実の輸出量を拡大することを目指している。この成長路線は、品質、供給の柔軟性、及び国際協力に対するトルコのコミットメントを反映しており、トルコを世界的な生鮮果実の主要供給国に位置付けている。

出典：akmu

260. ニュージーランド　今年最後のキウイ輸出チャーター便が日本へ出発

FreshPlaza　2024年10月24日

ゼスプリは2024年のキウイフルーツシーズンを最後の日本向けチャーター船で締めくくる

約4,610トンのゼスプリ・グリーンキウイフルーツを積載したレディローズヒップ号は、11月初旬に東京に到着し、その後神戸に入港する予定である。

ゼスプリは、今シーズンのキウイフルーツをニュージーランドから輸送するため延べ62隻のチャーター船を利用しており、そのうち3隻が北ヨーロッパ、13隻が地中海、3隻が北米西海岸、そして43隻がアジアに向かった。これは、昨シーズンの51隻よりも多い。今シーズン最後の残り4,400トンの果実を運ぶコンテナ出荷も、今後数週間で完了する予定である。

ゼスプリのジェイソン・テ・ブレーキCEOは、今シーズン、1億9千万箱（68万4千トン）を超える記録的な収穫量を世界中の50以上の市場に届けるために、業界は多大な努力を払ったとして、「今シーズンの果実の品質は過去5年間に見た中で最高の部類であり、市場の取引先から素晴らしいフィードバックを得ている。弊社の販売先全体で強い需要があり、これに応えて販売する果実がまだ多くある中で、これは前向きなことだ」と述べた。（以下「 」は同氏の話）

「ニュージーランド産の販売シーズンについては、ヨーロッパ向けサンゴールドは今週末、グリーンは11月末に終了する予定である。一方、アジアでは11月下旬から12月上旬にシーズンが終了する。」

「当社の営業チームと販売チームは、シーズンをしっかりと締めくくり、生産者に可能な限り最高の結果を提供するため、高い販売率を維持することに注力している。ヨーロッパは非常に好調で、特にフランスが際立っており、ドイツ、スペイン、オランダでの売上も良好である。米国では、サンゴールドの好調な業績に牽引され、ゼスプリは引き続きナンバーワンのキウイフルーツブランドとなっている。」

「アジアでは、大中華圏（中国本土、香港、マカオ、台湾）で数量が前年比40％増加して大躍進のシーズンとなり、引き続き青果物のトレンドに逆らって金額と数量の両方が前年比で増加した。厳しい市場環境の中、日本と韓国でも販売は順調に推移している。

テ・ブレーキ氏は、ニュージーランド産の今年のシーズン終了に向けて最後のチャーター船が航海中であるが、2025年の計画について、今年もゼスプリ、流通業者、生産者団体（NZKGI）の代表者を巻き込んで準備が進んでいると言う。「この段階ではまだ早いが、来年はニュージーランド産の収穫量をもっと緩やかに増やすことを計画している。」

「ニュージーランド産のシーズン終盤に向けて、力強い終了を期待したい。その後は、2025年のニュージーランド産シーズンが再開されるまで、棚のスペースと売上げを維持し、主要な取引先と消費者に12カ月の周年供給を行うことを可能にする季節補完的なゼスプリ・グローバルサプライ（ZGS）プログラムに移行する。」

需要の増加と競争の激化に対応するため、ゼスプリはZGSの拡大についてニュージーランドの生産者と話し合いを行ってきており、北半球でゼスプリ・サンゴールドキウイフルーツの栽培面積を増やすための生産者投票を行うかどうか、近日中に決定することとしている。

261. 英国　ナドルコットオレンジ品種の訴訟で小売業者と和解

FreshPlaza　2024年10月25日

ナドルコットプロテクションとセインズベリーが訴訟で和解

ナドルコットプロテクション社(NCP)とセインズベリー社は、イングランド高等裁判所において、セインズベリー社が製品仕様を変更し、タンゴールド/ナドルコットに関わる他の手続きの結果が出るまでタンゴールドの販売を中止することを条件に、訴訟(訴訟番号:HP-2024-000001)で和解したことを発表した。(以下「 」は広報担当者による発表内容)

「この合意は、2024年9月11日にEU裁判所が、欧州によるナドルコットの保護に対してユーロセミージャス社が提出した無効申請を却下したこと、EU及び国際当局の決定(NCPの意見では、この決定はタンゴールドが本質的にナドルコットに由来する品種であり、したがってナドルコットの権利を侵害しているという見解を支持している)、さらに欧州植物品種庁の決定(タンゴールドとナドルコットの間には繁殖力に関連する2つの違いしか存在しないことを示した)に続くものである。」

「英国の裁判所でのセインズベリー社に対する訴訟は、NCPがヨーロッパの様々な法域の複数のスーパーマーケットに差し止め要求書を送付したことを受けて開始された。NCPは、ナドルコットの独占的権利を引き続き保護し、すべての関連法域で知的財産の不正利用を防止するためにすべての適切な措置を講じる権利を留保する。」

262. タイ　輸入シャインマスカットから法定の制限を超える農薬

FreshPlaza　2024年10月25日

タイ農薬警告ネットワーク(Thai-PAN)がチャラードスー誌(消費者向け雑誌)、FFC(消費者保護財団)及びFDA(食品医薬品監督庁)と共同で実施した最近の実験室内の検査で、バンコクとその周辺で販売されていたシャインマスカットブドウの24のサンプルのうち23に、法定限度を超える残留農薬が含まれていたことが明らかとなった。これは木曜日(10月24日)に発表され、この広く宣伝されている果実の安全性に対する懸念を強調している。

シャインマスカットの残留農薬レベルの調査は、チャラードスー誌が潜在的な健康リスクについて消費者から問い合わせを受けたことから開始された。バンコクとその周辺地域の15の販売場所から合計24のブドウサンプルが収集され、価格は3～21米ドル/kgであった。これらのサンプルは、ISO17025の認定を受けた組織であるBVAQラボラトリーによって分析された。

分析の結果、24のサンプルのうち9つだけが産地を追跡可能で、すべて中国産であることが明らかになった。1つのサンプルには、禁止されている有害化学物質であるクロルピリホスが含まれていることがわかり、残りのサンプルにはデフォルトの基準値を超える14種類の有毒残留物が含まれていた。この調査では、タイで禁止されている26の第3類有害化学物質と2つの(より毒性の強い)第4類化学物質を含む、合計50種類の有毒残留物が検出された。さらに、これらの物質のうち37物質は浸透性農薬であり、ブドウ組織内に留まる可能性があるため、特に懸念されている。

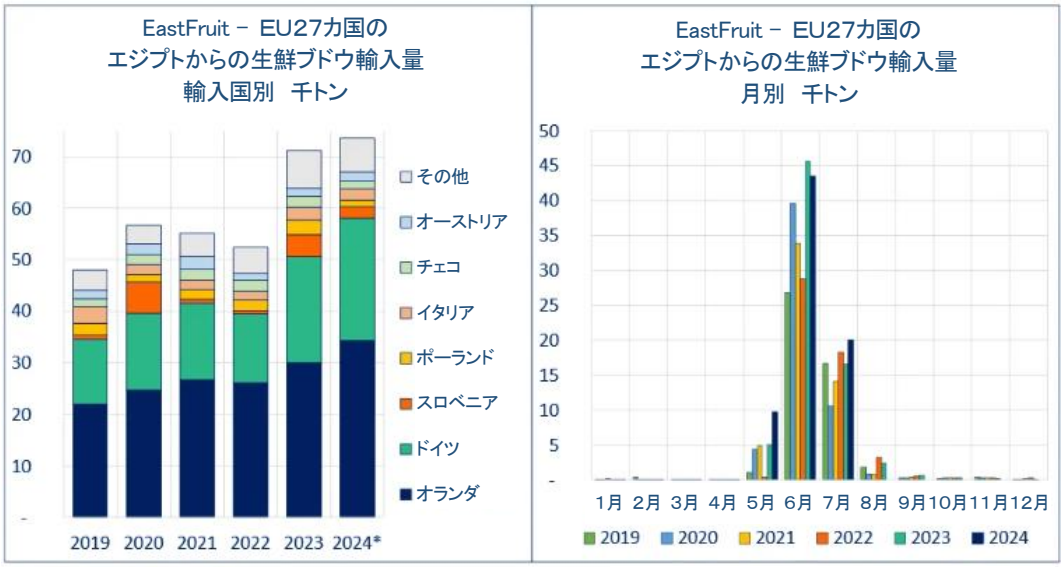
これらの調査結果を受けて、報告書は、シャインマスカットの小売業者と流通業者は、直ちに行動を起こし、影響を受けた在庫を処分し、輸入品のトレーサビリティを確保することを勧告している。公衆衛生省に対しては、表示に関する法律を施行し、食品中の残留農薬の基準の改訂を検討するよう求めている。また、消費者の健康を守るため、化学分析の結果を周知する迅速な警報システムを設置することが提唱されている。

出典:　The Nation

263. エジプト　EU向けブドウ輸出が新記録へ

EastFruit　2024年10月24日

エジプトの生鮮ブドウ輸出業者は今年、EU諸国への輸出で前年の成功に匹敵するばかりか、新記録を樹立するとEastFruitが報じている。エジプトは2023年に過去最高の7万トンの生食用ブドウをEUに輸出したが、発表が待たれる8月の貿易データ次第では、今年はその数字が7万5千トンに達する可能性がある。



＊2024 年は1月～7 月のデータ　　Global Trade Tracker のデータに基づき EastFruit が作成

エジプトは、オランダとドイツという2つの主要なEU市場で存在感を大幅に高めており、これら2カ国を合わせるとエジプトの全輸出量の70%から75%を輸入している。2024年1月から7月までに、3万4千トンの生鮮ブドウがオランダに輸出され、これは2023年の合計より14%多かった。同じ期間のドイツへの輸出量は16%増の2万4千トンであった。

アイルランドは今年、エジプト産ブドウの輸入量が2倍以上の2,400トンに増加し、第3位の輸入国に浮上した。一方、イタリアは2,300トンで順位を1つ下げ、スロベニア、オーストリア、チェコ、フィンランド、ポーランド、スペイン、その他いくつかの少量の輸入国がそれに続いた。

エジプトは、引き続き他の供給国に対する季節的な優位性を活用し、6月と7月にはEUへの生鮮ブドウのほぼ唯一の輸出国であった。しかし、夏の期間はヨーロッパの消費者にはベリー類、核果類、メロンなど、輸入ブドウに代わる多くの域内産品があるため、この同じ要因(6月と7月の供給量の多さ)が、エジプトの輸出が急増する可能性を制約している。

それにもかかわらず、エジプトはEUへの生鮮ブドウ輸出国の中で、南アフリカ、ペルー、インド、チリに次ぐ5番目の地位を保っている。これらの上位5カ国のうち、エジプトとペルーだけがEUへの輸出を大幅に増やし、2019年から2023年の間にその存在感を1.5倍に増やした。増加率の点では、2023年に輸出が80%増加して3万8千トンとなったモルドバだけがそれを上回っている。

昨年、EU諸国は2022年よりわずかに少ない合計84万1千トンの生鮮ブドウを輸入した。今年の輸入量は、最初の7カ月で66万4千トンに達し、近年で最も多い年の1つとなった。オランダとドイツは引き続き、EU域外からの生鮮ブドウの主要な輸入国である。一方、ポーランドは昨年の輸入量が4万8千トンで3位にランクされた。しかし、野菜や果実の輸入国としてのポーランドの役割は世界市場で拡大してきているものの、ポーランドにおけるエジプト産ブドウの存在感は限定的である。

北アフリカと東欧との直接取引量を増やすため、11月14日にワルシャワで、EU地域のスーパーマーケットチェーンとエジプト及びモロッコの野菜・果実供給業者との交渉が開催される。

264. 世界の果汁市場を圧迫するオレンジとリンゴの原料不足

FreshPlaza　2024年10月25日

ブラジル産オレンジとヨーロッパ産リンゴの生産が減少し世界の果汁市場は原料が逼迫

ヨーロッパの市場参加者は、リンゴとオレンジの果汁部門が迎える厳しい年に備えている。ブラジルの柑橘類栽培防衛財団（Fundecitrus）は、サンパウロ州とミナスジェライス州西南西部のオレンジ生産量が昨シーズンの3億722万箱から30%減少すると予想している。同時に、世界リンゴ・ナシ協会（WAPA）は、ヨーロッパのリンゴ生産量が11%減少して1,020万トンになると予測しており、主要なリンゴ果汁生産国であるポーランドでは20%の減少となる。

SIAL会議（10月にパリで開催された）では、来年の調達の難しさに焦点が当てられた。ヨーロッパのオレンジ果汁会社の中には、調達の問題により操業を停止しているところもある。ブラジルの加工業者は現在、オーストラリアや日本などの市場へのタンカーによる大規模出荷よりも、主要取引先への少量出荷を優先している。ヨーロッパ渡しブラジル産オレンジ果汁のエクスパナ社ベンチマークは7千ドル/トンで、前年比55%の高騰を記録し、小売消費に影響を与えている。

あり得る緩和戦略として議論されているのは、他の地域での生産を増やすことや、オレンジ果汁をマンダリン果汁に置き換えること等である。しかし、依然としてブラジルのオレンジ果汁の生産能力に並び立つものは無いというのがコンセンサスである。業界の回復は、短期的には依然として不確実である。リンゴ果汁市場は、特にポーランドの霜の影響等の独自の課題に直面している。現在の市場動向としては、加工業者による在庫の抱え込みや交渉の長期化、入手可能性に対する懸念などが見られる。それにもかかわらず、2025年産のリンゴの収穫により状況が改善するかも知れないという期待がある。一方、エクスパナ社の報告によれば、中国産の低酸度リンゴ果汁は、ヨーロッパ産果汁の2,200ユーロ/トンに対して2,100ユーロ/トンでEUに提供されている。

出典：Mintec

（関連記事）エジプト　柑橘類濃縮特区を承認し輸出を促進

FreshPlaza　2024年10月24日

エジプトはポートサイド市に1千万ドルの柑橘類濃縮特区を承認し輸出を促進

エジプト内閣は最近、柑橘類の濃縮物の生産に焦点を当てた経済特区をポートサイド市に設置することを承認した。工業地帯内の1万平方メートルに及ぶ「柑橘類濃縮物特区」は、100%国内産の原料の使用とすべての生産物の輸出を義務付けることにより、柑橘類産業を強化することを目的としている。

このゾーンは、投資・特区総局の監督下で運営され、国の安全基準と環境基準の遵守を確保する。1千万ドルが投資されるこのプロジェクトは、年間300人以上の雇用を創出し、初期段階で2,500トンの濃縮果汁を製造することとなっている。

出典：Egypt Today

265. 台湾の落葉果実事情(リンゴ)

米国農務省GAINレポート　2024年10月25日

これは米国農務省海外農業局台北事務所(台湾)が作成した「落葉果実年次報告書」を翻訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

概要

台湾は年間13万5千トン以上のリンゴを輸入しており、国内産の供給量は1%未満である。当事務所は、台湾の2024/25年度のリンゴの国内産供給量は横ばいの1,250トンで推移し、輸入量は14万5千トンに回復すると予想する。米国とニュージーランドが主要な供給国であり、日本とチリがそれに続く。2023/24年度に米国は46%の市場シェア(6万4,694トン)を獲得したが、これは主に南アフリカからの輸出がリンゴの害虫の検疫問題で一時的に停止されたことによる。また、米国産リンゴは依然として価格競争力がある。

生産

2023/24年度には、1ヘクタール当たりの平均収量の低下により、リンゴの生産量は以前の予想よりもさらに減少したと見られる。主要産地である台中市の平均収量は、主に高温と干ばつにより20%減少し、総生産量は1,189トンとなった。2024/25年度の生産量は、主に2024年に重大な自然災害(大雨、台風、干ばつ等)の発生がなく収量がわずかに回復することから、約1,250トンと予測される。

台湾のリンゴの栽培面積全体は過去2年間180ヘクタールで横ばいであるが、一般的な傾向は、総栽培面積が安定するか徐々に減少すると予想されることを示している。高地の山岳地帯で収益性の高い野菜(キャベツ)や茶などの作物は、栽培面積をめぐって引き続きリンゴと競合している。台湾は日本からナシの穂木(接ぎ木用)を輸入しているため、より標高の低い土地でアジア系のナシを栽培することができる。しかし、リンゴはこの方法を採用していないため、品種の更新が制限されている。台湾での温帯果実の栽培は、気候変動の下での栽培適地の移動によりますます困難になっている。平均気温の上昇に伴い、台湾産リンゴの予想収穫量は7トン/ヘクタール前後で推移する可能性がある。

図1:　武嶺農場のリンゴ畑(2024年5月、台中市)　写真提供:　執筆者

消費と貿易

台湾農業部の農業統計年鑑2023によると、台湾の一人当たりの平均果実消費量は年間115kg、全国の果実総消費量は約270万トンで、そのうち約20%が輸入で賄われている。リンゴは台湾で最も多く輸入されている果実である。TDM(Trade Data Monitor)のデータによると、台湾は年間少なくとも13万5千トンのリンゴを輸入している。2023暦年のリンゴの輸入量は13万7,330トンで、果実の総輸入量の50%以上を占めている。その他の主要な輸入果実は、キウイフルーツ、ブドウ、オレンジ、サクランボ、ナシ(主にアジア系のナシ)、モモ・ネクタリン(主にネクタリン)等で、それぞれ年間1万トンを超える輸入量がある。

米国は台湾への最大の果実供給国であり、2023暦年には9万トン以上の果実を台湾に輸出しており、そのうちリンゴの輸出量が全体の約60%を占め、ブドウ、オレンジ、サクランボ等の他の果実の輸出量を大きく上回っている。

［注：上記の果実輸入量には暦年を使用したが、以下のリンゴ貿易量には年度（7月～6月）を使用する。］

2023/24年度の台湾のリンゴ輸入量は13万7,727トンであった。米国は南アフリカと日本から市場シェアを取り戻し、米国のリンゴ輸出量は6万4,694トンに達して市場シェアの46%を占めた。この変化は主に、南アフリカ産のリンゴから2023年5月に害虫（蛾）が発見されたことによるものであり、台湾への輸入が一時的に停止され、2024年5月にようやく輸入が再開された。2023/24年度には、南アフリカ産のリンゴの供給はほぼゼロであり、米国がこの供給不足を埋めた。

訳注：報道（ASIAFRUIT 2024年10月30日）によると、南アフリカ産リンゴの台湾への輸入はコドリンガの検出に伴い2024年10月24日に再び停止されました。

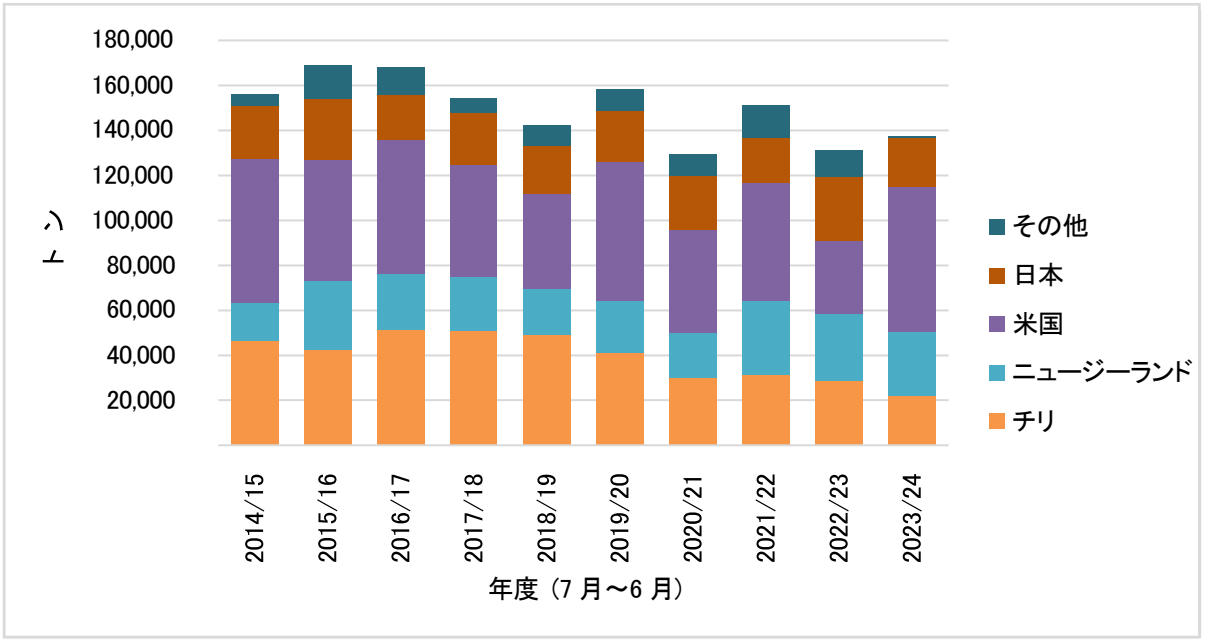


図2　台湾の世界からのリンゴ輸入量

当事務所は、2024年のリンゴの輸入量は14万5千トンに達する可能性があると予想する。台湾には多種多様な果実があり、リンゴは過去10年間で輸入量がわずかに減少したものの、依然として台湾の日常生活で重要な果実である。リンゴは通常、スーパーマーケットの棚の最初の列に並んでいる。例えば、10月には、米国、ニュージーランド、日本のリンゴが同時に販売され、消費者が選ぶことができるのが一般的である。

図3：カルフールのリンゴ売り場の陳列の様子（2024年10月）写真提供：執筆者

表1　台湾の世界からのリンゴ輸入

輸入額(千米ドル)	2021/22	2022/23	2023/24	2023/24 シェア	2022→2023 変動率
世界	260,238	247,977	244,770		−1%
米国	73,480	48,781	92,664	38%	90%
ニュージーランド	72,052	68,184	64,267	26%	−6%
日本	59,855	79,716	57,493	23%	−28%
チリ	39,904	37,648	29,396	12%	−22%
南アフリカ	12,461	9,681	20	0%	−100%

輸入量(トン)	2021/22	2022/23	2023/24	2023/24 シェア	2022→2023 変動率
世界	151,260	131,253	137,726		5%
米国	52,562	31,996	64,693	47%	102%
ニュージーランド	32,671	29,872	28,077	20%	−6%
日本	20,257	28,601	22,050	16%	−23%
チリ	31,405	28,892	22,256	16%	−23%
南アフリカ	13,097	9,794	22	0%	−100%

出典：TDM

価格

米国とニュージーランドは、異なる季節の主要リンゴ供給国である。米国産のリンゴは輸入価格ではより優位性を維持しているが、その小売価格はニュージーランド産のリンゴにかなり近い。新シーズンの初めには、新品種のコズミッククリスプの価格が高い(1玉当たり45～50台湾ドル)が、シーズンの終わりに近づくと、価格は同29台湾ドルに下がることもある。日本産のリンゴは、チェーン店のスーパーマーケットの在庫が大量に積み上がるまでは、その価格が米国産のリンゴの2～3倍になることもあり、現在市場に出回っている高価なリンゴの1つとなっている。

	米国	ニュージーランド	日本	チリ	南アフリカ
CIF価格(米ドル/kg)#	1.4	2.2	2.6	1.3	0.9
小売価格 (スーパーマーケット)	20-25NTD/ふじ 200g 当たり*	20-25NTD/ふじ 200g 当たり*	55-59NTD/トキ@ 1玉当たり	該当なし	

TDMによるCIF単価
* https://price.ndc.gov.tw/p/zh_tw/index による価格
@ カルフールスーパーマーケットにおける価格
注：1米ドル=32NTD(2024 年 10 月)

政策

輸入関税：(HS 080810/生鮮リンゴ)

2013年から経済連携協定(ANZTEC)の下で免税アクセスがあるニュージーランドを除き、台湾への主要なリンゴ輸出国のほとんどは20%の関税が課される。

台湾の輸出国別リンゴ関税

輸出国	関税率
米国、チリ、日本、南アフリカ	20%
ニュージーランド	0%

輸入植物検疫規則:

生鮮食品はTFDA(台湾衛生福利部食品薬物管理署)及びAPHIA(農業部動植物防疫検疫所)によって規制されている。米国産の生鮮リンゴはAPHIAの「米国からの生鮮リンゴの輸入に関する検疫要件」(2024年7月31日版)によって規制され、APHIS(米国農務省動植物検疫局)発行の植物検疫証明書(様式PPQ 577)を添付する必要がある。

植物検疫証明書は、任命されたAPHIS職員またはAPHISが認可した州及び郡の当局によって発行される。米国産の生鮮果実の出荷に関するその他の植物検疫証明書は、台湾の植物衛生規制当局によって受け入れられなくなった。第5.6条に従い、検疫要件の病害虫リストが変更された場合、更新されたリストは台湾当局のウェブサイトで確認できる。

TFDAは、国境検査を担当する所轄官庁である。台湾では、「食品中の残留農薬基準」によるポジティブリスト制を採用している。最新版(2024年3月29日更新)はこちら(または統合サイト)を参照されたい。重金属の基準は、TFDAの「食品中の汚染物質及び毒素に関する衛生基準」に記載されている。

台湾のリンゴ(生鮮)の生産需給統計

リンゴ(生鮮)	2022/2023		2023/24		2024/25	
販売年度の始まり	2022 年 7 月		2023 年 7 月		2024 年 7 月	
台湾	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	181	181	176	180	0	179
収穫面積(ヘクタール)	181	180	176	180	0	179
結果樹本数(1000 本)	64	64	62	64	0	64
未結果樹本数(1000 本)	0	0	0	0	0	0
果樹本数合計(1000 本)	64	64	62	64	0	64
商業的生産量(トン)	1,406	1,406	1,350	1,189	0	1,250
非商業的生産量(トン)	0	0	0	0	0	0
生産量合計(トン)	1,406	1,406	1,350	1,189	0	1,250
輸入量(トン)	131,300	131,253	155,000	137,727	0	145,000
総供給量(トン)	132,706	132,659	156,350	138,916	0	146,250
国内消費量(トン)	132,706	132,659	156,350	138,916	0	146,250
輸出量(トン)	0	0	0	0	0	0
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向け量(トン)	132,706	132,659	156,350	138,916	0	146,250

公式データは PSD Online Advanced Query からアクセスできる。

266. イスラエル　グレープフルーツの収穫量が引き続き減少

FreshPlaza　2024年10月25日

イスラエルではグレープフルーツや柑橘類全般の生産量は減少しているが、輸出額に関しては依然として主要なプレーヤーの1つであると、イスラエルの柑橘類輸出業者プラネットイスラエル社の輸出マネージャーであるベサレル・オハナ氏は述べている。(以下「 」は同氏の話)

「世界銀行によると、イスラエルはグレープフルーツの年間輸出額で、中国、オランダ、南アフリカに次いで世界第4位の国であり、スペインとトルコを上回っている。イスラエル産グレープフルーツの主要品種は、ホワイトマーシュ、赤肉系ではサンライズ(別名スタールビー)、リオレッド、レッドサンであり、スイーティーグリーングレープフルーツもある。出荷シーズンは9月にスイーティーで始まり、5月末頃に赤肉系の品種で終わる。」

オハナ氏は、生産量の減少は目新しいものではなく、実際には過去数シーズン見られる傾向であると強調する。「イスラエルではグレープフルーツ生産量が柑橘類の総生産量の約30%を占めており、主に赤肉系品種である。昨2023/24年度シーズンのグレープフルーツ総生産量は14万4千トンであった。これらのグレープフルーツの主体は加工業界向けであり、その量は9万8千トンで全体の68%を占めた。23%に当たる約3万3千トンが輸出用で、最後の1万3千トン、すなわち9%が国内市場向けであった。イスラエルのグレープフルーツ生産量は減少が続いており、今シーズンは合計14万4千トン、前シーズン(2022/23年度)は15万5千トン、2021/22年度は17万5千トンであった。」(以下省略)

執筆者: ニック・ピーターズ　(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

267. トルコ　柑橘類は課題が多く生産量が全体的に減少

FreshPlaza　2024年10月28日

トルコの柑橘類のシーズンが始まり、同国の青果物輸出業者エレン社の販売マネージャーであるコスクン・エレン氏は、さまざまな柑橘類のほとんどに課題となる要素があるとして、「主に、極端な天候と気候変動の問題がある。高温と不規則な降雨パターンは、果実の成長を遅らせ、収量を減らす一因となっている。一般的に、この傾向は良くないが、すべての品種が悪い状況にあるわけではない。たとえば、マーコットマンダリンとオレンジの一部は、かなり有望な状況にある。全体として難しいシーズンではあるが、弊社の企画力と強力なサプライチェーンにより、引き続き需要に応えていく」と述べている。(以下「 」は同氏の話)

総じて言えば、全体的に生産量の減少が予想され、エレン氏は、今シーズンはこれがマンダリンについて特に極端であると強調する。「今シーズンは、柑橘類の種類によっても異なるが、出荷量が著しく減少している。マンダリン品種については、早生品種を中心に昨シーズンと比較して50%も少ない。この減少の主な理由は、栽培面積の減少と悪天候である。しかし、マーコットマンダリンに関しては、収量と品質の両方で良いシーズンを期待している。グレープフルーツは全体的にマンダリンと同様の傾向のようであるが、この減少はトルコだけでなく世界的な問題である。レモンについては微減が見込まれる。(以下、中略)」

「(マンダリンとグレープフルーツについて)トルコでは昨シーズンに比べて収量が低下すると予想されるが、スペインのマンダリンの収穫量も20%以上減少すると予想される。グレープフルーツに関しては、ヨーロッパでの需要減少傾向が続いており、特にZ世代やアルファ世代などの若い世代はグレープフルーツの消費量が少ない。そのため、需要が増加している市場は、より魅力的になる可能性がある。」

全体として、同社は、この困難な柑橘類シーズンが確実にもたらすチャンスに飛び乗ることを望んでいる。「次の柑橘類シーズンに対する弊社の期待は、近年に比べて少ない収穫量と国内需要の高まりにより、価格が高止まりすることである。マンダリン市場では、収量の低下と旺盛な内需により、価格が高止まるだろう。弊社は輸出に重点を置いているため、国際市場でも価格が上昇すると期待している。一方、オレンジについては楽観的な見方をしており、収量と品質の両方でより生産的なシーズンになると予想している。課題は予想されるものの、弊社の目標は、現在の状況を最大限に活用し、製品の高い品質基準を維持することである。」

執筆者: ニック・ピーターズ　(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

268. トルコ　リンゴの出荷量が約25%減少

FreshPlaza　2024年10月28日

トルコの果実輸出業者デミルフレッシュフルーツ社のオーナーであるアルペル・ケリム氏は、世界のリンゴ生産量が少ないようだが、トルコのリンゴのシーズンは、出荷量が少ないにもかかわらず非常にポジティブにスタートしたと話す。（以下「 」は同氏の話）

「トルコのリンゴシーズンはガラ品種から始まり、他の品種もそれに続いている。今シーズンこれまでのところ、弊社としては順調である。弊社のリンゴの主な焦点は常にインドであるため、ヨーロッパ市場の状況よりもそちらの状況に通じている。インドでは国内産のリンゴが不足しているが、世界中の国々にも同じことが言える。トルコでリンゴの生産量が今年減少したのと同様に、世界的にリンゴ生産量が減少した。」

トルコにとって、生産量の減少によって状況は変わらないとケリム氏は強調する。出荷量の減少は、トルコ産リンゴの価格にも影響を与えている。

「トルコのリンゴ生産を見ると、昨シーズンに比べて出荷量がほぼ25%少ないようだ。今年は天候が悪く、その結果として着果数が少なくなった。これは、トルコ国内の価格が最近のシーズンに比べてかなり高い理由でもある。」

紅海危機が依然として続いているため、同社はインドの他の港に出荷先を変更しなければならなかった。ケリム氏は、同社が再びいつもの港により短い輸送時間で出荷できるようになることが重要であると言う。

「弊社にとって、リンゴの主な出荷先はインドのチェンナイ港だが、残念ながら現時点ではこの港への輸送時間を短縮することはできない。ナバシェバ港など別の港があるので、今はその港に向けてリンゴを積み出している。しかし、弊社の主要な取引先はチェンナイにいるので、同港へ迅速に到達できる航路ができるだけ早く必要である。」

ケリム氏は、価格の高騰は出荷量の減少の影響だけではなく、トルコの極端なインフレが自国通貨に圧力をかけている結果でもあると述べた。

「トルコのリンゴの価格は、昨年の価格と比較すると高水準で始まった。これは、トルコのインフレ率が高すぎ、通貨が圧迫されているためである。このことはまた、製品の販売がより困難になる中、トルコの輸出業者にとって価格設定が現在の主な課題となっている理由である。現時点ではこの価格で、他の名の知れた原産国と競争することはできない。」

全体として、ケリム氏は、同社が対処しなければならない明らかな課題はあるものの、今シーズンに希望を持っている。

同氏は、「インド市場での直接のライバルである複数の輸出国を含め、世界中でリンゴが不足しているため、個人的には大きな需要を期待している。バイヤー達はシーズンの終わりまで、より多くの量を探し求めることになると思う」と締めくくった。

執筆者：ニック・ピーターズ

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

269. スペイン　集中豪雨で柑橘類、カキ等に被害

FreshFruitPortal　2024年10月30日

上層の孤立低気圧は、スペイン・バレンシア州の数千ヘクタールの農作物に「壊滅的な」損害を引き起こした

スペインを襲った上層孤立低気圧は、すでに死者、人口密集地での人的・経済的損害、道路の閉鎖、及び農業の損失をもたらしている。

バレンシア州農業者協会（AVA-ASAJA）はプレスリリースで、集中豪雨、降雹、及び竜巻等の強風により、農業部門は「計り知れない影響による壊滅的な損失」に直面していると発表した。

被害を受けた地域と農業や畜産への経済的影響の全容を評価するにはまだ早いが、AVA-ASAJAは、数千ヘクタールの柑橘類、カキ、野菜、ブドウ園、その他の作物が今シーズンの収穫を失い、植物の枯死を含め、過剰な水分による回復不能な被害を受ける可能性があると警告している。

畜産に関しては、給餌や水の供給に深刻な問題が発生する恐れがあり、家畜が死ぬ可能性もある。

最も被害を受けた地域は、ラリベラアルタ及びラリベラバハ、ロルタ、ホヤデブニョール、ウティエルレケナ、キャンプデトゥリア、ロスセラノスで、激しい降雨と大小河川の氾濫により歴史的な洪水が記録された。

内陸部では、何千ものブドウの木やその他の作物が水の力で根こそぎにされた。これらの作物は、洪水とは対照的に、記録上水文学的に最も乾燥した年の1つに耐えたところであり、水不足のためにすでに一部の植物は枯死していた。

AVA-ASAJAの報告によると、水が沿岸部に流れ込んだため、柑橘類、カキ、野菜、その他の作物の何百もの農場が浸水した。

これらの地域が何時間も水没したままになると、果樹が枯れる可能性がある。最も被害の大きかった園地ではマンダリン、オレンジ、及び出荷最盛期のカキの収穫が失われ、今シーズンの生産量が大幅に減少する。

上層孤立低気圧はさらに、アルファルプ、カタダウ、ロンバイ、カールレット、ゴデレタ等の各地域の農場で最大100%の収穫量の損失を引き起こした雹や、アルジネット、ベニファイオ、カールレットの各地域で枝の折損、落果、さらには根こそぎの倒木によって農業損失を増加させた竜巻によって、その被害が激化した。

生産物と農場の損害に加えて、農道と農業インフラが深刻な被害を受けた。これには、灌漑用水路、施設の外壁、堤防、点滴灌漑システム、貯蔵施設、納屋、灌漑用井戸、温室、農機、農業用及び畜産用の建物等が含まれる。

AVA-ASAJAは、影響を受けた農業生産者や牧場主への支援措置を承認するよう当局に求めた。低気圧が沈静化し、生産者が農場にアクセスできるようになれば、AVA-ASAJAはバレンシア州の農業部門で予想される直接的及び間接的な損害について詳細な評価を実施する。それらは「天文学的で壊滅的」と予想されている。

270. イスラエル　アジア向け柑橘類のアフリカ廻りの出荷が課題

FreshPlaza　2024年10月30日

イスラエルの2024年柑橘類シーズンは概ね順調に始まったが、喜望峰を回ってアジア市場に到達するまでの長い旅が、最終的に果実の着荷時の品質にどのように影響するかについて懸念がある。ガリレーエクスポート社の柑橘類マネージャーであるラフィ・ズリ氏は、「これまではグレープフルーツのほとんどをヨーロッパに出荷していたが、これから極東への出荷を開始する。スエズ運河が機能していないため、これは難題である。南アフリカ廻りで50～60日かかる長い輸送をしなければならない」と述べた。（以下「 」は同氏の話）

同氏は、市場にはまだ南アフリカ産のグレープフルーツがあるため、価格は高くないと言う。「価格がそれほど高くないのは、市場にまだ南アフリカ産のグレープフルーツがあるためだ。価格は過去2年のようには高くない。販売のペースは通常どおりである。弊社ではほとんどすべてをヨーロッパに送っている。」

イスラエルのグレープフルーツシーズンは第39週（9月下旬）に始まった。「グレープフルーツの出荷は、1カ月前の9月末に始まった。ただし、スイーティはその2週間前に始まった。概ね計画どおりに発送した。弊社の主要な柑橘類製品は、ほぼ昨年と同様のグレープフルーツと、今年は昨年よりも収量が少ないオッリマンダリンの2つである。オッリの輸出は減少すると予想される。また、スペインでもオッリを栽培しており競合するため、そちらの作柄にもよる。市場価格を予測するためには、スペインの作柄について知る必要がある。通常、我々はスペインよりも前にスタートするので、12月末からオッリの絶好の出荷時期があるかも知れない。冬季のマンダリン需要は、12月、1月、2月に高くなる。」

ズリ氏は、紅海での武力攻撃がスエズ運河の通過に影響を与えているため、アフリカを廻る長い旅をしており、果実の梱包に特別な注意を払っていると言う。「今シーズン、海運会社はアフリカ廻りの直行ルートを採用しているが、それでも航海は長い。弊社では、これらの目的地に最高品質の柑橘類を確実に届けるため、梱包施設に力を入れている。昨年は多くの果実が遅れ、大きな打撃を受けた。果実の着荷状態がどうなるかはまだわからない。アジアへの輸出が成功したと宣言できるだけの良い状態で到着することを願っている。」

執筆者：クレイトン・スワート　（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

271. ペルー　今年のマンダリン輸出量が史上最高に

Agraria. pe　2024年10月31日

（Agraria.pe）2024年初めから10月28日までに、ペルーは21万658.965トンの生鮮マンダリンを輸出し、前年同期の15万9,652.055トンと比較して31.95%増加した。

これは、コンサルティング会社インフォルムアクシオン（Inform@ción）社代表のフェルナンド・シジョニス・ベナビデス氏が報告したもので、この結果、2024年はペルーの生鮮マンダリン輸出量が2022年の記録（20万6,310.765トン）を上回った。同氏は、史上最も多くなったことを強調し、「我々は新しい農場を増やすことなく、生産性の向上のみによって成長し、20万トンの壁を超えた」と述べた。

同氏は、今年の分析対象期間におけるペルー最大のマンダリン輸出産地は11万5,569.463トンのイカ県であり、2023年に報告された8万4,075.195トンと比較して37.46%増加したと説明した。この地域は全体の54.86%を占めた。この果実のもう一つの重要な輸出産地はリマ県であり、出荷量は7万7,641.129トンで、前年の5万4,428.621トンから42.65%増加し、総輸出量の36.86%を占めた。

今年のペルー産生鮮マンダリンの主な輸出先は北米で8万2,900.485トンが向けられ、次いでヨーロッパが7万7,030.013トン、中南米諸国が3万6,458.754トン、アジアが1万4,820.577トンでこれに続いたと同代表は指摘した。

執筆者：ホセ・カルロス・レオン・カラスコ

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

272. チリの落葉果実事情（ブドウ、リンゴ）

米国農務省GAINレポート　2024年10月31日

これは米国農務省海外農業局サンチャゴ事務所（チリ）が作成した「落葉果実年次報告書」のブドウの項を翻訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

＜生食用ブドウ＞

表1　チリの生食用ブドウの生産需給統計

ブドウ（生食用、生鮮） 販売年度の始まり チリ	2022/2023 2022 年 10 月		2023/2024 2023 年 10 月		2024/2025 2024 年 10 月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積（ヘクタール）	43,025	43,025	39,931	39,931	0	39,000
収穫面積（ヘクタール）	42,000	42,000	39,500	39,500	0	38,500
商業的生産量（トン）	651,500	651,500	630,000	678,216	0	723,000
非商業的生産量（トン）	4,800	4,800	5,000	5,000	0	5,000
生産量合計（トン）	656,300	656,300	635,000	683,216	0	728,000
輸入量（トン）	300	700	300	300	0	300
総供給量（トン）	656,600	657,000	635,300	683,516	0	728,300
生鮮国内消費量（トン）	160,300	160,679	155,300	155,000	0	158,300
輸出量（トン）	496,300	496,321	480,000	528,516	0	570,000
市場からの隔離（トン）	0	0	0	0	0	0
総仕向量（トン）	656,600	657,000	635,300	683,516	0	728,300

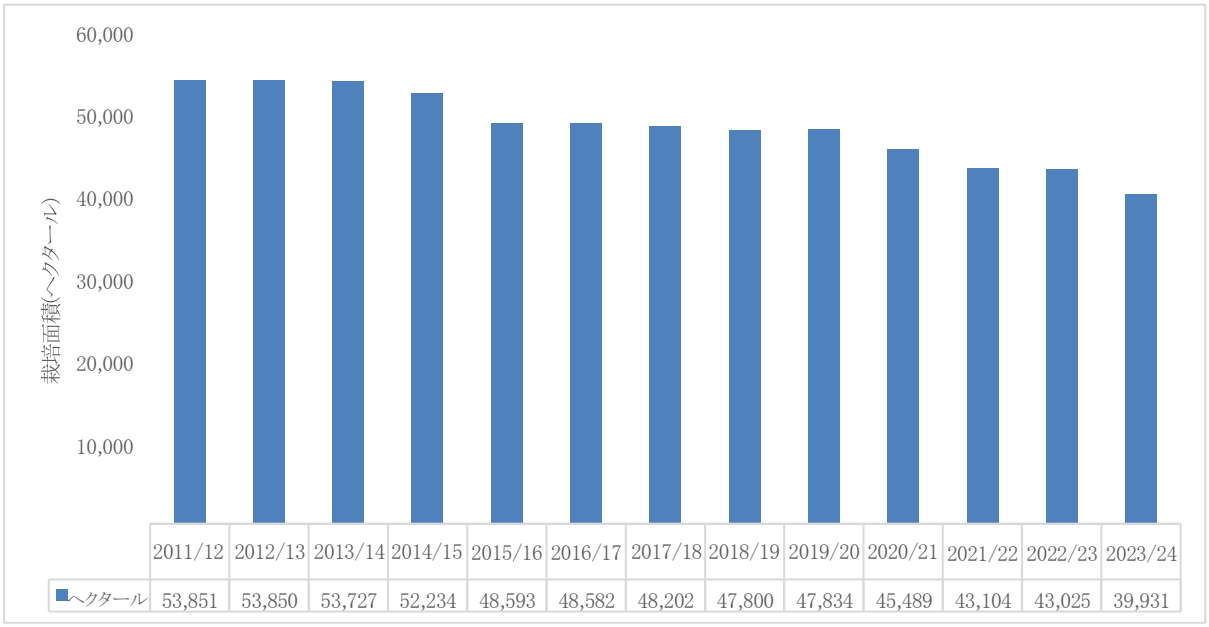
公式データは PSD Online Advanced Query からアクセスできる。
出典：当事務所推計

生産

当事務所は、2024/25年度の生食用ブドウの生産量を、生産を妨げる可能性のある予期しない悪天候が無いことを前提に、収量の増加により、6.6%増の合計72万3千トンと推定する（表1）。生食用ブドウの収量は、豊富な降雨量や十分な低温積算時間等、良好な天候条件により増加すると見込まれる。

当事務所はまた、2024/25年度には、生食用ブドウの栽培面積が2.3%減少し、合計3万9千ヘクタールになると予測する。生食用ブドウの栽培面積は、利益率の低さから10年以上にわたって減少している（図1）。他の輸出国との競争の激化と、クリムゾン、フレーム、レッドグローブ等の従来品種の低価格により、生食用ブドウの小規模な輸出業者は市場から撤退を余儀なくされている。

図1：生食用ブドウの栽培面積（ヘクタール）



出典：ODEPA、2024年

チリ農業省調査政策局（ODEPA）のデータによると、チリのすべての産地で生食用ブドウの栽培面積が減少している（表2）。北部のアタカマ州では、人件費、輸送費、農薬費等の高い生産コストと低価格により、特に急激な減少が見られた。アタカマ州のブドウは、米国市場でペルー産のブドウとの激しい競争に直面しており、それが価格の下落につながっている。全国的には、ブドウ園の更新には生産者による多額の投資が必要なため、新しいブドウ品種への需要の高まりにより利益率がさらに厳しくなっている。

メトロポリターナ州の生食用ブドウ栽培面積は、過去3年間で22.5%減少した。同様に、チリ最大の産地であるオイギンス州では、栽培面積が5.2%減少した。これらの地域では、生食用ブドウ園は、クルミ、サクランボ、柑橘類等のより収益性の高い作物に転換されたり、都市部の拡大によって転用されたりした。

表2：生食用ブドウの地域別栽培面積　2023/24年度（ヘクタール）

州	栽培面積（ヘクタール）	3年間の変動率（%）	シェア（%）
アタカマ	5,987	−12.4%	15.0%
コキンボ	7,321	−10.3%	18.3%
バルパライソ	8,413	−15.6%	21.1%
メトロポリターナ	5,310	−22.5%	13.3%
オイギンス	12,736	−5.2%	31.9%
マウレ	163	−32.3%	0.4%
その他	1		
合計	**39,931**	**−12.2%**	**100.0%**

注：栽培面積の変動は3年ごとに計測される。ここに示したデータは入手可能な最新のものである
出典：2024年の ODEPA のデータに基づく

政策

米国農務省は、チリの3つの州（アタカマ、コキンボ、バルパライソ）について、システムアプローチプロトコルによる生食用ブドウの輸出を許可する最終通知を2024年7月19日に発表した。これらの地域は、チリ国内でもヨーロッパブドウ蛾（仮称、*Lobesia botrana*）が存在しないか、存在密度が低い地域として特定されている。新しい要件は、チリニセ赤ダニ（仮称、*Brevipalpus chilensis*）からも米国の農業を保護するものである。

システムアプローチには、米国に輸出されるブドウにヨーロッパブドウ蛾（仮称）やチリニセ赤ダニ（同）がいないことを保証するための、複数の重複する要件が備わっている。新しい要件では、輸入業者は害虫を処理するために放射線を使用することも許可されている。輸入業者はまた、既存の臭化メチル燻蒸アプローチを引き続き使用することもできる。輸入業者がどのアプローチを採用するにせよ、これらの強力な要件は、輸入された生食用ブドウが植物害虫を導入するリスクをほとんどなくし、安全な輸入を確保するのに役立つ。

チリの輸出業者らによると、システムアプローチは、臭化メチルの使用を避けることにより、チリの3つの地域からの生食用ブドウの競争力を高める。この変更により、米国到着時の生食用ブドウの品質と状態が向上し、また有機栽培された生食用ブドウの米国市場への輸出も可能になる。

消費

生食用ブドウの生産量の増加に伴い、当事務所は、2024/25年度の生食用ブドウの生鮮国内消費量を2.1%増の15万8,300トンと推定する。この消費量は商業的生産量の21.9%を占め、大部分が硬さ、サイズ等の輸出品質基準を満たさない生食用ブドウで構成されている。

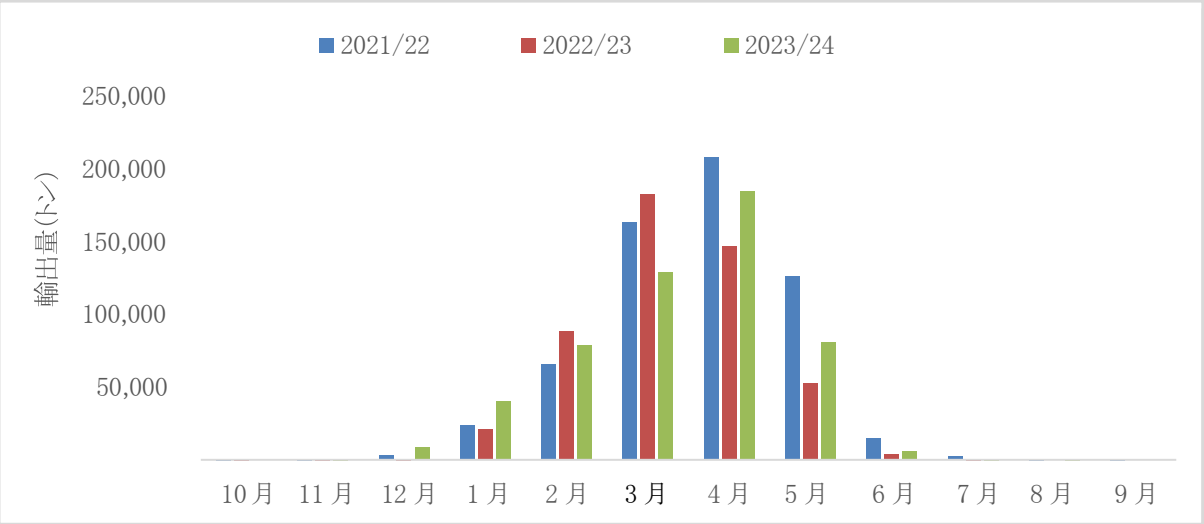
貿易

当事務所は、2024/25年度の生食用ブドウの輸出量を、生産量の増加により7.8%増の合計57万トンと推定する。チリの生食用ブドウの上位の輸出市場は、米国、中国、オランダ、英国である。

2022/23年度の米国向け生食用ブドウ輸出量は24万9,782トンで、チリの生食用ブドウ輸出量の53.2%を占めた（表3）。チリの生食用ブドウ輸出業者は、生食用ブドウの新品種の需要増と、ペルー産生食用ブドウとの競争の激化により、米国市場で課題に直面している。これらの課題にもかかわらず、2023/24年度（8月までのデータ）では、チリの米国向け生食用ブドウ輸出量は30.3%増加し、合計32万5,533トンであった。

中国はチリの生食用ブドウの2番目に大きな市場であり、2022/23年度の輸出量は5万6,928トンで、チリのブドウ総輸出量の11.5%を占めた。2023/24年度(8月までのデータ)には、輸出業者が米国向けの輸出量の割合を増やしたため、チリから中国への輸出量は46.7%減少した。同様に、オランダと英国への輸出量はそれぞれ13.4%及び8.9%減少した。

図2: 生食用ブドウの月別輸出量(トン)



出典: Trade Data Monitor, LLC

表3: チリから世界への生食用ブドウ輸出量(トン)

品目: 080610 ブドウ 生鮮						
輸出先国	販売年度			年度初め～直近月		
	2021/22 (トン)	2022/23 (トン)	変動率 (%)	2022年10月～2023年8月(トン)	2023年10月～2024年8月(トン)	変動率 (%)
世界	608,194	496,321	-18.4%	496,321	528,516	6.5%
米国	310,058	249,782	-19.4%	249,782	325,533	30.3%
中国	77,627	56,928	-26.7%	56,928	30,347	-46.7%
オランダ	45,196	31,076	-31.2%	31,076	26,910	-13.4%
英国	23,789	21,676	-8.9%	21,676	19,745	-8.9%
韓国	17,952	16,491	-8.1%	16,491	10,780	-34.6%
日本	14,118	13,457	-4.7%	13,457	12,242	-9.0%
スペイン	10,536	12,282	16.6%	12,282	10,000	-18.6%
メキシコ	11,239	11,344	0.9%	11,344	13,808	21.7%
カナダ	9,600	10,089	5.1%	10,089	16,461	63.2%
エクアドル	9,654	8,537	-11.6%	8,537	9,692	13.5%
ロシア	4,274	6,638	55.3%	6,638	3,569	-46.2%
ブラジル	6,551	6,031	-7.9%	6,031	6,543	8.5%
ドイツ	5,641	4,608	-18.3%	4,608	3,128	-32.1%
ポルトガル	4,694	3,358	-28.5%	3,358	3,248	-3.3%
コロンビア	4,426	3,352	-24.3%	3,352	4,762	42.1%
その他	52,839	40,672	-23.0%	40,672	31,748	-21.9%

出典: Trade Data Monitor, LLC

＜リンゴ＞

表4　チリのリンゴの生産需給統計

リンゴ（生鮮） 販売年度の始まり チリ	2022/2023 2023 年 1 月		2023/2024 2024 年 1 月		2024/2025 2025 年 1 月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積（ヘクタール）	29,035	29,035	29,006	29,006	0	28,000
収穫面積（ヘクタール）	28,500	28,500	28,500	28,500	0	27,000
結果樹本数（千本）	32,500	32,500	32,500	32,500	0	31,500
未結果樹本数（千本）	2,250	2,250	2,000	2,000	0	1,800
果樹本数合計（千本）	34,750	34,750	34,500	34,500	0	33,300
商業的生産量（トン）	870,000	870,000	860,000	904,000	0	910,000
非商業的生産量（トン）	10,000	10,000	10,000	10,000	0	10,000
生産量合計（トン）	880,000	880,000	870,000	914,000	0	920,000
輸入量（トン）	3,000	3,000	3,000	3,000	0	3,000
総供給量（トン）	883,000	883,000	873,000	917,000	0	923,000
生鮮国内消費量（トン）	413,700	413,696	410,000	415,000	0	416,000
輸出量（トン）	469,300	469,304	463,000	502,000	0	507,000
市場からの隔離（トン）	0	0	0	0	0	0
総仕向量（トン）	883,000	883,000	873,000	917,000	0	923,000

公式データは PSD Online Advanced Query からアクセスできる。
出典：当事務所推計

生産

2024/25年度のリンゴの栽培面積は2万8千ヘクタールに減少すると予想されており、過去10年間に観察された減少傾向が続いている。当事務所は、2024/25年度のリンゴ生産量を、前年比0.7%増の92万トンと推定する。この生産量の微増は収量の向上に起因しており、栽培面積の減少を埋め合わせるものと予想される。リンゴ生産は、冬の豊富な降水量と十分な低温積算時間の恩恵を受けた。

リンゴの輸出ビジネスは非常に競争が激しく、チリの輸出業者は、生産性と品質（色、食味及び状態）が高く、人気のある品種を常に把握しておく必要がある。チリでは主にロイヤルガラ、ピンクレディー、ふじ、グラニースミスの各品種が栽培されている。最も競争力のある生産者達は、ブルックフィールドガラ、ピンクレディー、ロージーグロー、アンブロシア、エンヴィ、モディ、バックアイ等の新しい品種で果樹園を更新している。

チリの中南部に位置するマウレ州とオイギンス州は、それぞれ国内のリンゴ栽培面積の62.4%及び22.0%、合わせて84.4%を占めている。しかし、現代的な品種やサクランボ、クルミ等の他の作物と比較して収益性の低い古い品種の果樹園を保有している生産者が多いため、栽培面積は両州ともに減少している。さらに、チリのすべてのリンゴ産地で収益の低さから栽培面積が減少している。

消費

当事務所は2024/25年度のリンゴの国内消費量（生鮮及び加工品）を、生産量の増加に伴い0.2%増の合計41万6千トンと推定する。この消費量は、商業的なリンゴ生産量の45.7%に相当する。この45.7%という数字は、リンゴ産業を維持する上での国内市場の重要性を浮き彫りにしている。

貿易

当事務所は、2024/25年度のチリのリンゴ輸出量を、生産量の微増に即して前年比1.0%増の50万7千トンと予測する。2023/24年度（8月までのデータ）のチリのリンゴ輸出量は、2022/23年度から7.2%増加し、合計44万9,093トンであった。輸出シーズンが遅れたため月間輸出量は当初前年同期比で減少したが、シーズン後半の輸出水準が高かったため総輸出量は調整された。

コロンビアはチリ産リンゴの最大の市場である。チリは2022/23年度に総輸出量の13.8%に相当する6万4,847トンをコロンビアに輸出した。2023/24年度（同上）には、この市場への輸出量は4.5%増加した。

ブラジルは2022/23年度のチリ産リンゴの2番目に大きな輸出先であり、輸出量のうち11.2%がブラジル向けであった。2023/24年度（同上）には、輸出量が91.4%増加し、ブラジルがコロンビアを抜いて最大の輸出先となった。当局によるアクセス規制の緩和とチリ産果実に対する需要の高まりにより、チリの輸出業者

はブラジルへの輸出を増やすことを目指してきた。

米国はチリ産リンゴの3番目に大きな市場であり、チリのリンゴ輸出量の9.9%を占めている。しかし、2023/24年度には、リンゴ輸出業者がブラジルへの商品の割り当てを増やしたため、米国向けは46.9%減少した。

表6　チリから世界へのリンゴ輸出量(トン)

商品: 080810, りんご, 生鮮						
輸出先国	販売年度			1月～8月		
	2021/22	2022/23	変動率 (%)	2023	2024	変動率 (%)
世界	602,581	469,304	-22.1%	418,901	449,093	7.2%
コロンビア	85,899	64,847	-24.5%	53,885	56,296	4.5%
ブラジル	65,193	52,724	-19.1%	41,941	80,288	91.4%
米国	52,669	46,360	-12.0%	46,221	24,527	-46.9%
エクアドル	47,169	38,357	-18.7%	32,775	32,071	-2.1%
ペルー	39,013	37,207	-4.6%	27,046	15,208	-43.8%
台湾	29,432	23,567	-19.9%	23,347	28,149	20.6%
サウジアラビア	23,848	21,256	-10.9%	21,256	27,890	31.2%
オランダ	33,819	19,171	-43.3%	18,507	20,764	12.2%
インド	35,003	16,483	-52.9%	16,483	26,976	63.7%
ドイツ	19,903	14,197	-28.7%	13,684	18,682	36.5%
ボリビア	15,992	12,366	-22.7%	9,704	9,531	-1.8%
フランス	12,693	11,970	-5.7%	11,217	9,845	-12.2%
カナダ	10,015	10,906	8.9%	10,873	5,148	-52.7%
グアテマラ	16,427	10,727	-34.7%	10,086	11,338	12.4%
英国	18,770	9,580	-49.0%	9,319	16,933	81.7%
その他	96,736	79,586	-17.7%	72,557	65,447	-9.8%

出典: Trade Data Monitor, LLC

273. シンガポールとインドネシア　シャインマスカットの安全性を確認

FreshPlaza　2024年10月31日

残留農薬の懸念を受け、シンガポール食品庁(SFA)は、主に中国、韓国、日本からシンガポールに輸入されたシャインマスカットブドウが安全に消費できることを確認した。SFAの農薬に関する厳格な試験では、食品の安全性が懸念されるレベルの残留は検出されなかった。この確認は、シャインマスカットのブドウから有害な化学物質の残留物が検出されたというタイの報告を受けて、公衆衛生を保護するための監視努力を継続するSFAの取り組みの一環として実施された。

タイでの検査結果を受けてインドネシアの国家食品庁(NFA)は、中国産のシャインマスカットブドウの調査を開始した。NFAのアリフ・プラセティヨ長官は、インドネシア市場におけるこれらのブドウの安全性を検証するためのサンプリングと実験室での分析の計画を発表した。NFAの取組みは、許可証の発行と市場監視を通じて生鮮食品の安全性を確保するよう同庁に義務付けている大統領規則2021年第66号及び食品に関する法律2012年第18号に沿ったものである。

NFAの消費多様化及び食品安全担当部門の副官代行であるユスラ・エガヤンティ氏は、農業大臣規則2018年第53号に従って食品中の農薬の最大残留基準(MRL)に関する規制を改善する同庁の取り組みを強調した。NFAはまた、残留物や汚染物質のリスクを最小限に抑えるための提供上の指示(ブドウは消費する前に洗う必要がある等)を生鮮食品のラベルに含めることを義務付けている。

SFAとNFAはどちらも、残留農薬のリスクをさらに減らすために、消費する前の果実の洗浄や、可能であれば皮むきなどの食品安全対策の実践を一般の人々に促している。これらの措置は、タイでの最近の調査結果とその後のインドネシアでの調査に照らして、それぞれの国の市場における食品の安全性を監視し確保するという両機関の継続的な取り組みの一環として実施されている。

出典: TNP 及び Antara News

海外果樹農業情報　刊行物一覧

No.	調査報告書名	発行年月
109	米国カリフォルニア州におけるオウトウの生産・流通事情調査報告書	11．6
110	台湾における果実の生産・流通・消費等実態調査報告書	11．6
111	中東における日本産果実の販売可能性調査	11．8
112	ブラジルにおけるオレンジ及びオレンジ果汁を中心とした生産・流通事情調査報告書	11．9
113	中国の主要都市における日本産果実の販売可能性及び中国のオウトウ産地調査報告書	11．10
114	世界の主要果実の生産・貿易概況 2012 年版	12．3
115	台湾における日本産果実の流通状況等実態調査報告書	12．6
116	中国におけるブドウの生産・流通・消費調査報告書	12．10
117	韓国の対米国 FTA 締結による韓国果樹産業への影響等調査報告書	12．11
118	台湾における東日本大震災後の日本産果実等流通状況実態調査報告書	13．3
119	中国におけるモモの生産・流通・消費調査報告書	13．3
120	世界の主要果実の生産概況　2013 年版	13．10
121	台湾における日本産果実の流通状況及び輸入に関連する規制等に係る調査報告書	14．3
122	世界の主要果実の貿易概況　2013 年版	14．3
123	世界の主要果実の生産概況　2014 年版	14．10
124	世界の主要果実の生産概況　2015 年版	15．3
125	台湾における日本産果実の流通及び輸入促進に向けた諸課題に係る調査	15．3
126	ニュージーランドの果樹農業及び香港の日本食品・果実事情調査報告書	15．8
127	海外の果樹産業ニュース　2015 年度版	16．3
128	台湾における日本産食品の輸入規制強化にともなう日本産果実の流通への影響に係る調査報告書	16．3
129	海外の果樹産業ニュース　2016 年度上期版	16．10
130	世界の主要果実の生産概況　2016 年版	17．2
131	海外の果樹産業ニュース　2016 年度下期版	17．3
132	台湾における日本産果実の流通状況及び輸入促進に向けた諸課題に係る調査	17．3
133	海外の果樹産業ニュース　2017 年度上期版	17．9
134	世界の主要果実の生産概況　2017 年版	18．2
135	世界の果樹産業ニュース　2017 年度下期版	18．3
136	台湾における日本産果実の流通・消費の状況及び輸入促進に向けた諸課題に係る調査	18．3
137	海外の果樹産業ニュース　2018 年度上期版	18．10
138	世界の主要果実の生産概況　2018 年版	19．2
139	海外の果樹産業ニュース　2018 年度下期版	19．3
140	米国ワシントン州のりんご生産の現状と省力・機械化技術に関する調査報告書	19．3
141	海外の果樹産業ニュース　2019 年度上期版	19．10
142	欧州及びイタリアの果樹農業の現状とスマート農業に関する調査報告書	20．3
143	海外の果樹産業ニュース　2019 年度下期版	20．3
144	世界の主要果実の生産概況　2019 年版	20．3
145	海外の果樹産業ニュース　2020 年度上期版	20．9
146	世界の主要果実の生産概況 2020 年版	21．3
147	海外の果樹産業ニュース 2020 年度下期版	21．3
148	世界の醸造用ぶどう栽培の動向 気候変動対応と持続可能性の取組	21．3
149	世界の主要果実の貿易概況 2021 年版	21．5
150	海外の果樹産業ニュース 2021 年度上期版	21．9
151	世界の主要果実の生産概況 2021 年版	22．3
152	海外の果樹産業ニュース 2021 年度下期版	22．3
153	世界の生食用ぶどう産業 品種動向と栽培流通技術	22．3
154	世界の主要果実の貿易概況 2022 年版	22．5
155	海外の果樹産業ニュース 2022 年度上期版	22．9
156	海外の果樹産業ニュース 2022 年度下期版	23．3
157	世界のもも産業　生産・消費動向と栽培流通技術	23．3
158	世界の主要果実の生産・貿易概況 2022 年版	23．3
159	日本の果実の貿易概況 2022 年版	23．4
160	海外の果樹産業ニュース 2023 年度上期版	23．7
161	海外の果樹産業ニュース 2023 年度中期版	23．11
162	世界の主要果実の生産・貿易概況 2023 年版	24．1
163	世界のおうとう産業　生産・流通の現状と品種・栽培流通技術	24．3
164	新型コロナウイルス禍の世界の果樹農業　生産流通消費への影響と今後の対応	24．3
165	海外の果樹産業ニュース 2023 年度下期版	24．3
166	日本の果実の貿易概況 2023 年版	24．4
167	海外の果樹産業ニュース 2024 年度上期版	24．7

毎日くだもの200グラム！
200